

アスファルト防水
2020

ASPHALT WATERPROOF

アスファルト防水 仕様書

東西アスファルト事業協同組合

vol.9

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東西アス協組は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



屋上からはじめるカーボンニュートラル



■年当たりLCCO₂を低減する防水仕様

- 製造時CO₂発生量が相対的に少ない材料
- 施工時CO₂を抑制する工法
- 耐用年数の長い防水仕様



CO₂低減に効果的なこれらの材料・工法・仕様の活用を推進することで、年当たりLCCO₂低減に寄与します。

■省エネ・創エネ

- 断熱・遮熱による省エネ
- 外断熱できる太陽光発電用乾式基礎
- 屋上緑化



断熱材、遮熱塗料、屋上緑化システムの活用を推進することで、省エネルギー、CO₂排出削減に寄与します。

■建築物に用いるコンクリートの減量化

- 保護コンクリートなしの高耐久露出防水仕様
- 多様な納まり形状に対応できる防水工法
- コンクリート以外の構造でも機能する防水工法



高耐久の露出防水仕様を積極的に提案することで、建築物に用いるコンクリートの減量化に寄与します。

現場の労働力不足を解消する



■工期短縮

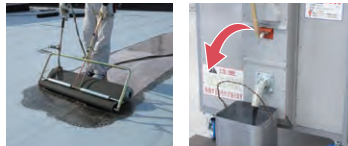
- 省力化工法
- 現場で打設するコンクリートの減量化



積層数が少なく済む高耐久材料で組んだ仕様を積極的に提案して、省人力・工期短縮を推進します。

■機械化

- 温度管理自動化
- 化石燃料を用いない工具



作業をより容易、確実にする各種工具の提案や、工具の電動化を押し進めて、省人力・工期短縮に寄与します。

■人材育成

- 設計者対象 防水技術セミナーの開催
- 技能員の養成
- 工事管理者の育成



人材育成を目的とした技術セミナーや施工実技研修会を開催し、労働力不足解消に寄与します。

■目次

SDGsに有効な2工法	3	駐車場仕様	99
FRAT仕上げ	5	耐根仕様	101
プライムアス工法	7	各種仕上げ材	
レイヤオール工法	9	FRAT仕上げ、砂付露出仕上げ/高反射保護塗料	105
各種認定・証明の取得	11	ガムロンタイル/エイブロック	107
屋上からはじめるカーボンニュートラル	13	バリキャップ/ステップスクエア500H	109
コンクリートの減量化	19	屋上緑化「Gウェイブ」	111
機械化	21	チェックポイント	
人材育成	23	下地ごしらえーコンクリート・ALC・PCa下地ー	113
採用事例	25	納まり・仕上げーコンクリート・ALC・PCa下地ー	115
防水仕様		下地ごしらえー木下地ー	119
仕様番号の見方	27	改修工事	121
仕様選定表	29	アスファルト防水の特長	129
仕上選定表	31	各工法紹介	135
各仕様に用いられる断熱材について	33	技術資料	143
防湿層、保護塗料について	34	材料紹介	
各仕様の注意事項	35	材料紹介/工具紹介	151
FRAT仕上げ	37	材料一覧/工具一覧	167
保護コンクリート仕上げ	53	使用上の注意と定期的なメンテナンス	171
露出仕上げ	77	東西アスファルト事業協同組合員名簿	173
狭隙部・複雑部位・架台廻り等	93		
屋内仕様	95		

東西アスがお薦めする、SDGsに有効な2工法

プライムアス工法とレイヤオール工法。この二つはそれぞれ優れた独自の特長を持つ一方、露出仕上げ層に共通の繊維強化面材(FRAT)を採用しており、保護コンクリートを打設することなく、保護コンクリート仕上げに匹敵する長期の耐久性を実現しています。

高い端末水密性

押え金物不要・保護不要

→曲面、複雑部位、外構への対応力アップ

パラペットあご不要(巻き上げ)

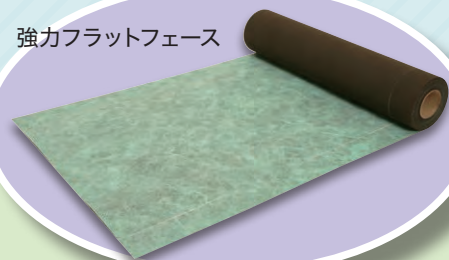
→コンクリート打設量減

(CO₂減、工期短縮、コスト減)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス
Prime-AS

強力フラットフェース



コンクリート打設量減

→ CO₂減、工期短縮、コスト減

メンテナンス性向上

→部分補修が可能なので、耐用年数まで性能メンテナンスすることが容易

→次回改修時も、アスファルト系の材料でかぶせ改修が可能

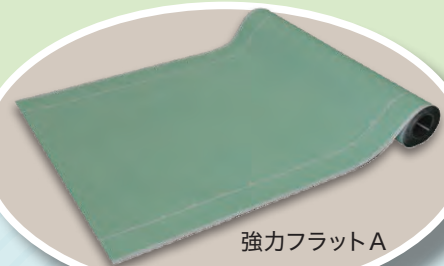
次回の防水改修までの期間が長い

→防水改修工事の回数を極力減らすことで、太陽光発電や屋上緑化の移設を抑えられる

超軽量高耐久仕上げ フラット
FRAT
Fiber Reinforced Acrylic resin Treatment

“保護コンクリートなし”で高耐久性を実現する仕上げ材

強力フラットA



高い端末水密性

押え金物不要・保護不要

→曲面、複雑部位、外構への対応力アップ

パラペットあご不要(巻き上げ)

→コンクリート打設量減

(CO₂減、工期短縮、コスト減)

改質アス常温複合工法

レイヤオール
LAYER ALL

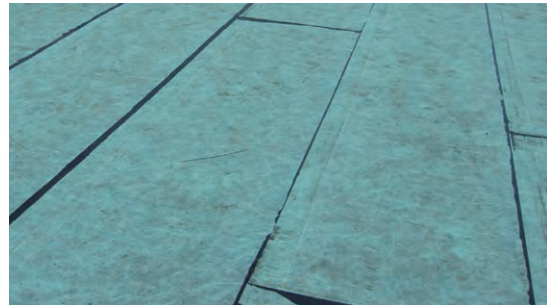
FRAT仕上げ

2工法共通の高耐久露出仕上げ
保護コンクリートなしの外断熱工法-FRAT仕上げ-で
最大耐用年数 45年を実現

超軽量高耐久仕上げ フラット

FRAT
Fiber Reinforced Acrylic resin Treatment

耐久性の高い防水として保護コンクリート仕上げが採用される現場は少なくありませんが、コンクリートに用いるセメントは製造時に多量のCO₂を排出します。保護コンクリートを打設することは、①保護コンクリートそのもの、②保護コンクリートの荷重を支えられる構造体 という2つの点で、セメントを多用することとなり、結果としてより多くのCO₂排出につながります。従来のアスファルト防水保護コンクリート仕上げに匹敵する耐用年数以上の性能を有する「FRAT仕上げ」を用いることで、長寿命化とコンクリート減量(=CO₂削減)の両立が可能です。

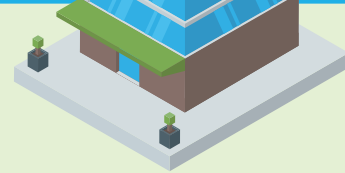
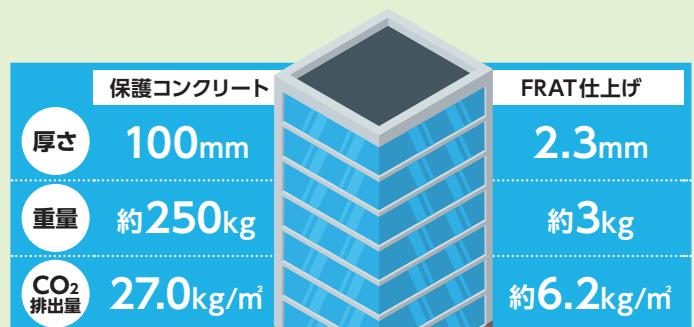
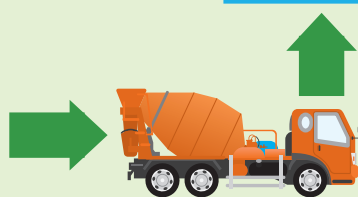


強力フラットフェース(保護塗料塗布前)

モデルケースの屋上から考える FRAT仕上げによるCO₂削減効果

「強力フラットフェース」を使用したFRAT仕上げと保護コンクリート仕上げで、CO₂排出量を比較。FRAT仕上げによって建物の構造負荷が減り(200kg/m²以上の荷重軽減)、躯体に関わるCO₂排出量も削減することが可能です。

※日本建設業連合会による測定法参照

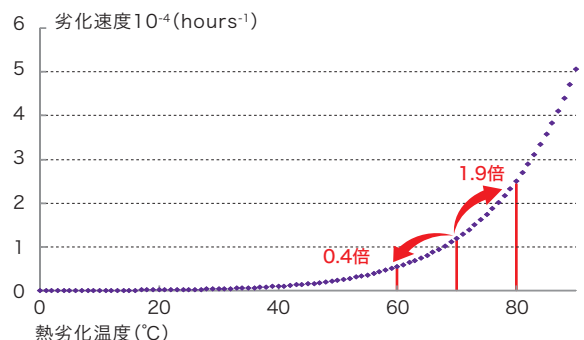


FRAT仕上げの耐用年数が長い理由

保護塗料による耐用年数の向上が 確認されています。

既往の研究(※)により、アスファルト露出断熱防水の劣化は温度因子が支配的であることがわかっています。よって、長期にわたりアスファルト防水層の温度を低く抑えることで飛躍的に防水層の耐用年数を伸長することが可能となるのです。

※ 2010年度日本建築学会大会
「防水材料の耐候性試験その27 アスファルト防水層の耐候性予測方法の提案」

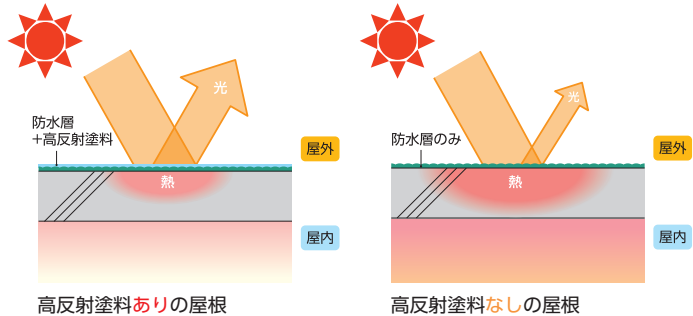


高反射塗料の効果

高反射塗料の効果

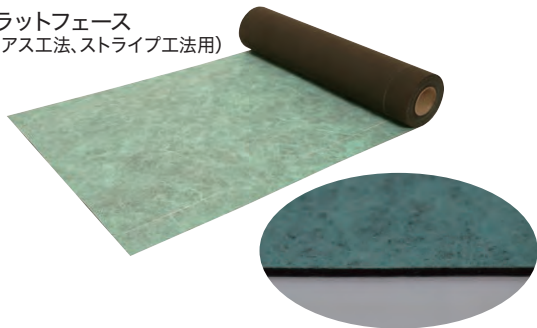
防水層に遮熱機能を付与するには、太陽光を反射する高反射塗料の塗布が効果的です。これらを防水層表面に塗布することで、特に熱エネルギーとして吸収されやすい近赤外線を反射し、夏場の防水層表面温度上昇を抑える効果を発揮します。

熱による防水層劣化を抑制し長持ちさせるだけでなく、都市部で問題となっているヒートアイランド現象の緩和などにも貢献します。

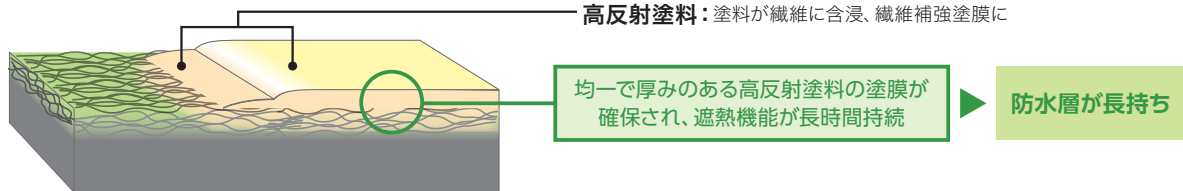
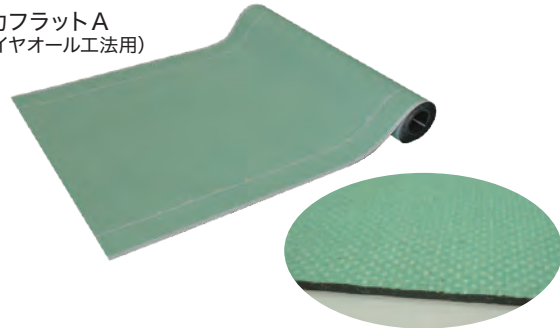


■高反射塗料を均一に塗布できる特殊面材仕上げ

強力フラットフェース
(プライマス工法、ストライプ工法用)



強力フラットA
(レイヤオール工法用)

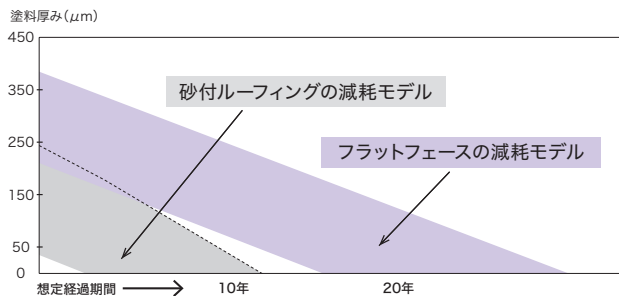


高反射塗料の減耗率予測

グラフは高反射塗料を強力フラットフェースの特殊繊維面材上に塗布した場合(SPファインカラー仕様：0.6kg/m²)と、従来の砂付面上に塗布した場合(SPファインカラー仕様：0.4kg/m²)の経年による塗料被膜減耗をグラフ化したものです。時間の経過により塗料被膜は減耗していきますが、特殊繊維面材は従来の砂付面に比べ減耗が穏やかで長期間、日射反射効果が期待できます。

【経年劣化による塗料被膜減耗イメージ】

※現場環境により塗膜の減耗は一定ではないため、モデル図はあくまでも参考イメージです。



■塗料減耗率の算出

試験サンプルにて定点の厚み測定を測定し、促進老化試験(キセノン)にて時間毎の塗膜厚みを測定していき、減耗率を算出する。実暴露想定量の減耗量から、各仕上げにおける塗料減耗モデル図を作成。

※フラットフェース

- 繊維補強効果により減耗傾きが緩やか
- 塗膜厚は均一化しやすい

※砂付ルーフィング

- 砂面凹凸により塗膜厚が不均一
- アスファルト面に接している塗膜減耗はやや速い

砂付ルーフィングに比べ、フラットフェース上の塗料減耗の傾きは緩やかであり、遮熱効果を長期間維持することが期待できます。

保護(高反射)塗料が長持ち ⇒ 防水層温度が安定傾向に ⇒ 防水層耐用年数伸長

プライムアス工法

熱アスファルト防水の概念を打ち破る、伸びと強度を誇る材料が生み出す、信頼性・高耐久・納まりの良さを兼ね備えた防水工法。

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス
Prime-AS

1

驚異的な伸び性能

アスファルト防水特有の長期耐久性と蓄積された工法技術をいかし、塗膜防水材としての伸びと塗膜強度を獲得した加熱型改質アス塗膜防水材「プライムタイト」を開発。この新たな塗膜防水材と、優れた機械的強度と伸長率を誇る強カプライムルーフとの組合せにより、プライムアス工法が生み出されました。

アスファルト特有の優れた性質を保持しながら塗膜防水材に進化した「**プライムタイト**」

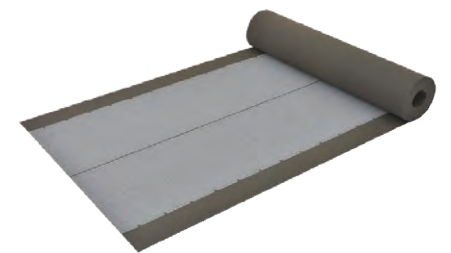


2

抜群の水密性と耐久性

伸び特性を強化した材料が下地と密着して高い水密性を持ちつつ、経年による影響に負けない、耐久性を備えた防水層を形成します。

機械的特性・耐久性・施工性を高いレベルで併せ持つ「**強カプライムルーフ**」



3

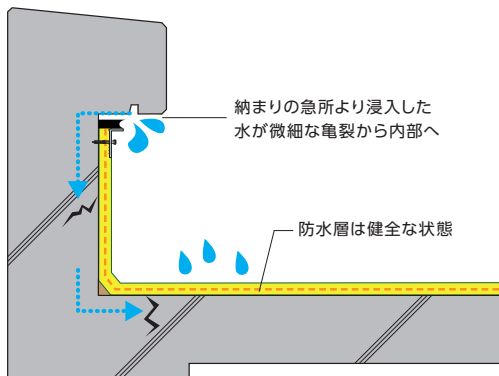
技術審査証明取得

プライムアス工法は技術審査証明を取得しています。(11ページ参照)



加熱型改質アス塗膜防水工法への進化がもたらしたもの —— 「納まりの急所」を克服した新たな施工

水密性の高いアスファルト防水ですが、防水層そのものの強度・耐久性は確かであるのに、「納まりの急所」となる防水層の端部等から雨水が防水層の裏側に浸入してしまっていました。



アスファルト防水の急所となる部位



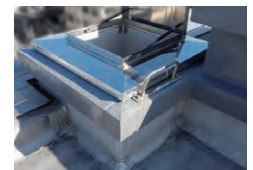
立上り端部



役物(ドレン・通気管まわり)



曲線部



狭小部・出入隅

柔軟性・接着性に優れた塗膜防水材「プライムタイト」を適切な温度管理下で施工し、防水層末端を密着処理することで、末端部の長期水密性を実現

※立上りの仕上精度向上を目的に施工手順と管理方法を変更した結果、従来通りの水密性を保ちつつ、vol.8まで標準だった末端テトロメッシュが省略できました。

「押え金物固定&ゴムアスシール」不要の末端処理が可能になったことで、曲線部や狭小部の水密性が格段に向上しました。

温度管理の徹底が生み出す高品質の防水層

高品質の防水層を作り上げ、同時に施工現場での臭い・煙を抑えるには、プライムタイトの温度管理が重要なポイントとなります。

溶融時と施工時の双方で温度管理

溶融時には電気式または温度調整機能付バーナーを搭載した溶融釜や、汎用釜に取付可能な自動温度調整機能付バーナーの活用で温度をしっかり管理。さらに施工時の温度管理用として、アスファルト運搬に使用する一斗缶や半缶へ取り付ける専用温度計を用意しました。(163~164ページ参照)

■溶融時

デジタル式の温度調整機能を備えた溶融釜、電気式(ACS)と温度調整能付きバーナー搭載型(クリンケトル)

■施工時

適切な塗布量確保のための温度管理を確実にする温度計「アットメーターAS18L、AS半缶」

ACS



クリンケトル300L



デジタル表示による温度管理

BOXバーナーEA II



一斗缶の縁に引掛けて使用

プライムアス工法が実現する工期短縮と省力化

それぞれの性能が従来の同種防水材と比較して大幅にアップしたプライムタイトと強カプライムルーフ。高性能材料の組合せによるプライムアス工法は、これまで以上の施工効率向上・工期短縮が可能です。

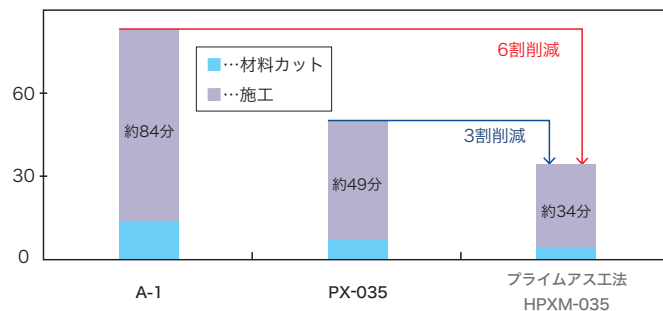
ふたつの高性能材料の相乗効果で施工効率が大幅に向上

プライムアス工法は、アスファルト熱工法の長所である施工効率を保ちながら、さらにシンプルな工程で施工を完了することができます。防水層を構成する材料の種類・量ともに少なくできるため、材料カットの手間軽減や、ゴミとなる発生材の削減など、施工全体の流れの中で大幅な効率化を図れます。

■工期短縮に貢献するプライムアス工法

- 施工後の硬化待ち時間がない加熱型のアスファルト塗膜材は施工直後に硬化し、すぐ次工程に取り掛かることが可能です。
- 耐久性に優れた高性能材料の組合せにより、従来工法と比べて少ない積層工程で必要性能を確保できます。

時間(分) 【仕様別施工時間の比較】(同条件で平面部16m²、立上り0.55m²を施工)



プライムアス工法HPXM-035仕様は、公共建築標準仕様A-1(4層)と比較して、施工時間の約6割削減が可能です。また、2層仕様のPX-035(ストライプ工法)と比較しても、施工時間を3割削減することが可能です。

レイヤオール工法

アスファルト防水の原則に則ったシート×塗膜の複合が生み出す信頼性。アスファルト防水を施工するあらゆる部位に使える加熱なしで施工可能な万能工法。

改質アス常温複合法

レイヤオール
LAYER ALL

1

「塗る」と「貼る」の常温複合法

液状の防水材料を塗って、改質アスファルト系シートを貼る、塗って貼る、を繰り返します。不定型材と定型材の組み合わせが基本であるアスファルト防水の信頼性を受け継いだ工法です。



2

火を使えない現場に

火を用いることなく施工できるため、火気禁止の現場でも安心して採用いただけます。



3

施工環境にも配慮

すべての工法で「F☆☆☆☆」および「VOC（揮発性有機化合物）自主規制表示登録」を取得しています。屋内においてもホルムアルデヒドおよびVOCを心配することなく、ご使用になれます。

※屋内での施工時は換気を充分に行ってください。

4

技術審査証明取得

レイヤオール工法とアスレイヤ水性工法それぞれで技術審査証明を取得しています。

(11ページ参照)



立上り塗膜仕上げ

端部固定金物が不要となり、複雑部位や狭いサッシ廻り等でも、確実に納めることができます。



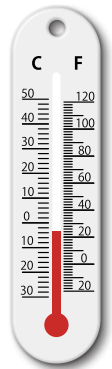
気温が 5℃以下でも施工が可能

レイヤオール工法で使用する塗膜材「オールコート」はA剤・B剤を混合する反応硬化型です。気温が 5℃以下でも施工が可能です。流動性に優れ、水密性もしっかり確保できます。加えて、アスレイヤ硬化促進剤を用いることで効率的な施工が可能です。

【硬化促進剤添加量と可使時間、次工程可能時間について】

気温	硬化促進剤添加量	可使時間	次工程可能時間
5℃	0(未添加)	60分以上	30時間
5℃	0.5%	約 50分	12時間
0℃	0.8%	約 40分	10時間
-5℃(参考)	1.0%	約 30分	10時間

※「次工程可能時間」は気を付ければ上に乗ることが出来、次の工程(オールコートの塗り継ぎ、保護塗料塗布)可能な時間のことを指します。
 ※左記の可使時間、次工程可能時間は現場環境によって前後する可能性があります。
 ※添加過剰となると、シートに不具合を起こす場合があります。所定の量をお守りください。



オールコートの耐久性

ダンベル状の試験体を引張試験機に取り付け、速度 500mm/分 で試験片が破断するまで引張ります。最大荷重および破断時の変位量、破断時の標線間距離から、引張強さ、各伸び率を求め、80℃養生処理実施後、60℃アルカリ温水処理後、それぞれ初期値との差を比較しました。

■ダンベル引張試験

試験条件: JIS A 6021 に準拠

試験体形状: ダンベル 2号(幅5mm、厚み2mm)

試験速度: 500mm/分 試験温度: 20℃ n=3

500mm/分



幅: 5mm



80℃養生	平面部用				立上り用			
	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	89	95	100	100	100	107	108
標線間の伸び保持率(%)	100	101	106	110	100	115	114	120

60℃アルカリ温水	平面部用				立上り用			
	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	103	131	100	100	114	120	104
標線間の伸び保持率(%)	100	119	146	110	100	117	125	131



オールコートは各劣化処理においても、初期比約 90% 以上の耐久性を維持しています。

各種認定・証明の取得

技術審査証明

技術審査証明とは「建設技術審査証明事業（建築技術）」は、平成13年まで建設大臣告示に基づいて建設大臣から認定を受けて14の公益法人が行ってきた「民間開発建設技術の技術審査証明・証明事業」の実績をふまえて、建設技術審査証明協議会が創設した事業です。

この事業は、建築物等に用いられる各種技術（設計、材料、部材、構法、施工、検査、保全、改修、解体等）に関し、民間で開発された様々な新しい技術について審査・証明を行うことで、民間における研究開発の促進と、それらの新技術を建設事業に適正かつ迅速に導入することを図り、建築技術水準の向上に寄与する目的で実施されています。

東西アスの新工法は、この制度を活用して、

- ①新工法の防水層としての性能が公共建築工事標準仕様書に記載のアスファルト防水仕様と同等以上であること
- ②新工法と従来工法を比較した際の優位性

を客観的に証明していただくことで、新工法を採用して頂きやすい環境を整えています。

種別	公共建築工事標準仕様書	プライムアス工法	レイヤオール工法	アスレイヤ水性工法	ストライプ & クリーン工法 ^{※1}	BANKS工法
屋根保護防水	A-1	HPXM-035	PLS-2, PL-1	—	PX-035	JPX-035
	A-2	HPXM-035	PLS-2, PL-1	—	PX-030	—
	A-3	HPXM-035	PLS-2, PL-1	—	—	—
	B-1	HPXM-035	PLS-2	—	PX-035	JPX-035
	B-2	HPXM-035	PLS-2	—	PX-030	—
	B-3	HPXM-035	PLS-2	—	—	—
屋根保護断熱防水	AI-1	HPXM-035R	PLS-2R, PL-1R	—	PX-035R	JPX-035R
	AI-2	HPXM-035R	PLS-2R, PL-1R	—	PX-030R	—
	AI-3	HPXM-035R	PLS-2R, PL-1R	—	—	—
	BI-1	HPXM-035R	PLS-2R	—	PX-035R	JPX-035R
	BI-2	HPXM-035R	PLS-2R	—	PX-030R	—
	BI-3	HPXM-035R	PLS-2R	—	—	—
屋内防水	E-1	HID-025	IL-1	IE-1	—	—
	E-2	HID-025	IL-1	IE-1	—	JID-025
屋根露出防水	C-1	RHFC-015 ^{※2}	—	—	—	—
	C-2	RHFC-015 ^{※2}	—	—	—	—
	C-3	RHFC-015 ^{※2}	—	—	—	—
	C-4	RHFC-015 ^{※2}	—	—	—	—
	D-1	HFX-030,HSX-025	SL-2	—	SX-020	JSX-020
	D-2	HFX-030,HSX-025	SL-2	—	SX-015	—
	D-3	HFX-030,HSX-025	SL-2	—	—	—
	D-4	HFX-030,HSX-025	SL-2	—	—	—
屋根露出断熱防水	DI-1	HFX-030G,HSX-025G	SL-2G, SL-2GF	—	SX-020G	JSX-020G
	DI-2	HFX-030G,HSX-025G	SL-2G, SL-2GF	—	SX-015G	—

※1 本仕様書ではすべて短縮形の“ストライプ工法”と表記しています。※2 本仕様書には非掲載。別冊「プライムアス工法」カタログを参照ください。
 ●上記東西アス各工法の審査証明には、標準仕様書令和4年版の“部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合（B-1,2,BI-1,2およびD-1,2）”は記載されていません。



プライムアス工法
BCJ-審査証明-294



レイヤオール工法
BCJ-審査証明-269



アスレイヤ水性工法
BCJ-審査証明-257



ストライプ&クリーン工法
BCJ-審査証明-30



BANKS工法
BCJ-審査証明-175

3条確認

瑕疵担保履行法の施行により2009年から、新築住宅を引き渡すときは、建設業者（または宅地建物取引業者）が「保険に入る」か「保証金の供託を行う」かのどちらかが必要になりました。

これに関連する各保険法人は、保険対象となる条件をまとめた「設計施工基準」を作成しています。

この設計施工基準の第3条に、「本基準と同等と認めた場合は他の防水でも可とする」という内容の記載があり、申請して認められた場合は、その他の防水が可能になります。

申請の仕方は、建物ごとに行う個別申請と、各メーカーが独自の仕様で申請する包括申請があります。

「包括3条確認書」は、「メーカー仕様が設計施工基準と同等であり保険対象となります」ということを保険会社に認めてもらった確認書といえます。

【東西アスの防水仕様について】

東西アスの防水仕様は設計施工基準に合致または包括3条確認を行ったものとなりますので、現場ごとの個別申請は不要です。

※保険法人によって保険の申請・運用方法などが異なります。また防水仕様によっては適用しない場合がありますので、詳細は弊社営業員までお問合せください。

防火認定（飛び火性能）

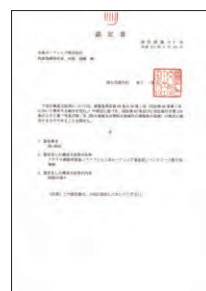
建築基準法62条、22条に基づき、建築物の屋根構造を定めています。具体的には以下の構造とします。

A 平12年建設省告示第1365号の構造

- 屋根が耐火構造で、勾配が30度以内であること
- 断熱材の厚さの合計が50mm以下であること
- アスファルト防水工法であること

※最表面を不燃材で覆っている場合は、下地や傾斜に関係なく防火地域、準防火地域、法22条指定区域内の建物に施工できます。

B 国土交通大臣の認定を受けた構造



屋根の防火（飛び火）性能試験風景

本仕様書掲載仕様の防火認定番号（下地がコンクリート、ALCパネル、PCa板の場合）

認定番号	DR-1960(2) -SPサーモコート仕上げ-	DR-1887(2) -SPサーモコート仕上げ-	DR-1886(2) -SPファインカラー等仕上げ-	
仕様番号	AHFX-045G・TH/045GF・TH AFX-045G・TH/045GF・TH SX-020G・TH/020GF・TH SX-015G・TH/015GF・TH SX-0200G・TH/0200GF・TH SX-0150G・TH/0150GF・TH	JSX-020G・TH/020GF・TH JSX-025G・TH/025GF・TH SF-015G・TH/015GF・TH SL-2G・TH/2GF・TH FL-2G・TH/2GF・TH*	HFX-030G・TH HFX-030GF・TH HSX-025G・TH HSX-025GF・TH FX-025G・TH FX-025GF・TH	SX-015G・SF/SD/SC SX-015GF・SF/SD/SC

※木造を含む認定番号の詳細については、田島ルーフィングのホームページ(<https://tajima.jp>)をご覧ください。

※工事用アスファルトに「クリンタイトJ」等の改質アスファルトを用いる場合や、キャップシートに改質アスファルトルーフィングを用いる仕様の場合は、SPサーモコート仕上げとなります。

*FL-2G・TH、FL-2GF・THの場合は通常仕様と異なり、SPサーモコートの工程が0.8～1.0kg(2回塗り計)となります。

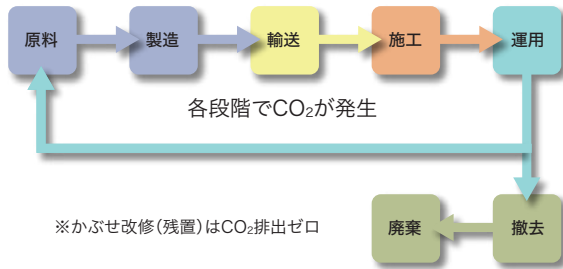
屋上からはじめるカーボンニュートラル

防水においては、材料製造・運搬・施工の一連でCO₂が発生し、材料・工法によってその排出量が異なります。

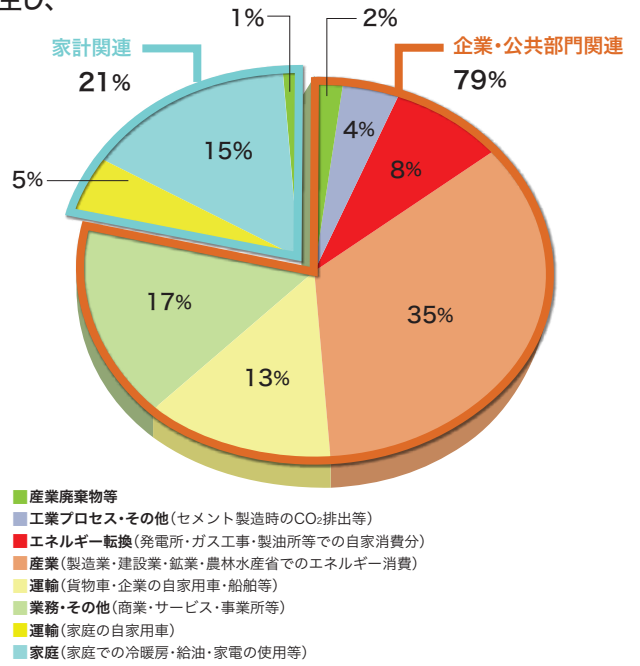
CO₂の排出量について

CO₂は日々の活動で生み出されています。環境省の資料によると、排出量のおよそ8割が企業・公共部門から、2割が家庭からとなっており、企業・公共事業における排出量が全体に大きく影響していることが分かります。

防水においては、下図の項目それぞれでCO₂が発生しており、各段階でいかにCO₂を減らすかが大切になってきます。

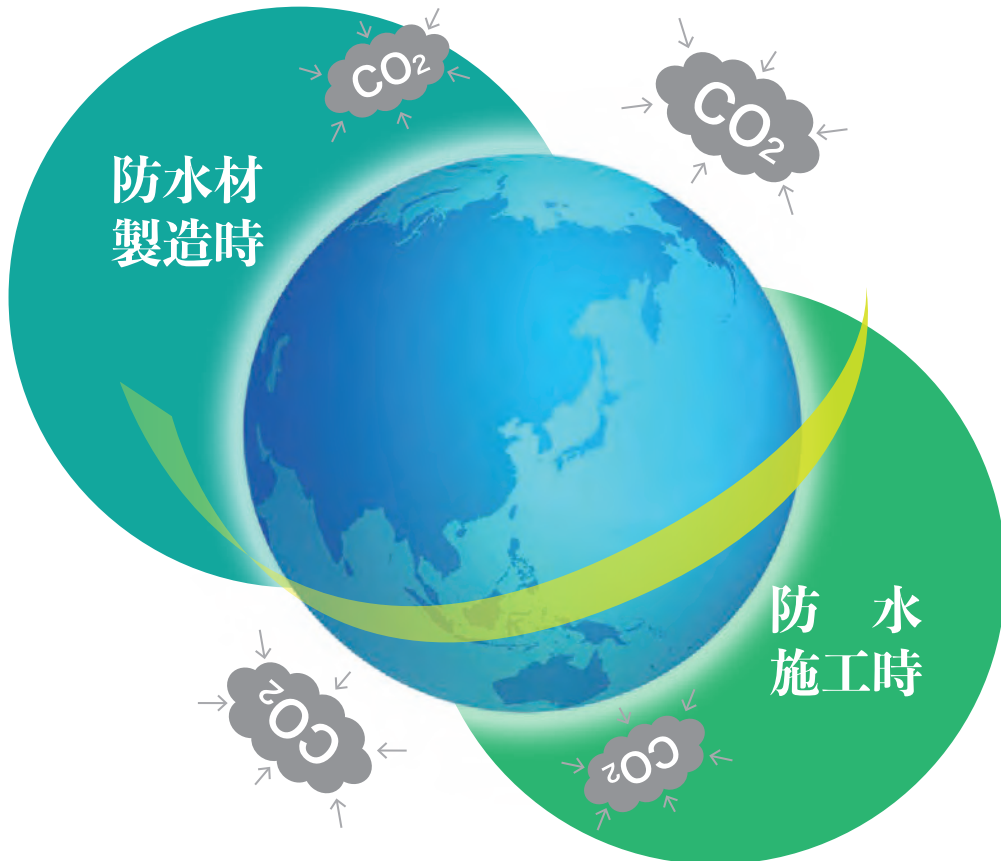


建物の生涯(施工～運用～解体)に渡り排出するCO₂量の合計はライフサイクルCO₂(LCCO₂)と呼称され、環境負荷評価などに用いられています。



環境省 温室効果ガス排出・吸収量の算定と報告
「2018年度(平成30年度)温室効果ガス排出量」より

(イニシャル要素) 製造+輸送+施工 CO₂発生量 ÷ (ランニング要素) 耐用年数を複合した指標『年当たりCO₂排出量』を用いることで、その防水仕様が環境に及ぼすCO₂排出量を適切に評価することが可能です。



① ランニング要素《耐用年数》

建設時にCO₂発生量を抑えられたとしても、すぐに耐用限界を迎えてしまったのでは、結果的にその建物の供用年数全体における防水関連のCO₂発生量は大きくなってしまいます。

一般的な防水仕様の耐用年数は「建築物の長期使用に対応した外装・防水の品質確保ならびに維持保全手法の開発に関する研究(2013年)」(通称:第2総プロ)のリファレンスサービスライフ案が参考にされるケースが多く、保護仕上の防水が20年、露出仕上の防水が15年と規定されています。

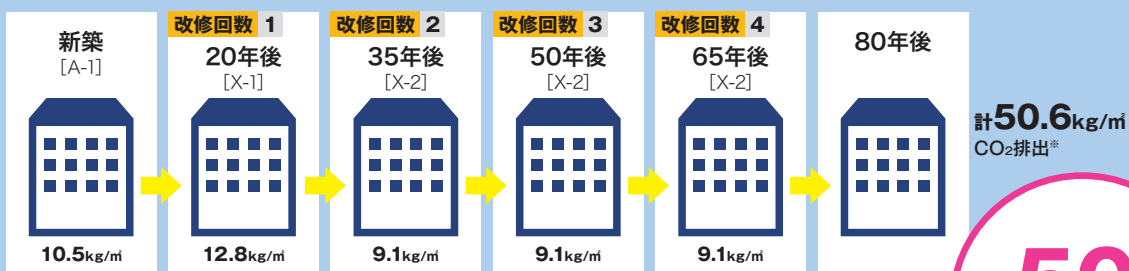
一方で東西アスの防水仕様については、長年に及ぶ経年防水層分析結果を統計処理したデータをベースに、アスファルト特有の劣化機構研究を組み合わせることで独自の耐用年数が設定されています。

⚠ 改修工事でもCO₂は発生

- 廃材撤去 10~30kg/m²
- 防水工事 10~20kg/m²

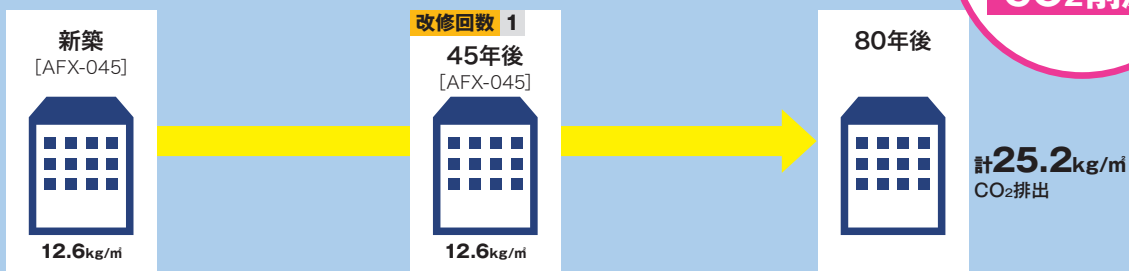
定期的な防水改修工事で排出するCO₂ (建物寿命を80年とした場合)

- 新築時 アスファルト防水 保護コンクリート仕上工法 [A-1] (建築工事標準仕様書 耐用年数 20年)
- 改修仕様 1回目ウレタン塗膜防水複合絶縁工法 [X-1] (建築工事標準仕様書 耐用年数15年)
- 2回目以降ウレタン塗膜防水密着工法 [X-2] (建築工事標準仕様書 耐用年数15年)
- ※3回目の改修時に1回目・2回目改修のウレタン塗膜防水を撤去する可能性あり。その際、3回目改修はX-1選択。



約**50%**
CO₂削減

- 新築時 高耐久アスファルト防水 APEX工法 [AFX-045] 耐用年数 45年
- 改修仕様 [AFX-045]



保護コンクリート打設時に発生するCO₂排出量約27kg/m²も同時に削減
※比較する防水層のCO₂には一部算定されない数値があります ※コンクリート打設時のCO₂は一般社団法人日本建設業連合会資料による

防水工法	リファレンスサービスライフ案
アスファルト保護防水	20年
アスファルト露出防水	15年
改質アスファルト保護防水	20年
改質アスファルト露出防水	15年
合成高分子系シート防水	15年
ウレタンゴム系塗膜防水	15年
FRP系塗膜防水	15年

防水工法	基本耐用年数
SX-015	20年
AHFX-045	45年
PX-030	25年
APX-080	75年

【参考】輸送時 CO₂発生量

施工面積 500m² 防水層重量 10kg/m² 輸送距離 10km(トラック; ガソリン使用の場合)の場合のモデルケース

車輛台数計算 $\left(\frac{\text{防水層重量kg/m}^2 \times \text{施工面積m}^2}{10 \times 500} \right) \div \left(\frac{\text{積載可能重量kg/台}}{2000} \times \frac{\text{積載率}}{0.8} \right) = 3\text{台 (整数切り上げ)}$

CO₂発生量計算 $\frac{\text{車輛数台}}{3} \times \frac{\text{移動距離km}}{20} \div \frac{\text{ガソリン燃費km/ℓ}}{12} \times \frac{\text{ガソリン排出係数CO}_2/\ell}{2.32\text{kg}} = 11.6\text{kg-CO}_2$

m²あたりCO₂発生量計算 $11.6\text{kg-CO}_2 \div 500\text{m}^2 = \underline{0.023\text{kg-CO}_2/\text{m}^2}$

② 防水仕様のLCCO₂指標『年当たりCO₂排出量』

各防水工法・仕様を年当たりCO₂排出量で比較することで、様々なことが数値的に明らかになります。

保護コンクリート仕上げ

一般的に耐用年数が長く、屋上の利用用途に幅のある保護工法は、国内においては多用されますが、LCCO₂の観点からは、保護コンクリートが不利に働く面があることが数値から読み取れます。

FRAT仕上・露出仕上げ

保護層を設置しない防水仕様は、従来は比較的、耐用年数が短かったため、こまめにメンテナンスを行う建物や構造の問題から屋上に荷重をかけられない建物に採用されることが多い仕上げでした。近年は、温度や紫外線を制御する技術を導入したことで格段に耐用年数を上げることができたため、LCCO₂を重視する建物に採用されるケースが増えています。

仕上げ	仕様番号	CO ₂ 発生量 (kg-CO ₂ /m ²)					耐用年数 1年当たり	比率(%) ※1	設定耐用年数 ※2
		材 料	施 工	小 計	保護 コンクリート	合 計			
保 護 コ ン ク リ ー ト 仕 上 げ	A-1	7.27	4.50	11.77	21.6	33.37	1.67	1.00	(20)
	AHPXM-060 (ACS)	8.47	0.44	8.91	21.6	30.51	0.55	0.33	(55)
	HPXM-035 (ACS)	5.67	0.30	5.97	21.6	27.57	0.92	0.55	(30)
	PX-035 (ACS)	5.56	0.30	5.86	21.6	27.46	0.92	0.55	(30)
	X-2 (スプレー)	13.79	0.26	14.05	21.6	35.65	1.78	1.07	(20)
F R A T 仕 上 げ ・ 露 出 仕 上 げ	AHFX-045・TH(ACS)	13.92	0.27	14.19	0	14.19	0.32	0.19	(45)
	SX-015・SF (ACS)	5.96	0.13	6.10	0	6.10	0.29	0.17	(21)
	D-2(あなあき)	7.70	2.40	10.10	0	10.10	0.67	0.40	(15)
	X-1 (スプレー)	15.14	0.26	15.40	0	15.40	1.03	0.62	(15)
	S-F2	7.78	0.00	7.78	0	7.78	0.52	0.31	(15)

※1：公共建築工事標準仕様 A-1 の CO₂ 発生量を「1」とした場合の比率。

※2：東西アス仕様は当仕様書の記載年数、それ以外は「建築物の長期使用に対応した外装・防水の品質確保ならびに維持保全手法の開発に関する研究」(2013年)通称：第二総プロのリファレンスサービスライフに基づく。

●表は田島ルーフィングの2023年度設定値に基づいての計算結果です。



《保護コンクリート仕上げ》

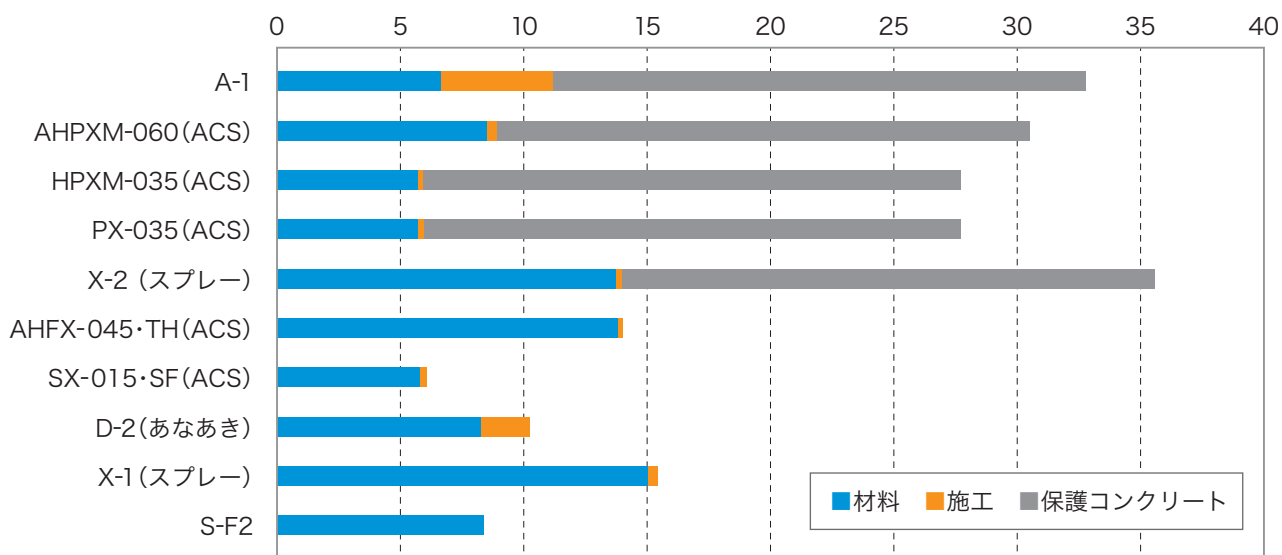


《FRAT仕上げ》



《砂付露出仕上げ》

イニシャルCO₂発生量 (kg-CO₂/m²)



③ 省エネ・創エネ

断熱・遮熱による省エネ

ランニングコスト不要の優秀な省エネ技術

断熱・遮熱は空調設備などと異なり、省エネ効果を得るために電力などのエネルギーを用いないため、一度設置してしまえば、新たにCO₂を発生することなく、長期間省エネ効果を得られる優秀な技術です。

防水との組合せによる屋上の外断熱工法は、いまやスタンダードになりつつあり、同時に高日射反射タイプの保護塗料を塗布するケースが一般的となっています。



太陽光発電による創エネ

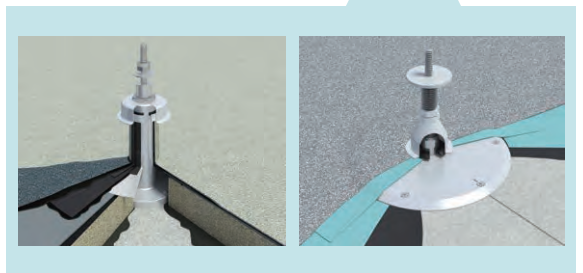
屋上という特性を最大限に活かす創エネ手法

建物のあらゆる面の中で、1年を通じて最も日照を得られるのが屋上。防水層にとって太陽光は、温度蓄積による劣化や紫外線劣化を引き起こす要因となりますが、太陽光パネルの設置により遊休スペースとなりがちな屋上が積極的な「創エネ」スペースに生まれ変わり屋上が建物全体のCO₂発生量収支に大きく寄与します。



乾式基礎+外断熱防水が最適

太陽光パネルの設置のためにコンクリートで基礎をつくると、防水層の納まりが複雑になる上、重量も大きくなるため、構造的にも負担が大きくなります。しかし、鋼製などの乾式基礎の多くは、外断熱工法に対応していないことも多く、内断熱に計画変更を迫られることもあります。ソーラーベースWは、あらゆる防水層と接続できるうえ、外断熱工法でも問題なく必要な固定強度を得られるおすすめの乾式基礎です。



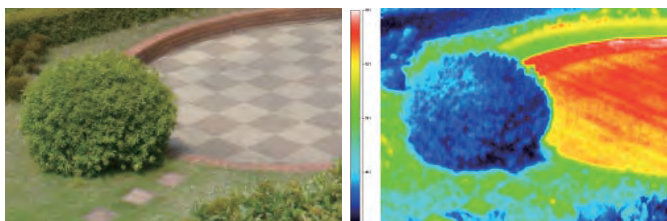
屋上緑化によるCO₂吸収&省エネ

緑の日傘効果で省エネルギー

屋上を緑化すると水分が蒸発し地表の熱が奪われるため、特に夏場の建物において緑の日傘(遮熱)効果がみられます。

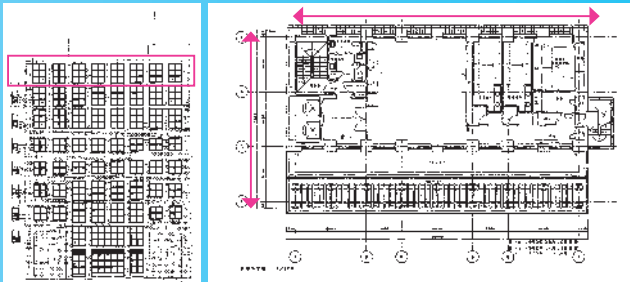
また、低木や芝は光合成によって、CO₂を吸収する効果があります。

サーモグラフィによる屋上温度の視覚化 ▼



4 省エネ・創エネによるCO₂削減効果

屋上からCO₂削減 challenge



モデルケースを設定し
CO₂削減効果を試算しました

モデル建物	
所在地	東京都千代田区
建物	RC造9階建て
建築面積	382.5㎡

都心にある9階建ての建物をモデルケースに、屋上に環境対応技術を採用した場合のCO₂削減効果を試算。

モデルケースの屋上から考える 断熱・遮熱によるCO₂削減効果

The BEST Program® で解析すると、断熱材を使用した場合、それが無い場合より室内温度の改善が図れ、年間の空調負荷が大きく低減することがわかりました。

屋内温度の改善効果(°C)	夏季		冬季			
	最高温度	温度差	最高温度	温度差	最低温度	温度差
非断熱屋根	33.08	—	11.56	—	9.08	—
省エネ基準適合屋根	31.30	-1.78	13.13	+1.57	11.47	+2.39

※The BEST Program® とは、一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構が開発したプログラム

非断熱屋根

夏は暑い
冬は寒い

年間空調負荷
184.75GJ

CO₂排出量/年
23,350kg

断熱・遮熱屋根
省エネ基準適合

室内温度が安定

年間空調負荷
137.52GJ

CO₂排出量/年
17,380kg

CO₂排出年間削減 **5,970kg**

※CO₂排出係数は、東京電力の0.000455(ton-CO₂/kWh)とした

モデルケースの屋上から考える 太陽光発電+屋上防水によるCO₂削減効果

(太陽光パネル135枚使用時)

軽量乾式基礎「PV-FIX」ソーラーベース使用1枚あたり公称最大出力0.25kW

建物形状や許容荷重によって設置個数や設置方法が変わるため、平方メートルあたりのCO₂削減効果は建物ごとに変わります。また改修工事では条件が決まっていることから事前調査が必須です。



CO₂排出量
年間約
11,600kg
削減

※発電量はNEDO国立研究開発法人 新エネルギー開発機構による
※CO₂計算は東京電力発表数値による

モデルケースの屋上から考える 低木と芝を使った屋上緑化によるCO₂削減効果

(低木と芝を半分ずつ施工)

屋上緑化によるCO₂削減効果は大きく、モデルケースでは1,440kg/年削減することができます。屋上緑化は潤いや憩いをもたらすと同時に、環境負荷削減に大きく貢献します。



CO₂排出量
年間約**1,440kg**削減

※松江正彦・長濱庸介・飯塚康雄・村田みゆき・藤原宣夫(2009)
日本における都市緑化樹木のCO₂固定量算定式、
日本緑化工学会誌、35(2) : 318-324。
※国土技術政策総合研究所「都市緑化樹木のCO₂固定量の算出」

コンクリートの減量化

建物全体のCO₂発生量を大きく左右するのがコンクリートの打設量です。
東西アスが提案する最新の防水工法・仕様を用いることで、コンクリートの打設量を低減することができます。

FRAT仕上げ・・・「保護コンクリートを打設しない」「高耐久」を両立

保護コンクリートを打設する工法は耐久性に優れますが、FRAT仕上げを用いることで、最大45年の耐用年数を保護コンクリートなしで実現することが可能です。保護コンクリートを打設しないことで、構造的な負担が軽減されるので、梁・柱のサイズも小さくすることが可能となります。

【参考】

屋上の押えコンクリート設置有無による建物全体のコンクリート使用量について（抜粋）

1. 検討目的

建築物の屋上部分において、防水層の保護や劣化の抑制を図るために押えコンクリートが設置されることが多い。通常、押えコンクリートは80~100mm程度の厚みであり、床面積当たり約2,000N/m²（約200kg/m²）と重量が大きく、柱や梁などの構造部材断面に影響を与える。

ここでは、押えコンクリートを考慮する場合としない場合において構造計算を実施し、柱および大梁の部材断面（幅およびせい）に与える影響を定量的に把握することを目的とする。

2. 検討結果

検討対象建物に対する構造計算の結果、押えコンクリートの重量は4階大梁以上の部材断面に影響する。押えコンクリート考慮の場合と非考慮の場合のコンクリート数量を表2.1に示す。押えコンクリート考慮の場合に対して、非考慮の場合のコンクリート数量の比は、地上部分で2.0%、建物全体で1.4%の減少となる。

表 2.1 コンクリート数量（単位：m³）

部位	押えコンクリート		非考慮/考慮
	考慮	非考慮	
地上	1,674.0	1,640.0	0.980
地下	837.6	837.6	1.000
合計	2,511.6	2,477.7	0.986

3. 検討内容

3-1 検討方針

検討対象建物の屋根に考慮する押えコンクリートの重量の有無が部材断面に与える影響を検討する。まず、押えコンクリートの重量を考慮する場合について設計する。これを基に、押えコンクリートの重量を考慮しない場合に、柱、梁の幅およびせいを低減する。このとき、長期および短期の応力が長期および短期許容応力度であることを確認するとともに、保有水平耐力が必要保有水平耐力以上であることを確認する。

3-2 検討対象建物

検討対象建物は日本建築防災協会「構造設計・部材断面事例集」の設計例3-3（RC造事務所・5階建）とする。以下に、建築概要を示し、図3.1に基準階平面図、図3.2に基準階立面図、図3.3にY1通り軸組図、図3.4にX1通り軸組図を示す。

【検討対象建物・建築概要】

用途 : 事務所
延床面積 : 約4,970 m²
階数 : 地上 5階、地下 1階、塔屋 1階
軒の高さ : 19.9 m
最高高さ : 23.4 m
基準階階高 : 3.80 m
1階階高 : 4.50 m
構造種別 : 鉄筋コンクリート造
骨組形式 : 地上 純ラーメン構造
地下 耐震壁付ラーメン構造
基礎形式 : 杭基礎

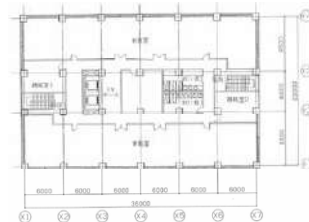
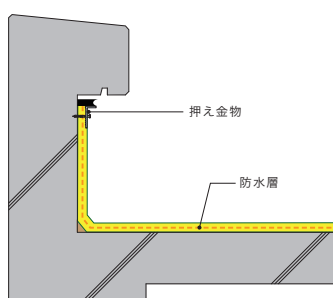


図 3.1 基準階平面図

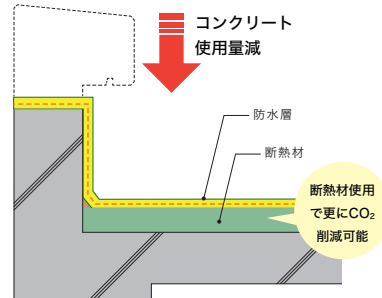
プライムアス工法・レイヤオール工法・・・押え金物が不要&端部水密性が高い

本来、防水にとっては、シンプルな形状こそが機能の安定という面では望ましいのですが、現代建築では、様々な部材が複雑に絡み合うことで、きれいな納まりとなりにくいのが現実です。押え金物が不要かつ端部水密性の高いプライムアス工法、レイヤオール工法であれば、曲線の多い、複雑な形状でも安定した水密性を得ることが容易であり、結果として、あごの形状や立上りの形状をシンプルにすることが可能となります。

従来のアスファルト防水



プライムアス工法



木造・混構造で機能する確実な防水

2010年の「公共建築物等木材利用促進法」の施行を機に、官民一体の動きで木材活用への取り組みが動き始め、特にCLTと呼ばれる直交集成板を利用した木構造の登場は、中・大規模建築物という新たな市場を広げつつあります。

一方で水分によって腐食する木は「防水」という機能がより厳格に求められます。さらに防水層下に結露が生じた場合、その水分が木材を腐朽させてしまうため、十分な通気を行える仕組みも必要です。安心の防水機能と確実な通気機能を両立できるのがアスファルト防水です。



ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園

木造建築向けに考慮された水切り金物とドレン

防水は防水層だけでは完結しません。特に重要なのは防水層端部の納まりです。木造ならではの意匠や納まりを考慮した、水切り金物やドレンを用意しました。

木造での意匠を考慮した専用水切り金物

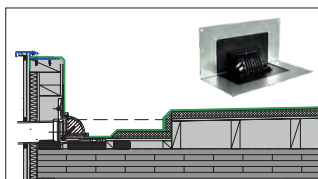


フラッシュエッジ25

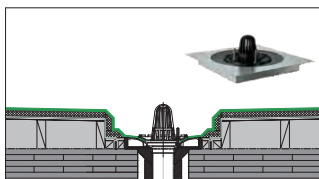


フラッシュカバー 25

防水層の貼り掛かり面を広くとったDIPSドレン



横引ドレン納まり例



たて引ドレン納まり例

電気式溶融釜「ACS」

“熱工法は木造に不向き”という印象は、この電気式溶融釜「ACS」が払拭します。

溶融・保温がすべて電力による自動運転で行えるため、安全かつ安心。さらに省力化にも大いに貢献します。



工具による省力化と施工効率向上

電気式溶融釜

ACS (アスファルトコンテナシステム)

ACSは200V交流電源を使用する電気式溶融釜で、次の効果を生み出します。

- ① 施工現場での裸火使用がなくなる。
- ② 温度管理が自動で行える。

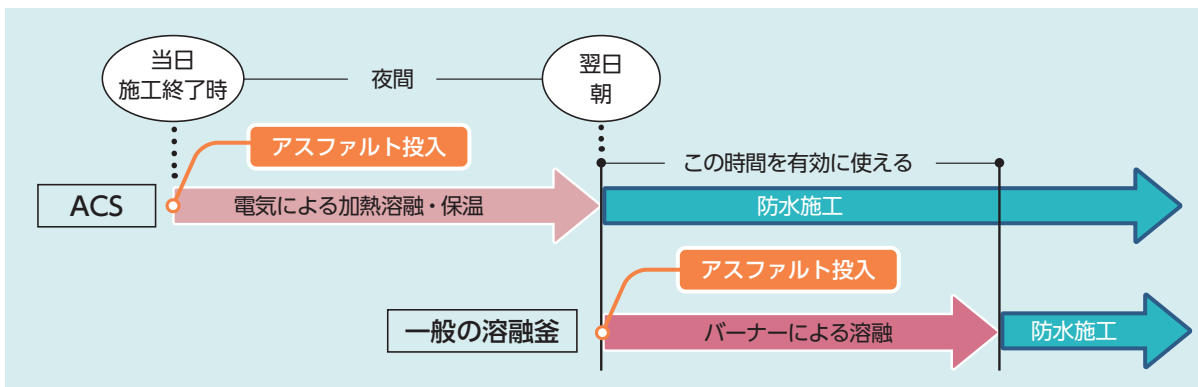
裸火を使用せず、温度管理が自動となったことで、常時必要だった釜専任者が不要となり、大幅な省力化を実現しました。

※ACSの規格等については163ページをご覧ください。



ACS

工事用アスファルト溶融～施工までのイメージ (ACSと一般溶融釜との比較)



電気式溶融釜

ミニACS

従来サイズのACSと同レベルのアスファルト溶解能力を保ちながら、11人乗りエレベーターに積載できるほどのダウンサイジングを実現しました。現場内での横持ち性が格段に向上したことにより、様々な状況での利用が可能となりました。

(現場にて事前寸法確認が必要)



ミニACS

1日当たりの溶融量：約480kg～約660kg

1日当たりの施工可能範囲：PX仕様180～240㎡

SX仕様400～550㎡

※完全溶融後、10分おきに15kg排出・投入を計12回(2時間)繰り返した場合
 ※溶融条件(夜間運転の有無など)により施工能力は変動します。

BOXバーナーEAⅡ

釜のサイズに関係なく、炎を大～小まで容易に調節。
 温度センサーにより自動着火・消火する自動温度制御式。
 バーナーに燃料吸引ポンプが内蔵されているため、安全性が向上。

寸法(mm)	幅:390×奥行:520×高さ:385~685(調整可)
重量	19kg
灯油使用量	6L/時(最少)~12.4L/時(最大)
その他	オイルホース接続部:カプラ式、またはネジ式(1/4)



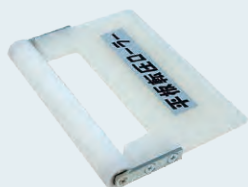
背面炎吹出口

温度制御盤

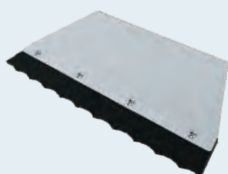
速く、かつ正確に 専用工具

各防水工法用に専用工具を取り揃えています。用途と目的が明確に定められたこれら工具を用いることで効率が上がります。同時に施工精度も向上し、より高品質の防水層を作り上げることに繋がります。

※下記を含む工具類については163ページ以降をご覧ください。



出入隅部の転圧を容易かつ確実にする
《平板転圧ローラー》



容易に一定量を塗布
《ゴムクシバケC-L》



立ったまま適量を塗布
《プライムレーキ》



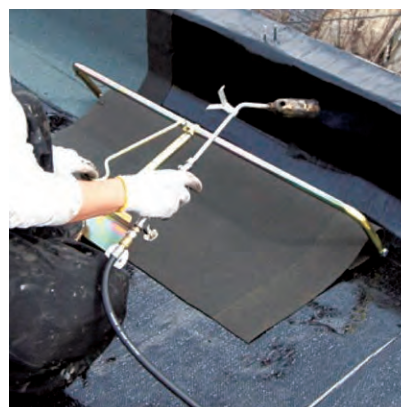
電動コーキングガン
《エレメントガン》



クリンケトル



プライムレーキ



バンクスローラー立上り用

人材育成

建築防水の技術を連綿と紡いでいくことの大切さ

建物を確実に防水するためには、良質の材料・工法を用いること以上に、用途に合致した防水工法の選定と適切な納まり設計に加え、質の良い施工が大切です。

東西アス協組は、良質の施工と材料で社会に貢献するために、「育てる」ことを組合発展の要と位置づけ、永年注力してきました。

設計・監理への情報提供

時代の先端を行く建築家による講演会「建築講演会」を1986年から開催し、次代を担う設計者へのメッセージを継続的に発信しています。また、正しい防水の知識を設計者にご紹介する場として、防水技術セミナーを全国各地で毎年開催しております。

良質の施工を実現するために

防水工事の施工と管理に関する技術・知識を学び、身に着ける場として、1966年に日本初の防水学校を設立。

以来、持てる力の多くを人材育成に注いできたことが、今の協組を支える大きな柱となっています。

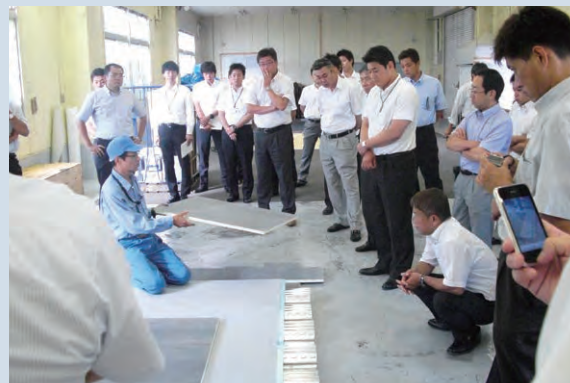
また、技能員の高齢化への対策として、1998年には技能員養成所を開設。正しい基礎を身に付けた技能員を毎年輩出することによって、組合全体の施工品質の底上げを図っています。

建築講演会



東西アス協組建築講演会 2021 講師：建築家 平田 晃久

防水技術セミナー



技能員養成所(1998年～)

アスファルト防水技能員の育成を目的として1998年に設立された養成所です。現場経験1年未満の若手技能員を対象に、アスファルト防水施工技術を身につけられるよう、実技中心のカリキュラムを組んでいます。



管理者養成所(1966年～)

現場管理業務の習得を目的として1966年に設立された養成所です。現場経験を1年以上経た若年層の工事担当者や営業員を対象に、防水の基礎知識から、施工管理までをトータルに学ぶカリキュラムを組んでいます。



採用事例



JPタワー



JR新函館北斗駅 ※1



佐賀大学美術館



あべのハルカス



ライオンズ 一条レジデンス湘南C-X



虎ノ門ヒルズ ※2



大名古屋ビルヂング



えびの涼風園 ※3

※1 画像提供：JR北海道 ※2 画像提供：森ビル株式会社 ※3 photo by Sigoo Ogawa

防水仕様

WATERPROOF SPECIFICATION

仕様番号の見方

●プライムアス工法 ●ストライプ工法 ●BANKS工法 ●エコフィット工法 ●クリーン熱工法 ●アスポット工法

A **FX** - **0** **45** **GF** ・ **TH**

高耐久※1 工法 改訂年度※2 グレード※3 断熱 仕上げ

工法

- PX : 保護 ストライプ工法
- JPX : 保護 BANKS工法
- HPXM : 保護 プライムアス工法(密着)
- HFX : 露出 プライムアス工法FRAT仕上げ
- HSX : 露出 プライムアス工法
- SX : 露出 ストライプ工法
- FX : 露出 ストライプ工法FRAT仕上げ
- SF : 露出 エコフィット工法
- JSX : 露出 BANKS工法
- SAP : 露出 アスポット工法
- ID : 屋内 クリーン熱工法
- JID : 屋内 BANKS工法
- HID : 屋内 プライムアス工法
- PK : 駐車場工法
- M : 密着
- S : 絶縁
- V : 立上り部

断熱

- R : RBボード/
スタイロフォームRB-GK-II
- G : ギルフォーム
- GF : ギルフォーム(防湿層あり)

仕上げ

- TH : SPサーモコート
- SF : SPファインカラー
- SD : SPミッドカラー
- SC : SPクリーンカラー
- BC : バリキャップ
- ST : ステップスクエア500H
- EB : エイブロック
- GT : ガムロンタイル
- RT : RBタイル
- D : 耐根D仕様
- E : 耐根E仕様

※1 高耐久仕様以外は表記なし。

※2 改訂年度は、西暦末尾を表します。

※3 アスタイトMに替えてクリンタイトJを使用する場合は、
グレード末尾に“0”を付けます。
(例:PX-035 ⇒ PX-0350)

仕様表記載の防水層重量(保護塗料含まず。ただしFRAT仕上げを除く。)は目安です。屋根荷重計算にあたっては、弊社営業担当までご相談ください。
防火認定が必要な場合は、12ページをご参照ください。

仕様番号の見方

●レイヤオール工法

適用	工法	ルーフィング積層数	仕上げ
P P:屋外・保護 F:屋外・露出 (FRAT仕上げ) S:屋外・露出 (砂付仕上げ) I:屋内・保護	L L:レイヤオール工法	S - 2 S:絶縁* -:密着* V:立上り部 ※保護仕上げのみ適用	R・EB 【平面部】 (左ページ参照) R:保護断熱 G:露出断熱 GF:露出断熱(防湿層あり) 【立上り部】 T:マットFCII塗膜仕上げ T砂付:マットFCII砂付仕上げ B:レイヤベスト保護仕上げ BT:レイヤベスト塗膜仕上げ B砂付:レイヤベスト砂付仕上げ H:マットFCII保護仕上げ F:他工法との複合仕様

●アスレイヤ水性工法

適用部位	工法	ルーフィング積層数	仕上げ
I I:屋内・保護 仕上げ	E E:アスレイヤ水性工法	V - 1 なし:平面部 V:立上り部	B 【平面部】 なし 【立上り部】 B:レイヤソフト仕様 H:マットFCII仕様

アイコンの説明



コンクリート
PCa下地



ALC下地



木質系下地

仕様選定表

使用部位	仕上げ	防水仕様	断熱	加熱型塗膜工法	常温複合法		
				プライムアス工法	レイヤオール工法	アスレイヤ水性工法	
屋上	FRAT	高耐久 APEX	断熱	AHFX-045G・TH AHFX-045GF・TH (P37, 38)	—	—	
			非断熱	AHFX-045・TH (P47)	—	—	
		汎用	断熱	HFX-030G・TH HFX-030GF・TH (P41)	FL-2G FL-2GF (P43)	—	
			非断熱	HFX-030・TH (P49)	FL-2 (P51)	—	
		保護 コンクリート	高耐久 APEX	断熱	AHPXM-090R AHPXM-060R (P53, 54)	—	—
				非断熱	AHPXM-090 AHPXM-060 (P65, 66)	—	—
	汎用		断熱	HPXM-035R (P57)	PLS-2R PL-2R (P59) PL-1R (P61)	—	
			非断熱	HPXM-035 (P69)	PLS-2 PL-2 (P71) PL-1 (P73)	—	
	砂付露出		汎用	断熱	HSX-025G・TH HSX-025GF・TH (P77)	SL-2G SL-2GF (P79)	—
				非断熱	HSX-025・TH (P87)	SL-2 (P88)	—
	屋内	保護モルタル	汎用	非断熱	HID-025 (P95)	IL-2 IL-1 (P96)	IE-1 (P97)
	駐車場	アスコン舗装	汎用	非断熱	—	—	—

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT 断熱
FRAT 仕上げFRAT 非断熱
FRAT 仕上げ保護
コンクリート 断熱保護
コンクリート 非断熱露出
仕上げ 断熱露出
仕上げ 非断熱狭
複雑部位
架台廻り屋内
仕様 非断熱駐
車場
仕様耐
根
仕様

ノンケトル工法	クリーン熱工法			常温粘着工法
BANKS工法	密着工法	ストライプ工法	アスポット工法	エコフィット工法
—	—	AFX-045G・TH AFX-045GF・TH (P39, 40)	—	—
—	—	AFX-045・TH (P48)	—	—
—	—	FX-025G FX-025GF (P45, 46)	—	—
—	—	FX-025 (P52)	—	—
AJPX-060R AJPXM-060R (P56)	—	APX-080R APX-060R (P55)	—	—
AJPX-060 AJPXM-060 (P68)	—	APX-080 APX-060 (P67)	—	—
JPX-035R JPXM-035R (P64)	PXM-035R PXM-030R (P63)	PX-035R PX-030R (P63)	—	—
JPX-035 JPXM-035 (P76)	PXM-035 PXM-030 (P75)	PX-035 PX-030 (P75)	—	—
JSX-025G /JSX-025GF JSX-020G /JSX-020GF (P83, 84)	—	SX-020G/SX-020GF SX-015G/SX-015GF (P81, 82)	SAP-020G (P86)	SF-015G SF-015GF (P85)
JSX-025 JSX-020 (P90)	—	SX-020 SX-015 (P89)	SAP-020 (P92)	SF-015 (P91)
JID-025 (P98)	ID-020 (P98)	—	—	—
—	PK-0150/PKM-0150 PKM-0200S/ PKM-0150S (P99, 100)	PKX-0200 (P99)	—	—

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

防湿層
保護塗料

注意事項


FRAT仕上げ
断熱FRAT仕上げ
非断熱保護コンクリート
断熱保護コンクリート
非断熱露出仕上げ
断熱露出仕上げ
非断熱狭隙複雑部位
架台廻り屋内仕様
非断熱


駐車場仕様


耐根仕様


仕上げ選定表


防水層の仕上げには一般的な保護コンクリートと露出仕上げの他に、タイル状仕上げ材や植栽等さまざまなものがあります。目的に応じてお選びください。


	仕上げ材	FRAT 仕上げ	掲載頁 37~52
	厚さ	3mm 程度	
	荷重 (/㎡)	—	
	特長	表層に繊維強化面材(FRAT)を用いた露出用ルーフィングによる仕上げ。面材によって保護塗料皮膜が均一に形成されるため、塗料本来の性能が長く維持されることで、長期にわたって耐久性を発揮する。	

	仕上げ材	保護コンクリート	掲載頁 53~76
	厚さ	80mm 程度	
	荷重 (/㎡)	180kg 程度*	
	特長	コンクリート打設により防水層が保護されて外因による損傷の心配がなくなり、歩行が無制限に可能となる。さらに防水層が紫外線や温度変化の影響を受けにくくなるため、耐用年数が伸びる。 ※80mm厚、コンクリート比重2.3とした場合。	

	仕上げ材	砂付ルーフィング	掲載頁 77~94
	厚さ	3mm 程度	
	荷重 (/㎡)	—	
	特長	紫外線から防水層を保護するために表面にスレートや砕石砂を散布した露出用ルーフィングによる仕上げ。意匠性の向上、遮熱機能の付与、保護機能の強化などを目的に、原則表面上に保護塗料を塗布する。	

	仕上げ材	モルタル	掲載頁 95~98
	厚さ	20mm 程度	
	荷重 (/㎡)	42kg 程度*	
	特長	コンクリートと同様に防水層が保護されるが、モルタルは厚みが確保できないためひび割れなどが生じやすい。屋内限定。 ※20mm厚、セメントモルタル比重2.1とした場合。	

	仕上げ材	アスコン舗装	掲載頁 99・100
	厚さ	50mm 程度	
	荷重 (/㎡)	125kg 程度*	
	特長	主に駐車場で使用される。フクレや亀裂を防ぐために厚さ 50mm 以上打設することが望ましい。 ※50mm厚、アスファルトコンクリート比重2.5とした場合。	

	仕上げ材	エイブロック	掲載頁 107・108
	規格	600mm × 600mm 厚さ：25mm	
	荷重 (/㎡)	約56kg	
	特長	合成樹脂ネットで補強されたセメント系パネル。置き敷き施工なので、取り外しが簡単でメンテナンスも容易に行える。不燃認定材のため、不燃仕上を求められるケースでも有用である。 建物高さによる使用制限あり。	

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

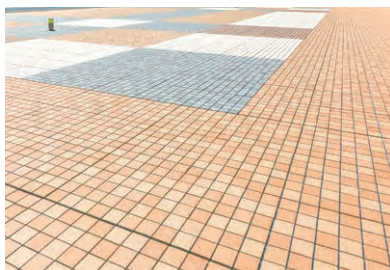
FRAT 断熱
FRAT 仕上げFRAT 非断熱
FRAT 仕上げ断熱
保護コンクリート非断熱
保護コンクリート断熱
露出仕上げ非断熱
露出仕上げ架台廻り
狭隙複雑部位非断熱
屋内仕様

駐車場仕様

耐根仕様



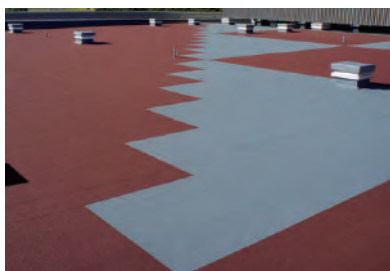
仕上げ材	RB タイル	掲載頁
規格	450mm × 450mm 厚さ：65mm (断熱材 50mm)	160 (材料紹介)
荷重 (/m ²)	約40kg	
特長	ポリスチレン系断熱材とモルタルを同時成型した複合タイル。設置するだけで外断熱と軽歩行仕上げが一度に完了する。置き敷き施工なので、取り外しが簡単でメンテナンスも容易に行える。	



仕上げ材	ガムロンタイル	掲載頁
規格	300mm × 300mm (目地部含む) 厚さ：8mm	107・108
荷重 (/m ²)	約14kg	
特長	小片の磁器タイルを連結した仕上げ材。裏面の粘着層で防水層に貼り付ける。	



仕上げ材	ステップスクエア 500H	掲載頁
規格	500mm × 500mm 厚さ：7.5mm	109・110
荷重 (/m ²)	約12kg	
特長	天然の砂粒を樹脂を用いて成型した仕上げ材。裏面の粘着層で防水層に貼り付ける。	



仕上げ材	パリキャップ	掲載頁
規格	0.5m × 1m 厚さ：6mm	109・110
荷重 (/m ²)	約10kg	
特長	アスファルト系パネルなので、同種のアスファルト防水との相性が良い。意匠性を打ち出す仕上げ材としての機能以外にも、荷重のある物を露出防水上に設置する際の保護板などにも活用できる。	



仕上げ材	植 栽	掲載頁
厚さ	—	111・112
荷重 (/m ²)	60kg ~	
特長	防水層に対しては紫外線や熱からの保護というメリットがある一方、植物根による防水層貫通などへの対策などが必要となる。また、植物生育のためには保水・排水機能などを備えた緑化システムが必要。	



仕上げ材	歩行用パネル	掲載頁
厚さ	—	別冊[G-WAVE]参照
荷重 (/m ²)	—	
特長	防水層上に設置する歩行用パネル。高さ調整可能な樹脂製脚と鋼製フレームを組合せた二重床の上に、合成木材デッキやPCパネルを設置。	

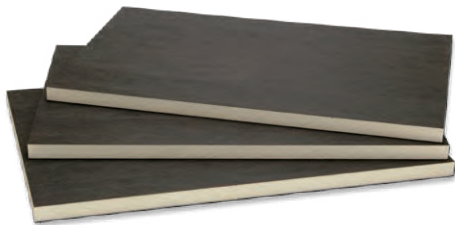
各仕様に用いられる断熱材について

防水層の仕上げそれぞれの要求事項に対応するため、使用する断熱材が異なります。

断熱材 種類と使用部位

FRAT仕上げ／砂付露出仕上げ用断熱材

●ギルフォーム



熱伝導率の極めて低いノンフロンのクリーンガス(炭化水素系発泡剤)を内包した、硬質ポリウレタンフォーム断熱材です。

(熱伝導率:0.023W/m・K)

熱工法施工においても二次発泡することのない耐熱型です。

断熱材を設置後、防水層を施工します。

保護コンクリート仕上げ用断熱材

●RBボード



●スタイロフォームRB-GK-II



連続押し発泡による気密性の高い独立気泡で構成された、ノンフロンの硬質ポリスチレンフォーム断熱材です。
(熱伝導率: 0.028W/m・K)

圧縮強度が高く、保護コンクリート仕上げに適しています。防水層施工後に断熱材を設置してから保護コンクリートを打設します。

建物に要求される断熱性能

建物の内部と外部を隔てる境界部分である外壁・屋根・窓などのことを「外皮」と呼び、これらの部位には断熱性、気密性、遮音性などが求められます。断熱性能については「外皮平均熱貫流率(UA)」で表され、地域によって達成基準となるUA値が定められています。

共同住宅の単位住戸の外皮基準*

都道府県名	地域区分	外皮平均熱貫流率(UA) 単位:W/m ² K
北海道	1・2	0.46
青森県・岩手県・秋田県	3	0.56
宮城県・山形県・福島県・新潟県・長野県・栃木県	4	0.75
茨城県・群馬県・山梨県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・滋賀県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・愛知県・三重県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県	5・6	0.87
宮崎県・鹿児島県	7	0.87
沖縄県	8	—

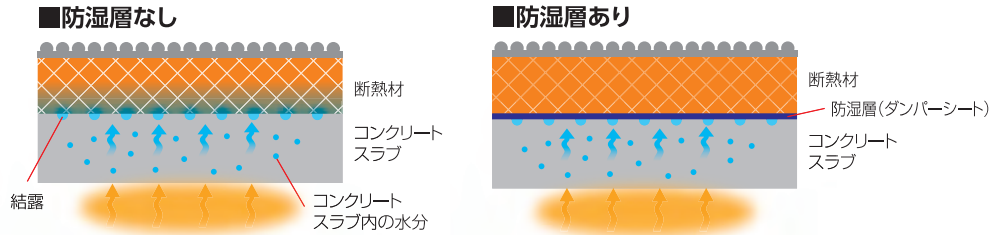
*平成二十八年経済産業省・国土交通省第一号 建築物エネルギー消費性能等を定める省令 第一条の二 イ(1)より引用

防湿層、保護塗料について (FRAT仕上げ・砂付露出仕上げ)

防湿層、保護塗料などと組合わせて使用することで、断熱材の性能をより効果的に生かすことができます。

防湿層 防湿層の役割

屋内の水蒸気は躯体を徐々に透過するため、防水層と躯体の界面でわずかながら結露が発生することがあります。また、躯体となるコンクリートは、完全硬化前は余剰水を含んでおり、これらの水分が躯体と防水層の界面に存在すると、断熱材が吸湿し、断熱性能が低下することが考えられます。断熱材の下側に防湿層を設けることで、断熱材吸湿を防ぎ、初期性能をより長く維持することができます。

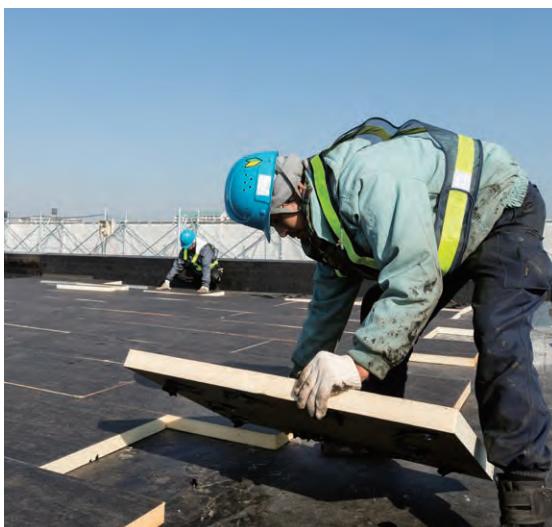


保護塗料 保護塗料塗布による加算耐用年数

日射反射型の保護塗料を塗布することで、防水層の耐用年数を伸ばすことができます。各仕様の基本耐用年数に下表の年数を加算してください。(FRAT仕上げを除く)

	SP サーモコート	SP ファインカラー	SP ミッドカラー	SP クリーンカラー
非断熱	プラス 2年	プラス 1年	プラス 1年	プラス 1年
断熱	プラス 5年	プラス 3年	プラス 3年	プラス 3年

※耐用年数の加算は、定期的に塗料の塗替えを行い、塗料の性能を維持することを前提とします。
 ※保護塗料(SPサーモコート、SPファインカラー、SPミッドカラー、SPクリーンカラー)の価格は塗料ごとに異なります。



仕様
選定表

仕上
選定表

断熱
材

保護
塗料

注意
事項

FRAT
仕上げ

FRAT
仕上げ

断熱
保護
コンクリート

断熱
保護
コンクリート

断熱
露出
仕上げ

断熱
露出
仕上げ

狭
隘
複雑
部位
架
台
廻
り

断熱
屋
内
仕
様

断熱
駐
車
場
仕
様

断熱
耐
根
仕
様

各仕様の注意事項

FRAT仕上げ・砂付露出仕上げ共通注意事項

(防火認定が必要な場合は、12ページをご参照ください。)

プライマス工法・ストライプ工法・BANKS工法・エコフィット工法

- 季節や立地条件によって、水性プライマーASの代わりにアスファルトプライマーかアスファルトプライマーSS等を用いることもあります。
- ギルフォーム貼付にはクールボンドの代わりに、上記各プライマー+アスタイトM(1.5kg/m²)、または水性プライマーMS(0.2kg/m²)+セメントMS(0.6kg/m²)も使用できます。
- 入隅の下地づくりは原則として直角とし、面取りは行いません。
- ふくれ防止を設置する場合、平面部の場合はステンレスベーパー、立上り部の場合はベーパーを用います。
- ライナーコーピングSなど雨仕舞材の価格は別途となります。
- 季節や立地条件(寒冷地)によっては、保護塗料にSPコートoneを使用する場合があります。(FRAT仕上げには使用不可)
- アスタイトMに替えてクリンタイトJも使用できます。(ストライプ工法)
- 貼仕舞は強力ガムシール(ストライプ工法、BANKS工法)またはGCライン(ストライプ工法 APEX仕様、プライマス工法、エコフィット工法)で処理します。

レイヤオール工法

- 水性プライマーLに替えてOTプライマーAも使用できます(使用量は同じ)。
- 入隅部は塗膜材の膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/m増し打ち、またはASパッチを増貼りしてください。
- 立上り部塗膜仕上げでは、保護塗料塗布までの期間は、夏季3日以内、春秋冬は5日以内を目安とし、期間を過ぎた場合はOTプライマーA(0.15kg/m²)を塗布してください。
- ギルフォーム貼付にはクールボンドの代わりに、水性プライマーMS(0.2kg/m²)+セメントMS(0.6kg/m²)も使用できます。
- 保護塗料は、オールコートの硬化を確認後塗布してください。
- オールコート上へのSPコートone塗布についてはご相談ください。



※FRAT仕上げ・砂付露出仕上げの納まりについては115ページを参照ください。

保護仕上げ共通注意事項

プライマス工法・ストライプ工法・BANKS工法・エコフィット工法・クリーン熱工法

- 季節や立地条件によって、水性プライマーASの代わりにアスファルトプライマーかアスファルトプライマーSS等を用いることもあります。
- 立上り隅には必ずコーナー緩衝材(RBキャント 1500等)を使用します(価格別途)。
- 立上り部乾式保護パネル「FGボードE」の価格は別途となります。
- 貼仕舞は強力ガムシール(ストライプ工法、BANKS工法)またはGCライン(ストライプ工法 APEX仕様、エコフィット工法、プライマス工法)で処理します。
- ライナーコーピングSなど雨仕舞材の価格は別途となります。
- 耐根仕様の立上り部を露出にする場合、SPサーモコートを塗布します(価格別途)。
- 立上り保護塗料(SPサーモコート、SPファインカラー、SPミッドカラー)によって設計価格は異なります。
- アスタイトMに替えてクリンタイトJも使用できます(ストライプ工法)。
- 屋内での施工時は必ず換気をしてください。

レイヤオール工法・アスレイヤ水性工法

- 密着工法の場合、保護層打設までの間にふくれが発生することがあるため、状況に応じて絶縁工法の採用を検討してください。
- 立上り部に新強力エコフィットCを用いて砂付露出仕上げとする仕様では、端部に押え金物による固定を行うことを原則とします。(レイヤオール工法)
- 水性プライマーLに替えてOTプライマーAも使用できます(使用量は同じ)。
- 入隅部は塗膜材の膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/m増し打ち、またはASパッチを増貼りしてください。(レイヤオール工法)
- エンシンシートには、オールコート、オールコート立上り用は接着しません。(レイヤオール工法)
- 屋内での施工時は必ず換気をしてください。



※保護コンクリート仕上げの納まりについては116ページを参照ください。

仕様
選定表

仕上
選定表

断熱
材

保護
塗料
防湿層

注意
事項

FRAT
仕上げ
断熱

FRAT
仕上げ
非断熱

保護
コンクリート
断熱

保護
コンクリート
非断熱

露出
仕上げ
断熱

露出
仕上げ
非断熱

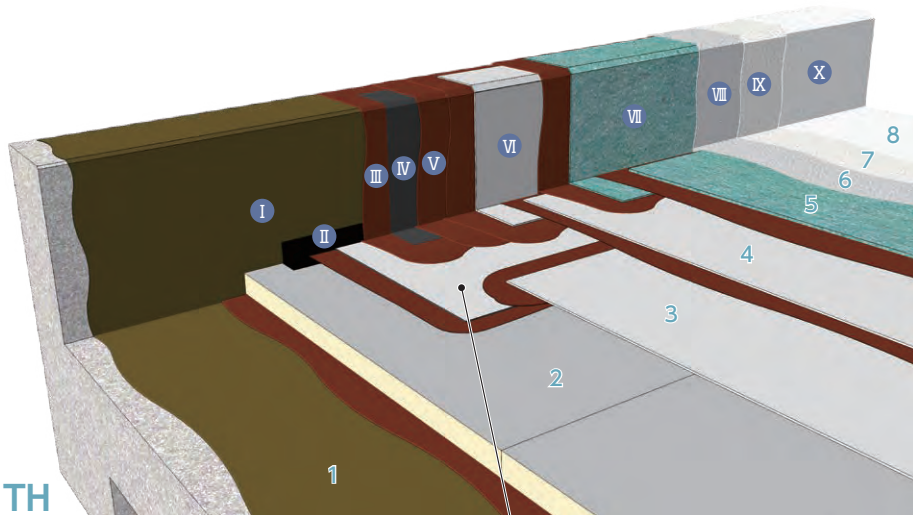
狭
隘
複雑
部位
架
台
廻
り

屋
内
仕
様
非
断
熱

駐
車
場
仕
様

耐
根
仕
様

仕様選定表
仕上選定表
断熱材
保護塗料
注意事項
FRAT仕上げ 断熱
FRAT仕上げ 非断熱
保護コンクリート 断熱
保護コンクリート 非断熱
露出仕上げ 断熱
露出仕上げ 非断熱
狭小複雑部位 架台廻り
屋内仕様 非断熱
駐車場仕様
耐根仕様



AHFX-045G・TH
(AHFV-045G・TH)



強力プライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

AHFX-045G・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：14kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート 0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部

工程	内容	材料	単位
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
2	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²	
3	強カストライプZ		
4	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
5	強力フラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
6	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
7	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
8	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料

※強カストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強力プライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

※ギルフォーム貼付けには、クールボンド(0.35kg/m²)も使用可能です(水性プライマーAS不要)。

立上り部

AHFV-045G・TH

工程	内容	材料	単位
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
II	バリテープH(断熱材設置後、入隅部)		
III	プライムタイト	1.0kg/m ²	
IV	テトロメッシュ2号		
V	プライムタイト	1.0kg/m ²	
VI	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	保護塗料
VII	強力フラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	保護塗料
VIII	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
IX	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
X	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料

※工程IIのバリテープHは、ギルキャント(プライムタイト貼り)に替えることができます。

※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。

※工程III～Vを強力プライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。

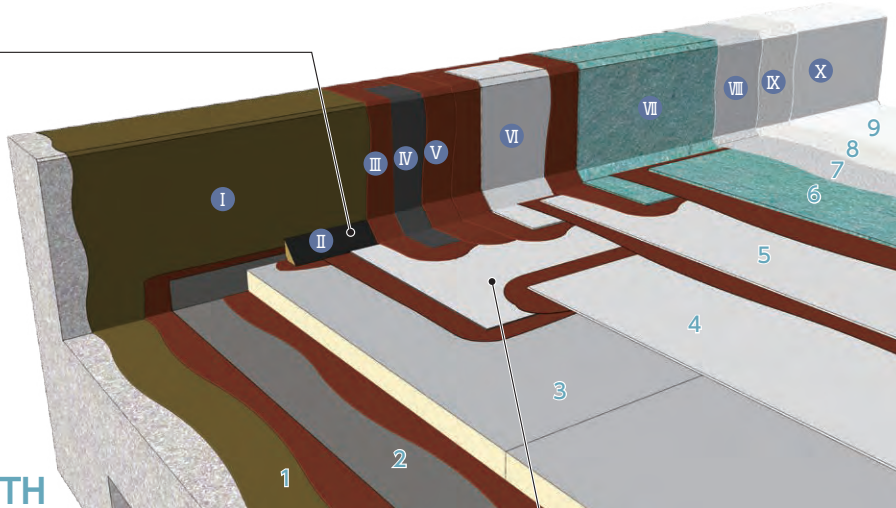
SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強力フラットフェースの面材含浸用として塗布します。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

ギルキヤント



AHFX-045GF・TH
(AHFV-045G・TH)

※図は工程IIをギルキヤントに替えた場合



強カプライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

AHFX-045GF・TH 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：17kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート 0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	アスファルトルーフィング プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
3	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²
4	強カストライプZ	
5	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
6	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
7 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
8 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²
9 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

- ※立上りは断熱材厚み+約10mmまでアスファルトルーフィングを立ち上げます。
- ※強カストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強カプライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。
- ※工程2をダンパーシート(両面粘着層付)に替えることもできます。その場合、工程3のプライムタイトは不要となります。

立上り部

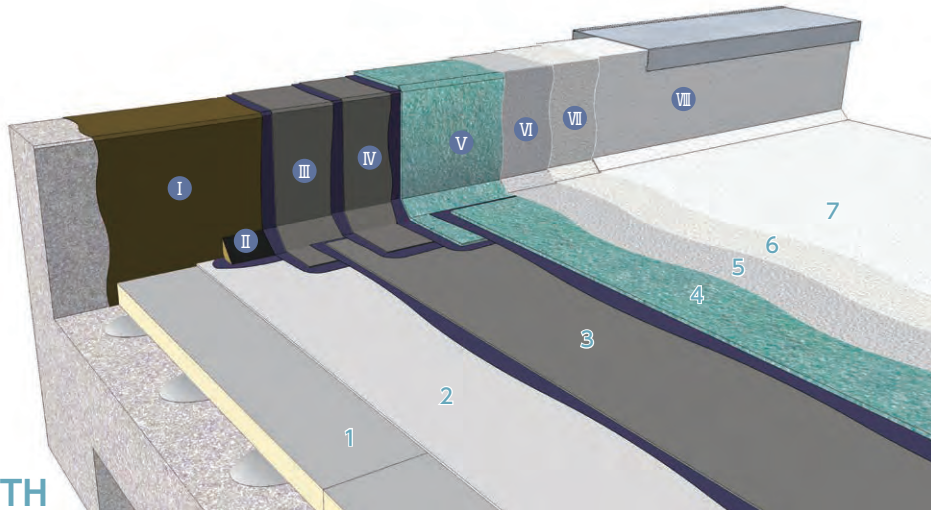
AHFV-045G・TH

工程	内容	重量
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
II	バリテープH (断熱材設置後、入隅部)	
III	プライムタイト	1.0kg/m ²
IV	テトロメッシュ2号	
V	プライムタイト	1.0kg/m ²
VI 保護塗料	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
VII 保護塗料	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
VIII 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
IX 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²
X 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

- ※工程IIのバリテープHは、ギルキヤント(プライムタイト貼り)に替えることができます。
- ※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。
- ※工程III～Vを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン



AFX-045G・TH
(AFV-045・TH)



冷熱併用工法

ストライプ工法

AFX-045G・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：13kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート 0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部

工程	材料	単位
1	ギルフォーム クールボンド点貼り	0.35kg/m ²
2	強カストライプZ	
3	強カライズ クリンタイトJ流し貼り	1.2kg/m ²
4	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り	1.2kg/m ²
5 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
6 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²
7 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

立上り部

AFV-045・TH

工程	材料	単位
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
II	ギルキャント (クリンタイトJ貼り)	
III	強カライズ クリンタイトJ流し貼り	1.2kg/m ²
IV	強カライズ クリンタイトJ流し貼り	1.2kg/m ²
V	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り	1.2kg/m ²
VI 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
VII 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²
VIII 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

※立上り工程IIギルキャントに替えて、AS/パッチも使用できます。

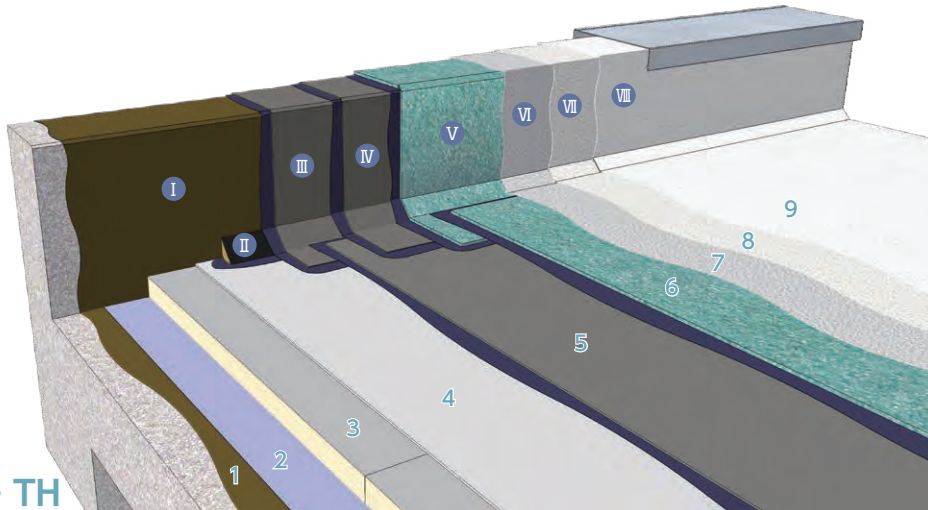
SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強カフラットフェースの面材含浸用として塗布します。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

APEXの下地づくりについては別冊「APEX カタログ」をご覧ください。



AFX-045GF・TH
(AFV-045・TH)

冷熱併用工法

ストライプ工法

AFX-045GF・TH 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：14kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート 0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	ダンパーシート
	3	ギルフォーム
	4	強カストライプZ
	5	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	6	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	7	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²
	8	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²
	9	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²

立上り部		AFV-045・TH
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	ギルキャント (クリンタイトJ貼り)
	III	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	V	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	VI	保護塗料 SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²
	VII	保護塗料 SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²
	VIII	保護塗料 SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²

※立上り工程IIギルキャントに替えて、AS/パッチも使用できます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強カフラットフェースの面材含浸用として塗布します。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

APEXの下地づくりについては別冊「APEX カタログ」をご覧ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

狭隙複雑部位
架台廻り

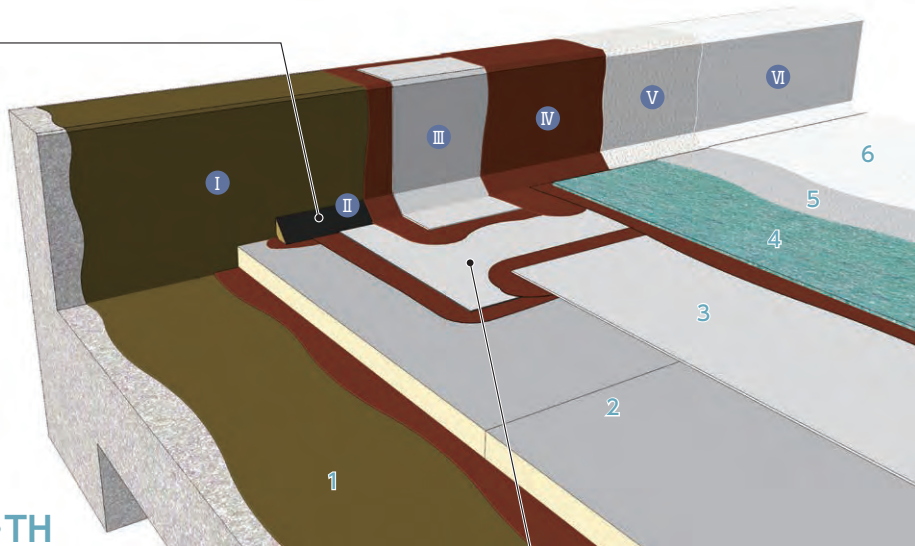
屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

FRAT仕上げ | 断熱 |

ギルキャント



HFX-030G・TH
(HFV-030GT・TH)

※図は工程IIをギルキャントに替えた場合

強力プライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HFX-030G・TH

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：10.5kg/m²
耐用年数：30年
技術審査証明 DI-1、2仕様対応

HFX-030GF・TH

防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：13.5kg/m²
耐用年数：30年

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²
3	強カストライプZ	
4	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
5 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
6 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

※強カストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強カプライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。
※ギルフォーム貼付けには、ワールポンド(0.35kg/m²)も使用可能です(水性プライマーAS不要)。

※平面部HFX-030G・TH、HFX-030GF・THに対し、立上り部はHFV-030G・TH、HFV-030GT・THのいずれも対応できます。目的・状況に応じて選択してください。

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	アスファルトルーフィング プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
3	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²
4	強カストライプZ	
5	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
6 保護塗料	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²
7 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²

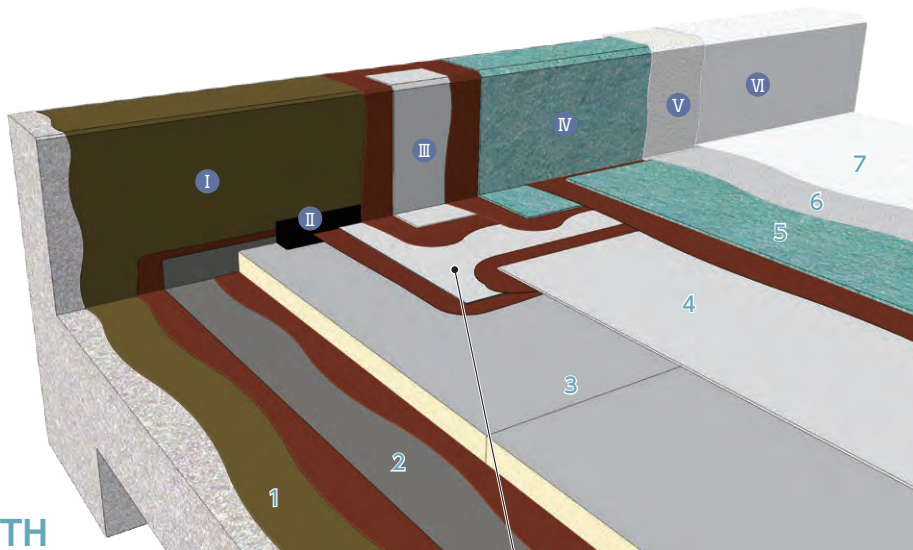
※立上りは断熱材厚み+約10mmまでアスファルトルーフィングを立ち上げます。
※強カストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強カプライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。
※工程2をダンパーシート(両面粘着層付)に替えることもできます。その場合、工程3のプライムタイトは不要となります。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強カフラットフェースの面材含浸用として塗布します。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



HFX-030GF・TH
(HFV-030G・TH)

強カプライムルーフ

立上り部		HFV-030G・TH		FRAT仕上げ
工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
	II	バリテープH(断熱材設置後、入隅部)		
	III	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
	IV	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
	V 保護塗料	SPファインカラー	0.4~0.5kg/m ²	
	VI 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.5kg/m ²	

※工程IIのバリテープHは、ギルキャントに替えることができます。
 ※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
 ※工程IIIに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

立上り部		HFV-030GT・TH		塗膜仕上げ
工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
	II	バリテープH(断熱材設置後、入隅部)		
	III	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
	IV	プライムタイト	1.5kg/m ²	
	V 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²	
	VI 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²	

※工程IIのバリテープHは、ギルキャントに替えることができます。
 ※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
 ※工程III・IVに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

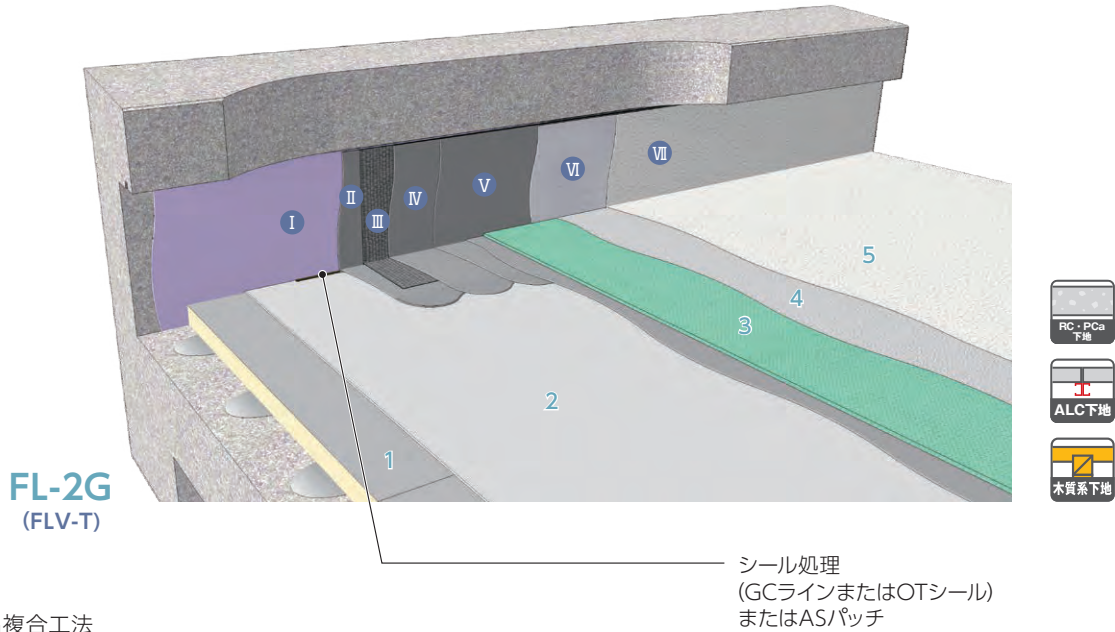
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

FRAT仕上げ | 断熱 |



改質アス常温複合法

レイヤオール工法

FL-2Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：8kg/m²

FL-2GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：9kg/m²

平面部				
工程	1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²		
	2	強カアンダーFS		
	3	強カフラットA オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²		
	4	SPファインカラー 0.2～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/m ²	
	5	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	SPファインカラー 0.15～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.15～0.3kg/m ²
	仕様番号	FL-2G・TH	FL-2G・SF	FL-2G・SD

平面部				
工程	1	水性プライマーL 0.2kg/m ² *		
	2	ダンパーシート		
	3	ギルフォーム		
	4	強カアンダーFS		
	5	強カフラットA オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²		
	6	SPファインカラー 0.2～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/m ²	
	7	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	SPファインカラー 0.15～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.15～0.3kg/m ²
	仕様番号	FL-2GF・TH	FL-2GF・SF	FL-2GF・SD

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

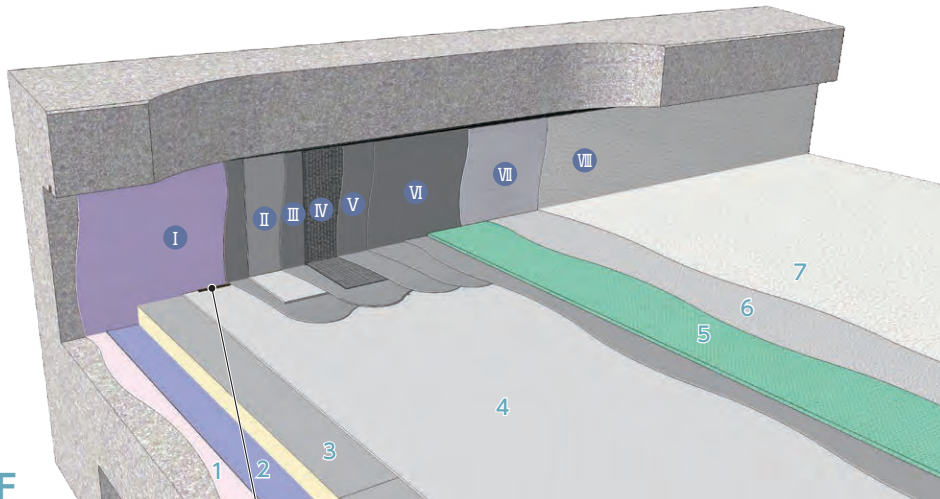
保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※水性プライマーLを水性プライマーAS(0.2kg/m²)に替えることができます。

平面部FL-2G、FL-2GFに対し、立上り部はFLV-1BT、FLV-Tのいずれも対応できます。目的・状況に応じて選択してください。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

FL-2GF
(FLV-1BT)



シール処理
(GCラインまたはOTシール)
またはAS/パッチ



立上り部		FLV-T 塗膜仕上げ		
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg/m ²	SPファインカラー 0.15~0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2~0.3kg/m ²

※端部の押え金物は不要です。

立上り部		FLV-1BT 塗膜仕上げ		
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	IV	マットFC II		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPベース 0.45kg/m ²		
	VIII 保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg/m ²	SPファインカラー 0.15~0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2~0.3kg/m ²

※端部の押え金物は不要です。

【改修工事への対応】

43・44ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。
※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

FRAT仕上げ | 断熱 |

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

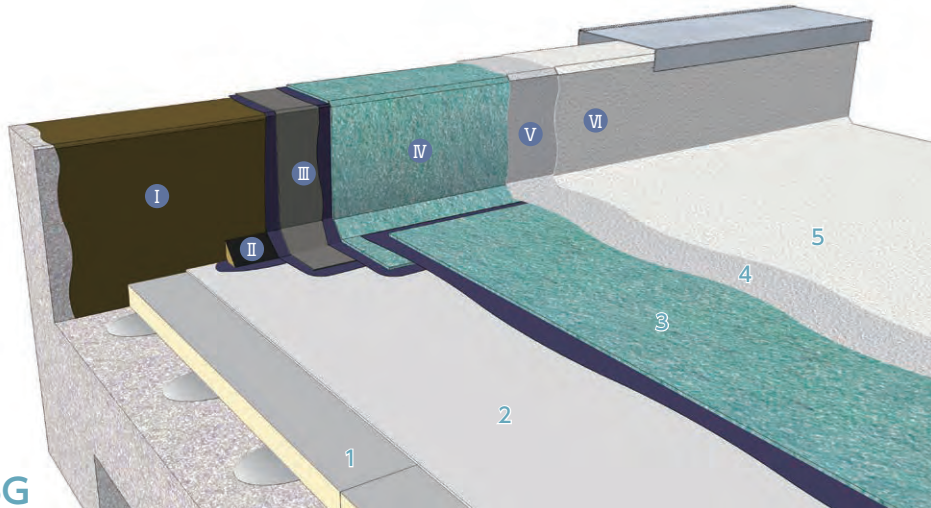
保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱FRAT仕上げ
非断熱保護コンクリート
断熱保護コンクリート
非断熱露出仕上げ
断熱露出仕上げ
非断熱狭小複雑部位
架台廻り屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



FX-025G
(FV-025)



冷熱併用工法

ストライプ工法

FX-025Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：9kg/m²

基本耐用年数：25年

平面部

工程	1		
		ギルフォーム フルボンド点貼り 0.35kg/m ²	
2			
	強カストライプZ		
3			
	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
工程	4		SPミッドカラー
	保護塗料	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²	0.5～0.6kg/m ²
工程	5		SPミッドカラー
	保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	0.2～0.3kg/m ²
仕様番号			
	FX-025G・TH	FX-025G・SF	FX-025G・SD

立上り部

FV-025

工程	I			
		水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	II			
		ギルキャント(アスタイトM貼り)		
	III			
		強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
IV				
	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
工程	V		SPミッドカラー	
	保護塗料	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²	0.5～0.6kg/m ²	
工程	VI		SPミッドカラー	
	保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	0.2～0.3kg/m ²	
仕様番号				
	FV-025・TH	FV-025・SF	FV-025・SD	

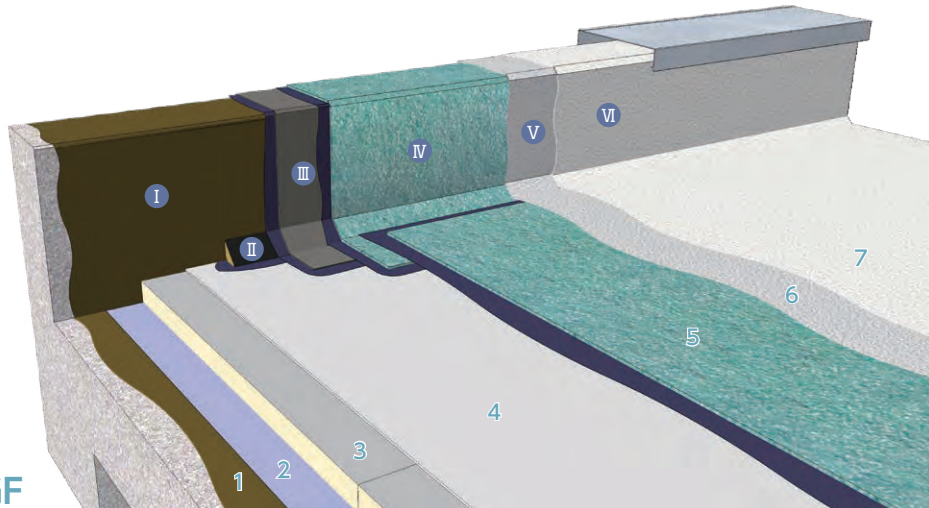
SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※立上り工程IIギルキャントに替えて、ASパッチも使用できます。

※立上り工程II～IIIをVベース1000に替えることもできます。

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



FX-025GF
(FV-025)



冷熱併用工法

ストライプ工法

FX-025GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：10kg/㎡

基本耐用年数：25年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/㎡		
	2	ダンパーシート		
	3	ギルフォーム		
	4	強カストライプZ		
	5	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡		
	6	SPファインカラー 0.4～0.5kg/㎡	SPミッドカラー 0.5～0.6kg/㎡	
	7	SPサーモコート 0.4～0.5kg/㎡	SPファインカラー 0.2～0.3kg/㎡	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/㎡
	仕様番号	FX-025GF・TH	FX-025GF・SF	FX-025GF・SD

※ダンパーシートに替えてフリースベストを使用することもできます。
(アスタイトM点貼り 0.6kg/㎡)

立上り部

FV-025

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/㎡		
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)		
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡		
	IV	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡		
	V	SPファインカラー 0.4～0.5kg/㎡	SPミッドカラー 0.5～0.6kg/㎡	
	VI	SPサーモコート 0.4～0.5kg/㎡	SPファインカラー 0.2～0.3kg/㎡	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/㎡
	仕様番号	FV-025・TH	FV-025・SF	FV-025・SD

※立上り工程IIギルキャントに替えて、ASパッチも使用できます。

※立上り工程II～IIIをVベース1000に替えることもできます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

【改修工事への対応】

45・46ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

断熱
FRAT仕上げ

非断熱
FRAT仕上げ

断熱
保護コンクリート

非断熱
保護コンクリート

断熱
露出仕上げ

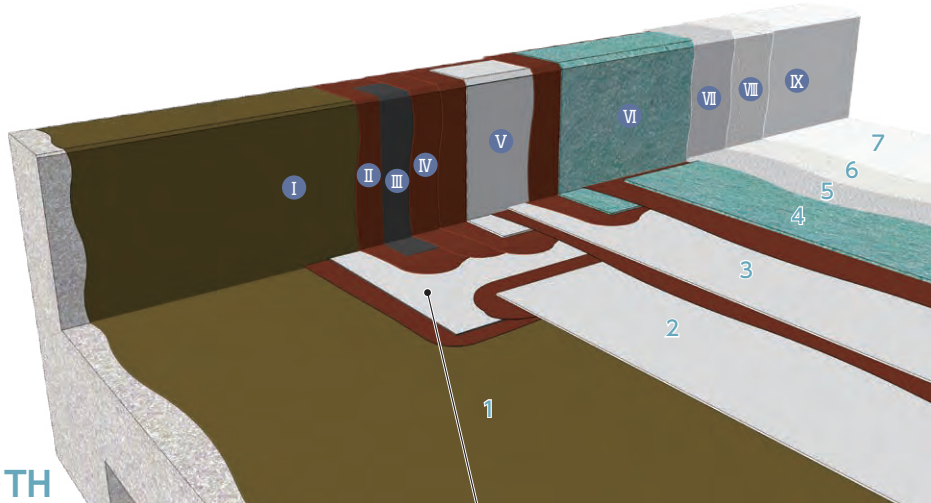
非断熱
露出仕上げ

架台廻り
狭隙複雑部位

非断熱
屋内仕様

駐車場仕様

耐根仕様



強カプライムルーフ

AHFX-045・TH
(AHFV-045・TH)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

AHFX-045・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：10.5kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート 0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部

工程	内容	材料	単位
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
2	強カストライプZ		
3	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
4	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
5	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
6	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
7	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料

※強カストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強カプライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

立上り部

AHFV-045・TH

工程	内容	材料	単位
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²	
II	プライムタイト	1.0kg/m ²	
III	テトロメッシュ2号		
IV	プライムタイト	1.0kg/m ²	
V	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
VI	強カフラットフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²	
VII	SPファインカラー	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
VIII	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料
IX	SPサーモコート	0.4～0.5kg/m ²	保護塗料

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

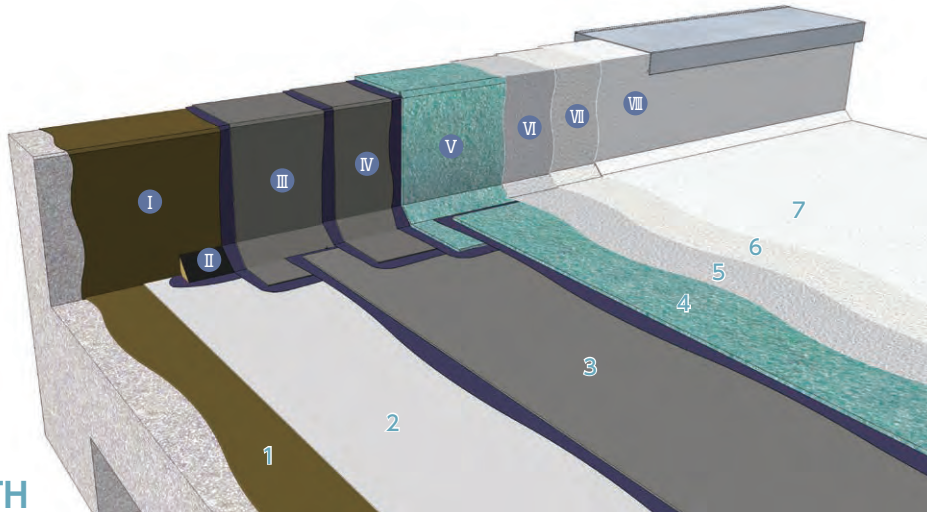
※工程II～IVを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強カフラットフェースの面材含浸用として塗布します。

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項について、34～36ページを必ずご覧ください。



AFX-045・TH
(AFV-045・TH)

冷熱併用工法

ストライプ工法

AFX-045・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：11kg/m²

耐用年数：45年

(23年目にSPサーモコート0.8kg/m²塗布を実施した場合。価格別途。)

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ
	3	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	5 保護塗料	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²
	6 保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²
	7 保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²

立上り部

AFV-045・TH

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	ギルキャント (クリンタイトJ貼り)
	III	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズ クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	V	強カフラットフェース クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	VI 保護塗料	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²
	VII 保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²
	VIII 保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²

※立上り工程IIのギルキャントは、省略することができます。
※立上り工程II～IIIをVベース1000に替えることもできます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強カフラットフェースの面材含浸用として塗布します。

【改修工事への対応】

47・48ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

FRAT仕上げ | 非断熱 |

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

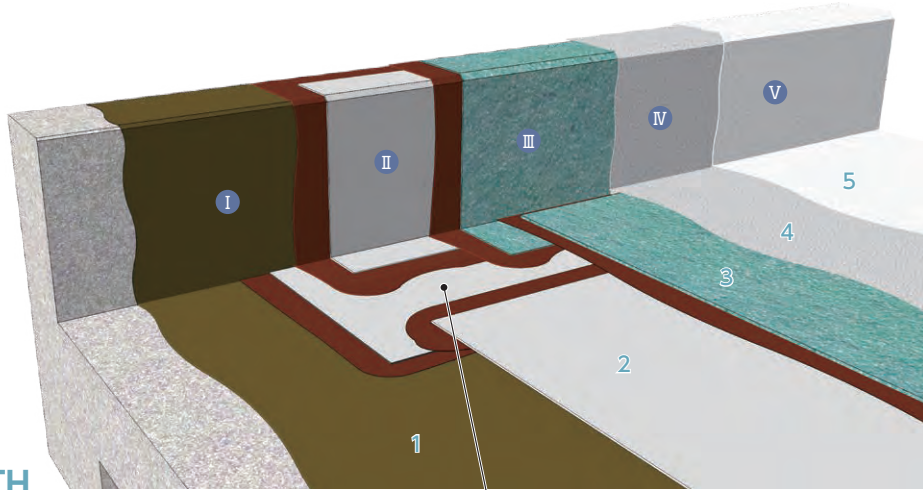
保護塗料
防湿層

注意事項

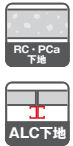
FRAT仕上げ
断熱FRAT仕上げ
非断熱保護コンクリート
断熱保護コンクリート
非断熱露出仕上げ
断熱露出仕上げ
非断熱狭小複雑部位
架台廻り屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



HFX-030・TH
(HFV-030・TH)



強力プライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HFX-030・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：7kg/m²

耐用年数：30年

技術審査証明 D-1、2、3、4仕様対応

平面部

工程	1	2	3	4 保護塗料	5 保護塗料
	水性プライマーAS	強力ストライプZ	強力フラットフェース プライムタイト流し貼り	SPファインカラー	SPサーモコート
	0.2kg/m ²		1.2kg/m ²	0.4～0.5kg/m ²	0.4～0.5kg/m ²

※強力ストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強力プライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

立上り部

HFV-030・TH FRAT仕上げ

工程	I	II	III	IV 保護塗料	V 保護塗料
	水性プライマーAS	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り	強力フラットフェース プライムタイト流し貼り	SPファインカラー	SPサーモコート
	0.2kg/m ²	1.2kg/m ²	1.2kg/m ²	0.4～0.5kg/m ²	0.4～0.5kg/m ²

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

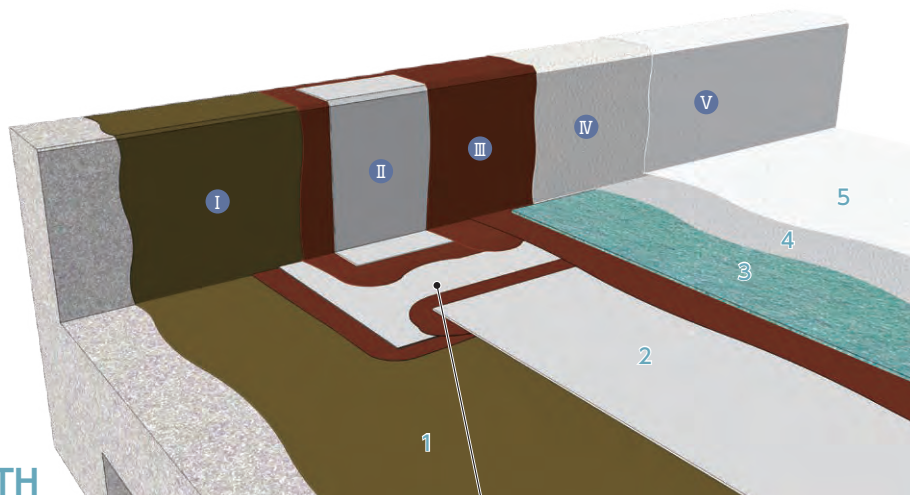
※工程IIに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

※平面部 HFX-030・TH に対し、立上り部は HFV-030・TH、HFV-030T・TH のいずれも対応できます。目的・状況に応じて選択してください。

※保護塗料はSPサーモコートを標準とします。SPファインカラーは強力フラットフェースの面材含浸用として塗布します。

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項について、34～36ページを必ずご覧ください。

HFX-030・TH
(HFV-030T・TH)



強カプライムルーフ

立上り部		HFV-030T・TH 塗膜仕上げ	
工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	III	プライムタイト	1.5kg/m ²
	IV 保護塗	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²
	V 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
 ※工程Ⅱ・Ⅲに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。
 挙動が想定される鉄骨造などの場合、立上り入隅部に強カプライムルーフまたはASパッチを増貼りしてください。

【改修工事への対応】

49・50ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。
 ※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

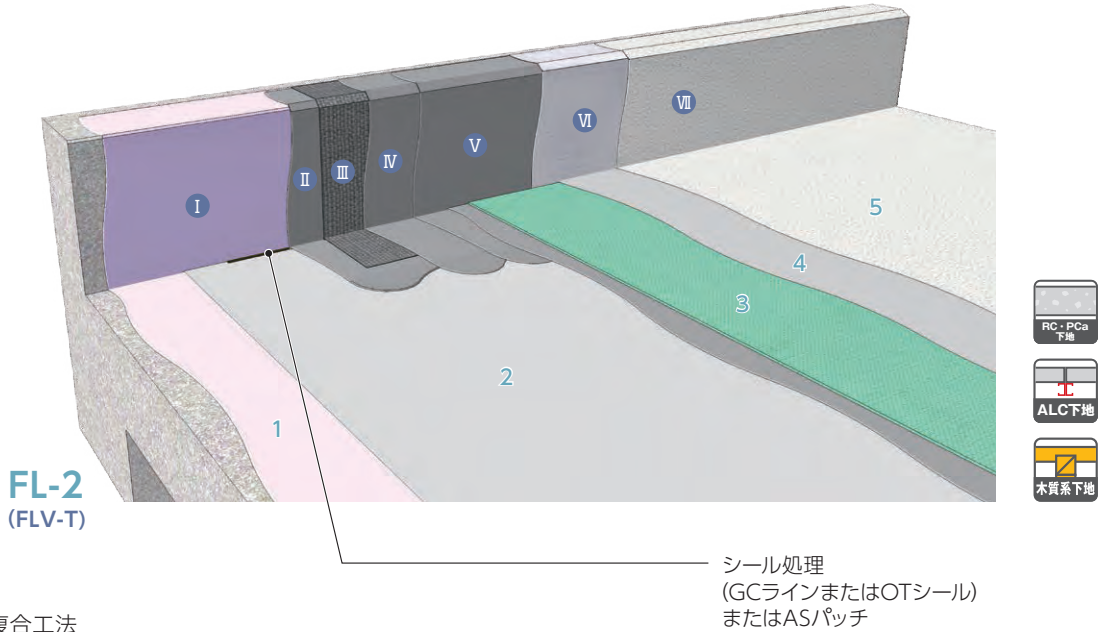
狭隙
架台廻り
複雑部位

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

FRAT仕上げ | 非断熱 |



改質アス常温複合法

レイヤオール工法

FL-2シリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安：6kg/m²

平面部				
工程	1	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	2	強力アンダーFS		
	3	強力フラットA オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²		
	4	SPファインカラー 0.2～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/m ²	
	5	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	SPファインカラー 0.15～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.15～0.3kg/m ²
仕様番号		FL-2・TH	FL-2・SF	FL-2・SD

立上り部 FLV-T 塗膜仕上げ			
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²	
	II	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	III	マットFC II	
	IV	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	V	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	VI	SPベース 0.45kg/m ²	
	VII	SPサーモコート 0.4～0.6kg/m ²	SPファインカラー 0.15～0.3kg/m ²

※端部の押え金物は不要です。

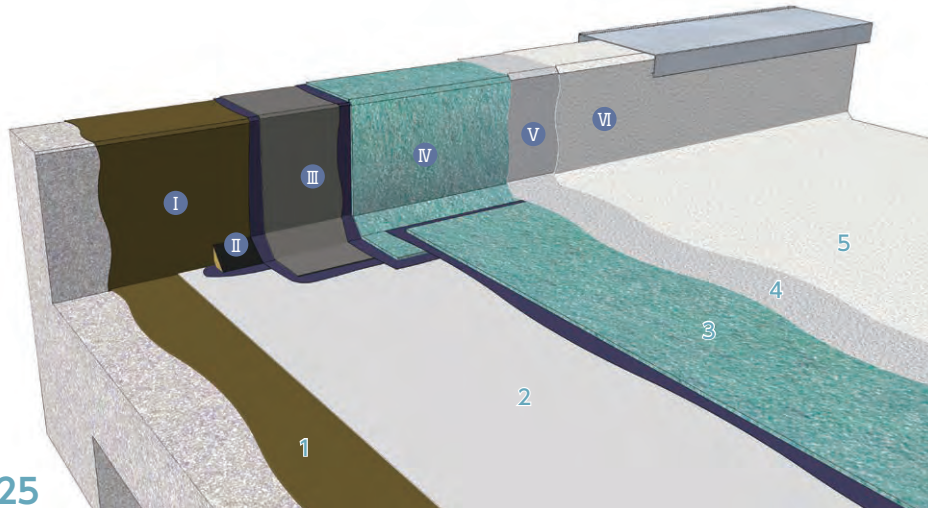
立上り部 FLV-1BT 塗膜仕上げ			
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²	
	II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²	
	III	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	IV	マットFC II	
	V	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	VI	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/m ²	
	VII	SPベース 0.45kg/m ²	
	VIII	SPサーモコート 0.4～0.6kg/m ²	SPファインカラー 0.15～0.3kg/m ²

※端部の押え金物は不要です。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー ライトグレー	②SPサーモコート サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

各仕様の注意事項について、35～36ページを必ずご覧ください。



FX-025
(FV-025)



冷熱併用工法

ストライプ工法

FX-025シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：7kg/m²

基本耐用年数：30年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	2	強カストライプZ		
	3	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	4	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²	SPミッドカラー 0.5～0.6kg/m ²	
	5	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	SPファインカラー 0.2～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/m ²
仕様番号	FX-025・TH	FX-025・SF	FX-025・SD	

立上り部

FV-025

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)		
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	IV	強カフラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	V	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ²	SPミッドカラー 0.5～0.6kg/m ²	
	VI	SPサーモコート 0.4～0.5kg/m ²	SPファインカラー 0.2～0.3kg/m ²	SPミッドカラー 0.2～0.3kg/m ²
仕様番号	FV-025・TH	FV-025・SF	FV-025・SD	

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー ライトグレー ライトブラウン ミントグリーン	②SPサーモコート サーモグレー サーモアイボリー サーモグリーン

※立上り工程IIのギルキャントは、省略することができます。

※立上り工程II～IIIをVベース1000に替えることもできます。

【改修工事への対応】

51・52ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

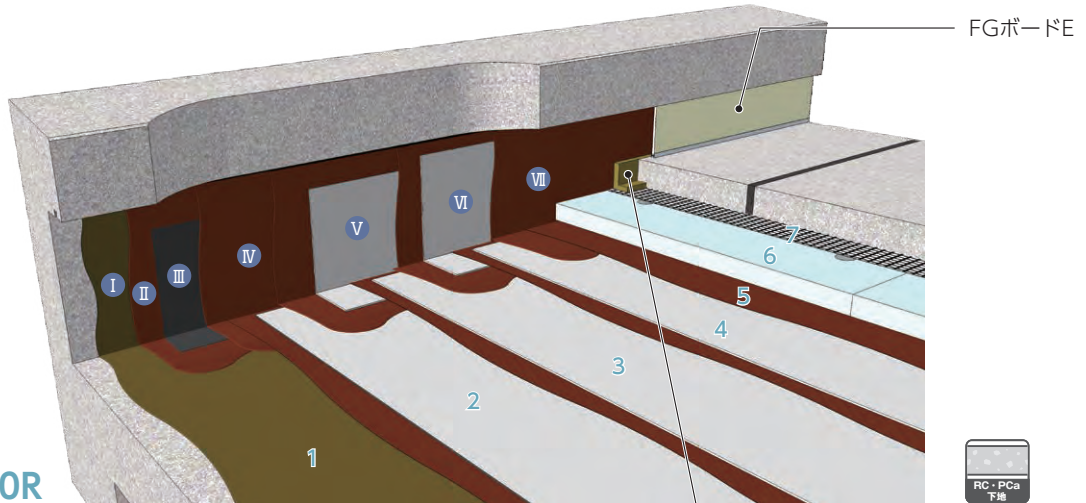
露出仕上げ
非断熱

狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



AHPXM-090R
(AHPV-090)



RBキャント 1500

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

AHPXM-090R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：13kg/m²
基本耐用年数：90年

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
3	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
4	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
5	プライムタイト	1.5kg/m ²
6	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II	
7	絶縁クロス1000 (プライムタイト点貼り*)	

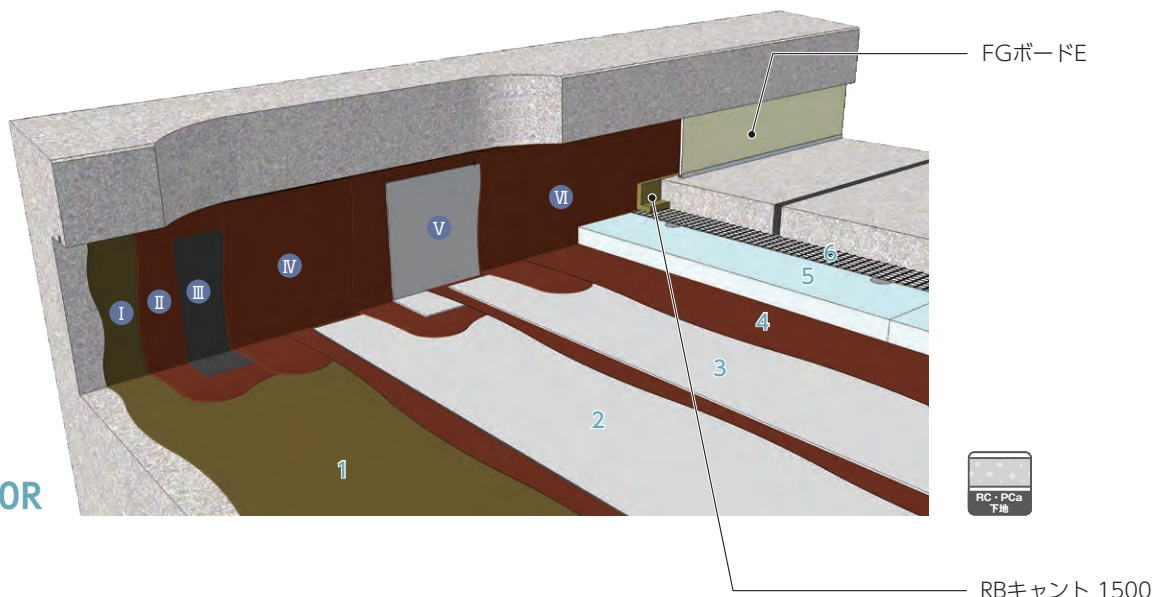
※ACバンドも使用可能です。

立上り部

AHPV-090

工程	内容	重量
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
II	プライムタイト	1.0kg/m ²
III	テトロメッシュ2号	
IV	プライムタイト	1.0kg/m ²
V	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
VI	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
VII	プライムタイト	1.5kg/m ²

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※工程II～IVを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。



AHPXM-060R
(AHPV-060)

加熱型改質アス塗膜防水工法
プライムアス工法
AHPXM-060R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：9.5kg/m²
基本耐用年数：60年

平面部	
工程	1 水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2 強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	3 強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	4 プライムタイト 1.5kg/m ²
	5 RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II
	6 絶縁クロス1000 (プライムタイト点貼り*)

※ACボンドも使用可能です。

立上り部		AHPV-060
工程	I 水性プライマーAS 0.2kg/m ²	
	II プライムタイト 1.0kg/m ²	
	III テトロメッシュ2号	
	IV プライムタイト 1.0kg/m ²	
	V 強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²	
	VI プライムタイト 1.5kg/m ²	

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※工程II～IVを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護シールド
断熱

保護シールド
非断熱

露出仕上げ
断熱

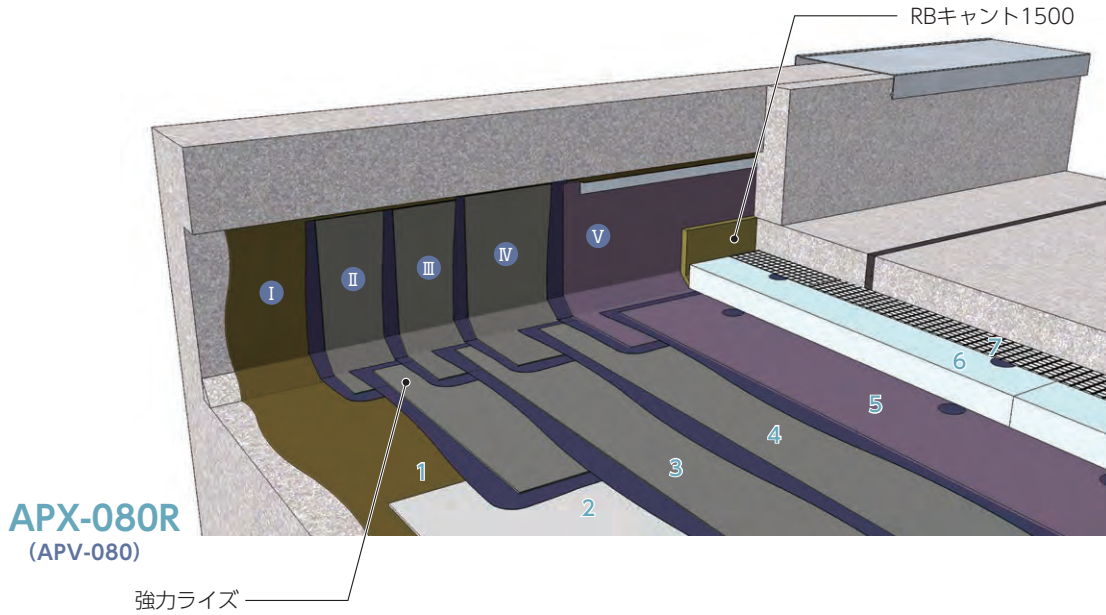
露出仕上げ
非断熱

狭隙
架台廻り
複雑部位

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



仕様選定表
仕上選定表
断熱材
保護塗料
防湿層
注意事項
FRAT仕上げ 断熱
FRAT仕上げ 非断熱
断熱
保護コンクリート
非断熱
露出仕上げ 断熱
露出仕上げ 非断熱
狭小複雑部位 架台廻り
屋内仕様 非断熱
駐車場仕様
耐根仕様

冷熱併用工法

ストライプ工法

APX-080R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：15kg/m²
基本耐用年数：80年

APX-060R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：12kg/m²
基本耐用年数：60年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ コーナー際：強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	5	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	6	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II クリントイトJ点貼り
	7	絶縁クロス1000(クリントイトJ点貼り*)

*平面部の強カストライプZは入隅際より500mm程度控えて貼り、代わりに「強カライズ」をクリントイトJ 1.2kg/m²で流し貼ります。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ コーナー際：強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II クリントイトJ点貼り
	6	絶縁クロス1000(クリントイトJ点貼り*)

*平面部の強カストライプZは入隅際より500mm程度控えて貼り、代わりに「強カライズ」をクリントイトJ 1.2kg/m²で流し貼ります。

立上り部

APV-080

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	III	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	V	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²

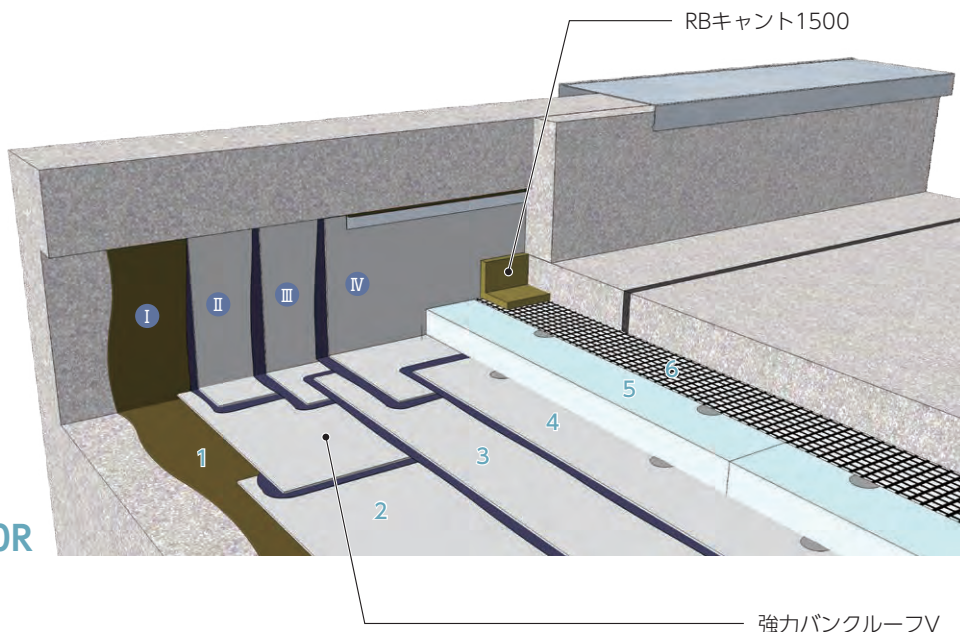
*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

立上り部

APV-060

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	III	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



AJPX-060R
(AJPV-060)

強力バンクルーフ

ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

AJPX-060R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：10.5kg/m²
基本耐用年数：60年

密着仕様

AJPXM-060R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：10kg/m²
基本耐用年数：60年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフ
	3	強力バンクベストⅡ
	4	強力バンクベスト
	5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-Ⅱ RBセメント点貼り 0.5kg/m ²
	6	絶縁クロス1000(RBセメント点貼り*)

*強力バンクルーフは入隅部から500mm程度控えて貼り、代わりに強力バンクルーフVを貼付けます。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフV
	3	強力バンクベストⅡ
	4	強力バンクベスト
	5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-Ⅱ RBセメント点貼り 0.5kg/m ²
	6	絶縁クロス1000(RBセメント点貼り*)

立上り部

AJPV-060

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力バンクベストV
	III	強力バンクベストV
	IV	強力バンクベストV

立上り部

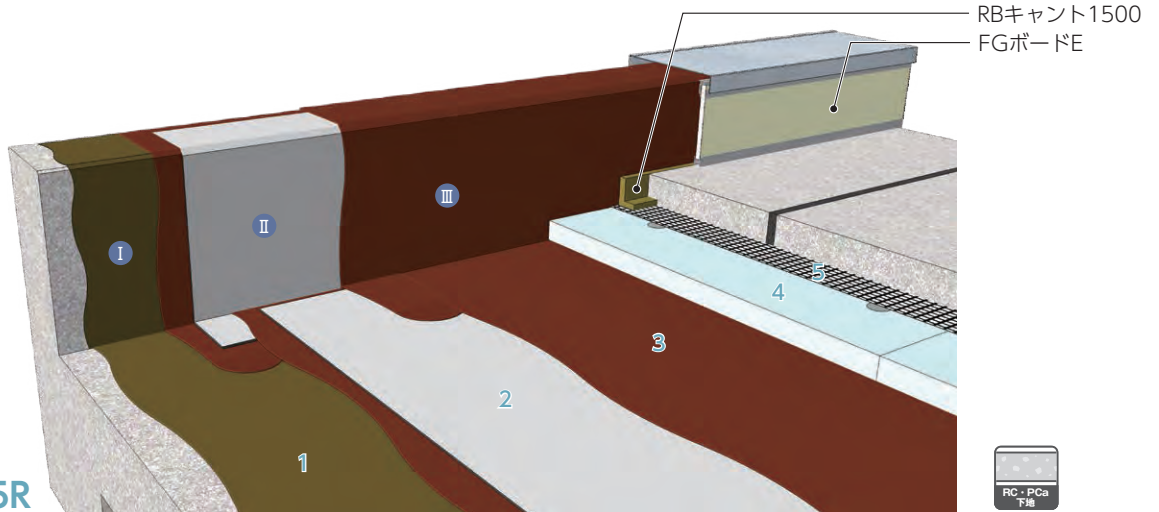
AJPV-060 左仕様表参照

*絶縁クロス 1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

APEXの下地づくりについては別冊「APEX カタログ」をご覧ください。

保護コンクリート | 断熱 |

省力化
施工効率
向上



HPXM-035R
(HPV-035)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HPXM-035R

適正勾配：1/100～1/50

重量目安(断熱材60mm)：6.5kg/m²

基本耐用年数：35年

技術審査証明 AI-1、2、3およびBI-1、2、3仕様対応

平面部

工程	内容
1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
3	プライムタイト 1.5kg/m ²
4	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II
5	絶縁クロス1000 (プライムタイト点貼り*)

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

立上り部

HPV-035 保護仕上げ

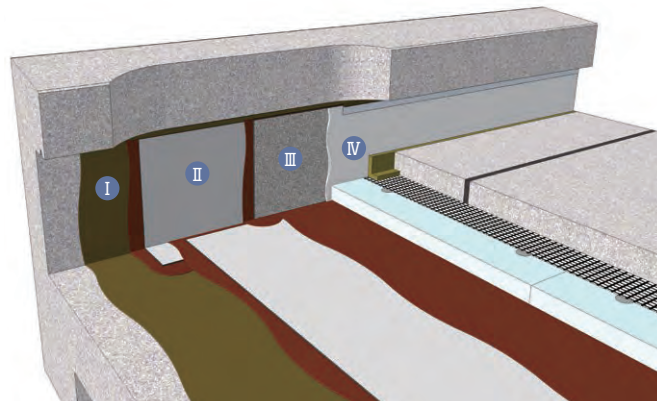
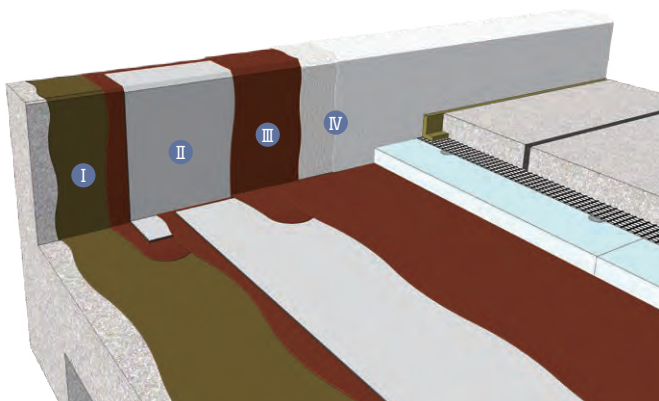
工程	内容
I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
III	プライムタイト 1.5kg/m ²

※立上り隅には必ずコーナー緩衝材(RBキャント1500等)を入れてください。
 ※現場状況によっては、強力プライムルーフやテトロメッシュ2号などの増し貼りを
 入れる場合もあります。
 ※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

※平面部 HPXM-035R に対し、立上り部は HPV-035、HPV-035T・TH、
 HPV-035S・TH/SF/SD のいずれも対応できます。
 目的・状況に応じて選択してください。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

立上り部 オプション



HPV-035T・TH 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	III	プライムタイト 1.5kg/m ²
	IV	SPサーモコート 0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

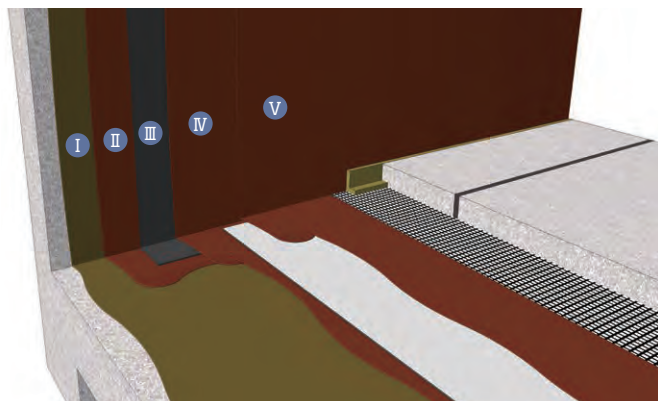
HPV-035S・TH/SF/SD 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	II	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²		
	III	強力ハイキャップ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²		
	IV	SPサーモコート 0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)	SPファイン カラー 0.4~0.6kg/m ²	SPミッド カラー 0.5~0.7kg/m ²
仕様 番号	HPV-35S・TH	HPV-35S・SF	HPV-35S・SD	

※立上り露出砂付の強力ハイキャップは、強力フラットフェース、強力ガムフェースに替えることができます(価格別途)。

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

テトロメッシュ2号を用いた立上り工程



工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	プライムタイト 1.0kg/m ²
	III	テトロメッシュ2号
	IV	プライムタイト 1.0kg/m ²
	V	プライムタイト 1.0kg/m ²

※HPV-035、HPV-035T・THの工程I~IIIを上記工程に替えることができます。
※HPV-035S・TH/SF/SDの工程I~IIを上記工程I~IVに替えることができます。

仕様
選定表

仕上
選定表

断熱
材

保護
塗料
防湿層

注意
事項

FRAT
仕上げ
断熱

FRAT
仕上げ
非断熱

保護
シールド
非断熱

保護
コンクリート
非断熱

露出
仕上げ
断熱

露出
仕上げ
非断熱

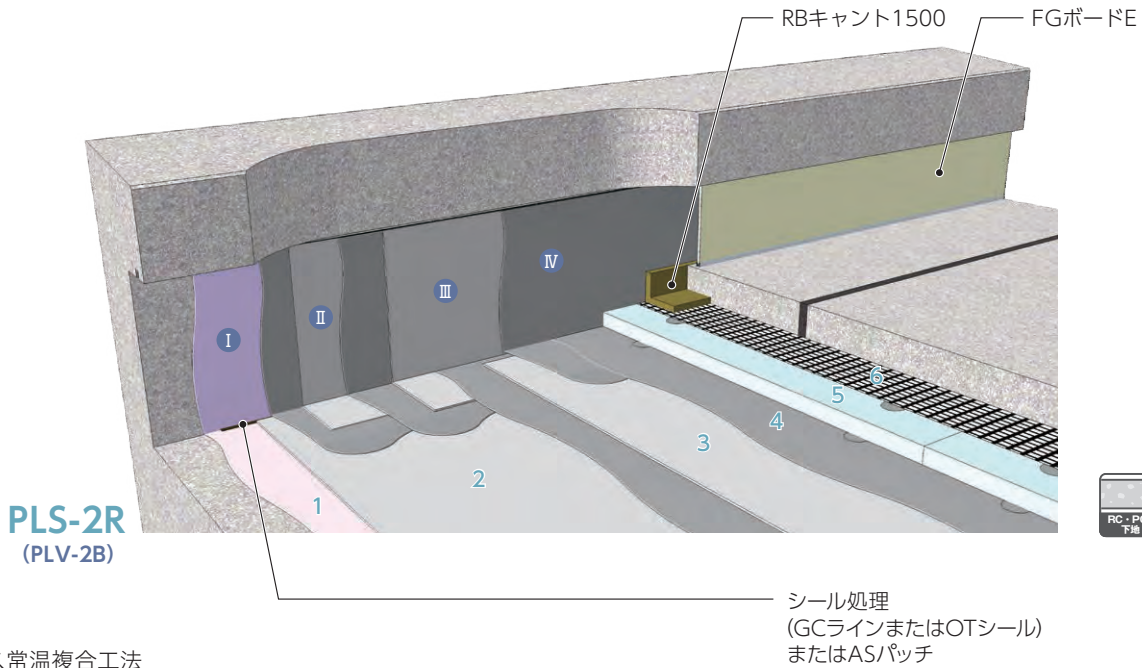
狭
隘
複雑
部位
架台廻り

屋
内
仕様
非断熱

駐
車
場
仕様

耐
根
仕様

保護コンクリート | 断熱 |



仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱FRAT仕上げ
非断熱保護コンクリート
断熱保護コンクリート
非断熱露出仕上げ
断熱露出仕上げ
非断熱狭小複層部
架台廻り屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

改質アス常温複合法

レイヤオール工法

PLS-2R

適正勾配：1/100～1/50

重量目安(断熱材60mm)：7kg/m²

技術審査証明 AI-1、2、3およびBI-1、2、3仕様対応

PL-2R

適正勾配：1/100～1/50

重量目安(断熱材60mm)：8kg/m²

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	強力アンダーFS	
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
4	オールコート	0.8kg/m ²
5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II (オールコート立上り用点貼り)	
6	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)	

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
4	オールコート	0.8kg/m ²
5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II (オールコート立上り用点貼り)	
6	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)	

※平面部PLS-2R、PL-2Rに対し、立上り部はPLV-T、PLV-T砂付、PLV-2B、PLV-1B砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。

立上り部

PLV-2B 保護仕上げ

工程	内容	重量
I	水性プライマーL	0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
IV	オールコート立上り用	0.8kg/m ²

※工程IIを強力アンダーFに変更することができます。

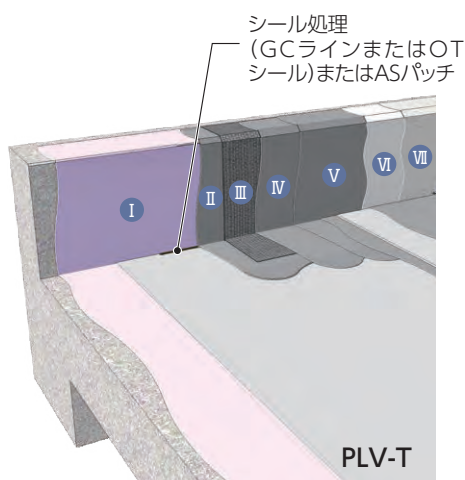
※立上り端部を押え金物を用いずに納める場合は右ページをご覧ください。

*ACボンドも使用可能です。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

立上り部 オプション

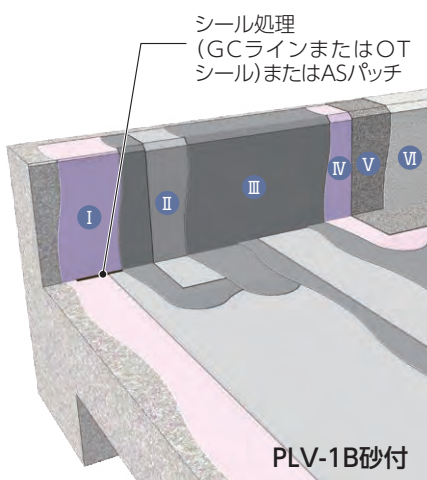
※下図は平面部:PLS-2Rの場合



PLV-T

PLV-T 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	SPベース 0.45kg/m ²		
	VII	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.4~0.6kg/m ²	0.15~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	

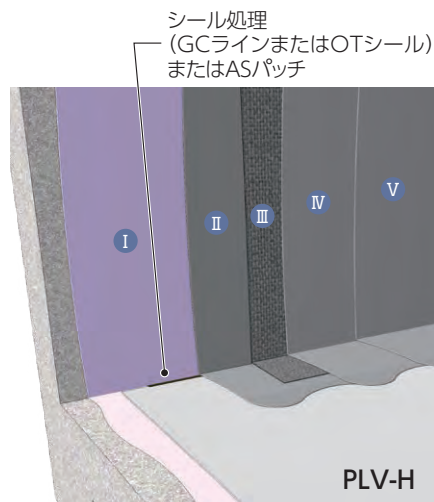


PLV-1B砂付

PLV-1B砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 0.8kg/m ²		
	IV	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	V	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VI	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。



PLV-H

PLV-H 保護仕上げ

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		

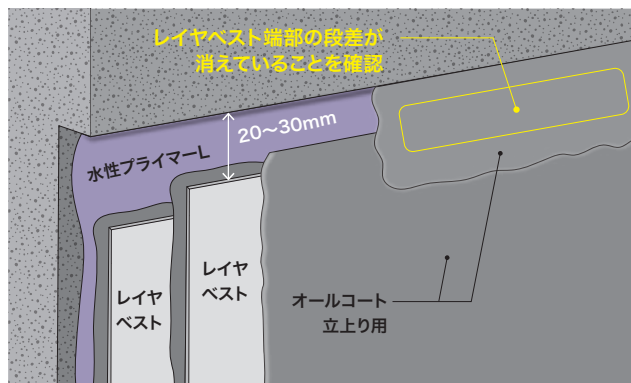
※防水層端末金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛用金物「モルタルハンガー」を使用してください。(価格別途)

PLV-T砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	VII	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VIII	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

《立上り端部を押え金物を用いずに納める場合》
立上り最上層をレイヤベスト+オールコート立上り用で仕上げる際、
下図の要領にて納めます。



※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端末金物が必要です。
※ストライプ工法、BANKS工法平面部とレイヤオール立上り各工法を組合わせて使用することも可能です。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

F R A T 断熱
仕上仕上げ

F R A T 非断熱
仕上仕上げ

保護シート

非断熱
保護シート

断熱
露出仕上げ

非断熱
露出仕上げ

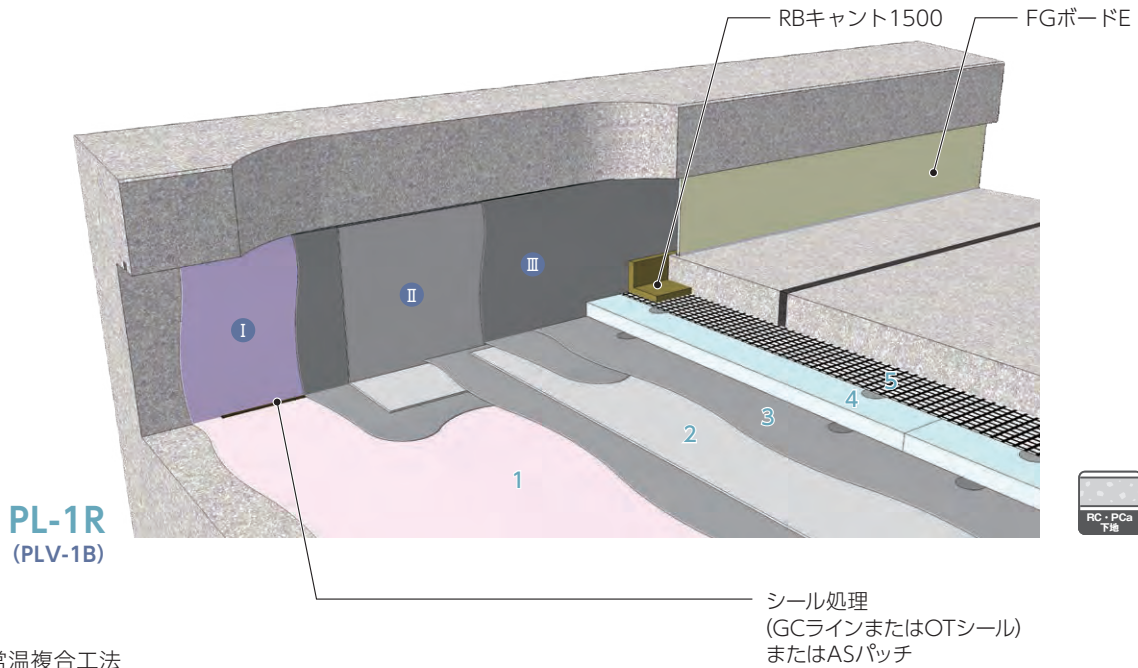
架台廻り
狭隙複雑部位

非断熱
屋内仕様

駐車場仕様

耐根仕様

保護コンクリート | 断熱 |



改質アス常温複合工法

レイヤオール工法

PL-1R

適正勾配：1/100～1/50

重量目安(断熱材60mm)：5kg/m²

技術審査証明 AI-1、2、3仕様対応

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	オールコート	0.8kg/m ²
4	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II (オールコート立上り用点貼り)	
5	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)	

*ACボンドも使用可能です。

立上り部

PLV-1B 保護仕上げ

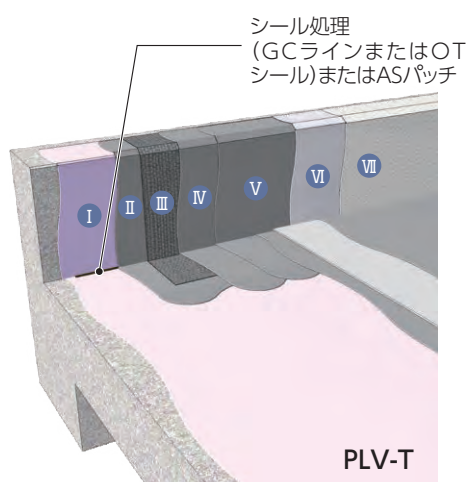
工程	内容	重量
I	水性プライマーL	0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	オールコート立上り用	0.8kg/m ²

※平面部PL-1Rに対し、立上り部はPLV-T、PLV-T砂付、PLV-1B、PLV-1B砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。

※立上り端部を押え金物を用いずに納める場合は右ページをご覧ください。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

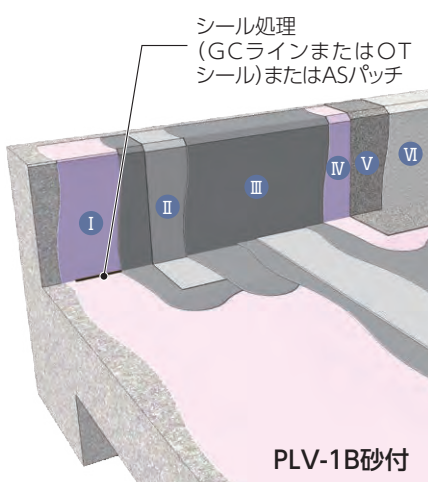
立上り部 オプション



PLV-T

PLV-T 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.4~0.6kg/m ²	0.15~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	



PLV-1B砂付

PLV-1B砂付 砂付仕上げ

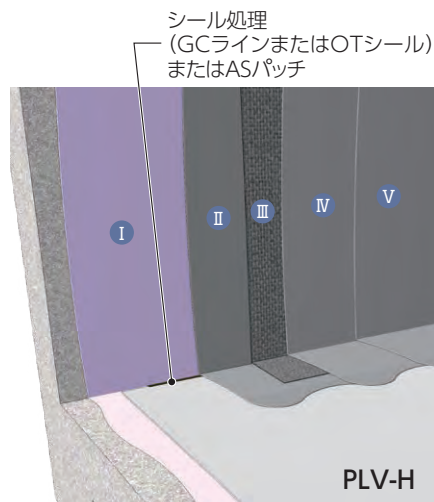
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 0.8kg/m ²		
	IV	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	V	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VI 保護塗料	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

PLV-T砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	VII	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VIII 保護塗料	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。



PLV-H

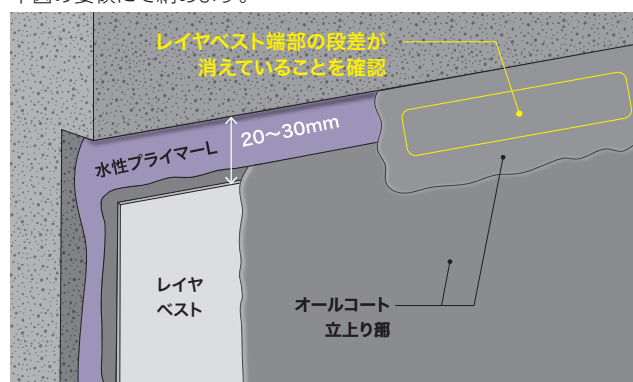
PLV-H 保護仕上げ

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		

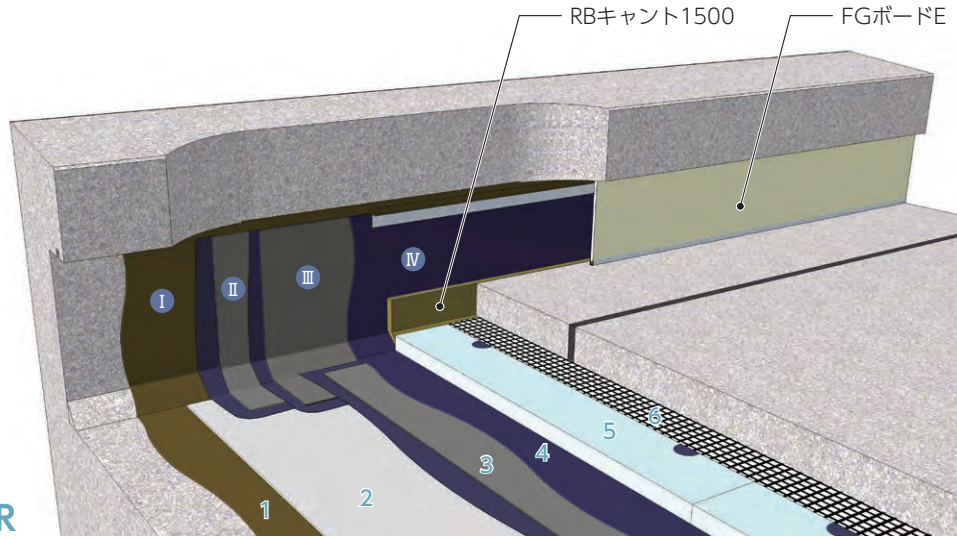
※防水層端末金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛用金物「モルタルハンガー」を使用してください。(価格別途)

《立上り端部を押え金物を用いずに納める場合》
立上り最上層をレイヤベスト+オールコート立上り用で仕上げる際、下図の要領にて納めます。



※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端末金物が必要です。
※ストライプ工法、BANKS工法平面部とレイヤオール立上り各工法を組合わせて使用することも可能です。

保護コンクリート | 断熱 |



PX-035R
(PV-035)

冷熱併用工法

ストライプ工法

PX-035R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：8.5kg/m²
基本耐用年数：35年
技術審査証明 AI-1、BI-1仕様対応

PX-030R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：8.5kg/m²
基本耐用年数：30年
技術審査証明 AI-2、BI-2仕様対応

密着仕様・例

PXM-035R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：10kg/m²

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ストライプZ
3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II
6	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ストライプZ
3	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II
6	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ライズ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II
6	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

立上り部

PV-035

I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
III	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
IV	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²

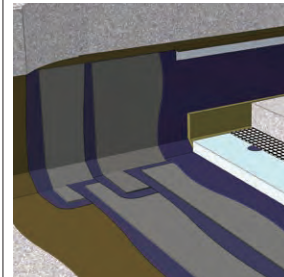
立上り部

PV-030

I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
III	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
IV	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²

立上り部

PV-035 左仕様表参照

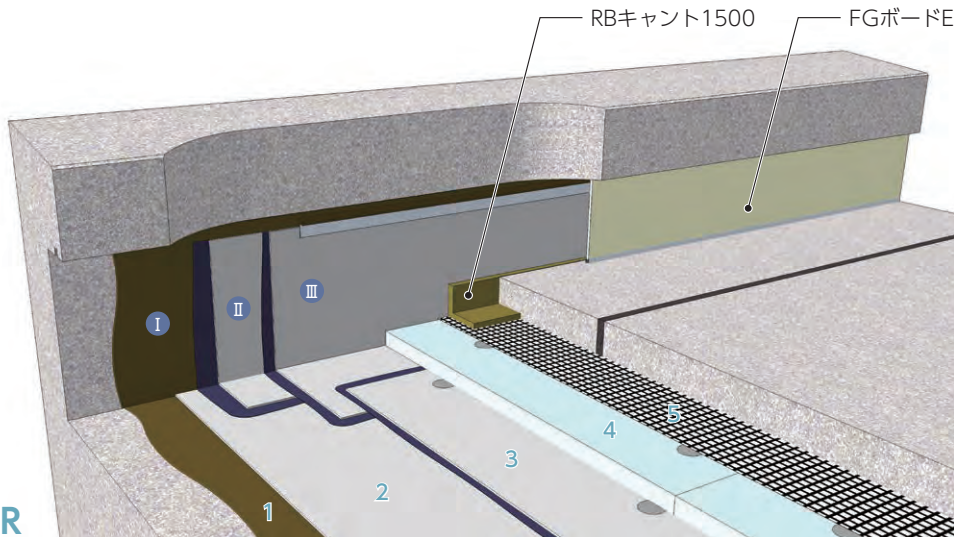


【注意】
密着仕様の場合、
立上り部と平面部
の施工順番が左図
に変わります。

*立上り工程IIの強力アドバンの代わりにFV-50も使用できます。
*PX-030Rも密着仕様に変更可能です→平面部工程2を「強力ライズ」に変更(仕様番号:PXM-030R)

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



JPX-035R
(JPV-035)

ノンケトル冷熱併用工法
BANKS工法

JPX-035R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：7.5kg/m²
基本耐用年数：35年
技術審査証明 AI-1、BI-1仕様対応

密着仕様

JPXM-035R

適正勾配：1/100～1/50
重量目安(断熱材60mm)：7kg/m²
基本耐用年数：35年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフ
	3	強力バンクベスト
	4	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II RBセメント点貼り 0.5kg/m ²
	5	絶縁クロス1000(RBセメント点貼り*)

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフV
	3	強力バンクベスト
	4	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II RBセメント点貼り 0.5kg/m ²
	5	絶縁クロス1000(RBセメント点貼り*)

立上り部

JPV-035

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力バンクベストV
	III	強力バンクベストV

立上り部

JPV-035 左仕様表参照

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

※BANKS工法の立上り部は他のバージョンもあります。詳細は別冊「BANKS工法」カタログをご参照ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護シート
断熱

保護シート
非断熱

露出仕上げ
断熱

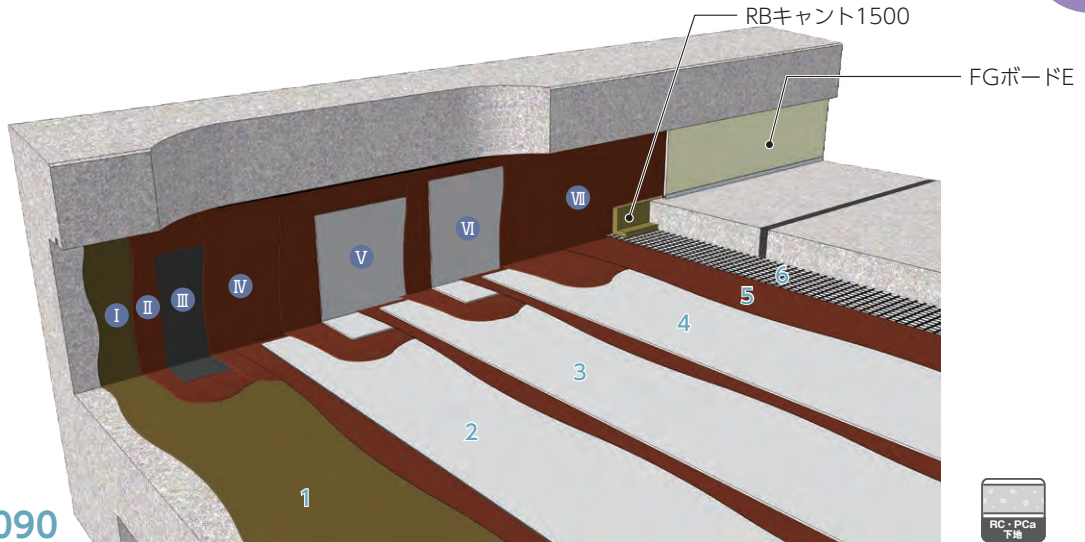
露出仕上げ
非断熱

狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



AHPXM-090
(AHPV-090)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

AHPXM-090

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：11kg/㎡
基本耐用年数：85年

平面部

工程	内容	材料	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/㎡	
2	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/㎡	
3	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/㎡	
4	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/㎡	
5	プライムタイト	1.5kg/㎡	
6	絶縁クロス1000 (プライムタイト点貼り*)		

*ACバンドも使用可能です。

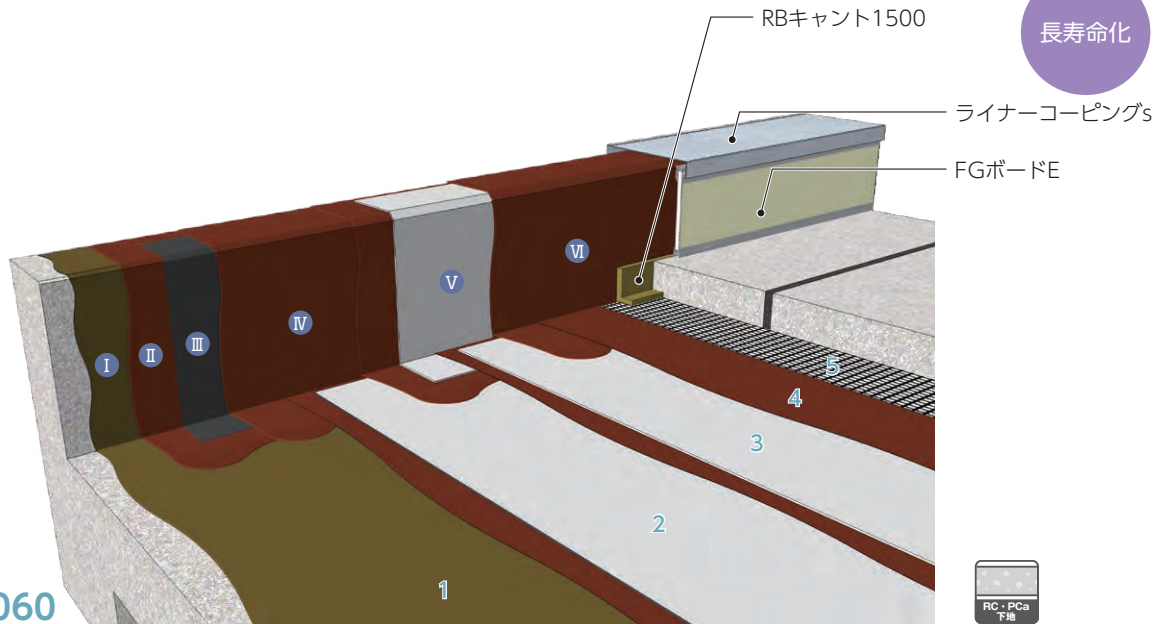
立上り部

AHPV-090

工程	内容	材料	重量
I	水性プライマーAS	0.2kg/㎡	
II	プライムタイト	1.0kg/㎡	
III	テトロメッシュ2号		
IV	プライムタイト	1.0kg/㎡	
V	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/㎡	
VI	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/㎡	
VII	プライムタイト	1.5kg/㎡	

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※工程II～IVを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/㎡)に替えることができます。

長寿命化



AHPXM-060
(AHPV-060)

加熱型改質アス塗膜防水工法
プライムアス工法
AHPXM-060

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8kg/m²
基本耐用年数：55年

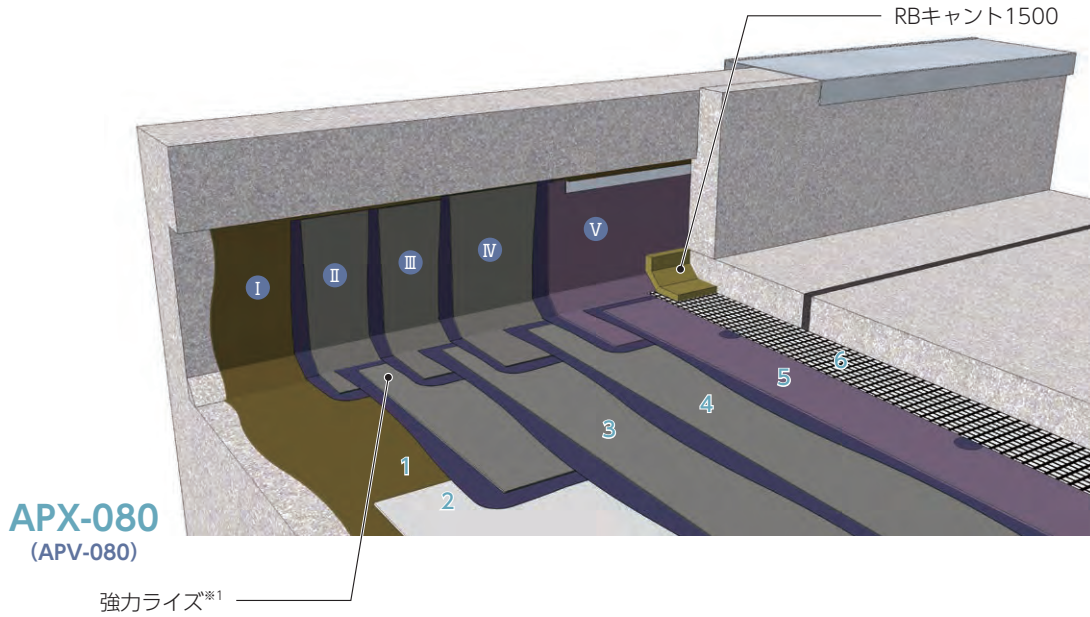
平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	3	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	4	プライムタイト 1.5kg/m ²
	5	絶縁クロス1000 (プライムタイト点貼り*)

*ACボンドも使用可能です。

立上り部		AHPV-060
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	プライムタイト 1.0kg/m ²
	III	テトロメッシュ2号
	IV	プライムタイト 1.0kg/m ²
	V	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
	VI	プライムタイト 1.5kg/m ²

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※工程II～IVを強カプライムルーフ(プライムタイト流し貼り1.2kg/m²)に替えることができます。

仕様選定表
仕上選定表
断熱材
保護塗料
注意事項
FRAT仕上げ 断熱
FRAT仕上げ 非断熱
保護コンクリート 断熱
保護コンクリート 非断熱
露出仕上げ 断熱
露出仕上げ 非断熱
狭隙複雑部位 架台廻り
屋内仕様 非断熱
駐車場仕様
耐根仕様



APX-080
(APV-080)

強カライズ*1

冷熱併用工法

ストライプ工法

APX-080

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：13.5kg/m²
基本耐用年数：75年

APX-060

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：10.5kg/m²
基本耐用年数：55年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ コーナー際：強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	5	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	6	絶縁クロス1000(クリントイトJ点貼り*)

*平面部の強カストライプZは入隅際より500mm程度控えて貼り、代わりに「強カライズ」をクリントイトJ 1.2kg/m²で流し貼ります。

立上り部

APV-080

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	III	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	V	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ コーナー際：強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	5	絶縁クロス1000(クリントイトJ点貼り*)

*平面部の強カストライプZは入隅際より500mm程度控えて貼り、代わりに「強カライズ」をクリントイトJ 1.2kg/m²で流し貼ります。

立上り部

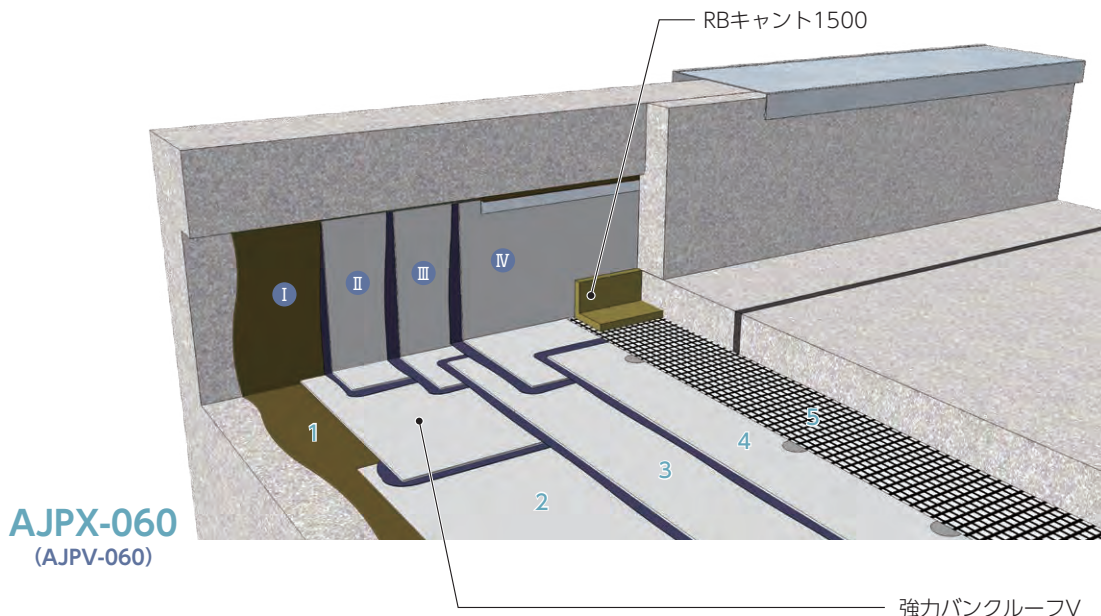
APV-060

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	III	強カライズ クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	強カライズF クリントイトJ流し貼り 1.2kg/m ²

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

各仕様の注意事項について、35～36ページを必ずご覧ください。

APEXの下地づくりについては別冊「APEX カタログ」をご覧ください。



ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

AJPX-060

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8.5kg/m²
基本耐用年数：55年

密着仕様

AJPM-060

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8kg/m²
基本耐用年数：55年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフ
	3	強力バンクベストⅡ
	4	強力バンクベスト
	5	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)

*強力バンクルーフは入隅部から500mm程度控えて貼り、代わりに強力バンクルーフVを貼付けます。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフV
	3	強力バンクベストⅡ
	4	強力バンクベスト
	5	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)

立上り部

AJPV-060 左仕様表参照

立上り部

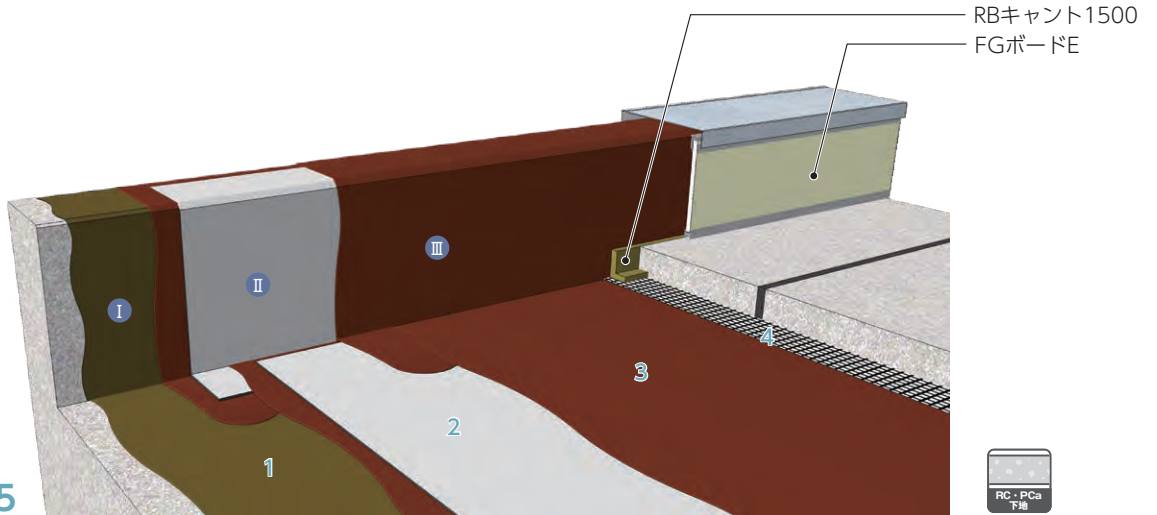
AJPV-060

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力バンクベストV
	III	強力バンクベストV
	IV	強力バンクベストV

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

保護コンクリート | 非断熱 |

省力化
施工効率
向上



HPXM-035
(HPV-035)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HPXM-035

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：5kg/m²

基本耐用年数：30年

技術審査証明 A-1、2、3およびB-1、2、3仕様対応

平面部

工程	内容
1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
3	プライムタイト 1.5kg/m ²
4	絶縁クロス1000(プライムタイト点貼り*)

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

立上り部

HPV-035 保護仕上げ

工程	内容
I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り 1.2kg/m ²
III	プライムタイト 1.5kg/m ²

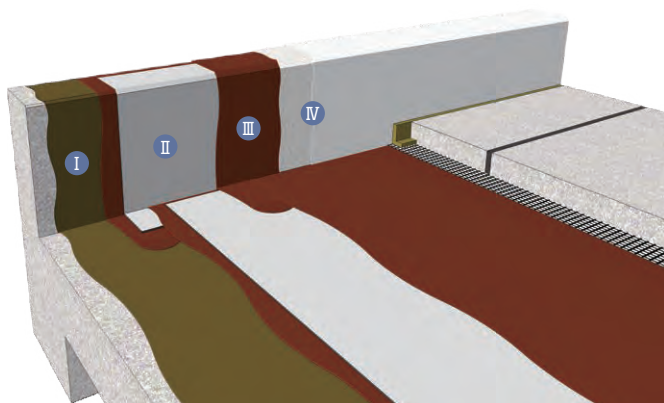
※立上り隅には必ずコーナー緩衝材 (RBキャント1500等) を入れてください。
※現場状況によっては、強力プライムルーフやテトロメッシュ2号などの増し貼りを
入れる場合もあります。

※防水層末端を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。

※平面部 HPXM-035 に対し、立上り部は HPV-035、HPV-035T・TH、HPV-035S・TH/SF/SD のいずれも対応できます。
目的・状況に応じて選択してください。

各仕様の注意事項について、35～36 ページを必ずご覧ください。

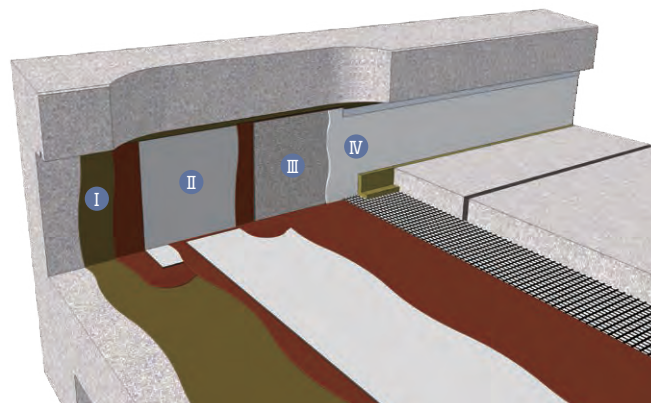
立上り部 オプション



HPV-035T・TH 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	III	プライムタイト	1.5kg/m ²
	IV <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)

※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。



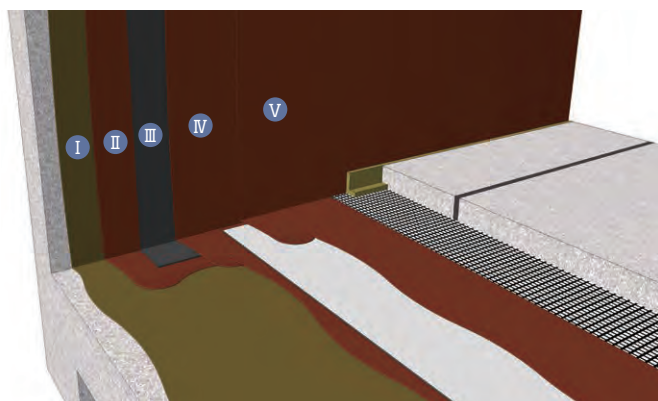
HPV-035S・TH/SF/SD 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	III	強カハイキャップ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	IV <small>保護塗料</small>	SPサーモコート 0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)	SPファイン カラー 0.4~0.6kg/m ²
仕様番号	HPV-35S・TH	HPV-35S・SF	HPV-35S・SD

※立上り露出砂付の強カハイキャップは、強カフラットフェース、強カガムフェースに替えることができます (価格別途)。

※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。

テトロメッシュ 2号を用いた立上り工程



工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	プライムタイト	1.0kg/m ²
	III	テトロメッシュ2号	
	IV	プライムタイト	1.0kg/m ²
	V	プライムタイト	1.0kg/m ²

※HPV-035、HPV-035T・THの工程I~IIIを上記工程に替えることができます。
 ※HPV-035S・TH/SF/SDの工程I~IIを上記工程I~IVに替えることができます。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

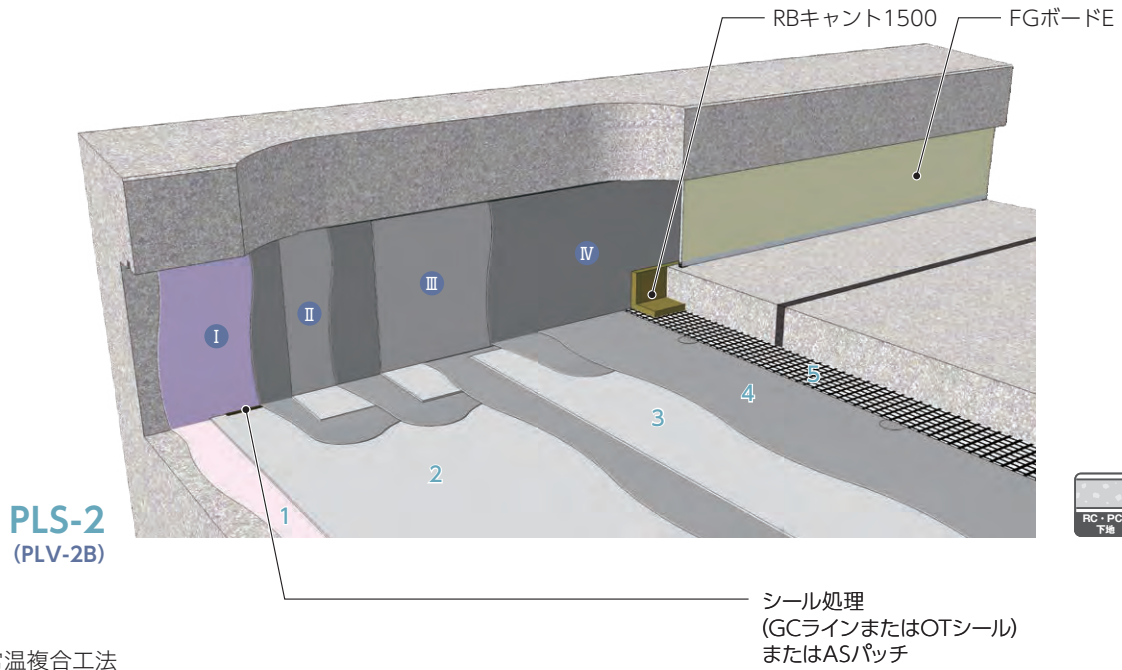
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

保護コンクリート | 非断熱 |



改質アス常温複合法

レイヤオール工法

PLS-2

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：5kg/m²

技術審査証明 A-1、2、3およびB-1、2、3仕様対応

PL-2

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：6kg/m²

平面部

工程	1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
	2	強力アンダーFS
	3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
	4	オールコート 0.8kg/m ²
	5	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)

*ACボンドも使用可能です。

※平面部PLS-2、PL-2に対し、立上り部はPLV-T、PLV-T砂付、PLV-2B、PLV-1B砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。

平面部

工程	1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
	2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
	3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
	4	オールコート 0.8kg/m ²
	5	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)

*ACボンドも使用可能です。

立上り部

PLV-2B 保護仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²
	II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
	III	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
	IV	オールコート立上り用 0.8kg/m ²

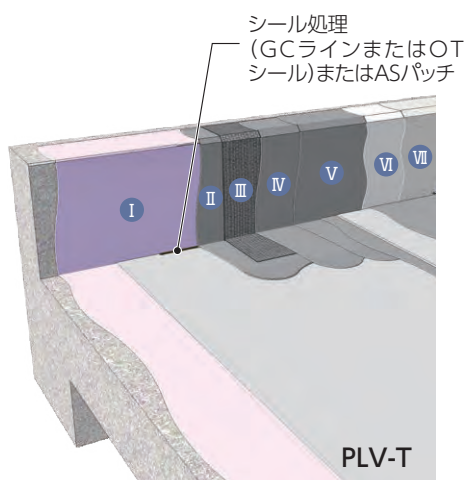
※工程IIを強力アンダーFに変更することができます。

※立上り端部を押え金物を用いずに納める場合は右ページをご覧ください。

各仕様の注意事項について、35～36ページを必ずご覧ください。

立上り部 オプション

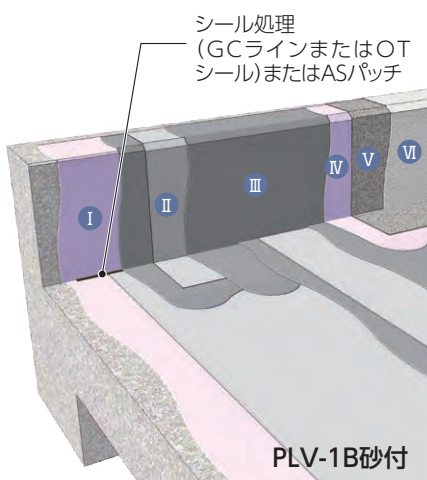
※下図は平面部:PLS-2の場合



PLV-T

PLV-T 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.4~0.6kg/m ²	0.15~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	

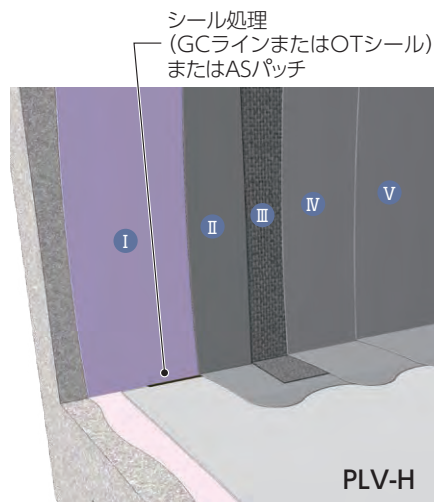


PLV-1B砂付

PLV-1B砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 0.8kg/m ²		
	IV	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	V	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VI 保護塗料	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。



PLV-H

PLV-H 保護仕上げ

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		

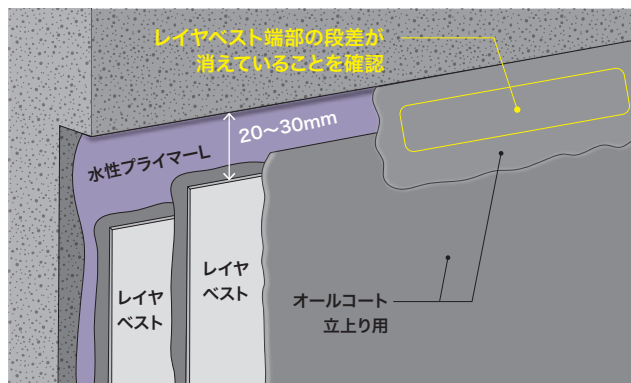
※防水層端金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛用金物「モルタルハンガー」を使用してください。(価格別途)

PLV-T砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	VII	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VIII 保護塗料	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg/m ²	0.4~0.6kg/m ²	0.5~0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

《立上り端部を押え金物を用いずに納める場合》
立上り最上層をレイヤベスト+オールコート立上り用で仕上げる際、下図の要領にて納めます。



※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端金物が必要です。
※ストライプ工法、BANKS工法平面部とレイヤオール立上り各工法を組合わせて使用することも可能です。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

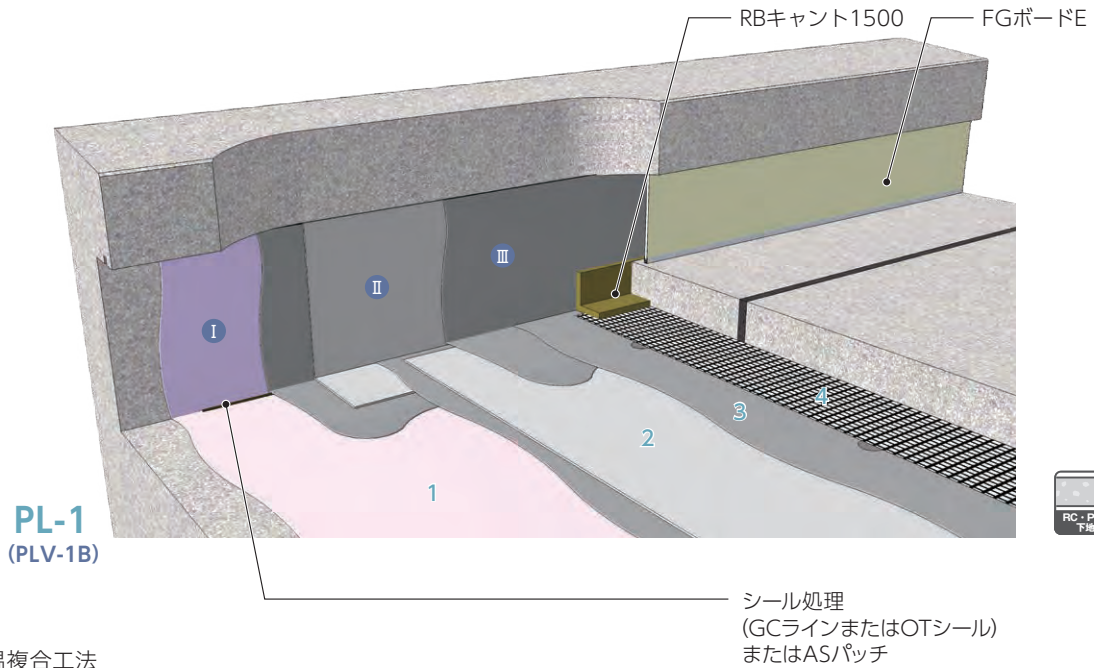
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

保護コンクリート | 非断熱 |



PL-1
(PLV-1B)

シール処理
(GCラインまたはOTシール)
またはAS/パッチ

改質アス常温複合法

レイヤオール工法

PL-1

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：3.5kg/m²

技術審査証明 A-1、2、3仕様対応

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	オールコート	0.8kg/m ²
4	絶縁クロス1000 (オールコート立上り用点貼り*)	

*ACボンドも使用可能です。

立上り部

PLV-1B 保護仕上げ

工程	内容	重量
I	水性プライマーL	0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	オールコート立上り用	0.8kg/m ²

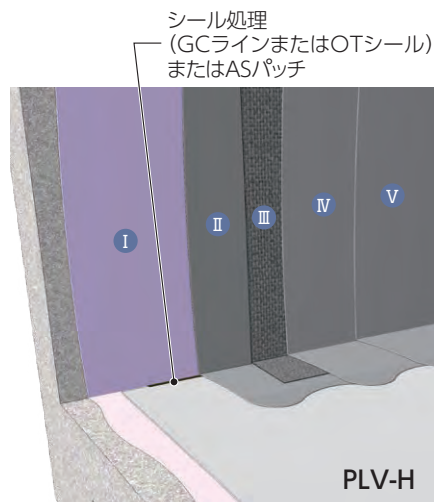
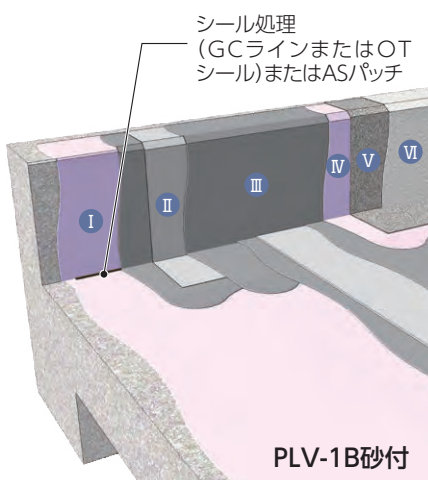
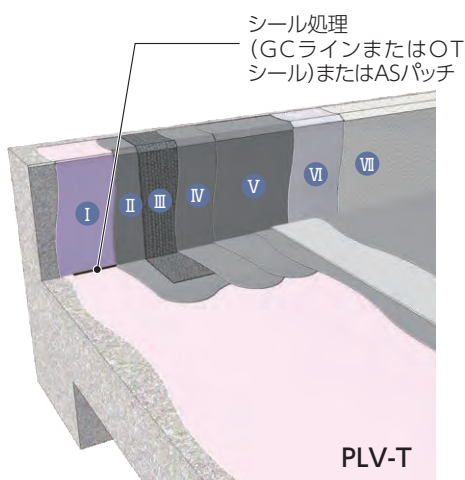
※平面部PL-1に対し、立上り部はPLV-T、PLV-T砂付、PLV-1B、PLV-1B砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。

※立上り端部を押し金物を用いずに納める場合は右ページをご覧ください。

※動きが想定される下地(S造、ALC等)の場合は立上り入隅部に増貼り(オールコート立上り用1.2～1.3kg/m²+レイヤベスト)が必須です。

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。

立上り部 オプション



PLV-T 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPサーモ コート 0.4~ 0.6kg/m ²	SPファイ ン カラー 0.15~ 0.3kg/m ²	SPミッド カラー 0.2~ 0.3kg/m ²

PLV-1B砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 0.8kg/m ²		
	IV	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	V	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VI 保護塗料	SPサーモ コート※1 0.8~ 1.2kg/m ²	SPファイ ン カラー 0.4~ 0.6kg/m ²	SPミッド カラー 0.5~ 0.7kg/m ²

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

PLV-H 保護仕上げ

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		

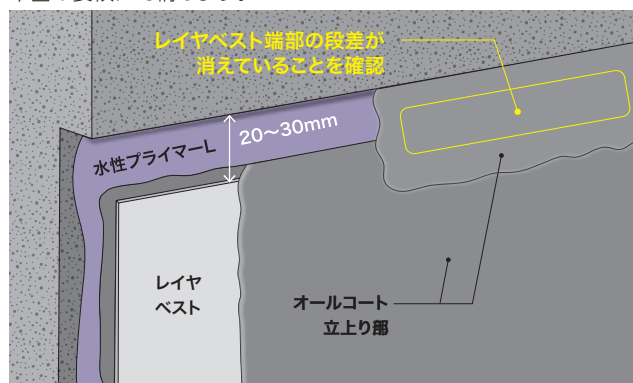
※防水層端金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛用金物「モルタルハンガー」を使用してください。(価格別途)

PLV-T砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	VII	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
VIII 保護塗料	SPサーモ コート※1 0.8~ 1.2kg/m ²	SPファイ ン カラー 0.4~ 0.6kg/m ²	SPミッド カラー 0.5~ 0.7kg/m ²	

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

《立上り端部を押え金物を用いずに納める場合》
立上り最上層をレイヤベスト+オールコート立上り用で仕上げる際、
下図の要領にて納めます。



※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端金物が必要です。
※ストライプ工法、BANKS工法平面部とレイヤオール立上り各工法を組合わせて使用することも可能です。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

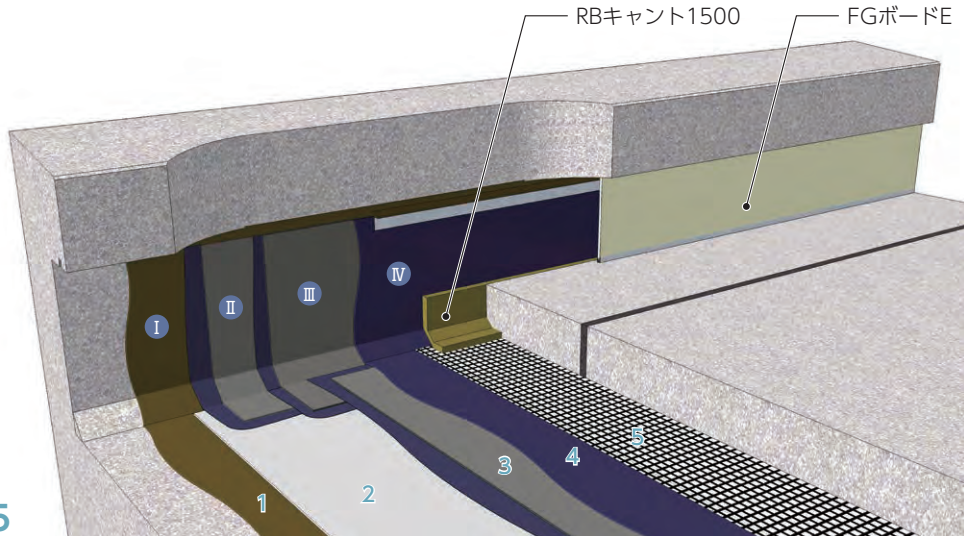
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

保護コンクリート | 非断熱 |



PX-035
(PV-035)

冷熱併用工法

ストライプ工法

PX-035

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：7kg/m²
基本耐用年数：30年

技術審査証明 A-1、B-1仕様対応

PX-030

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：7kg/m²
基本耐用年数：25年

技術審査証明 A-2、B-2仕様対応

密着仕様・例

PXM-035

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8kg/m²

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ストライプZ
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ストライプZ
工程 3	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

平面部

1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
2	強力ライズ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
5	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

立上り部

PV-035

工程 I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
III	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
IV	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²

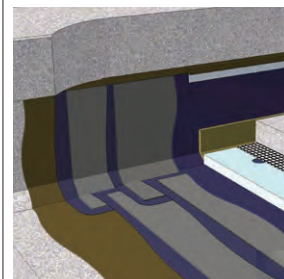
立上り部

PV-030

工程 I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
II	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
III	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
IV	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²

立上り部

PV-035 左仕様表参照



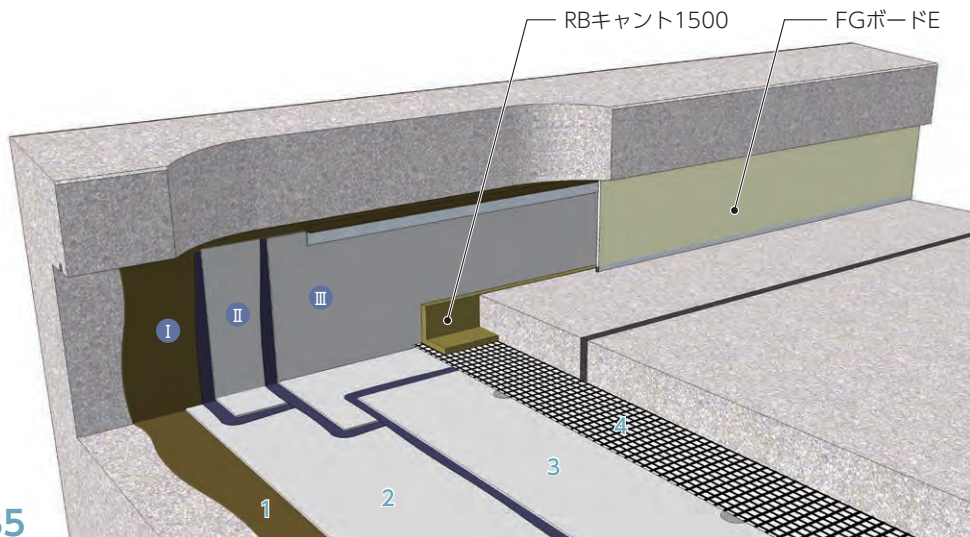
【注意】
密着仕様の場合、
立上り部と平面部
の施工順番が左図
に変わります。

*立上り工程IIの強力アドバンの代わりにFV-50も使用できます。

*PX-030も密着仕様に変更可能です▶平面部工程2を「強力ライズ」に変更(仕様番号:PXM-030)

*絶縁クロス 1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。



JPX-035
(JVP-035)



ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

JPX-035

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：5.5kg/m²

基本耐用年数：30年

技術審査証明 A-1、B-1仕様対応

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフ
	3	強力バンクベスト
	4	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)

立上り部		JPV-035
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力バンクベストV
	III	強力バンクベストV

密着仕様

JPXM-035

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：5kg/m²

基本耐用年数：30年

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフV
	3	強力バンクベスト
	4	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)

立上り部		JPV-035 左仕様表参照
------	--	----------------

*絶縁クロス 1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

*BANKS工法の立上り部は他のバリエーションもあります。詳細は別冊「BANKS工法」カタログをご参照ください。

露出仕上げ | 断熱 |

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

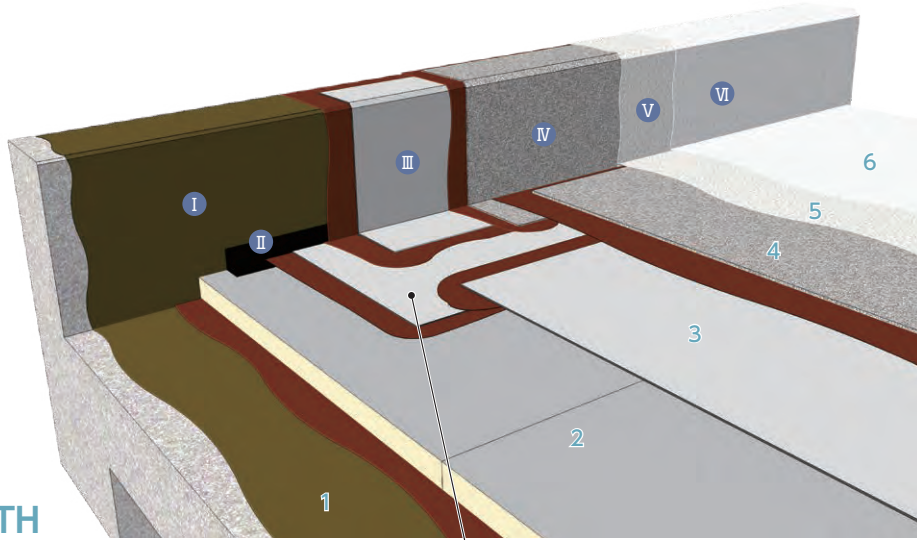
保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上
断熱FRAT仕上
非断熱保護シート
断熱保護シート
非断熱露出仕上
断熱露出仕上
非断熱狭小廻り
架台廻り屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



HSX-025G・TH
(HSV-025G・TH)



強力プライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HSX-025G・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：12.5kg/m²

基本耐用年数：25年

技術審査証明 DI-1、2仕様対応

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²
3	強力ストライプZ	
4	強力ガムフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
5 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.6kg/m ²
6 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.6kg/m ²

※強力ストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強力プライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

※ギルフォーム貼付けには、クールボンド(0.35kg/m²)も使用可能です(水性プライマーAS不要)

※平面部HSX-025G・TH、HSX-025GF・THそれぞれに対し、立上り部はHSV-025G・TH、HSV-025GT・THのいずれも対応できます。目的・状況に応じて選択してください。

HSX-025GF・TH 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：15.5kg/m²

基本耐用年数：25年

平面部

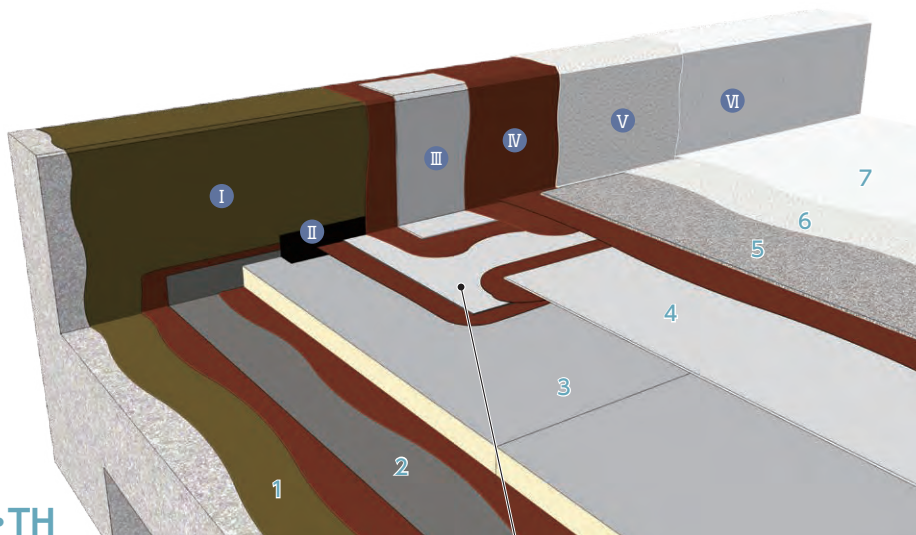
工程	内容	重量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	アスファルトルーフィング プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
3	ギルフォーム プライムタイト貼り	1.5kg/m ²
4	強力ストライプZ	
5	強力ガムフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
6 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.6kg/m ²
7 保護塗料	SPサーモコート	0.4～0.6kg/m ²

※立上りは断熱材厚み+約10mmまでアスファルトルーフィングを立ち上げます。

※強力ストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強力プライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

※アスファルトルーフィングに替えて、ダンパーシートも使用できます。

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



HSX-025GF・TH
(HSV-025GT・TH)



強力プライムルーフ

立上り部		HSV-025G・TH	砂付仕上げ
工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	バリテープH (断熱材設置後、入隅部)	
	III	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	IV	強力ガムフェース プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	V 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²
	VI 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²

※工程IIのバリテープHは、ギルキヤントに替えることができます。
 ※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。
 ※工程IIIに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

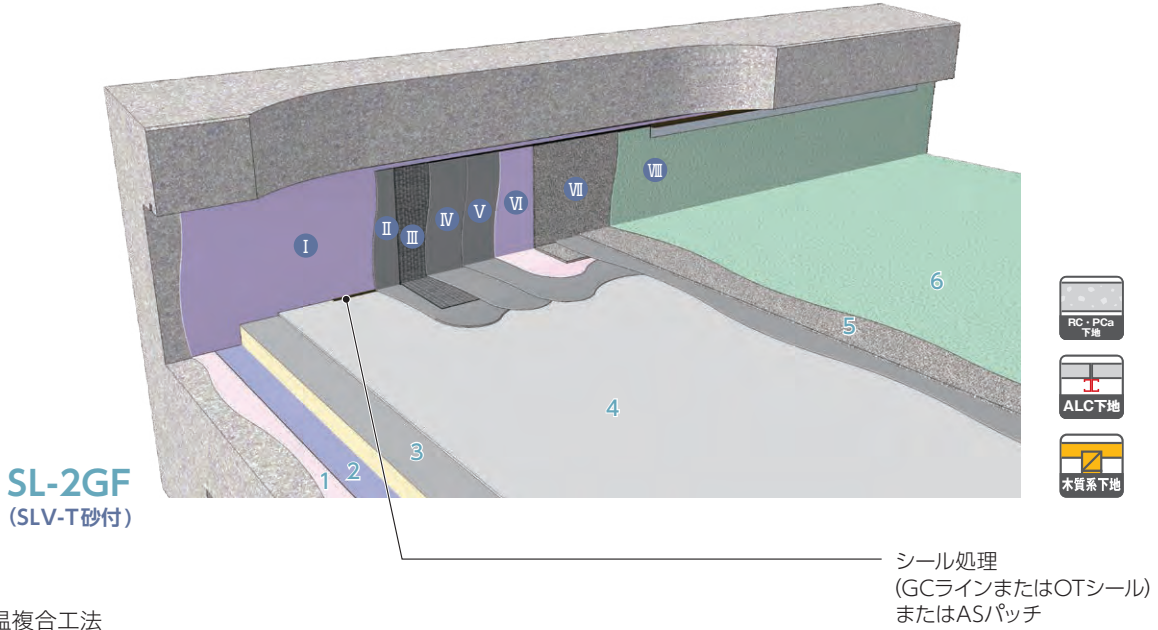
立上り部		HSV-025GT・TH	塗膜仕上げ
工程	I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
	II	バリテープH (断熱材設置後、入隅部)	
	III	強力プライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
	IV	プライムタイト	1.5kg/m ²
	V 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²
	VI 保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg/m ²

※工程IIのバリテープHは、ギルキヤントに替えることができます。
 ※防水層端末を押え金物+GCライン処理で納めることもできます。
 ※工程III・IVに替えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

【改修工事への対応】

77・78ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。
 ※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

露出仕上げ | 断熱 |



改質アス常温複合法

レイヤオール工法

SL-2Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：9.5kg/m²
技術審査証明 DI-1、2仕様対応

SL-2GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：10kg/m²
技術審査証明 DI-1、2仕様対応

平面部

工程	1 平面部				
	1	ギルフォーム フルボンド点貼り 0.35kg/m ²			
2	強力アンダーFS				
3	レイヤキャップ オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²				
4	SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 [※]	
	仕様番号	SL-2G・TH	SL-2G・SF	SL-2G・SD	SL-2G・SC

※堆積物が予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)

※平面部SL-2G、SL-2GFに対し、立上り部はSLV-T、SLV-T砂付、SLV-1BT、SLV-1BT砂付のいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。

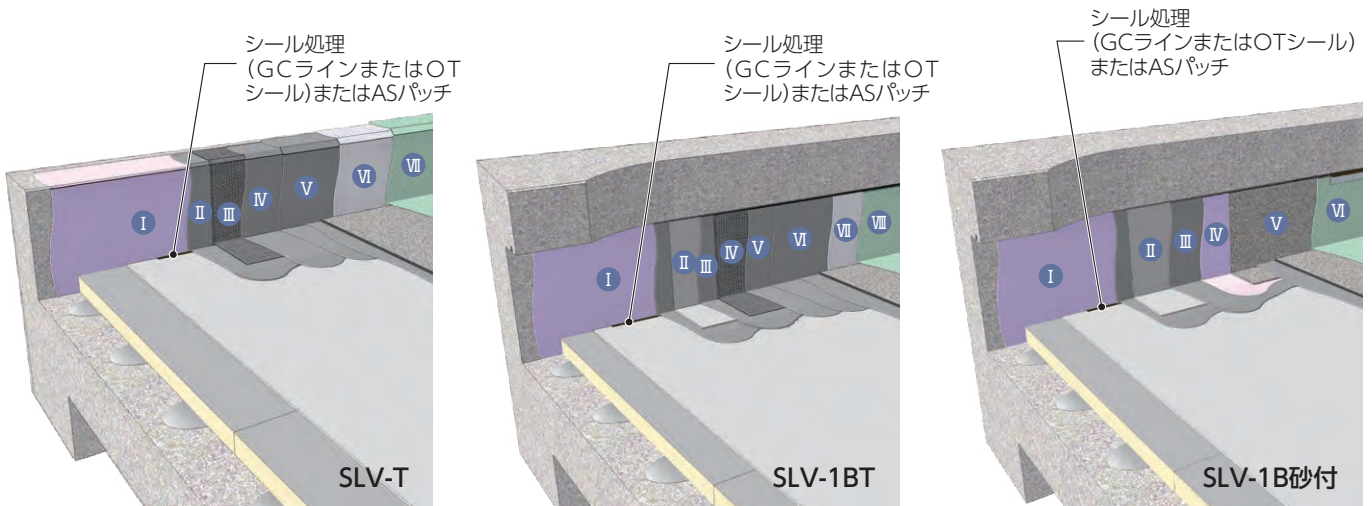
平面部

工程	1 平面部				
	1	水性プライマーL 0.2kg/m ² ^{※1}			
2	ダンパーシート				
3	ギルフォーム				
4	強力アンダーFS				
5	レイヤキャップ オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²				
6	SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 ^{※2}	
	仕様番号	SL-2GF・TH	SL-2GF・SF	SL-2GF・SD	SL-2GF・SC

※1 水性プライマーLを水性プライマーAS(0.2kg/m²)に替えることができます。
※2 堆積物が予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)

各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

立上り部 オプション



SLV-T 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg		
	VII 保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg/m ²	SPファイン カラー 0.15~0.3kg/m ²	SPミッド カラー 0.2~0.3kg/m ²

SLV-1BT 塗膜仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	IV	マットFC II		
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VI	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	VII 保護塗料	SPベース 0.45kg		
	VIII 保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg/m ²	SPファイン カラー 0.15~0.3kg/m ²	SPミッド カラー 0.2~0.3kg/m ²

SLV-T砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²			
	II	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²			
	III	マットFC II			
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²			
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²			
	VI	水性プライマーL 0.15kg/m ²			
	VII	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	VIII 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)	SPファイン カラー 0.4~0.6kg/m ²	SPミッド カラー 0.5~0.7kg/m ²	SPクリーン カラー 0.5~0.6kg/m ²

SLV-1B砂付 砂付仕上げ

工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²		
	II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²		
	III	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²		
	IV	水性プライマーL 0.15kg/m ²		
	V	新強力エコフィットC (端部GCライン)		
	VI 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg/m ² (2回塗り計)	SPファイン カラー 0.4~0.6kg/m ²	SPミッド カラー 0.5~0.7kg/m ²

※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端末金物が必要です。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

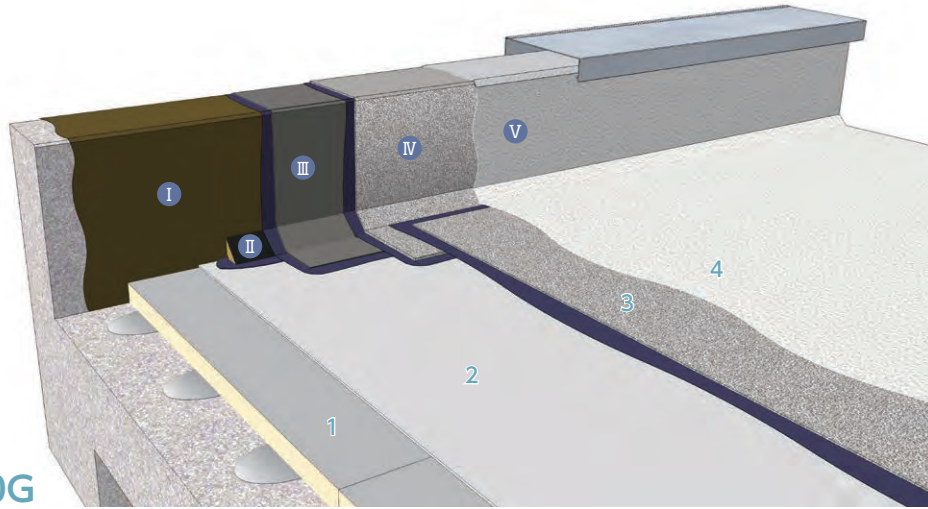
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

露出仕上げ | 断熱 |



SX-020G
(SV-020)



冷熱併用工法

ストライプ工法

SX-020Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：10kg/m²

基本耐用年数：20年

技術審査証明 DI-1仕様対応

SX-020GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：11kg/m²

基本耐用年数：20年

平面部

工程	1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²			
	2	強カストライプZ			
	3	強カガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	4	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SX-020G・TH	SX-020G・SF	SX-020G・SD	SX-020G・SC	

立上り部

SV-020

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)			
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	IV	強カガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	V	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SV-020・TH	SV-020・SF	SV-020・SD	SV-020・SC	

※立上り工程II ギルキャントに替えて、ASパッチも使用できます。

※立上り工程II～IIIをVベース1000または強カアンダーFに替えることもできます。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	ダンパーシート			
	3	ギルフォーム			
	4	強カストライプZ			
	5	強カガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	6	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SX-020GF・TH	SX-020GF・SF	SX-020GF・SD	SX-020GF・SC	

※ダンパーシートに替えてフリースベストを使用することもできます。
(アスタイトM点貼り 0.6kg/m²)

立上り部

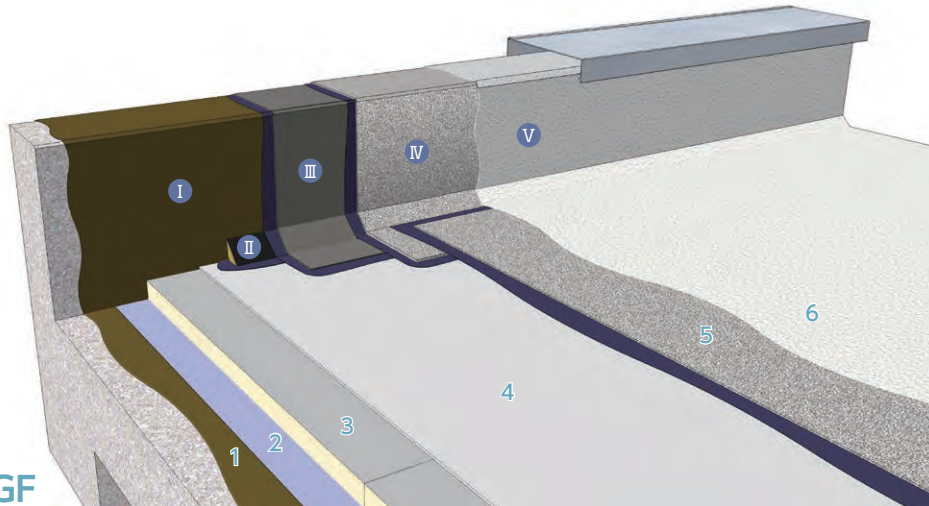
SV-020 左仕様表参照

保護塗料塗布量 (kg/m²)

SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 ----- 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

SX-015GF (SV-015)



冷熱併用工法

ストライプ工法

SX-015Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：10kg/m²

基本耐用年数：15年

技術審査証明 DI-2仕様対応

平面部				
工程	1	ギルフォーム フールボンド点貼り 0.35kg/m ²		
	2	強カストライプZ		
	3	強力ハイキャップ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	4	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
仕様番号	SX-015G・TH	SX-015G・SF	SX-015G・SD	SX-015G・SC

立上り部 SV-015				
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)		
	III	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	IV	強力ハイキャップ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	V	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
仕様番号	SV-015・TH	SV-015・SF	SV-015・SD	SV-015・SC

※立上り工程IIギルキャントに替えて、ASパッチも使用できます。

※立上り工程II～IIIをVベース1000または強力アンダーFに替えることもできます。

SX-015GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：11kg/m²

基本耐用年数：15年

平面部				
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	2	ダンパーシート		
	3	ギルフォーム		
	4	強カストライプZ		
	5	強力ハイキャップ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²		
	6	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
仕様番号	SX-015GF・TH	SX-015GF・SF	SX-015GF・SD	SX-015GF・SC

※ダンパーシートに替えてフリースベストを使用することもできます。
(アスタイトM点貼り 0.6kg/m²)

立上り部 SV-015 左仕様表参照

保護塗料塗布量 (kg/m²)

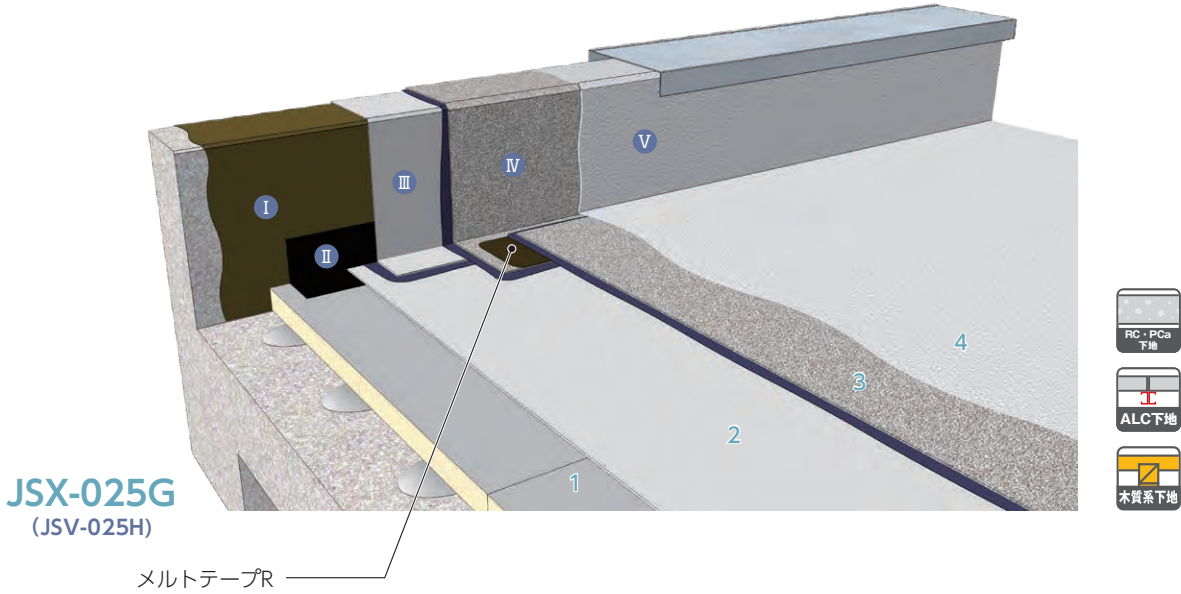
SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 - 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

【改修工事への対応】

81・82ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

露出仕上げ | 断熱 |



JSX-025G
(JSV-025H)

メルトテープR



ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

JSX-025Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：10kg/m²
基本耐用年数：25年

JSX-025GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：11kg/m²
基本耐用年数：25年

平面部

工程	1	ギルフォーム フールボンド点貼り 0.35kg/m ²			
	2	強カバンクルーフ			
	3	強カガムフェースEX			
	4 <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	JSX-025G・TH	JSX-025G・SF	JSX-025G・SD	JSX-025G・SC	

立上り部

JSV-025H

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	ASパッチ			
	III	強カバンクルーフV			
	IV	強カガムフェースEX-V			
	V <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	JSV-025H・TH	JSV-025H・SF	JSV-025H・SD	JSV-025H・SC	

※立上り部工程IIASパッチに替えて、バリテープHも使用できます。
※立上りを強カガムフェースEXで仕上げる場合は、入隅にギルキャントを使用します。
※立上り工程IIIを強カバンクベストVに替えることができます。その場合、工程IVは強カガムフェースEX-Vになります。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	ダンパーシート			
	3	ギルフォーム			
	4	強カバンクルーフ			
	5	強カガムフェースEX			
	6 <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	JSX-025GF・TH	JSX-025GF・SF	JSX-025GF・SD	JSX-025GF・SC	

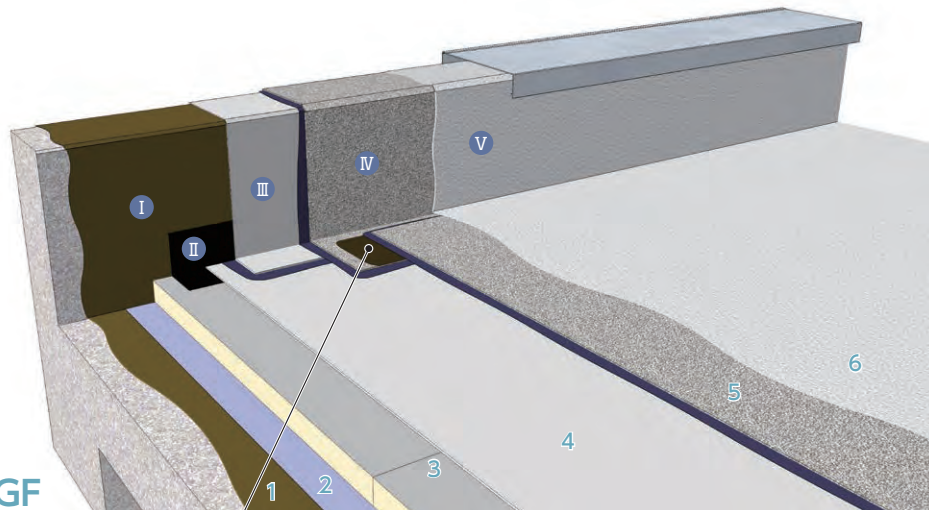
立上り部

JSV-025H 左仕様表参照

保護塗料塗布量 (kg/m²)

SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 ----- 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。



JSX-020GF
(JSV-020H)

マルチテープR

ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

JSX-020Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：10kg/m²

基本耐用年数：20年

技術審査証明 DI-1仕様対応

平面部				
工程	1	ギルフォーム フールボンド点貼り 0.35kg/m ²		
	2	強力バンクルーフ		
	3	強力ガムフェース		
	4 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
仕様番号	JSX-020G・TH	JSX-020G・SF	JSX-020G・SD	JSX-020G・SC

立上り部				
JSV-020H				
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	II	ASパッチ		
	III	強力バンクルーフV		
	IV	強力ガムフェースV		
	V 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー
仕様番号	JSV-020H・TH	JSV-020H・SF	JSV-020H・SD	JSV-020H・SC

※立上り部工程II ASパッチに替えて、バリテープHも使用できます。

※立上りを強力ガムフェースで仕上げる場合は、入隅にギルキャントを使用します。

※立上り部工程IIIを強力バンクベストVに替えることができます。その場合、工程IVは強力ガムフェースVになります。

JSX-020GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：10.5kg/m²

基本耐用年数：20年

平面部				
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²		
	2	ダンパーシート		
	3	ギルフォーム		
	4	強力バンクルーフ		
	5	強力ガムフェース		
6 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	JSX-020GF・TH	JSX-020GF・SF	JSX-020GF・SD	JSX-020GF・SC

立上り部 JSV-020H 左仕様表参照

保護塗料塗布量 (kg/m²)

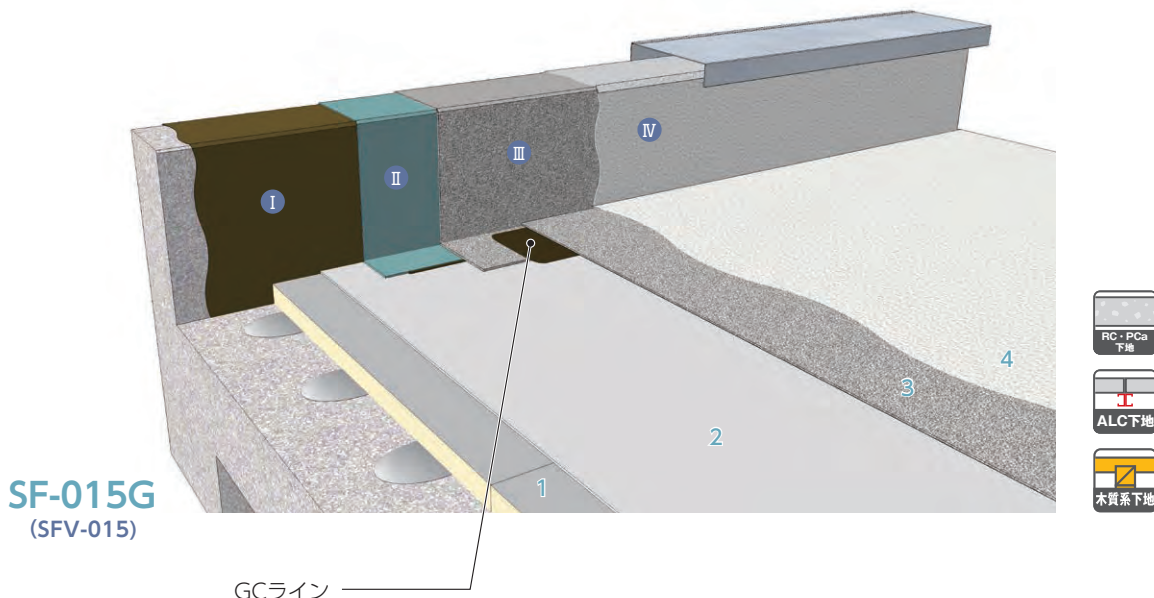
SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 --- 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

【改修工事への対応】

83・84ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

露出仕上げ | 断熱 |



冷工法

エコフィット工法

SF-015Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：8kg/m²
基本耐用年数：15年

SF-015GFシリーズ 防湿層あり

適正勾配：1/50～1/20
重量目安(断熱材50mm)：9kg/m²
基本耐用年数：15年

平面部

工程	1	ギルフォーム フルボンド点貼り 0.35kg/m ²			
	2	強力アンダーFS			
	3	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	4 <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		SF-015G・TH	SF-015G・SF	SF-015G・SD	SF-015G・SC

立上り部

SFV-015

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	強力アンダーF			
	III	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	IV <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		SFV-015・TH	SFV-015・SF	SFV-015・SD	SFV-015・SC

※立上り強力アンダーFをVベース1000に替えることができます。

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	ダンパーシート			
	3	ギルフォーム			
	4	強力アンダーFS			
	5	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	6 <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		SF-015GF・TH	SF-015GF・SF	SF-015GF・SD	SF-015GF・SC

立上り部

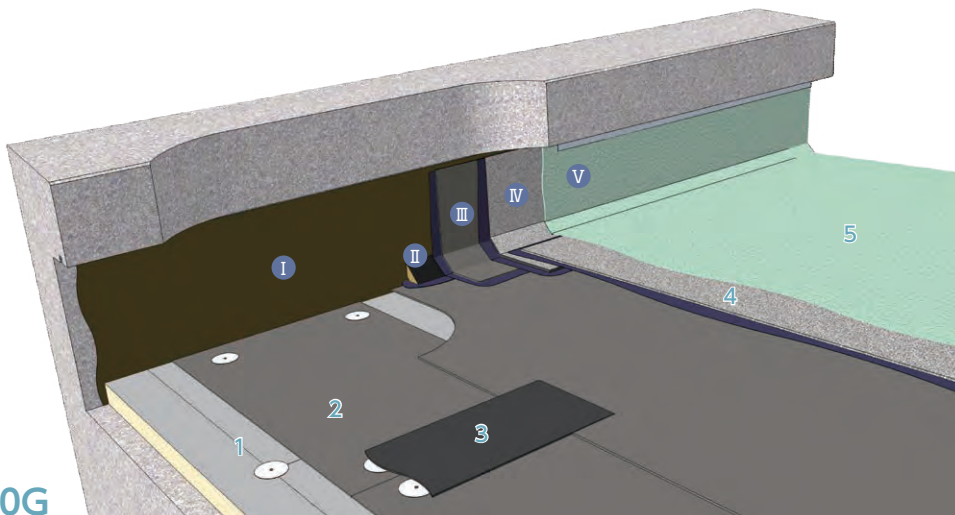
SFV-015 左仕様表参照

保護塗料塗布量 (kg/m²)

SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 ----- 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項・要求される断熱性能などについて、33～36ページを必ずご覧ください。

SAP-020G (SAPV-020)



機械的固定工法

アスポット工法

SAP-020Gシリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：11kg/m²

基本耐用年数：20年

平面部

工程	保護塗料			
	仕様番号			
1	ギルフォームW ASディスク・UPアンカー 目地交点留め			
2	強力アスポットB ASディスク・UPアンカー*			
3	ASパッチ			
4	強力ガムフェースEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
5	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
	仕様番号	SAP-020G・TH	SAP-020G・SF	SAP-020G・SD SAP-020G・SC

立上り部

SAPV-020

工程	保護塗料			
	仕様番号			
I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
II	ギルキャント(アスタイトM貼り)			
III	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
IV	強力ガムフェースEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
V	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
	仕様番号	SAPV-020・TH	SAPV-020・SF	SAPV-020・SD SAPV-020・SC

※立上り工程IIのギルキャントは、ASパッチに替えることができます。
 ※立上り工程II・IIIをVベース1000または強力アンダーFに替えることができます。

※事前に必ずアンカーの引抜強度確認試験を行なってください。固定数については、別冊施工基準書をご覧ください。

保護塗料塗布量(kg/m²)

SPサーモコート 0.8~1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4~0.6	SPミッドカラー 0.5~0.7	SPクリーンカラー 0.5~0.6 --- 堆積物が 予測される部位 0.7~0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

【改修工事への対応】

85・86ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125~127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

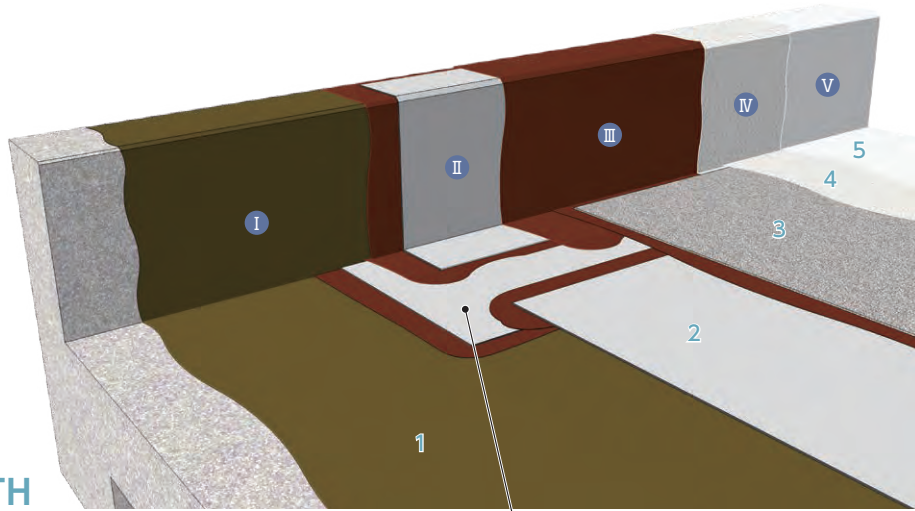
狭隙・複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

露出仕上げ | 非断熱



HSX-025・TH
(HSV-025T・TH)



強力プライムルーフ

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HSX-025・TH

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：9kg/m²

基本耐用年数：25年

技術審査証明 D-1、2、3、4仕様対応

平面部

工程	1	2	3	4	5
	水性プライマーAS	強力ストライプZ	強力ガムフェース	SPサーモコート	SPサーモコート
	0.2kg/m ²		プライムタイト流し貼り	0.4～0.6kg/m ²	0.4～0.6kg/m ²
			1.2kg/m ²		

※強力ストライプZは入隅部から400mm控え、全周部500mmは強力プライムルーフをプライムタイト流し貼り1.2kg/m²とします。

立上り部

HSV-025・TH 砂付仕上げ

工程	I	II	III	IV	V
	水性プライマーAS	強力プライムルーフ	強力ガムフェース	SPサーモコート	SPサーモコート
	0.2kg/m ²	プライムタイト流し貼り	プライムタイト流し貼り	0.4～0.6kg/m ²	0.4～0.6kg/m ²
		1.2kg/m ²	1.2kg/m ²		

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※立上り工程IIに代えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。

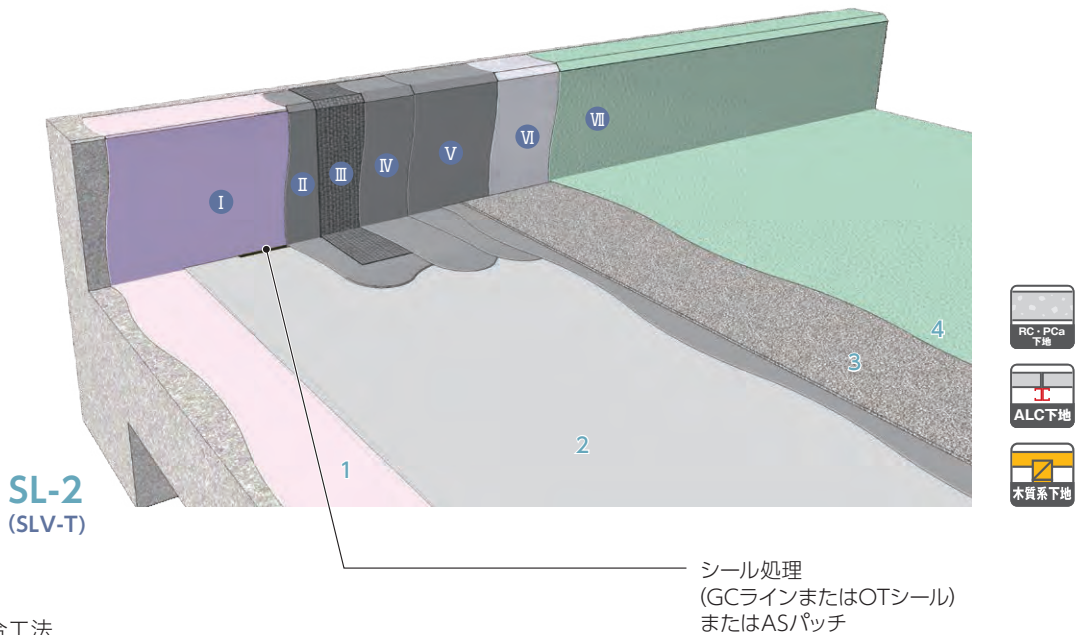
立上り部

HSV-025T・TH 塗膜仕上げ

工程	I	II	III	IV	V
	水性プライマーAS	強力プライムルーフ	プライムタイト	SPサーモコート	SPサーモコート
	0.2kg/m ²	プライムタイト流し貼り	1.5kg/m ²	0.4～0.6kg/m ²	0.4～0.6kg/m ²
		1.2kg/m ²			

※防水層端末を押し金物+GCライン処理で納めることもできます。
※立上り工程II・IIIに代えて、プライムタイト1.0kg/m²+テトロメッシュ2号+プライムタイト1.0kg/m²+プライムタイト1.0kg/m²とすることができます。ただし挙動が想定される鉄骨造などの場合、立上り入隅部に強力プライムルーフまたはASパッチを増貼りしてください。

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。



改質アス常温複合法

レイヤオール工法

SL-2シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：7kg/㎡

技術審査証明 D-1、2、3、4仕様対応

シール処理
(GCラインまたはOTシール)
またはASパッチ

平面部				
工程	1	水性プライマーL 0.2kg/㎡		
	2	強力アンダーFS		
	3	レイヤキャップ オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/㎡		
	4 保護塗料	SPサーモコート 0.8～1.2kg/㎡ (2回塗り計)	SPファイン カラー 0.4～0.6kg/㎡	SPミッド カラー 0.5～0.7kg/㎡
仕様番号	SL-2・TH	SL-2・SF	SL-2・SD	SL-2・SC

※堆積物が予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)

※平面部SL-2に対し、立上り部はSLV-T、SLV-T砂付、SLV-1BT、SLV-1B砂付のいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。SLV-1BT、SLV-1B砂付については、80ページをご覧ください。

立上り部				SLV-T 塗膜仕上げ
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/㎡		保護コンクリート
	II	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/㎡		
	III	マットFC II		
	IV	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/㎡		
	V	オールコート立上り用 1.2～1.3kg/㎡		
	VI 保護塗料	SPベース 0.45kg/㎡		
	VII 保護塗料	SPサーモコート 0.4～0.6kg/㎡	SPファインカラー 0.15～0.3kg/㎡	

SLV-T砂付 砂付仕上げ ※工程VまではSLV-Tに同じ				
工程	VI	水性プライマーL 0.15kg/㎡		
	VII	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
	VIII 保護塗料	SPサーモコート 0.8～1.2kg/㎡ (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6kg/㎡	SPミッドカラー 0.5～0.7kg/㎡

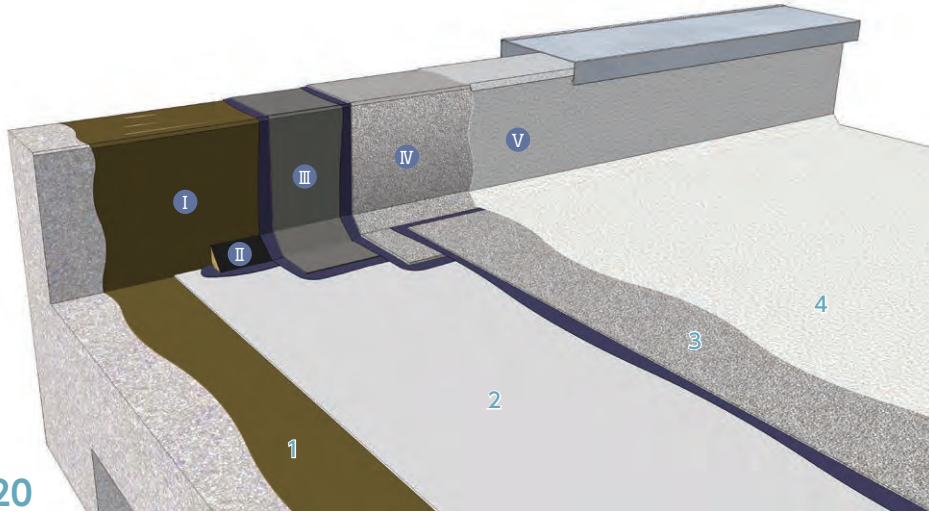
※砂付仕上げの場合、立上り部防水層端末金物が必要です。

【改修工事への対応】

87・88ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

露出仕上げ | 非断熱 |



SX-020
(SV-020)



冷熱併用工法

ストライプ工法

SX-020シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：8kg/m²

基本耐用年数：25年

技術審査証明 D-1仕様対応

SX-015シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：8kg/m²

基本耐用年数：20年

技術審査証明 D-2仕様対応

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	強カストライプZ			
	3	強カガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	4 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SX-020・TH	SX-020・SF	SX-020・SD	SX-020・SC	

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	強カストライプZ			
	3	強カハイキャップ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	4 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SX-015・TH	SX-015・SF	SX-015・SD	SX-015・SC	

立上り部

SV-020

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)			
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	IV	強カガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	V 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SV-020・TH	SV-020・SF	SV-020・SD	SV-020・SC	

立上り部

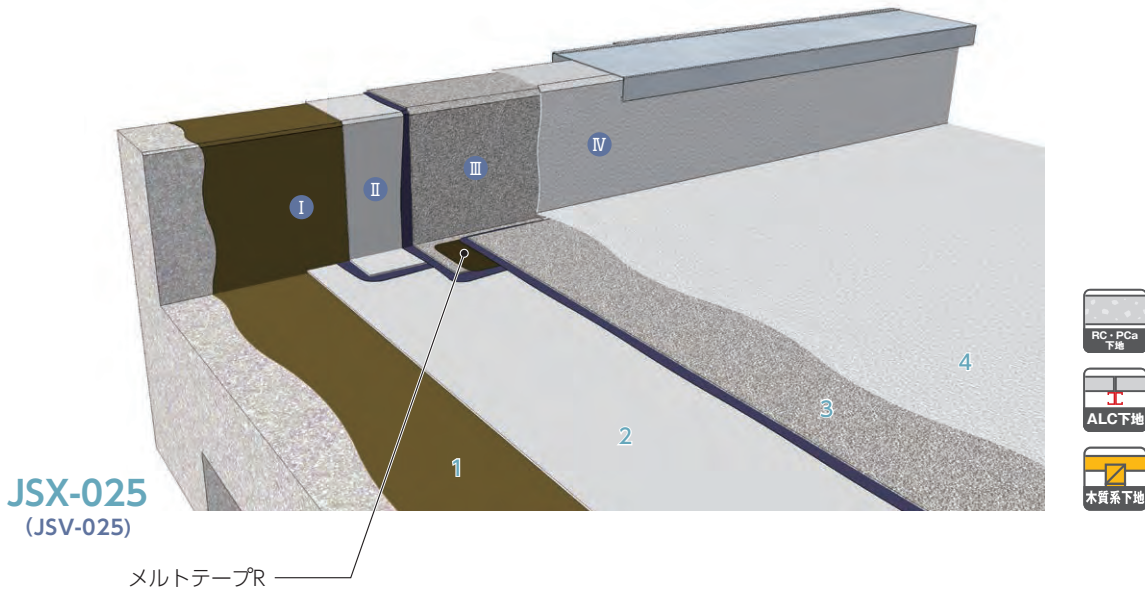
SV-015

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)			
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	IV	強カハイキャップ アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	V 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SV-015・TH	SV-015・SF	SV-015・SD	SV-015・SC	

※立上り工程IIのギルキャントは、省略することができます。

※立上り工程II・IIIをVベース1000または強カアンダーFに替えることができます。

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項などについて、34～36ページを必ずご覧ください。



JSX-025
(JSV-025)

メルトテープR

ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法

JSX-025シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：8kg/m²

基本耐用年数：30年

平面部					
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	強力バンクルーフ			
	3	強力ガムフェースEX			
	4 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		JSX-025・TH	JSX-025・SF	JSX-025・SD	JSX-025・SC

立上り部				
------	--	--	--	--

JSV-025

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	強力バンクルーフV			
	III	強力ガムフェースEX-V			
	IV 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		JSV-025・TH	JSV-025・SF	JSV-025・SD	JSV-025・SC

※立上りを強力ガムフェースEX(JSV-025)、または強力ガムフェース(JSV-020)で仕上げる場合は、入隅にギルクヤントを使用します。

※立上り部工程II強力バンクルーフVを強力バンクベストVIに替えることができます。その場合、工程IIIは強力ガムフェースEX-V(JSV-025)、または強力ガムフェースV(JSV-020)になります。

JSX-020シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：7.5kg/m²

基本耐用年数：25年

技術審査証明 D-1仕様対応

平面部					
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	強力バンクルーフ			
	3	強力ガムフェース			
	4 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		JSX-020・TH	JSX-020・SF	JSX-020・SD	JSX-020・SC

立上り部				
------	--	--	--	--

JSV-020

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	強力バンクルーフV			
	III	強力ガムフェースV			
	IV 保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号		JSV-020・TH	JSV-020・SF	JSV-020・SD	JSV-020・SC

ストライプ工法、BANKS工法 保護塗料塗布量 (kg/m²)

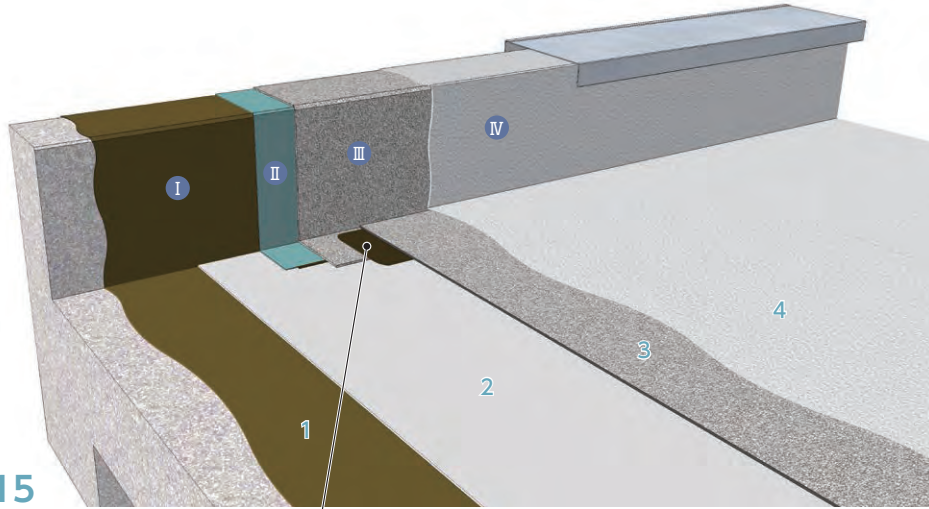
SPサーモコート 0.8~1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4~0.6	SPミッドカラー 0.5~0.7	SPクリーンカラー 0.5~0.6 ----- 堆積物が 予測される部位 0.7~0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

【改修工事への対応】

89・90ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

※既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

露出仕上げ | 非断熱 |



SF-015
(SFV-015)

GCライン

冷工法

エコフィット工法

SF-015シリーズ

適正勾配：1/50～1/20
重量目安：6kg/m²
基本耐用年数：20年

平面部

工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	2	強力アンダーFS			
	3	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	4 <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SF-015・TH	SF-015・SF	SF-015・SD	SF-015・SC	

立上り部

SFV-015

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	強力アンダーF			
	III	新強力エコフィットC (端部GCライン)			
	IV <small>保護塗料</small>	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SFV-015・TH	SFV-015・SF	SFV-015・SD	SFV-015・SC	

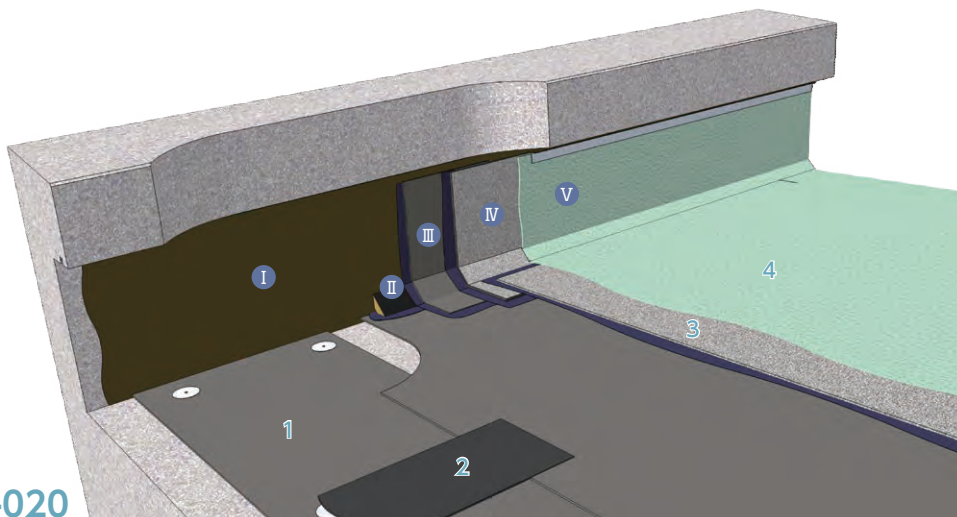
※立上り部工程II強力アンダーFをVベース1000に替えることができます。

保護塗料塗布量 (kg/m²)

SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6
			SPクリーンカラー 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)

保護塗料塗布による耐用年数加算や、各仕様の注意事項などについて、34～36ページを必ずご覧ください。

SAP-020 (SAPV-020)



機械的固定工法

アスポット工法

SAP-020シリーズ

適正勾配：1/50～1/20

重量目安：9kg/m²

基本耐用年数：25年

平面部

工程	1 強力アスポットB ASディスク・UPアンカー*				
	2	ASパッチ			
3	強力ガムフェースEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²				
4	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー	
仕様番号	SAP-020・TH	SAP-020・SF	SAP-020・SD	SAP-020・SC	

立上り部

SAPV-020

工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²			
	II	ギルキャント(アスタイトM貼り)			
	III	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	IV	強力ガムフェースEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²			
	V	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー
仕様番号	SAPV-020・TH	SAPV-020・SF	SAPV-020・SD	SAPV-020・SC	

*立上り工程IIのギルキャントは、省略することができます。

*立上り工程II・IIIをVベース1000または強力アンダーFに替えることができます。

※事前に必ずアンカーの引抜強度確認試験を行なってください。固定数については、別冊施工基準書をご覧ください。

保護塗料塗布量 (kg/m²)

SPサーモコート 0.8～1.2 (2回塗り計)	SPファインカラー 0.4～0.6	SPミッドカラー 0.5～0.7	SPクリーンカラー 0.5～0.6 - 堆積物が 予測される部位 0.7～0.8 (2回塗り計)
--------------------------------	----------------------	---------------------	--

【改修工事への対応】

91・92ページの工法は改修工事にも対応。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げについては125～127ページをご覧ください。

*既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

狭隙・複雑部位
架台廻り

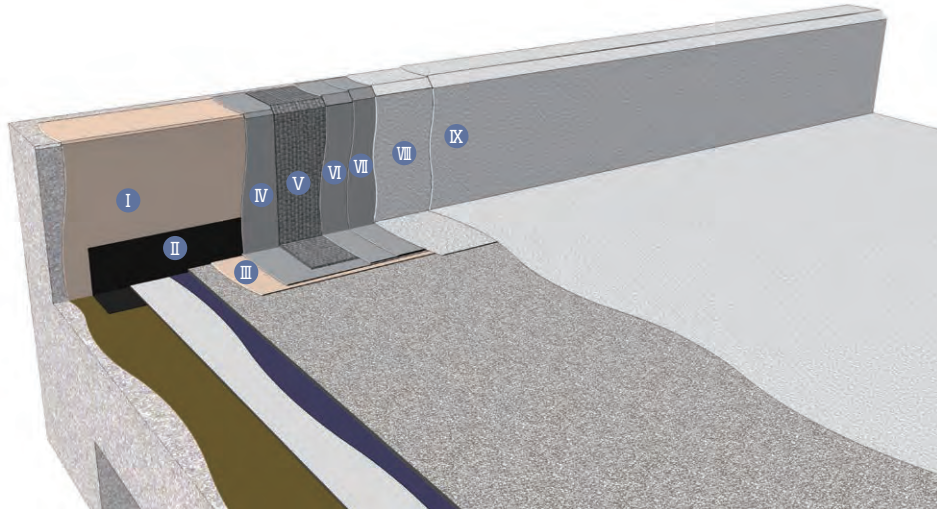
屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

狭隘部・複雑部位・架台廻り等 一立上り塗膜仕上げ

立上り・架台や配管回りなど、ルーフィングでは納めづらい部位をレイヤオール工法を併用して対応することができます。平面部プライマス工法、ストライプ工法、BANKS工法、エコフィット工法、アスポット工法との組み合わせが可能です。



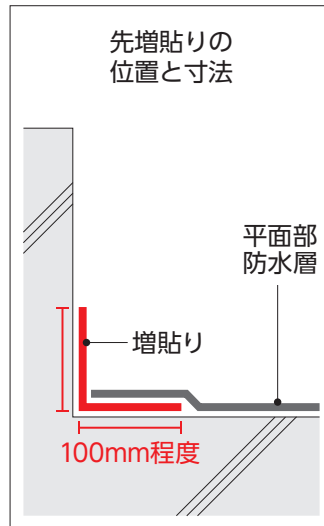
改質アス常温複合法

レイヤオール工法

SLV-F 先増貼り

立上り部

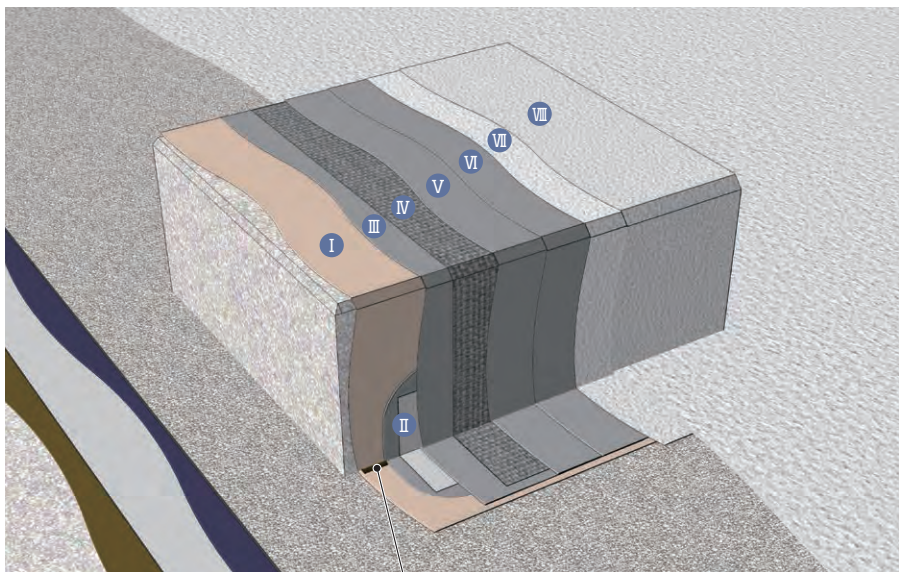
工程	I	OTプライマーA 0.2kg/m ²				
	II	増貼り AS/パッチ				
	-	平面部防水層施工				
	III	OTプライマーA (平面取合い部) 0.2kg/m ²				
	IV	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	V	マットFC II				
	VI	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	VII	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	VIII	SPベース 0.45kg/m ²				
IX	保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー	
		0.4~0.6kg/m ²	0.15~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	
		仕様番号	SLV-F・TH	SLV-F・SF	SLV-F・SD	SLV-F・SC



※OTプライマーAの代わりに水性プライマーLを使用することはできません。

※立上りを2層にしたい場合はSLV-2仕様をご使用ください。

仕様選定表
仕上選定表
断熱材
保護塗料
注意事項
FRAT仕上非断熱
FRAT仕上非断熱
保護塗料
露出仕上非断熱
露出仕上非断熱
架台廻り
屋内仕様
駐車場仕様
耐根仕様



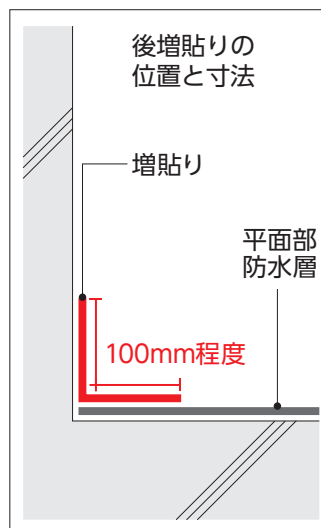
シール処理
(GCラインまたはOTシール)
またはAS/パッチ



後増貼り：工程VI終了状態

SLV-F 後増貼り

立上り部						
工程	-	平面部防水層施工				
	I	OTプライマー-A (平面取合い部含む)		0.2kg/m ²		
	II	増貼り(オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ² +レイヤベスト)				
	III	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	IV	マットFC II				
	V	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	VI	オールコート立上り用 1.2~1.3kg/m ²				
	VII	SPベース		0.45kg/m ²		
保護塗料	VIII	SPサーモコート	SPファインカラー	SPミッドカラー	SPクリーンカラー	
		0.4~0.6kg/m ²	0.15~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	0.2~0.3kg/m ²	
		仕様番号	SLV-F・TH	SLV-F・SF	SLV-F・SD	SLV-F・SC



※工程IIをオールコート立上り用(1.2~1.3kg/m²)+マットFCII+オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m²)に替えることができます。

※OTプライマー-Aの代わりに水性プライマー-Lを使用することはできません。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

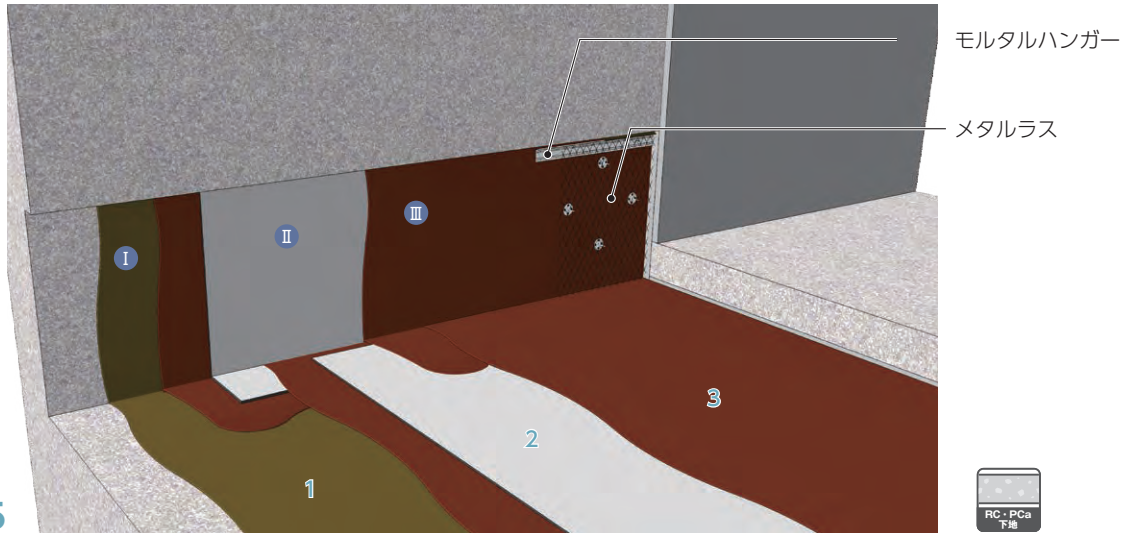
狭隙・複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

屋内仕様 | 非断熱 |



HID-025
(HIV-025A)

加熱型改質アス塗膜防水工法

プライムアス工法

HID-025

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：5kg/m²

技術審査証明 E-1、2仕様対応

平面部

工程	内容	材料量
1	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
2	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
3	プライムタイト刷毛塗り	1.5kg/m ²

立上り部

HIV-025A

工程	内容	材料量
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
II	強カプライムルーフ プライムタイト流し貼り	1.2kg/m ²
III	プライムタイト刷毛塗り	1.5kg/m ²

立上り部

HIV-025B 立上りが高い場合や複雑形状時

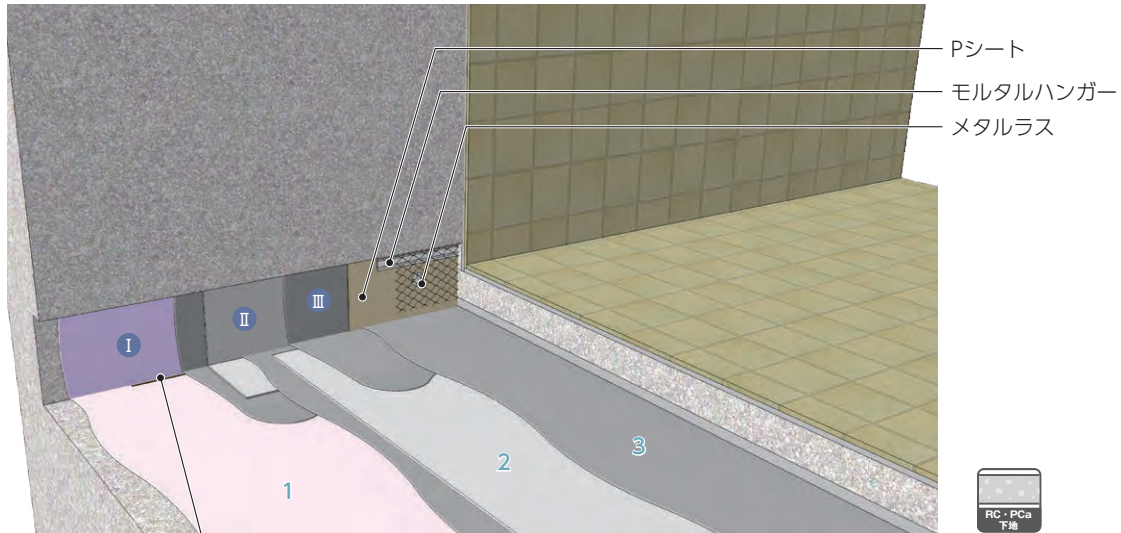
工程	内容	材料量
I	水性プライマーAS	0.2kg/m ²
II	プライムタイト	1.0kg/m ²
III	テトロメッシュ2号	
IV	プライムタイト	1.0kg/m ²
V	プライムタイト	1.0kg/m ²

※モルタルハンガー、メタルラス、の価格は別途となります。

保護モルタル工事の留意点 日本建築学会・建築工事標準仕様書(JASS8)より抜粋

モルタル割合 セメント:砂=1:3(容積比) とんぼ 防水層に200mm間隔程度で千鳥状に取付け ラス類 メタルラス(プラス2号)もしくは溶接金網
ラス類の立上り端部 防水層立上がり端部より100mm以上上部の位置で金物を用いて下地(躯体)に固定するか、防水層末端部の押え金物に固定する。

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。



IL-1 (ILV-1B)

シーリング処理
(GCラインまたはOTシーリング)
またはASパッチ

改質アス常温複合法

レイヤオール工法

IL-2

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：6kg/m²

平面部	
工程	1 水性プライマーL 0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2～1.3kg/m ²
4	オールコート 0.8kg/m ²

立上り部		ILV-2B 保護仕上げ
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
IV	オールコート立上り用	0.8kg/m ²

※工程IIを強力アンダーFに変更することができます。

立上り部		ILV-H 保護仕上げ
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²
II	オールコート立上り用	1.2～1.3kg/m ²
III	マットFCⅡ	
IV	オールコート立上り用	1.2～1.3kg/m ²
V	オールコート立上り用	1.2～1.3kg/m ²

※防水層端末金物は不要ですが、メタルラスを支持する金物「モルタルハンガー」は必要となります。

IL-1

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：3.5kg/m²

技術審査証明 E-1.2仕様対応

工程	1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	オールコート	0.8kg/m ²

立上り部		ILV-1B 保護仕上げ
工程	I	水性プライマーL 0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	オールコート立上り用	0.8kg/m ²

※動きが想定される下地(S造、ALC等)の場合は立上り隅部に増貼り(オールコート立上り用1.2～1.3kg/m²+レイヤベスト)が必須です。

- ILV-HはIL-2、IL-1のいずれにも対応します。
- 水性プライマーLをOTプライマーA(0.2kg/m²)に代えることができます。
- 立上り部を保護モルタル仕上げとする場合、最終工程に「Pシート」を追加してください。Pシート、モルタルハンガー、メタルラスの価格は別途となります。
- 入隅部は塗膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シーリング材(GCラインまたはOTシーリング) 約50cc/mまたはASパッチのいずれかを選定し、ご使用ください。
- モルタル打設前の塗膜層保護など、状況に応じて平面部防水施工後、絶縁シートを追加することがあります(価格別途)。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上
断熱

FRAT仕上
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

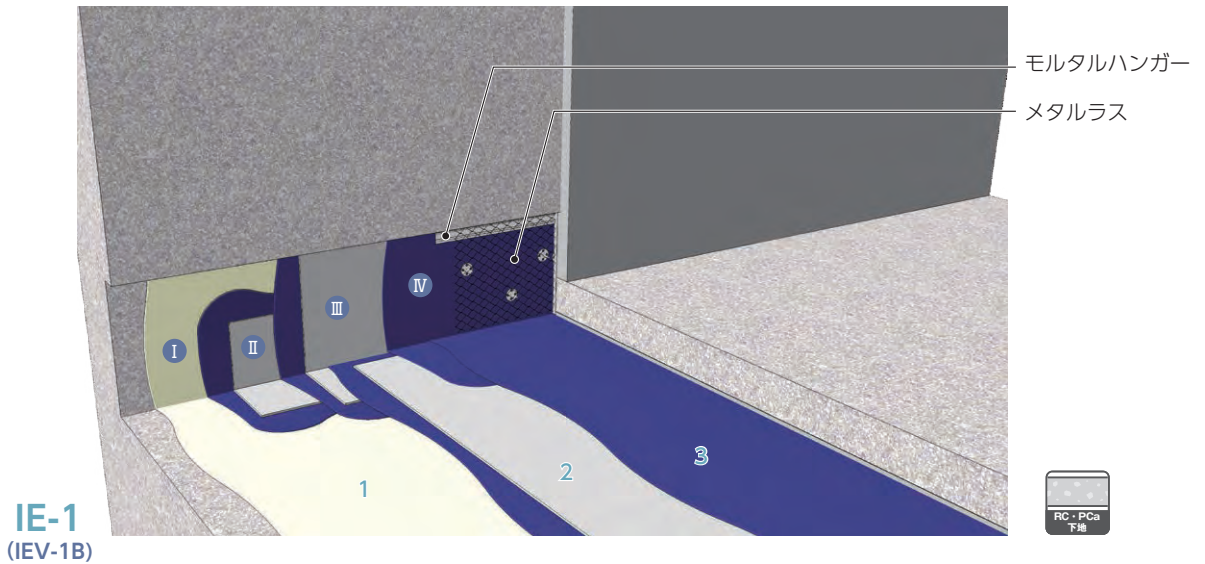
狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

屋内仕様 | 非断熱 |



IE-1
(IEV-1B)



改質アス常温複合法

アスレイヤ水性工法

IE-1

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：4.5kg/m²

技術審査証明 E-1、2仕様対応

平面部

工程	1	2	3
	水性プライマーC 5倍液 0.2kg/m ²	レイヤソフト レイヤコート水性・塗布貼付 1.5kg/m ²	レイヤコート水性 1.5kg/m ²

立上り部

IEV-1B

工程	I	II	III	IV
	水性プライマーC 5倍液 0.2kg/m ²	コーナー増貼り (レイヤコート水性立上り配合 1.5kg/m ² +レイヤソフト)	レイヤソフト レイヤコート水性立上り配合・塗布貼付 1.5kg/m ²	レイヤコート水性立上り配合 1.5kg/m ²

立上り部

IEV-1H 立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

工程	I	II	III	IV	V	VI
	水性プライマーC 5倍液 0.2kg/m ²	コーナー増貼り (レイヤコート水性立上り配合 1.5kg/m ² +レイヤソフト)	レイヤコート水性立上り配合 0.8kg/m ²	マットFC II	レイヤコート水性立上り配合 1.2kg/m ²	レイヤコート水性立上り配合 1.5kg/m ²

立上り部の材料を変更できます

IEV-1B 工程 II

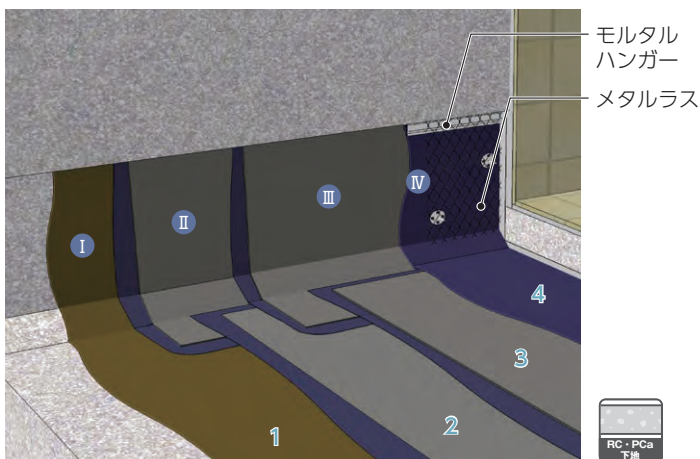
IEV-1H 工程 II

レイヤコート水性立上り配合0.8kg/m²+マットFC II +レイヤコート水性立上り配合1.2kg/m²に変更可能です。

※E-2仕様対応とする場合は、立上り工程IIを省略します(IEV-1B/IEV-1H)。

※モルタルハンガー、メタルラスの価格は別途になります。

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。



ID-020
(IV-020)

熱工法

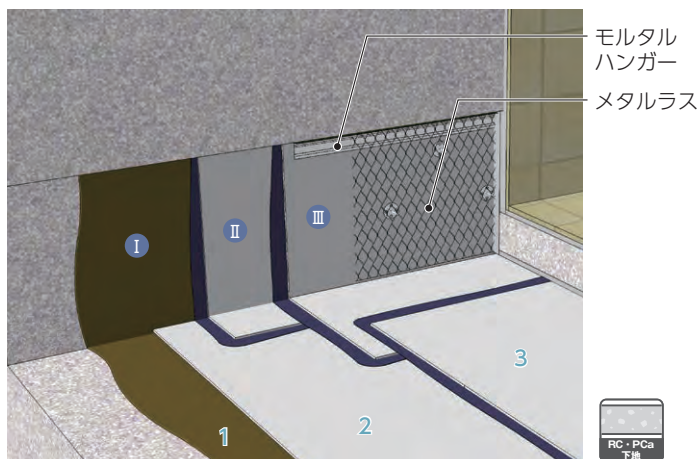
クリーン熱工法

ID-020

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8.5kg/m²

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.5kg/m ²
	3	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.5kg/m ²
	4	アスタイトM刷毛塗り 2.0kg/m ²

立上り部		IV-020
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.5kg/m ²
	III	強力ギル アスタイトM流し貼り 1.5kg/m ²
	IV	アスタイトM刷毛塗り 2.0kg/m ²



JID-025
(JIV-025)

ノンケトル冷熱併用法

BANKS工法

JID-025

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：5kg/m²
技術審査証明 E-2仕様対応

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強力バンクルーフV
	3	強力バンクベスト

立上り部		JIV-025
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強力バンクベストV
	III	強力バンクベストV

※モルタルハンガー、メタルラスの価格は別途になります。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

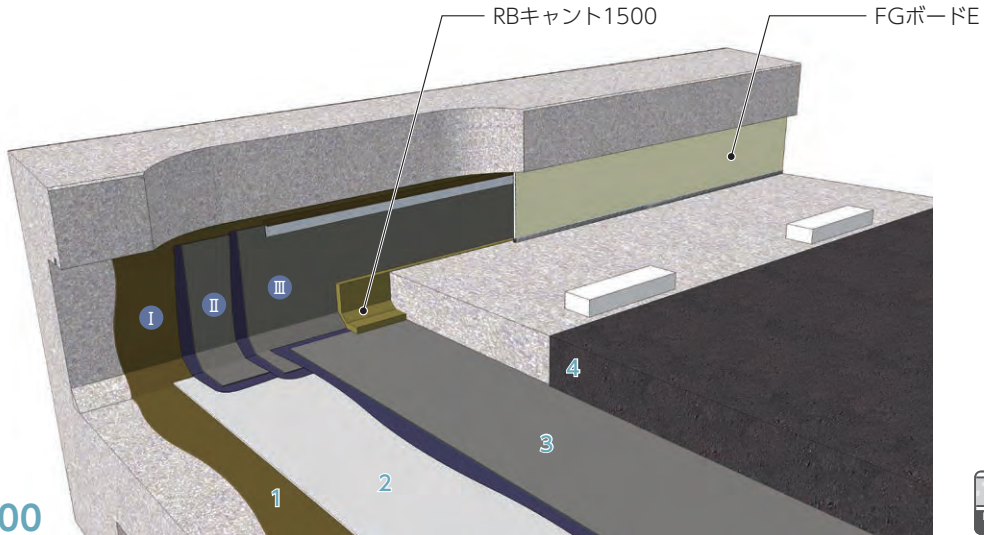
狭隙・複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

駐車場仕様 | 非断熱 | アスコン舗装仕上げ



PKX-0200
(PKV-0200)

冷熱併用工法

ストライプ工法

PKX-0200

適用部位：直下階が店舗・住居
適正勾配：1/100～1/50
重量目安：6.5kg/m²

熱工法

クリーン熱工法

PK-0150

適用部位：直下階が駐車場
適正勾配：1/100～1/50
重量目安：8kg/m²

PKM-0150

適用部位：地下駐車場などの簡易用途
適正勾配：1/100～1/50
重量目安：5kg/m²

平面部

工程	1	アスファルトプライマー-SS 0.2kg/m ²
	2	強力ストライプZ
	3	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	アスコン舗装(別途工事)

平面部

工程	1	アスファルトプライマー-SS 0.2kg/m ²
	2	フリースポット
	3	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.8kg/m ²
	4	アスコン舗装(別途工事)

平面部

工程	1	アスファルトプライマー-SS 0.2kg/m ²
	2	ガムトップ30 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	アスコン舗装(別途工事)

立上り部

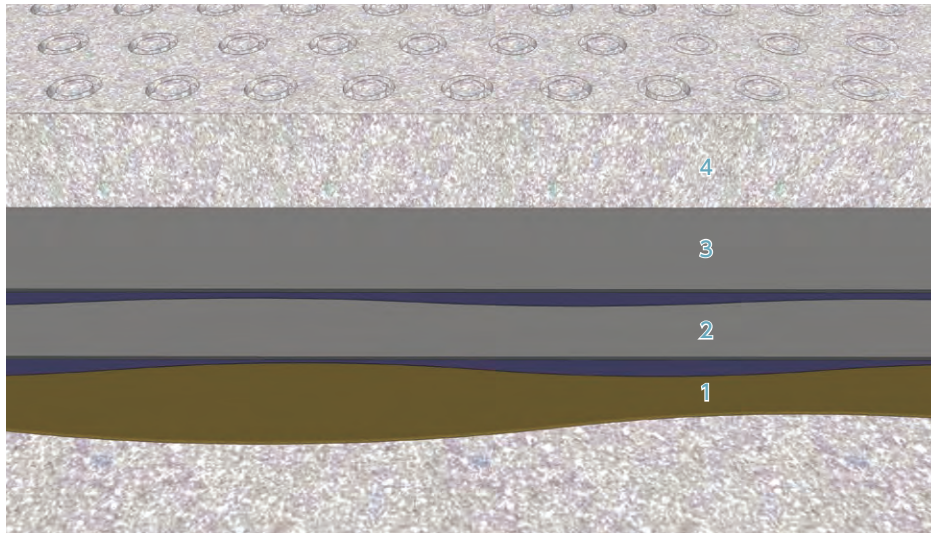
PKV-0200

工程	I	アスファルトプライマー-SS 0.2kg/m ²
	II	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	III	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²

立上り部

PKV-0200 左仕様表参照

各仕様の注意事項などについて、35～36ページを必ずご覧ください。



PKM-0200S



熱工法

クリーン熱工法

PKM-0200S

適用部位：スロープ
 適正勾配：1/100~1/6
 重量目安：9kg/m²

平面部		
工程	1	アスファルトプライマーSS 0.2kg/m ²
	2	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	ガムトップ25 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	4	真空コンクリート(別途工事)

PKM-0150S

適用部位：スロープ
 適正勾配：1/100~1/6
 重量目安：5kg/m²

平面部		
工程	1	アスファルトプライマーSS 0.2kg/m ²
	2	ガムトップ30 クリンタイトJ流し貼り 1.2kg/m ²
	3	真空コンクリート(別途工事)

駐車場防水設計上の留意点

- 1) **ストライプ工法・絶縁工法で通気システムをとる**
 下地の乾燥期間が標準でも、特に構造体がデッキプレートの場合の乾燥は望めません。また、アスコン工事は防水層がふくれの発生しやすい条件となるので、ストライプ工法・絶縁工法をおすすめします。
- 2) **室内、斜路の防水は密着貼りとします**
 地下駐車場など室内の場合は一般に密着工法とします。スロープも、ずれを防止するため密着貼りとします。真空コンクリートのずれは躯体及び真空コンクリートでの対応で防止してください。

- 3) **アスコンの厚さは、50mm 以上にしてください**
 アスコンが50mm未満では、ふくれを抑えにくく、亀裂も生じやすくなります。また、下地防水層の段差の影響が表面に出やすいなどの支障をきたします。
- 4) **立上り際は保護コンクリート打設が望ましい**
 立上り際までアスコン舗装を行うと、転圧や締め固めが不十分になりやすく、また注意しないと防水層を傷つけやすくなる場合があります。

- ・保護材のオプションとして、「パリスター」を使用する場合はご相談ください。
- ・コンクリート保護とする場合は、JPX・PXタイプの仕様からお選びください。
- ・ここで対象とするアスコンは日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS8(2014)」に記載されている一般的な密粒度アスファルト混合物並びに粗粒度アスファルト混合物とします。

(参考) 「駐車場法施行令第8条三八：傾斜部の縦断勾配は17%を超えないこと。」

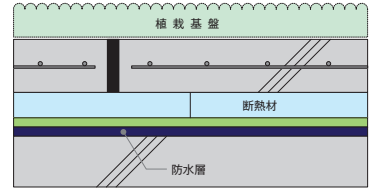
耐根仕様

屋上を緑化で仕上げる場合は、植物根の侵入を防ぐ「耐根層」を防水層の上に設けたのち、植栽工事を行うのが基本です。

■保護コンクリート仕上げの場合

防水層の上に耐根シートを貼付け、または耐根機能付きルーフィングを防水層最上層に施工した後、コンクリートを打設し、植栽を設けます。断熱材は耐根層の上に設置します。

●保護コンクリート仕上げ 断熱工法



■保護コンクリート+植栽の工程

仕様		耐根 D 仕様			耐根 E 仕様
工程	適用工法	プライマス工法 ストライプ工法	BANKS 工法	レイヤオール工法	ストライプ工法
1	防水層最上層	ルーフィング + 上掛けアスファルト	強力バンクベスト	オールコート	ルートガード EX ^{※2} (ラップ部：ルートガードテープ 200 貼り)
2	耐根層	ルートガード D ^{※1} (ラップ部：ルートガードテープ貼り)			
3	RB ボードまたはスタイロフォーム RB-GK- II ^{※3} (RB セメント等による点貼り ^{※4} 目地部：ルートガードテープ貼り)				
4	絶縁クロス (RB セメント等による点貼り ^{※4})				
5	保護コンクリート				
6	植栽基盤 (グリーンルーフシステム [G-wave] 等) + 人工軽量土壌 + 植栽				

※1：オールコート上の場合、OT プライマー A (0.15kg/m²) 塗布後貼付。

※2：各仕様最上層のルーフィングをルートガード EX に置き替えて施工。(ルートガード EX の施工は、アスタイト M、クリンタイト J 等による流し貼り。)

※3：非断熱の場合は、工程 3 を省略。 ※4：点貼りに使用する材料は、各工法のページを参照。

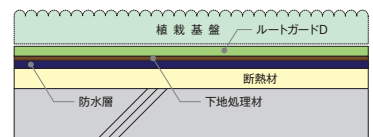
■露出仕上げの場合

仕上げルーフィング(砂付・フラットフェース)上に下地処理材を塗布し、耐根シートを貼付けた後、植栽システムを設けます。屋上面の一部を植栽にし、残りを露出仕上げとする場合、植栽周辺部に生じやすい汚れや堆積物に適した SP クリーンカラーで仕上げます。

■露出仕上げ+植栽の工程

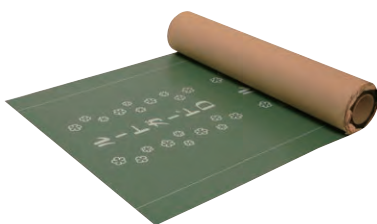
仕様		耐根 D 仕様			
工程	適用工法	プライマス工法 ストライプ工法 BANKS 工法	プライマス工法 ストライプ工法	レイヤオール工法	
1	防水層最上層	砂付ルーフィング	強力フラットフェース	強力フラット A	
2	下地処理材	リベース 1.2kg/m ²	SP ファインカラー 0.4~0.5kg/m ² + 水性プライマー AS 0.15kg/m ²	SP ファインカラー 0.2~0.3kg/m ² + 水性プライマー AS 0.15kg/m ²	
3	耐根層	ルートガード D (ラップ部：ルートガードテープ貼り)			
4	植栽基盤(グリーンルーフシステム [G-wave] 等) + 人工軽量土壌 + 植栽				

●露出仕上げ 断熱工法



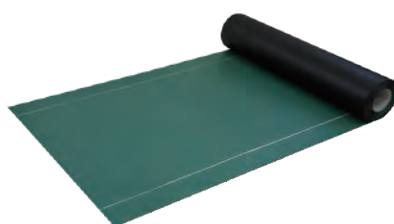
●ルートガード D

裏面に改質アスファルト系粘着層を設けた耐根シート。100mm幅で貼り重ねた上をルートガードテープで増し貼りする。



●ルートガード EX

表面が耐根フィルム仕上げの改質アスファルトルーフィング。100mm幅で貼り重ねた上をルートガードテープ 200 で増し貼りする。



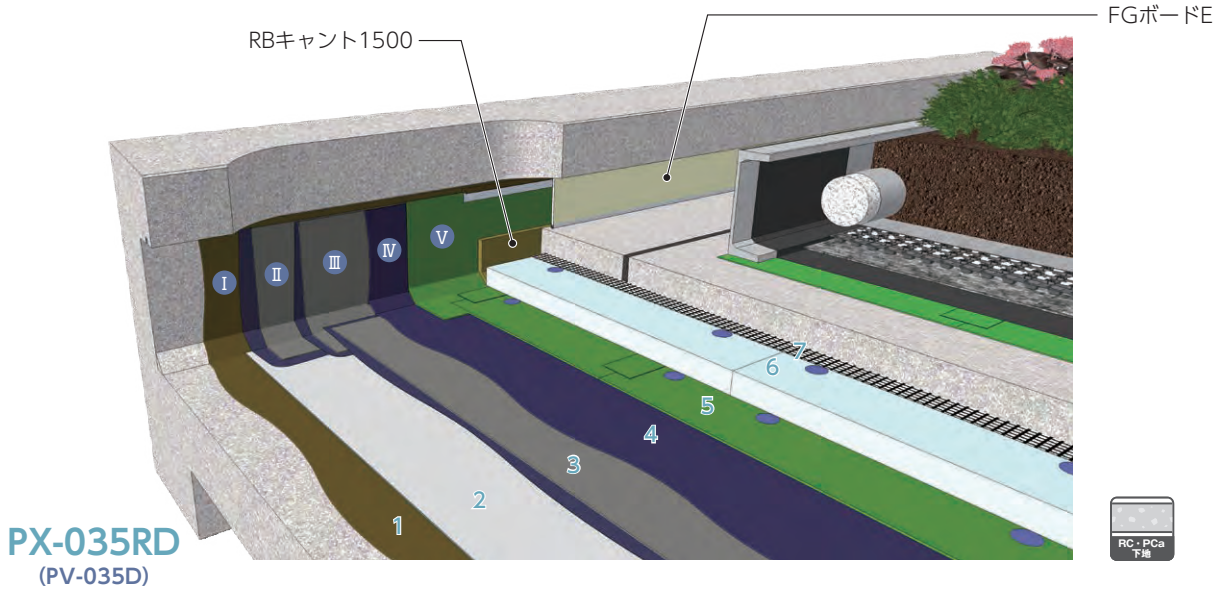
●ルートガードテープ

ルートガード D、EX のラップ部分の目地上に貼る増貼用耐根テープ。100mm幅と 200mm幅がある。



植栽基盤に関する詳細や注意事項等は別冊屋上緑化カタログ「G-WAVE」をご参照ください。

保護コンクリート耐根仕様例 | 断熱 |



冷熱併用工法

ストライプ工法

PX-035RD

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：11kg/m²（植栽含まず）

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ
	3	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
	4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
	5	ルートガードD(ラップ部：ルートガードテープ貼り)
	6	RBボード又はスタイロフォームRB-GK-II アスタイトM点貼り
	7	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

立上り部		PV-035D
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
	III	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
	IV	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
	V	ルートガードD(ラップ部：ルートガードテープ貼り)

非断熱は平面部工程6を省略。仕様番号:PX-035D。立上り部はPV-035Dに同じ。

*絶縁クロス1000点貼りには、ACボンドも使用可能です。

PX-035RE

適正勾配：1/100～1/50
重量目安：7.5kg/m²（植栽含まず）

平面部		
工程	1	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	2	強カストライプZ
	3	ルートガードEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ² (ラップ部:ルートガードテープ200貼り)
	4	RBボード又はスタイロフォームRB-GK-II アスタイトM点貼り
	5	絶縁クロス1000(アスタイトM点貼り*)

立上り部		PV-035E
工程	I	水性プライマーAS 0.2kg/m ²
	II	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
	III	ルートガードEX アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ² (ラップ部：ルートガードテープ200貼り)

非断熱は平面部工程4を省略。仕様番号:PX-035E。立上り部はPV-035Eに同じ。

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

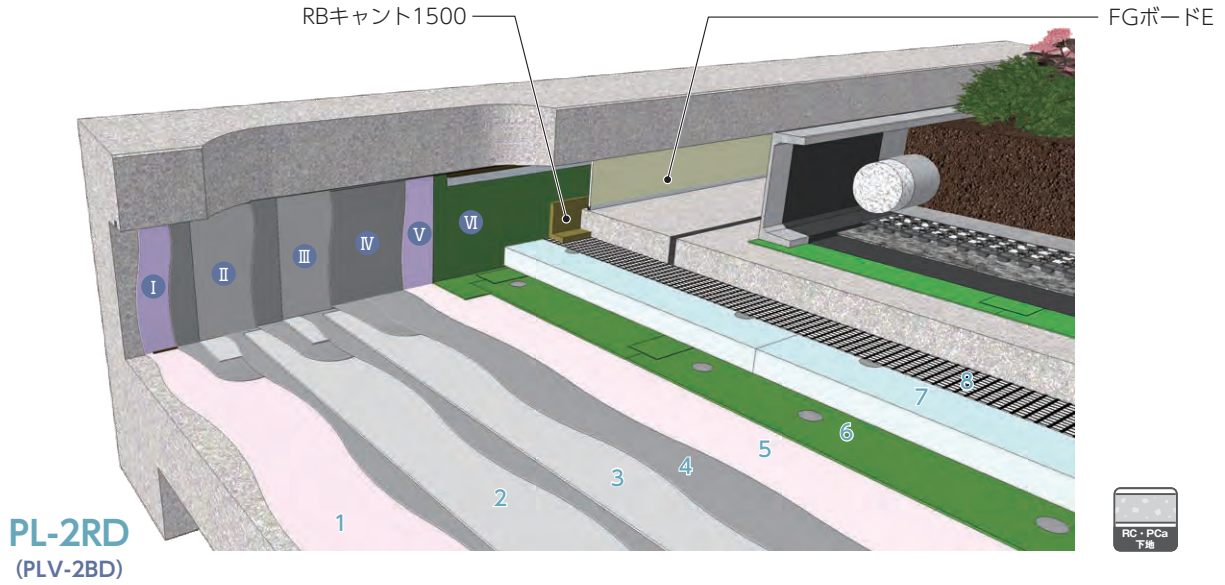
露出仕上げ
非断熱

狭隙複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様



仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱FRAT仕上げ
非断熱保護コンクリート
断熱保護コンクリート
非断熱露出仕上げ
断熱露出仕上げ
非断熱狭小複層部位
突合廻り屋内仕様
非断熱

駐車場仕様

耐根仕様

改質アス常温複合法

レイヤオール工法

PL-2RD

適正勾配：1/100～1/50

重量目安(断熱材60mm)：9kg/m² (植栽含まず)

PL-2D

適正勾配：1/100～1/50

重量目安：7kg/m² (植栽含まず)

平面部

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
4	オールコート	0.8kg/m ²
5	水性プライマーL	0.15kg/m ²
6	ルートガードD (ラップ部：ルートガードテープ貼り)	
7	RBボード 又は スタイロフォームRB-GK-II (オールコート立上り用点貼り)	
8	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)	

工程	内容	重量
1	水性プライマーL	0.2kg/m ²
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
4	オールコート	0.8kg/m ²
5	水性プライマーL	0.15kg/m ²
6	ルートガードD (ラップ部：ルートガードテープ貼り)	
7	絶縁クロス1000(オールコート立上り用点貼り*)	

*絶縁クロス1000点貼りには、オールコート立上り用の代わりにACボンドも使用可能です。

立上り部

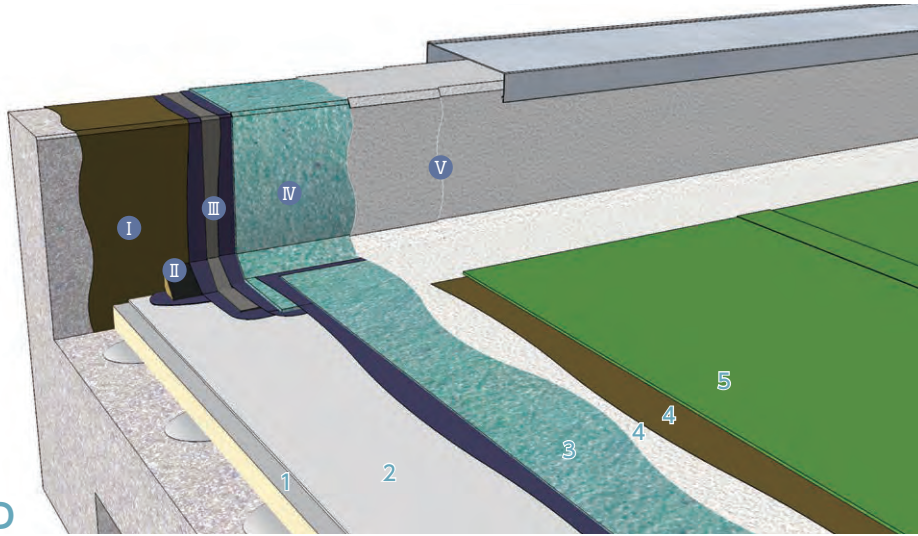
PLV-2BD

工程	内容	重量
I	水性プライマーL	0.2kg/m ²
II	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
III	レイヤベスト オールコート立上り用・塗布貼付	1.2～1.3kg/m ²
IV	オールコート立上り用	0.8kg/m ²
V	水性プライマーL	0.15kg/m ²
VI	ルートガードD (ラップ部：ルートガードテープ貼り)	

立上り部

PLV-2BD 左仕様表参照

露出仕上げ耐根仕様例 | 断熱



FX-025GD
(FV-025・SF)



冷熱併用工法

ストライプ工法

SX-020GD

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：12.5kg/m² (植栽含まず)

冷熱併用工法

ストライプ工法(FRAT仕上げ)

FX-025GD

適正勾配：1/50～1/20

重量目安(断熱材50mm)：11kg/m² (植栽含まず)

平面部

工程	1	2	3	4	5
	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²	強力ストライプZ	強力ガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	リベース 1.2kg/m ²	ルートガードD (ラップ部：ルートガードテープ貼り)

※植栽を行わない範囲は工程4、5の代わりにSPクリーンカラー0.7～0.8kg/m² (2回塗り計)とします。

工程	1	2	3	4	5
	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²	強力ストライプZ	強力フラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	SPファインカラー 0.4～0.5kg/m ² +水性プライマーAS 0.15kg/m ²	ルートガードD (ラップ部：ルートガードテープ貼り)

※植栽を行わない範囲は工程4、5の代わりにSPファインカラー0.6～0.8kg/m² (2回塗り計)とします。

立上り部

SV-020・SC

工程	I	II	III	IV	V
	水性プライマーAS 0.2kg/m ²	ギルキャント (アスタイトM貼り)	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	強力ガムフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	SPクリーンカラー 0.7～0.8kg/m ² (2回塗り計)

立上り部

FV-025・SF

工程	I	II	III	IV	V
	水性プライマーAS 0.2kg/m ²	ギルキャント (アスタイトM貼り)	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	強力フラットフェース アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²	SPファインカラー 0.6～0.8kg/m ² (2回塗り計)

仕様選定表

仕上選定表

断熱材

保護塗料
防湿層

注意事項

FRAT仕上げ
断熱

FRAT仕上げ
非断熱

保護コンクリート
断熱

保護コンクリート
非断熱

露出仕上げ
断熱

露出仕上げ
非断熱

狭隙・複雑部位
架台廻り

屋内仕様
非断熱

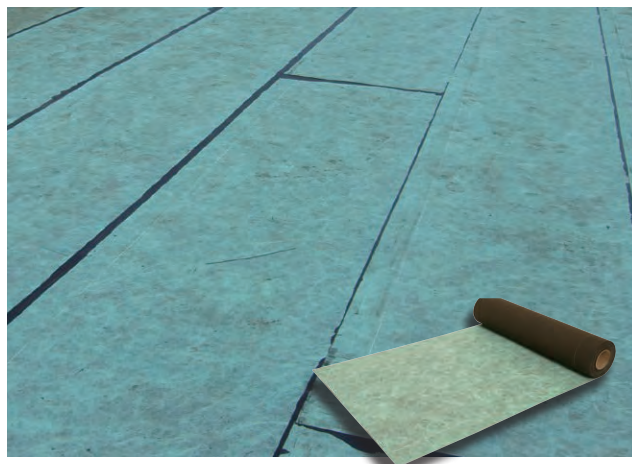
駐車場仕様

耐根仕様

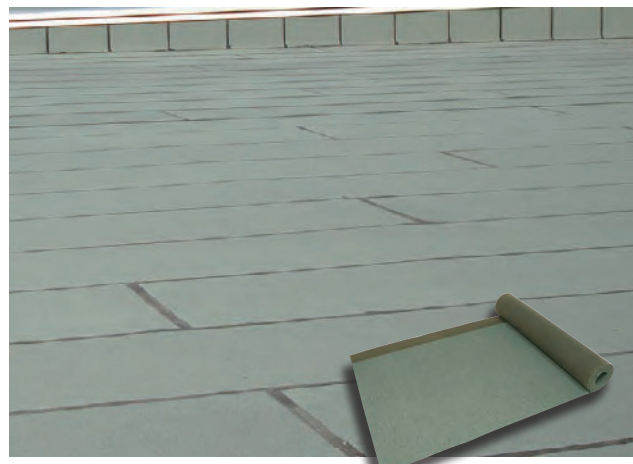
各種仕上げ材

FRAT仕上げ、砂付露出仕上げ

防水層の最上層に、仕上げ材を兼ねたルーフィングを用いる手法です。保護層がない分、軽くなりますが歩行には不向きです。



FRAT仕上げルーフィング「強力フラットフェース」
表層が特殊繊維面材仕上げとなっており、保護塗料を塗布(必須)すると、厚みのある均一皮膜を構成し、長期に渡り保護効果を発揮します。(写真は保護塗料塗布前)



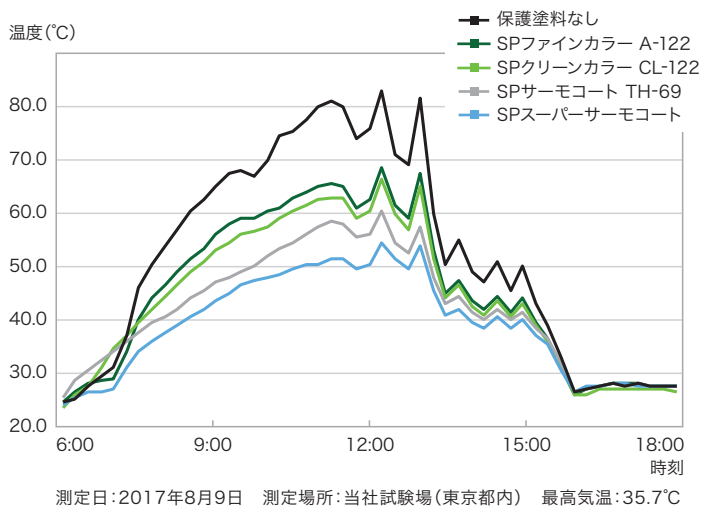
砂付仕上げルーフィング
表層に天然の碎石砂をまんべんなく圧着させることで、紫外線からのアスファルト保護と意匠の両立を図ったルーフィングで仕上げます。

高反射保護塗料

仕上げルーフィングに塗布する水性タイプの保護塗料です。
日射反射機能を持ち、夏季防水層が高温化するのを抑制します。



防水の温度推移比較

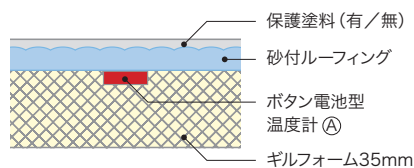


試験体	①温度°C(12時15分)	温度差※
保護塗料なし	83.0	-
SPファインカラー A-122	68.5	14.5
SPクリーンカラー CL-122	66.5	16.5
SPサーモコート TH-69	60.5	22.5
SPスーパーサーモコート TH-1000	54.5	28.5

※保護塗料なしを基準とした温度差

試験体断面図

砂付ルーフィングと、断熱材ギルフォームの間に温度計を設置し、測定

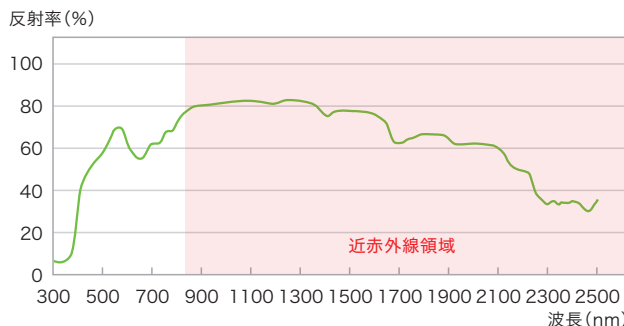


日射反射率(分光反射率)グラフ

(財)日本塗料検査協会試験による

品名	日射反射率(%)		
	全波長領域 300~2500nm	可視光領域 300~780nm	近赤外線領域 780~2500nm
SPサーモコート サーモグリーン (TH-29)	64.5	56.0	75.9

※近赤外線領域は可視光領域に比べ熱に変換されやすく、この領域をより多く反射する方が遮熱効果が高いことになります。



SPサーモコート 日射反射率(%)
 アクリル樹脂に骨材を加えた水性厚膜塗料です。

サーモグレー TH-109 77.5

サーモアイボリー TH-69 76.9

サーモグリーン TH-29 75.9

SPスーパーサーモコート
 サーモホワイト TH-1000 80.0

SPファインカラー 日射反射率(%)
 アクリル樹脂系水性塗料のスタンダード品です。

ライトグレー A-101 74.6

マットシルバー A-122 72.0

ライトブラウン A-66 74.2

ミントグリーン A-25 76.6

SPミッドカラー 日射反射率(%)
 明度を下げ、照り返しの眩しさを抑えたアクリル樹脂系水性塗料です。

ミッドグレー I-103 60.4

ミッドリーフ I-27 57.6

ミッドベージュ I-63 63.1

ミッドチェリー I-33 66.7

SPクリーンカラー 日射反射率(%)
 土・花粉・珪藻類などの堆積物から防水層表面を保護する塗料です。

CLグレー CL-109 78.0

CLマットシルバー CL-122 75.8

CLアイボリー CL-69 77.9

※表中の日射反射率(%)は、近赤外線領域(780~2500nm)における数値
 ※各色は印刷のため、現物との差違がありますので、ご決定の際は色見本帳などをご参照ください。

各種仕上げ材

板状仕上げ材①

- 施工上の注意事項は保護コンクリート仕上げ、露出仕上げの当該ページを参照してください。
- 適正勾配:1/100~1/20。

記載の防水仕様は一例で、他にも対応可能な仕様があります
(例:PX-030・GT)。
詳細は営業員までご相談ください。

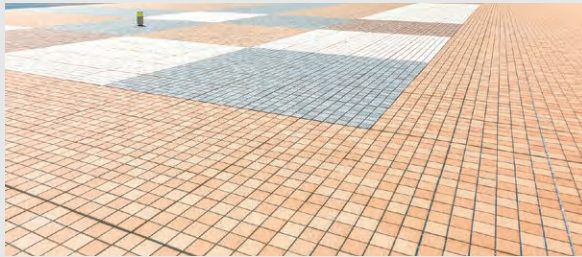
ストライプ工法

立上りはSV-020を適用(P89参照)。

磁器タイル仕上げ

ガムロンタイル

150㎡を超える場合の納期についてはお問い合わせください。



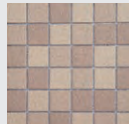
耐久性の高い磁器タイル小片を連結した保護仕上げ材です。裏面に粘着層が設けてあり、下地に貼付けるだけの簡単施工です。小片はあらかじめ同色系を組合わせてあり、敷設するだけで屋上やベランダに高級タイル調の美しい世界が広がります。



パールホワイト
GT-101



オレンジブリック
GT-102



サンディブラウン
GT-103



ウォームグレー
GT-104

非断熱

PX-035・GT

重量目安:20.5kg/㎡

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/㎡
工程 2	強カストライプZ
工程 3	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/㎡
工程 5	ガムロンタイル

断熱

PX-035G・GT

重量目安(断熱材50mm):22.5kg/㎡

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/㎡
工程 2	強カストライプZ
工程 3	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/㎡
工程 5	ガムロンタイル

セメント系成型板仕上げ

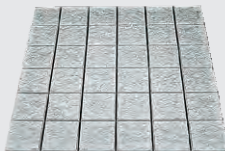
エイブロックBF/BJ

建物の高さにより使用制限があります。



合成樹脂ネットで補強されたセメント系成型板です(不燃認定:NM-9319)。

防水層の上に置き敷きするだけの簡単施工で、目地部分で折り曲げて下地の不陸等に馴染ませて設置します。BJタイプは専用ビスで隣同士を連結して敷設します。



※現場の状況によりエフロレッセンス(白華)が発生する場合があります。

非断熱

PX-035・EB

重量目安:62.5kg/㎡

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/㎡
工程 2	強カストライプZ
工程 3	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/㎡
工程 5	エイマット
工程 6	エイブロック

断熱

PX-035R・EB

重量目安(断熱材60mm):64kg/㎡

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/㎡
工程 2	強カストライプZ
工程 3	強カアドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/㎡
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/㎡
工程 5	RBボード又はスタイロフォームRB-GK-II
工程 6	エイマット
工程 7	エイブロック

※仕上げ材の各色は印刷のため、現物との差異があります。

BANKS工法

立上りはJSV-020を適用(P90参照)。断熱仕様はJSV-020H(P84参照)。

非断熱

JPX-035・GT

重量目安:19kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力バンクルーフ
工程 3	強力バンクベスト
工程 4	ガムロンタイル

断熱

JPX-035G・GT

重量目安(断熱材50mm):21kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力バンクルーフ
工程 3	強力バンクベスト
工程 4	ガムロンタイル

※工程3の強力バンクベスト表面を軽くあぶってから貼り付けます。

レイヤオール工法

立上りはSLV-1BTまたは1B砂付を適用(P80参照)。

非断熱

PLS-2・GT

重量目安:18.5kg/m²

工程 1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	水性プライマーL 0.15kg/m ²
工程 6	ガムロンタイル

断熱

PLS-2G・GT

重量目安(断熱材50mm):21kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	水性プライマーL 0.15kg/m ²
工程 6	ガムロンタイル

非断熱

JPX-035・EB

重量目安:61.5kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力バンクルーフ
工程 3	強力バンクベスト
工程 4	エイマット
工程 5	エイブロック

断熱

JPX-035R・EB

重量目安(断熱材60mm):63.5kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力バンクルーフ
工程 3	強力バンクベスト
工程 4	RBボード又はスタイロフォームRB-GK-II RBセメント・点貼り 0.5kg/m ²
工程 5	エイマット
工程 6	エイブロック

非断熱

PLS-2・EB

重量目安:60.5kg/m²

工程 1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	エイマット
工程 6	エイブロック

断熱

PLS-2R・EB

重量目安(断熱材60mm):62.5kg/m²

工程 1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	RBボード又はスタイロフォームRB-GK-II (オールコート点貼り)
工程 6	エイマット
工程 7	エイブロック

各種仕上げ材

板状仕上げ材②

- 施工上の注意事項は保護コンクリート仕上げ、露出仕上げの当該ページを参照してください。
- 適正勾配:1/100~1/20

記載の防水仕様は一例で、他にも対応可能な仕様があります
(例:PX-030・BC)。
詳細は営業員までご相談ください。

ストライプ工法

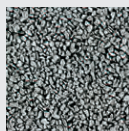
立上りはSV-020を適用(P89参照)。

軽歩行パネル仕上げ バリキャップ

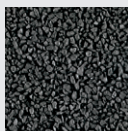
断熱仕様の場合にはメンテナンス等の歩行用途程度となります。



表面に焼成彩色砂や自然色砂を隙間なく圧着させた厚さ6mmのアスファルト系砂付成型板です。2色または3色を組合わせてカラフルで美しいパターンの屋上が仕上げられます。熱工法向けの「バリキャップ」と冷工法向けの「バリキャップP(粘着層はついていません)」があります。



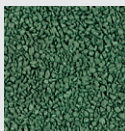
S-1
ライトグレー



S-5
自然色



S-6
赤茶



S-22
新緑

非断熱

PX-035・BC

重量目安:17.5kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力ストライプZ
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
工程 4	バリキャップ アスタイトM貼り 1.5kg/m ²

断熱

PX-035G・BC

重量目安(断熱材50mm):19.5kg/m²

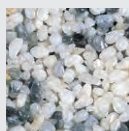
工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力ストライプZ
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
工程 4	バリキャップ アスタイトM貼り 1.5kg/m ²

軽歩行パネル仕上げ ステップスクエア500H

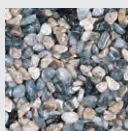
断熱仕様の場合にはメンテナンス等の歩行用途程度となります。



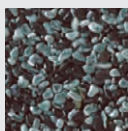
天然石の細かい粒と樹脂を混合した500mm角の成型板です。裏面に粘着層が付き、適度な弾力と滑り抵抗性のある保護仕上げ材です。天然石のため、微かな色差があり単色で並べると色ムラが目立つ恐れがあります。2~3色を組合わせた市松貼りなどをお勧めします。



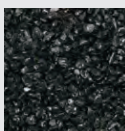
NO-501



NO-520



NO-535



NO-540

非断熱

PX-035・ST

重量目安:18.5kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力ストライプZ
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
工程 5	ステップスクエア500H

断熱

PX-035G・ST

重量目安(断熱材50mm):21kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力ストライプZ
工程 3	強力アドバン アスタイトM流し貼り 1.2kg/m ²
工程 4	アスタイトM刷毛塗り 1.5kg/m ²
工程 5	ステップスクエア500H

※仕上げ材の各色は印刷のため、現物との差異があります。

BANKS工法

立上りはJSV-020を適用(P90参照)。断熱仕様はJSV-020H(P84参照)

非断熱

JPX-035・BC

重量目安:16kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力パンクルーフ
工程 3	強力パンクベスト
工程 4	バリキャップP

断熱

JPX-035G・BC

重量目安(断熱材50mm):18kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力パンクルーフ
工程 3	強力パンクベスト
工程 4	バリキャップP

※工程3の強力パンクベストを強力ガムフェースに替える場合は、バリキャップをレイコーセメント全面塗布(1.2kg/m²)にて貼付けてください。

レイヤオール工法

立上りはSLV-1BTまたは1B砂付を適用(P80参照)。

非断熱

PLS-2・BC

重量目安:16kg/m²

工程 1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	バリキャップ オールコート立上り用 0.8kg/m ²

断熱

PLS-2G・BC

重量目安(断熱材50mm):18.5kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	バリキャップ オールコート立上り用 0.8kg/m ²

※工程5を以下に変更できます。

⑤水性プライマーL 0.15kg/m² ⑥ガムクールベースE ⑦バリキャップP

非断熱

JPX-035・ST

重量目安:17.5kg/m²

工程 1	水性プライマー AS 0.2kg/m ²
工程 2	強力パンクルーフ
工程 3	強力パンクベスト
工程 4	ステップスクエア500H

断熱

JPX-035G・ST

重量目安(断熱材50mm):19.5kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力パンクルーフ
工程 3	強力パンクベスト
工程 4	ステップスクエア500H

※工程3の強力パンクベスト表面を軽くあぶってから貼り付けます。

非断熱

PLS-2・ST

重量目安:16.5kg/m²

工程 1	水性プライマーL 0.2kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	水性プライマーL 0.15kg/m ²
工程 6	ステップスクエア500H

断熱

PLS-2G・ST

重量目安(断熱材50mm):19kg/m²

工程 1	ギルフォーム クールボンド点貼り 0.35kg/m ²
工程 2	強力アンダーFS
工程 3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付 1.2~1.3kg/m ²
工程 4	オールコート 0.8kg/m ²
工程 5	水性プライマーL 0.15kg/m ²
工程 6	ステップスクエア500H

屋上緑化「Gウェイブ」

耐根・保水排水システム

環境改善から建築物の保護、省エネルギー、雨水の一時貯留場など、屋上緑化によるメリットは多岐にわたります。一方で植物根による漏水の危険性への対応や、植物が順調に生育する環境も整えなければなりません。「Gウェイブ」はこれらの課題を解決する屋上緑化システムです。
(耐根仕様については101ページもご参照ください。)

植物の根から建物を守る高い耐根性能

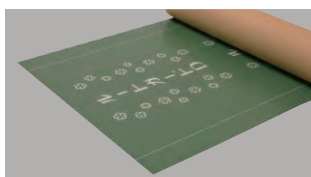
植物の根は驚くほど強く、コンクリートのひび割れや目地から防水層に侵入・貫通して漏水事故を引き起こすこともあります。そのため、屋上緑化にはあらゆる場合を想定した確かな性能を持つ耐根層が必須です。耐根シート「ルートガードD」は、寸法安定性に優れ、長期に渡る根の侵入を防止することが可能です。耐水性にも優れており、植物の根に対する高い抵抗性を備えながら、経年後も安定した効果を期待できる耐根シートです。

アスファルト防水層は、根が貫通して漏水事故に至る可能性がありますので、屋上緑化を行う際には耐根シート「ルートガードD」が必須となります。従って、耐根性能のない保護コンクリートにも「ルートガードD」を設ける必要があります。

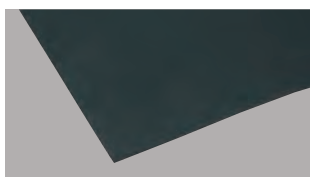


安心の二重耐根システム(FD-LP仕様)

G-WAVEは、耐根層「ルートガードD」と耐根補助層「FDフィルム」の2種類を設けて根の進行をブロックする二重耐根システムを採用しています。耐根補助層は、植物の根を滑らせて、根が防水層に向かうことを防ぐことで、より確実に植物の根をブロックすることで防水層を護ります。



ルートガードD(粘着層付耐根シート)



FDフィルム(耐根補助フィルム)

ルートガードDと一般ストレッチルーフィングの耐根性能比較

根の生育力が非常に強いとされているクマザサを用い、約1年間生育した後の様子が右の写真です。根の進行を防ぎきれない一般ストレッチルーフィングに比べて、ルートガードDが高い耐植物根性能を有していることが分かります。



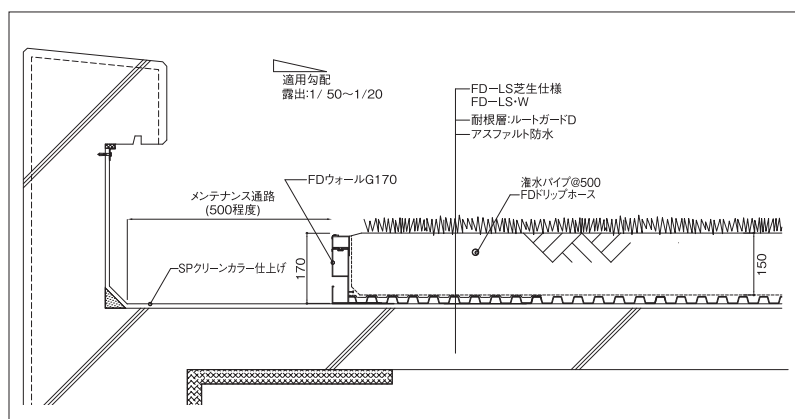
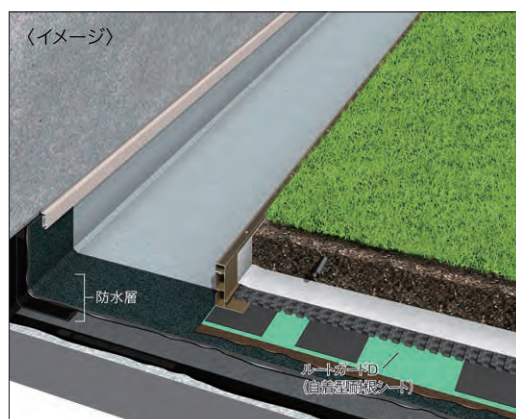
ルートガードD



一般ストレッチルーフィング

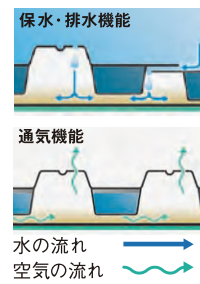
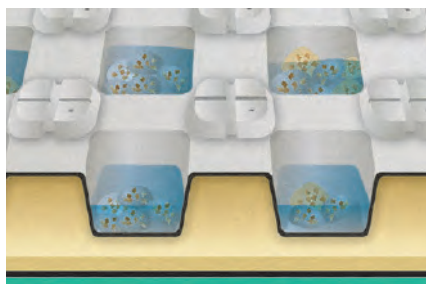
露出防水への緑化

露出防水上に下地処理材(リベース)を塗布し、ルートガードDを敷設することで、緑化を施すことが可能になります。



保水・排水・通気機能を高める立体構造のFDドレイン

FDドレインは表面の凹部で保水し、オーバーフローした余分な水が下に排水されます。さらにドレイン下層の空隙部が通気層の役割を果たし、植物に必要な水と空気を根に供給します。この保水排水パネルが根の力で破損するようでは、排水阻害などを引き起こし、植物の健全な生育を維持することができません。高強度の立体構造FDドレインは、長期間にわたり保水・排水・通気性能を継続します。

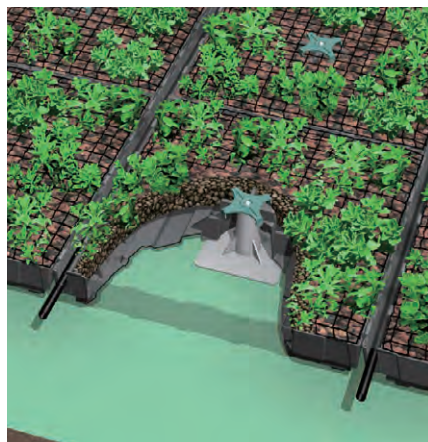


許容荷重への対応

高木から、芝生、地被植物、草花まで、目的や条件に対応したさまざまなシステムが揃っていますので、既設屋上の積載荷重を考慮した選択が可能です。



薄層緑化(ユニットタイプ)



薄層～中低木緑化(現場植えタイプ)



FD-Uシリーズ (植栽済ユニット)



FD-Lシリーズ (現場植えタイプ)

詳細は別冊屋上緑化カタログ(G-WAVE)を参照ください。

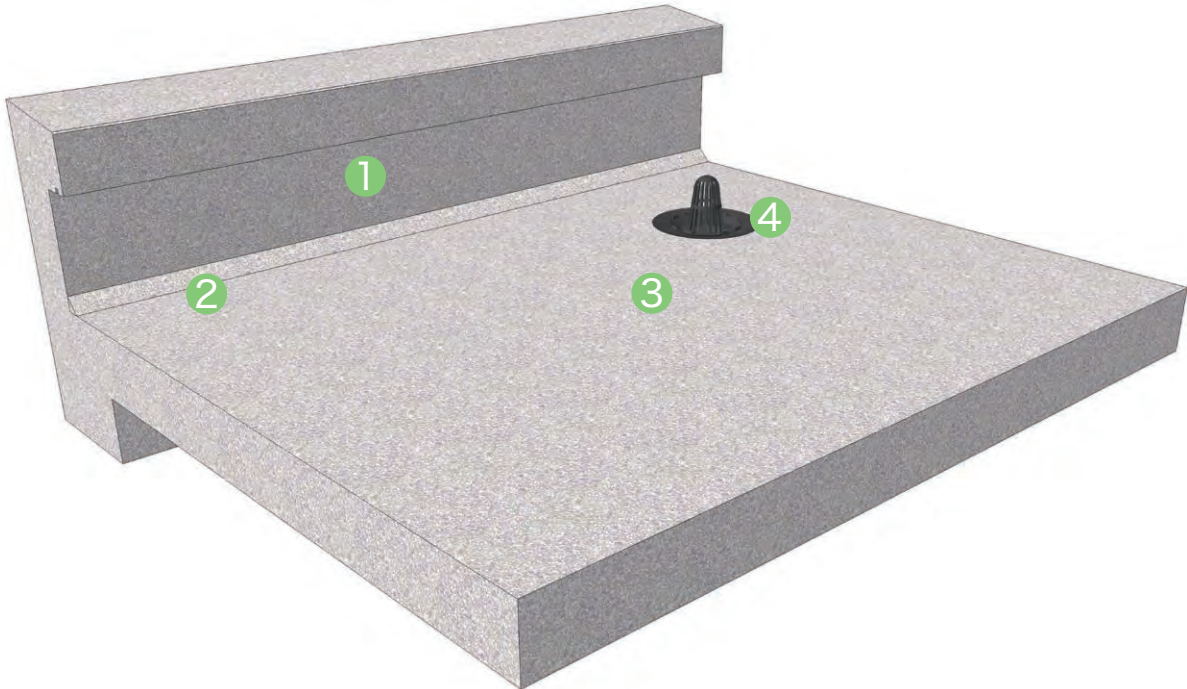
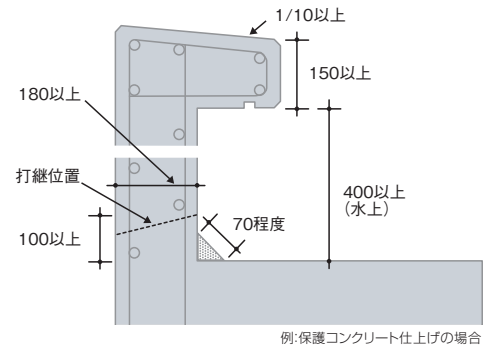
APEX高耐久仕様を採用する際には、別冊カタログ『APEX』記載の標準納まりをご参照ください。

下地ごしらえ

鉄筋コンクリートのスラブ 亀裂が比較的小さく動きにくい。

① 立上り

- スラブと同時打ちが原則である。やむを得ず打ち継ぐ場合は、防水保護仕上げ面より上(100mm以上)とし、打継ぎ面は外勾配とする。
- 立上がり幅180mm以上、アゴの見付厚は150mm以上とし、ダブル配筋とする。
- パラベットの仕上げは金属笠木を標準とする。
(金属笠木を用いない場合、天端は1/10以上の水勾配をつける)
- パラベット天端は、コンクリート打設時に直仕上げとし、モルタルの塗り足しは行わないこと。



② 入隅

- ストライプ工法における保護コンクリート仕上げの場合は、ルーフィング類の貼付けを確実にを行うため70mm程度の面を取る。
- レイヤオール工法、アスレイヤ水性工法、エコフィット工法、BANKS工法、プライムアス工法の場合は直角とする。
- 各工法共、状況によっては直角、あるいは面を取る場合がある。

③ 平面部

- 下地の表面は凹凸無く平滑な面とする。
- 現場コンクリート下地の場合は金で上げてとする。
- ALCパネル・PCa板の場合には継手部の目地に段差がないこと。目地部に充填したモルタルの表面は平坦で浮きや剥離のないこと。
- 剥離、ふくれ防止のため、下地は十分に乾燥させるよう特に注意する(目安として打設後約4週間の乾燥期間を基準とする)。
- 防水下地に耐震スリットが入らないようにする。
- 貫通配管の立上りからの距離は500mm以上、配管相互の間隔は100mm以上とする。
- 勾配は仕上げ方法により異なる。(防水仕様P37～104を参照。)勾配は必ず躯体でとる。
- 保護コンクリートの表面でも速やかに排水できるようにする。

4 ドレン、オーバーフロー管

- ルーフドレンの排水分担面積は十分に余裕を持たせる。
- ドレンはJCW-301（日本鋳鉄ふた・排水器具工業会規格）の、「ろく屋根用たて形1型・横形1型」に適合するものを推奨する。
- ドレンは打込みタイプとし、防水層の厚みを考慮して必ず周囲より低めに取付ける。
（30～50mm程度）
- ドレンと立上りとの間隔は十分にとって（200mm程度）、防水施工がしやすいようにする。
- 設置数はSHASE-S206（給排水衛生基準）の「雨水排水管径の決定」を参考とする。
- 小面積であっても不慮の排水不良を想定して2個以上設置するか、もしくはオーバーフロー管の設置が望ましい。
- オーバーフロー管は防水層の貼りかけ代のある専用部材とする。

推奨ドレン ー第一機材(株)製ー
防水貼り掛け代幅（ドレンつば）100mm品



ALCパネル

- 目地に段差が生じないよう堅固に取り付ける。
- 吸水しやすく、十分な乾燥が期待できないので注意を要する。
- 目地部に充填したモルタルの表面は平坦で浮きや剥離のないこと。
- 梁上の短辺ジョイント部には、種々の要因によるムーブメントが想定されるため、必要に応じて絶縁処理や増貼りを行う。
（ALCの線膨張係数は $7 \times 10^{-6} / ^\circ\text{C}$ ）

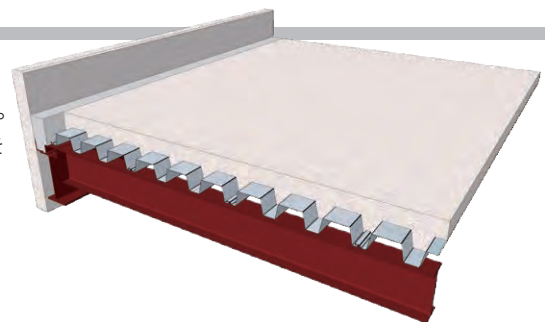


PCa板

- 目地に段差が生じないよう堅固に取り付ける。
- 目地部に充填したモルタルの表面は平坦で浮きや剥離のないこと。
- 板相互の突付のジョイント部にムーブメントが想定されるため、必要に応じて絶縁処理や増貼りを行う。
（コンクリートの線膨張係数は $10 \times 10^{-6} / ^\circ\text{C}$ ）

デッキプレートに普通コンクリート又は軽量コンクリート打設

- 梁やデッキプレートのジョイント部に亀裂や動きが集中する。
- スラブ下面が密閉された片面乾燥のため、各種防水下地の中では最も乾燥が遅い。
- 現場打ちコンクリートは表面にレタンスが発生し易く、防水層との接着阻害を引き起こす場合があるので注意を要する。

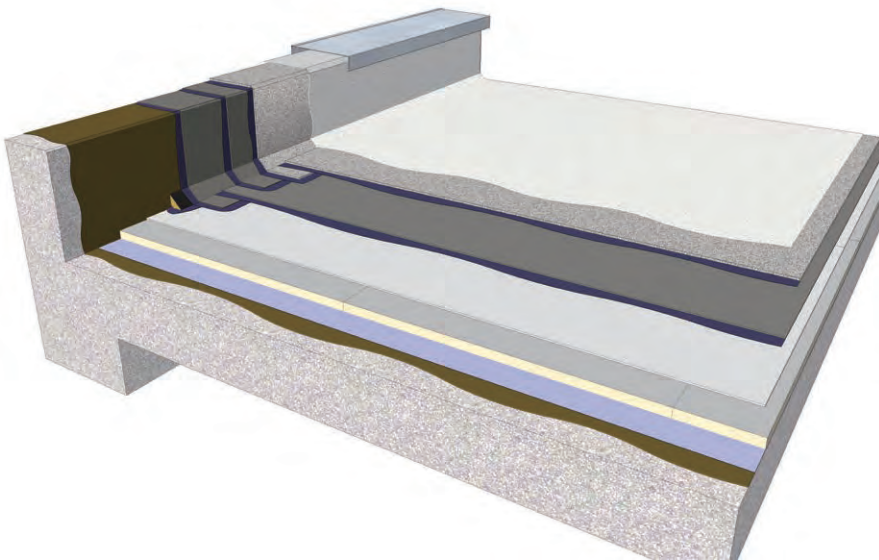


※納まり、CADはホームページ (<https://tajima.jp>) を参照ください。

納まり・仕上げ

FRAT仕上げ、砂付露出仕上げ

- デッキプレートにコンクリート打ちの下地や寒冷地の屋根に断熱する場合、下地の十分な乾燥が期待できないので防湿層を採用のこと。
- 保護塗料を塗布する場合は、必ず指定の塗料を使用すること。



保護材にバリキャップを用いた架台設置例

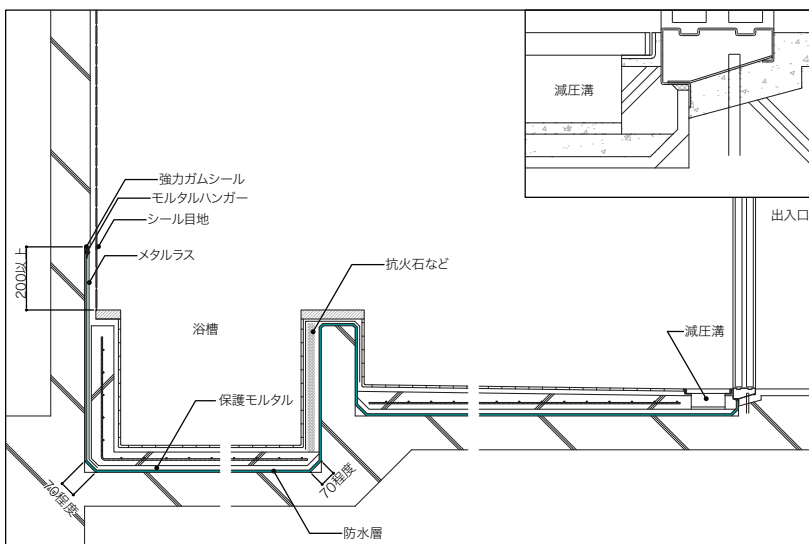
チェックポイント

納まり・仕上げ

※やむを得ず重量物を設置する場合

- 基礎は躯体から立ち上がるのが望ましい。
- FRAT仕上げ、砂付露出仕上げに基礎を設置する場合の注意事項
 - ① 仕上げの上に直接基礎を設置すると、防水層を損傷するので絶対行わない。
 - ② やむを得ず設置する場合は、集中荷重とならない様に基礎面積を広くとり、防水層の上にバリキャップ等の保護材を使用すること。

屋内



屋根と異なり温度変化が少なく、下地の動きが小さい利点はあるが、設備が多くなされるため、パイプなどが下地を貫通し複雑な納まりとなる箇所が多い。

- 壁面は湯水のかからない高さまで、防水層の立上りを十分にとる。(浴槽が壁際に設置される場合やシャワーまわりでは特に注意)
- 入口の立上り高さは床仕上面より150mm以上とする。確保できない場合は、グレーチングタイプの排水トラップ等を設置する。
- 重要度の高い室内では、ピットなどを設置する。
- 湯温タイプを通す場合はスリーブ管を用い、防水層は必ずスリーブ管に接合させる。
- 湯温タイプとスリーブ管の間は、断熱処理をおこなう。

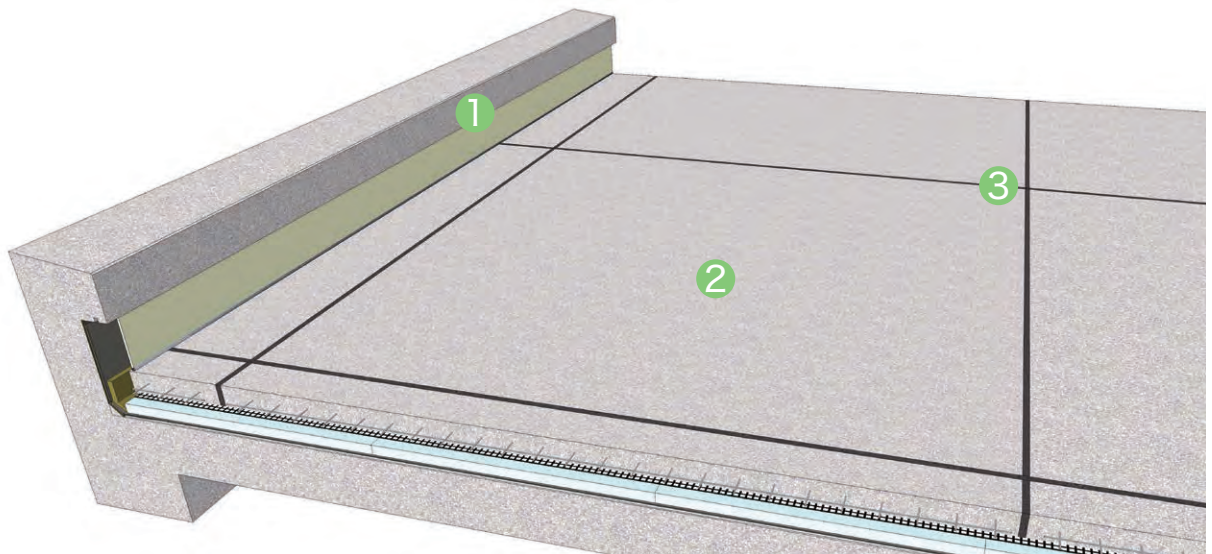
保護コンクリート仕上げ

① 立上り

- FG ボードEの高さは、水下で600mm以内を基本とする。
- 下部ホルダー固定部のコンクリートは、厚さ50mm以上、80mm程度を確保する。

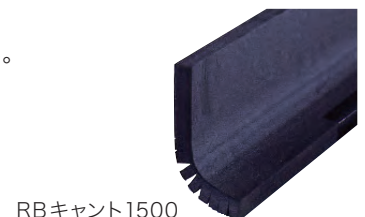
① 手すり

- パラペット部分への取付けは事故が多いので避ける。
- コンクリートなどの基礎を用いて平坦部に独立させて設ける。



② 保護コンクリート

- 普通コンクリートとし、水上から水下まで一定の厚さとする。
- 厚さ 80mm 以上が必要で、溶接金網 (φ 3.5 ~ 6mm、@100) を挿入してひび割れの防止をはかる。
- 防水層施工後、入隅にRB キャント 1500 を貼付ける。
- 保護コンクリートは防水層施工後すみやかに打設すること。
- コンクリートポンプ車の庄送管が防水層に直接触れないようにする。
- モルタル押えは割れやすく、剥離して反り、あばれなどを起こすので使用しない。
- 断熱工法は次の点に注意する。
 - ① 断熱材貼付後、できるだけ早期にコンクリートを打設する。
 - ② 打設の際、断熱材を傷つけないようにする。



③ 伸縮目地

- 伸縮目地の不備による事故例が多いので十分注意すること。
- 防水層絶縁材の表面に達する深さまでとること。



- 防水保護の種類や厚さによって異なるが、通常は立上りから 300mm ~ 600mm の位置に幅 25mm 以上のボーダー目地をとり、さらに屋根全面には幅 20 ~ 25mm の目地を 2 ~ 3m のます型に設ける。また各目地は立上りの際まで通して切る。
- 伸縮目地材を取付けの際、防水層に釘などを絶対打たないこと。

※納まり、CADはホームページ (<https://tajima.jp>) を参照ください。

ドレン周辺部の納まり

ドレンは雨水が流れ込む、防水上特に重要な部分です。製品自体のツバ幅、取付位置や、断熱材の貼り込み位置などに十分な注意を払う必要があります。

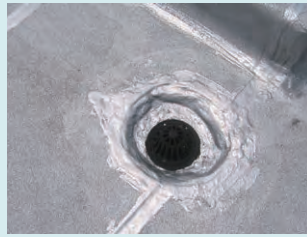


不適切なドレン取付位置例

※建築工事は人による作業です。作業性の良し悪しが仕上りに直結します。右は「作業がしづらい＝漏水事故発生率が高まる」として挙げた事例です。



ツバの幅が狭い



断熱材がドレン際まで来ている



取付位置が立上りに近すぎる

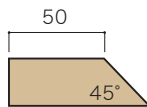
テーパフォーム(面取済断熱材)

手間をかけずにきれいな断面

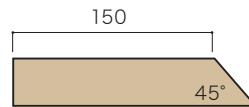
側溝・ドレン廻りなどは、防水層を上手に納めるために断熱材を面取りします。厚みのある断熱材を一定の角度に現場加工するのは手間がかかり、特に側溝用などで多量を加工する場合はかなりの時間が必要となります。テーパフォームは、断熱材ギルフォームを予め工場で所定の角度にカットした面取り材です。面の角度が揃い、断面の仕上がりも美しく、現場での作業時間短縮に貢献します。

【用途に合わせた3タイプ】

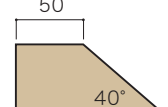
標準的な側溝・ドレン部の面取り材
テーパフォームS



側溝付近での水たまりを押し止めます。
テーパフォームL

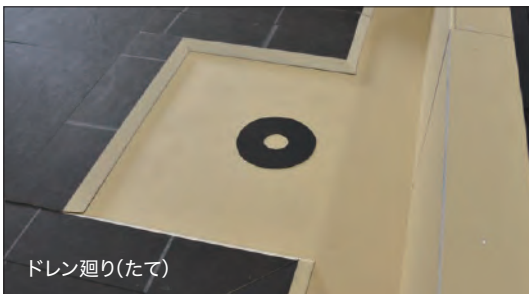


傾斜角度を抑えたタイプ
テーパフォームUR

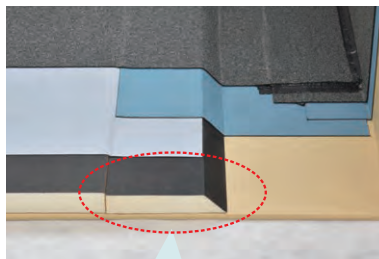


※各品の規格については156ページをご覧ください。

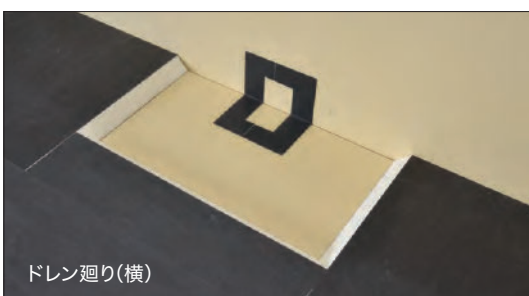
【テーパフォーム使用イメージ】



●テーパフォームL 側溝使用イメージ



●テーパフォームL(左)/S(右)



水の流れ

ギルフォーム テーパフォームL

ルーフィングの重ねが多く、水が流れにくい部分には、一般部より薄いLタイプを活用すれば、排水もスムーズに。

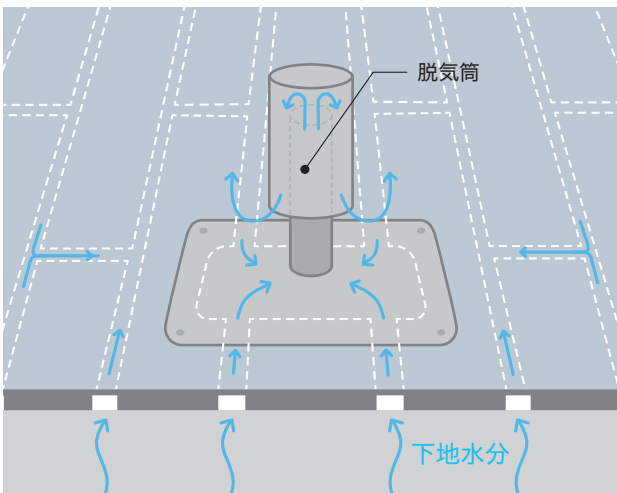
一般部と同じ厚さ品を使用した場合、ルーフィングの重ね部が盛り上がり、水溜りの原因となりやすい。

通気システムの納まり

防水層の最下層に空気の通り道を設け、さらに出口も用意することで、下地水分を外部へ排出するのが通気システムの概要です。通気について東西アス仕様では、部分粘着層付ルーフィング、あるいは厚さ6mmのパネルを部分接着して下地とする二つの手法を採用しています。排出にあたっては、立上りあるいは平面部に脱気筒を設置します。

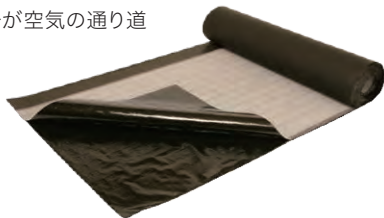
通気層

【ルーフィングによる通気～脱気イメージ】

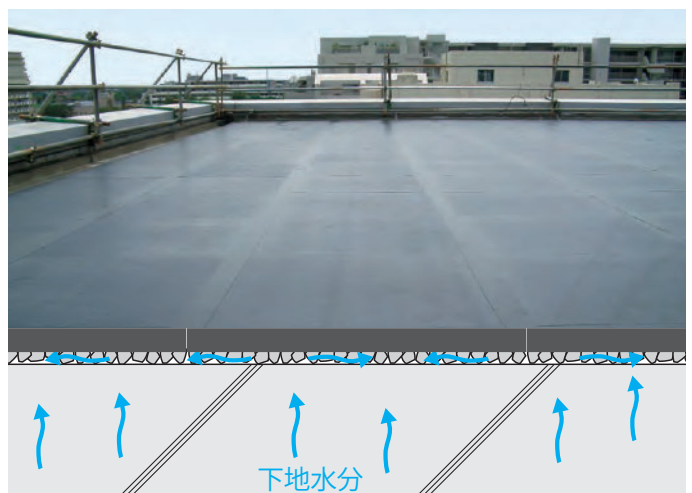


強カストライプZ

裏面がストライプ状の粘着層になっており、粘着していない部分が空気の通り道となります。

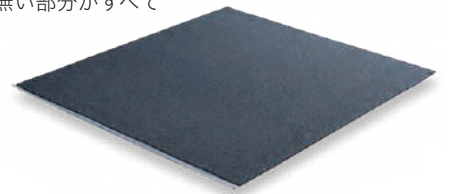


【パネルによる通気イメージ】



バリボードPS

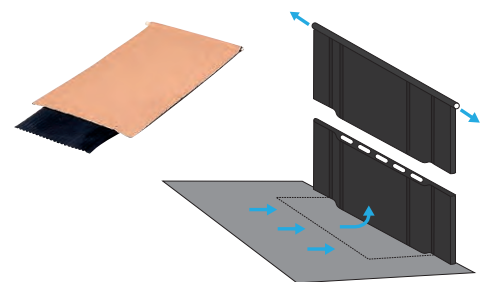
厚さ4mmのアスファルト系パネルを接着剤で部分接着します。接着剤の無い部分がすべて空気の通り道となります。



脱気筒（排気口）

ペーパス(立上り部用)

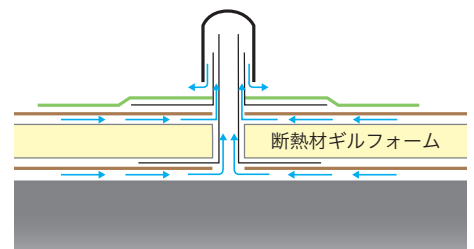
立上り部に用いる柔軟で折り曲げが容易なゴム製の脱気筒です。内部に通気用の穴があり、下部を折り曲げて強カストライプZなどの下に差込み、立上り側上端を笠木やアゴ下に配置し、空気を排出する仕組みです。



ステンレスピース(平面部用)

平面部からの水分を効率よく排出できるステンレス製脱気筒です。断熱工法用の二重(Wタイプ)や、積雪地域の融雪水・集中豪雨などで脱気筒が水没した場合でも、雨水の逆流による漏水を防ぐ逆流防止弁付(Gタイプ)などがあります。

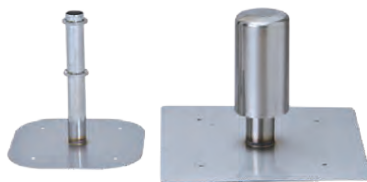
〈二重タイプの通気イメージ〉



ステンレスピース



ステンレスピースW



下地ごしらえ



たて

横

木材の乾燥

木造下地では主な劣化現象である腐朽による劣化を防止するため、木材が乾燥状態を維持するよう考慮する。木造下地は吸水しやすく含水したままの状態が続くとカビの発生や木材腐朽リスクが高く、また含水状態では防水層接着阻害の可能性があるので、乾燥状態で防水施工できるよう細心の注意を払う。木造下地が吸湿した水分は防水施工後も日射、温度条件によって放出されるため脱気システムを検討のこと。

下地

想定される荷重に耐えられる強度を持つ厚みを確保する。目違い、凹凸、突起および目地開き等の無いように注意する。必要に応じてケレン、サンダー掛け等を行う。

勾配

1/50以上の水勾配を躯体、根太組でとること。根太ピッチは、耐風圧や屋根面自体の耐荷重を考慮した上で設定する。

納まり・仕上げ

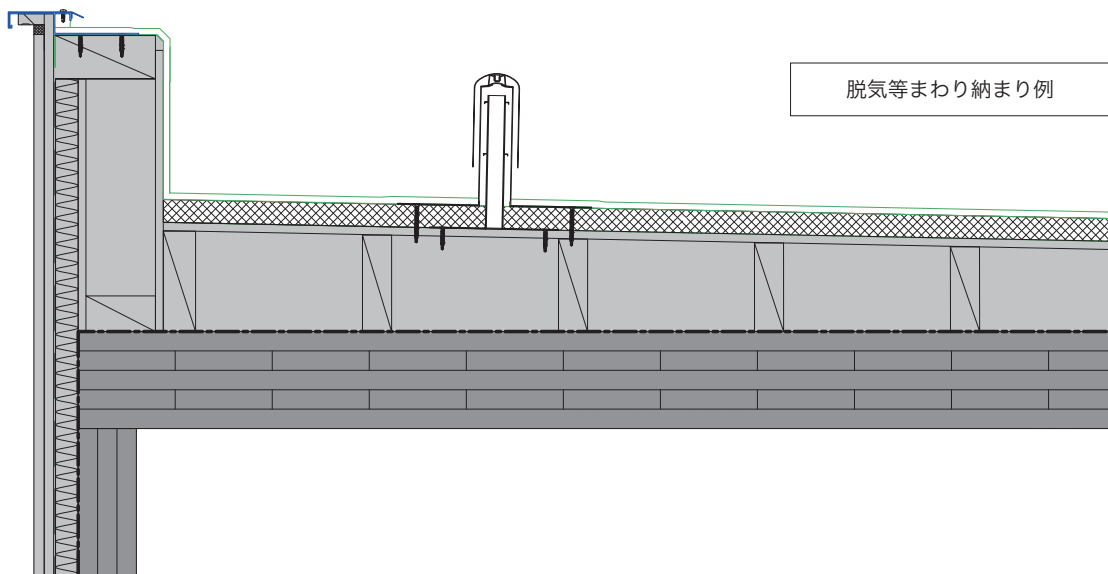
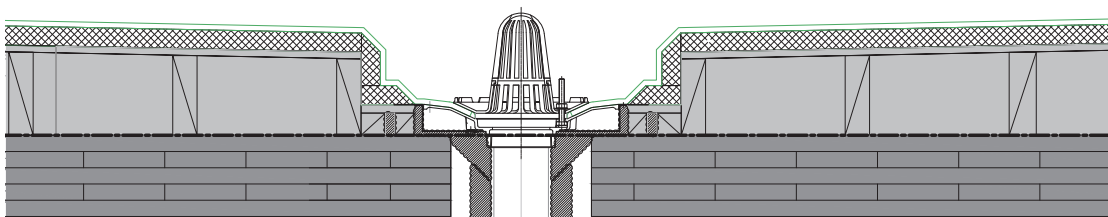
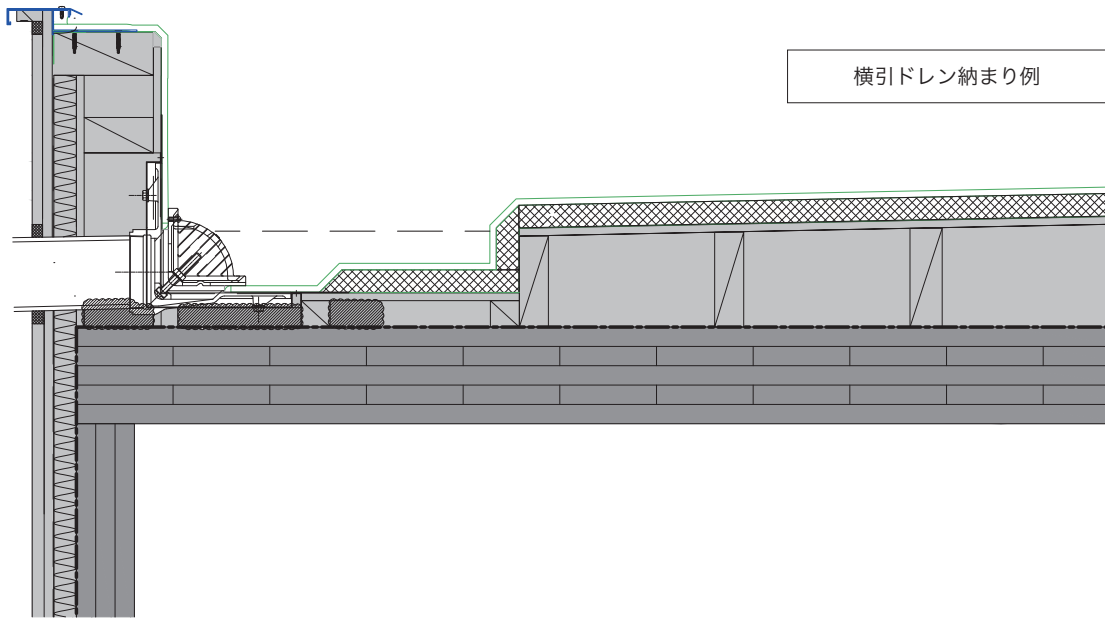
一木下地一

防水

木材自体の寸法変化やたわみ等に起因する目地部挙動による防水層破断を防ぐため絶縁工法を検討する。立上り出入隅部、ドレン廻り、目地部等下地の挙動が想定される部位は粘着層付ルーフィングでの増貼りを検討する。

ドレン

- ルーフドレンの排水分担面積は十分に余裕を持たせる。
- ドレンはJCW-301(日本鋳鉄ふた・排水器具工業会規格)の、「ろく屋根用たて形1型・横形1型」に適合するものを推奨する。
- ドレンは防水層の厚みを考慮して必ず周囲より低めに取付ける。(30～50mm程度)
- ドレンと立上りとの間隔は十分にとって(200mm程度)、防水施工がしやすいようにする。
- 設置数はSHASE-S206(給排水衛生基準)の「雨水排水管径の決定」を参考とする。
- 小面積であっても不慮の排水不良を想定して一面に2個以上設置するか、もしくはオーバーフロー管の設置が望ましい。オーバーフロー管は防水層の貼りかけ代のある専用部材とする。



※納まり、CADをご希望の方は w_w@tajima.co.jp までに「CADデータ希望」とご依頼ください。

長寿命化を実現するには、来るべき改修工事への対応も重要

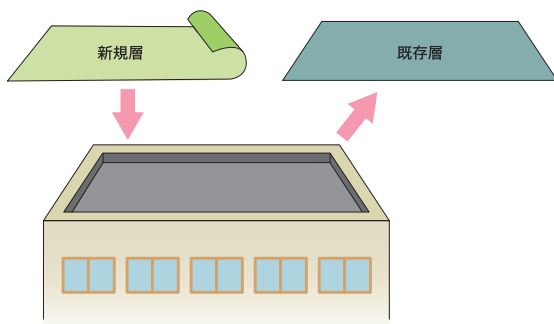
建物を使い続けると多くの場合防水層の改修が必要となります。鉄筋コンクリートの寿命は一般的には60年と今までいわれてきていましたが、近年ではそれを80～100年に延ばそうという動きがはじめています。そのため防水層の耐用年数を考えると、建物供用期間中に複数回防水改修を行う必要性が出てきます。その点を考慮すると、改修に適した防水工法の採用が新築当初から望まれます。アスファルト防水の利点は、既存がアスファルト防水だった場合「かぶせ再生工法」が採用できることです。

改修の手法

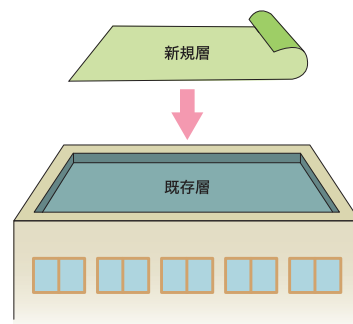
改修には大きく分けて撤去工法とかぶせ工法があります。それぞれの長短所を表にまとめました。

工法種別	長 所	短 所
撤去工法	<ul style="list-style-type: none"> ・新築時の防水とほぼ同条件の施工と仕上り、および荷重 	<ul style="list-style-type: none"> ・撤去による廃材発生 ・施工中の漏水危険性あり ・施工中漏水対策として、通常仮防水が必要となる
かぶせ工法	<ul style="list-style-type: none"> ・撤去による廃材発生量削減 ・既存防水層の機能を継続活用 ・施工中の漏水危険性小 	<ul style="list-style-type: none"> ・劣化度に応じた下地処理が必要 ・新規防水層の荷重が加わる

撤去工法イメージ



かぶせ工法イメージ



撤去工法

既存層を撤去後、一旦下地処理を行います。下地処理には新規層をかぶせるまでの降雨をしのぐ目的で、仮防水機能を持つ材料を使用します。



写真：仮防水材「アスグランド」

かぶせ工法

前ページのように廃材処理や施工中の降雨による漏水の危険性などから、かぶせ工法の採用割合が多い傾向にあります。かぶせ工法には大きく分けて以下の二つがあります。

① 接着工法

既存層上に下地処理を施し、新たに作り上げた下地上に溶融アスファルトや粘着材を用いて新規防水層を固定する工法。下地処理材には乾式と湿式の2種類がある。

乾式下地処理材

アスファルトに無機質充填材を配合した成型板。寸法安定性に優れ、既存下地から発生する湿気等の拡散移行効果を発揮。乾式のため、貼付け後すぐ次の防水工程に入ることができる。



アスファルト系パネル「パリボード」

湿式下地処理材

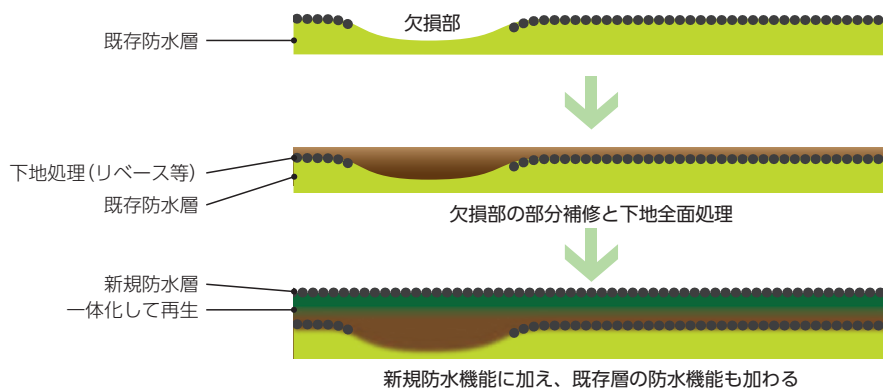
液状の下地処理材。1液性のタイプ、主剤と硬化剤を混合攪拌する2液性反応硬化タイプ、あるいは樹脂とパウダーを混合するポリマーセメントモルタルタイプなどがある。硬化するまで所定の時間を要する。



アスファルト防水ならではの「かぶせ再生工法」

既存防水層がアスファルト防水の場合、新規防水層と一体化させる「かぶせ再生工法」が可能です。古い防水層は100%劣化しているわけではありません。一部分に問題が発生し雨漏りなどが起きるケースがほとんどです。アスファルト防水ならば、古い防水層の上に下地活性材を塗布して既存層の余命を活かしつつ、新しい防水層を貼り重ねることができます。この下地活性材は塗布するだけで既存層の防水機能のある程度回復・延命させる効果を発揮します。機械的固定式のように、下地に穴を開けて躯体を傷つけることもありません。

かぶせ再生工法のイメージ

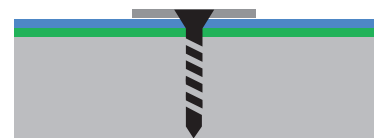


② 機械的固定工法

既存防水層上から下地まで貫通する穴をあけ、新規防水層をビスアンカーとディスクを用いて固定する工法

■メリット

既存防水層の固定強度に依存せず、要求強度に応じた固定力を新たに確保できる。通常下地清掃等を行うだけで、全面的な下地処理は必要ない。



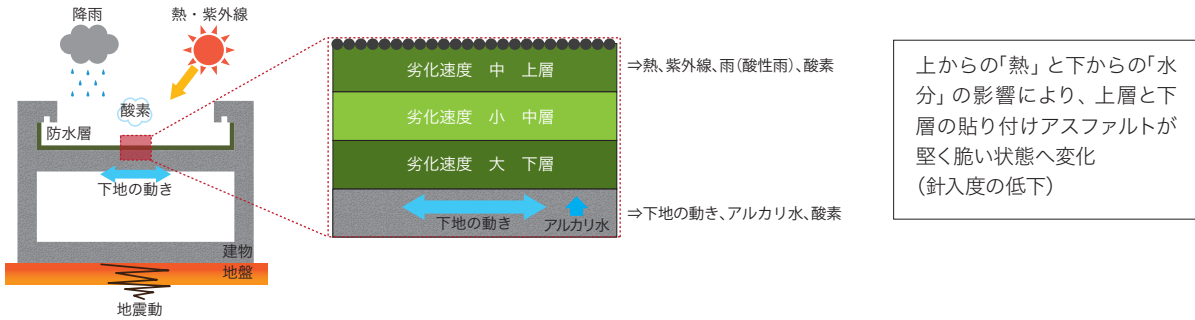
■デメリット

既存防水層に穴を貫通させるため、既存の防水機能はまったく失われ、新規防水層に100%依存することになる。

～下地処理材による耐久性向上効果(露出防水かぶせ改修)～

防水層は水、熱、酸素、オゾン、紫外線、下地の動き等の要因により、上下面より劣化が進行します。

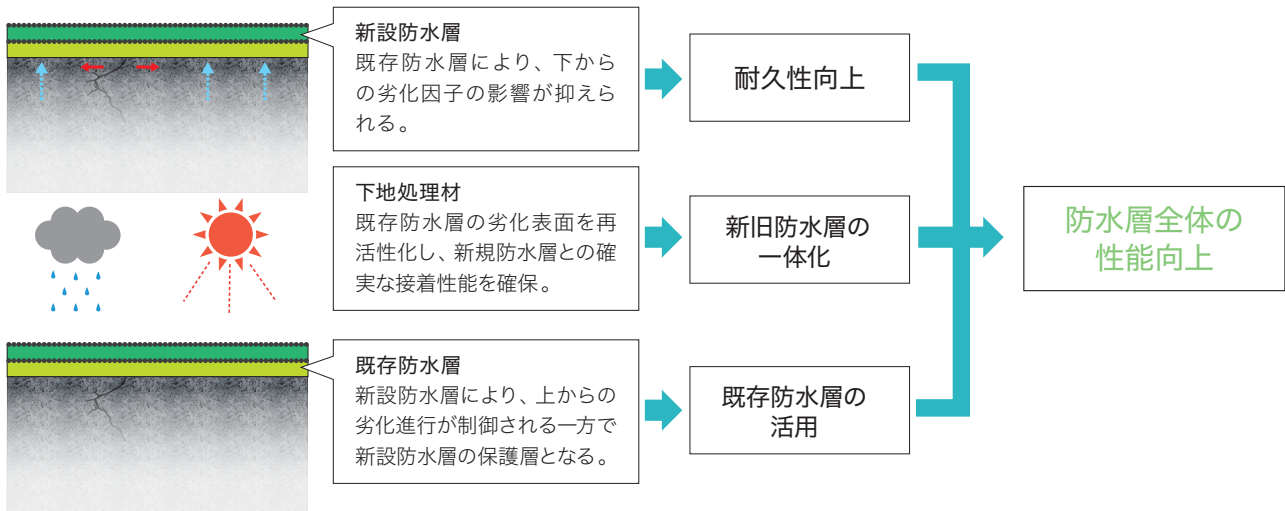
防水層劣化因子イメージ



チェックポイント

アスファルト防水層のかぶせ改修は次の効果を生み出します。

- ①積層数が増加することで、防水層の上下面からの劣化を抑制する。
- ②下地活性化材塗布により、既存防水層の劣化を回復(再活性)させる。

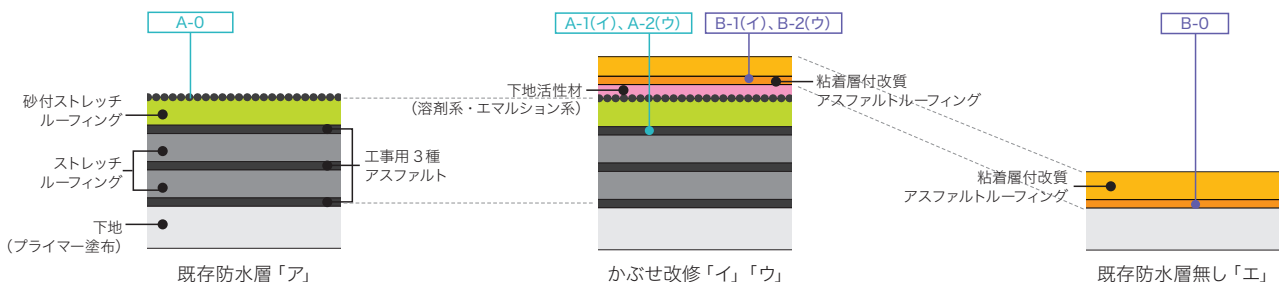


下地(しらす)改修

■下地活性化材による効果検証および新旧防水層の延命効果

- 【試験体】**
- ア：露出3層熱アスファルト防水層を80℃熱劣化4週養生
 - イ：アに溶剤系下地活性化材を塗布後、露出用粘着層付き改質アスファルトシートを貼付け(かぶせ改修)
 - ウ：アにエマルジョン系の下地活性化材を塗布後、露出用粘着層付き改質アスファルトシートを貼付け(同上)
 - エ：下地上にプライマー塗布後、露出用粘着層付き改質アスファルトシートを貼付け

- 【試験方法】** 各試験体に80℃熱劣化を2、4、8、12週間実施後、「ア」の最上層貼付けアスファルト(A-0)と、「イ」の最上層貼付けアスファルト(A-1)、「ウ」の同アスファルト(A-2)、および改質アスファルトーフィング粘着材(B-0、B-1、B-2)の針入度を測定し変化率を求めた。



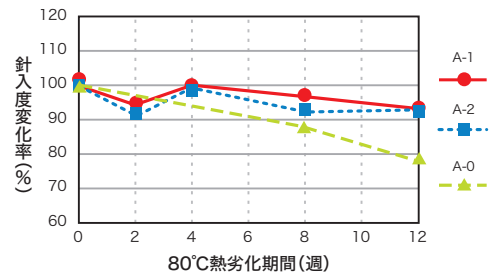
【試験結果】

①最上層アスファルトの針入度変化

(既存防水層の再活性および延命効果)

80℃ 4週間後、試験体「イ」「ウ」の各最上層アスファルト(A-1、A-2)の針入度は一旦上昇した。その後低下に転ずるが、かぶせ無しの「ア」(A-0)に比べ、低下が抑えられていた。

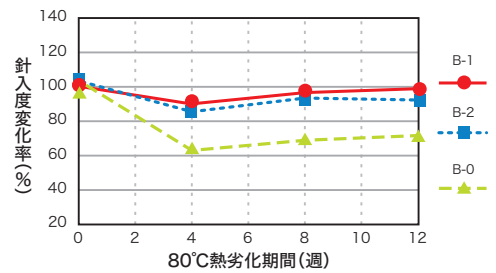
これは下地処理材の再活性効果により、貼付けアスファルトの柔軟性が回復したとみられる。また、新規防水層が上にかぶることで、表面側からの酸素が遮断され酸化劣化が抑制されたと考えられる。



②改質アスファルトシート粘着材の針入度変化

(新規防水層の延命効果)

既存防水層上の改質アスファルトシート粘着材(B-1、B-2)の針入度変化は、既存防水層が無い場合(B-0)に比べ、低い低下率を示した。これは、既存防水層が裏面からの酸化劣化を抑制しているためであると考えられる。

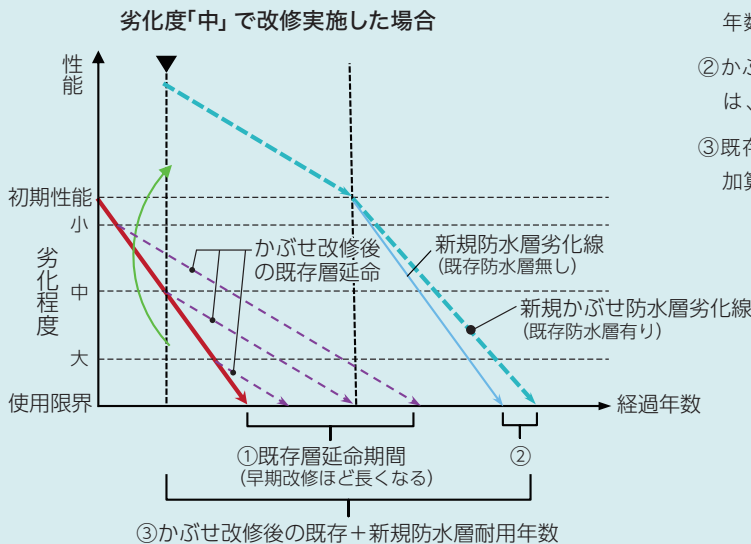


アスファルト系下地処理材を用いたかぶせ改修を行うことで、既存層・新規層ともに延命効果が生じることが確認できました。本工法は機械固定工法と異なり、既存防水層に穴を開けることなく、既存防水層の余命を活かす工法です。

■かぶせ改修による耐用年数の向上

かぶせ改修により、既存防水層および新規改修防水層は、劣化傾向が緩和(延命)されることが確認できた。既存防水層の延命年数は、改修時期(劣化度)により異なってくる。残存余命が長い(=早期改修した)防水層ほど延命年数は長くなる。また、既存防水層は下地活性材により劣化が回復し、新規改修防水層と一体化するため、最終的には既存防水層と新規改修防水層を足し合わせたものがかぶせ改修後の防水層の耐用年数となる。

かぶせ改修の延命効果イメージ図



- ①早期のかぶせ改修により、既存防水層の延命年数は長くなる。
- ②かぶせた場合、新規改修防水層の耐用年数は、既存防水層が無い場合に比べ長くなる。
- ③既存防水層と新規改修防水層の耐用年数を加算する。

下地処理

かぶせ改修においては、下地処理を確実・丁寧に行う必要があります。
適切な下地処理が行われていない場合、新規防水層との接着力を十分に確保できず、施工後に剥離などの不具合が生じる恐れがあります。下地処理の成否が、工事の成果を左右すると言っても過言ではありません。
東西アスでは、下地状況に応じて処理材を選定できるよう「乾式下地処理材」と「湿式下地処理材」をご用意しています。(立上り部、およびドレン廻りは原則撤去とします。)

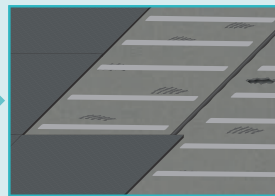
乾式下地処理材

乾式下地処理材

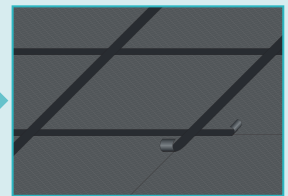
既存露出防水または
保護コンクリート
工程イメージ



既存露出防水層
(砂付ルーフィング)



バリボード PS 貼り
(セメント MS)



目地貼り (バリテープC)

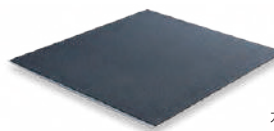
既存保護コンクリート・アスファルト露出防水下地向け

かぶせ改修

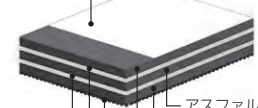
バリボードPS (乾式アスファルトパネル)

- 硬化を待つ必要がない
湿式の下地処理では、十分な乾燥養生が必要となりますが、バリボードは施工後すぐに防水工程に移ることができます。
- 新規防水層がアスファルトの場合に最適
バリボードは素材にアスファルトを用いており、その柔軟性と適度なコシがフラットな新規防水用下地を作ります。アスファルト防水の場合、同質材だろうとなり長期に安定した接着効果を期待できます。
- 優れた通気効果
部分接着で施工するため、既存が保護コンクリートの場合、下地に含まれる残存水分の熱膨張による防水層ふくれが発生しにくいのも特長です。

バリボードPS



保護フィルム

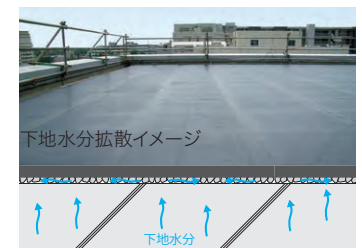


ガラスマット
砂粒

アスファルト+
無機質充填剤
アスファルト

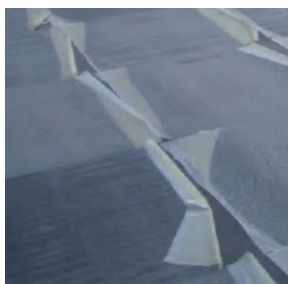


バリテープC



下地水分拡散イメージ

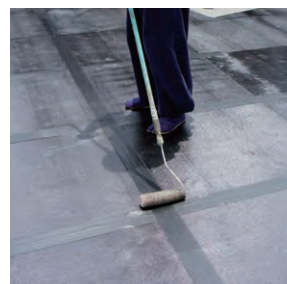
下地水分



バリボードPS貼付け



保護フィルム撤去後、目地部にバリテープC貼付け



転圧



下地処理完了

湿式・乾式の特長

乾式下地処理材

アスファルトに無機質充填材を配合した成型板。寸法安定性に優れ、既存下地から発生する湿気等の拡散移行効果を発揮。乾式のため、貼付け後すぐ次の防水工程に入ることができる。



湿式下地処理材

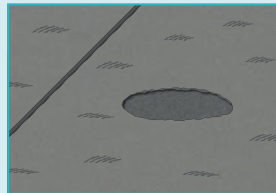
液状の下地処理材。1液性のタイプや、主剤と硬化剤を混合攪拌する2液性反応硬化型タイプ、あるいは樹脂とパウダーを混合するポリマーセメントモルタルタイプなどがある。硬化するまで所定の時間を要する。



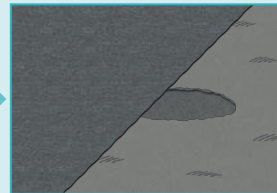
湿式下地処理材



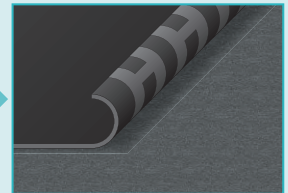
既存露出防水工程イメージ



既存露出防水層 (砂付きルーフィング)



下地活性化材「リベース」塗布



リベース乾燥後、ルーフィング施工

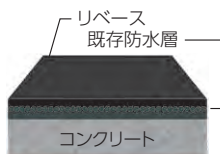
既存アスファルト露出防水下地向け

かぶせ改修

リベース (アスファルト系下地活性化材)

既存アスファルト防水層を活性化し、新規防水層との接着力を向上させる下地処理材。既存アスファルト防水層に相性よくなじみ、下地の挙動や温度変化によるクラックが入りにくくなっています。

プライマーを塗布することなく、新規アスファルト防水層の直接施工が可能です*。



荷姿	適用下地
20kg缶	露出アスファルト防水

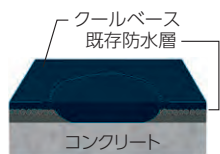
下地の種別・状態	塗布量(目安)
砂付ルーフィング下地	1.2kg/m ²
砂落ちした砂付ルーフィング下地	1.0kg/m ²
粉付(細砂)砂付ルーフィング下地	0.8kg/m ²

※リベース上へのオールコート施工はできません。

クールベース (水性ゴムアスファルト系下地調整材)

荒れた既存アスファルト防水層の断面修復や水溜り不陸調整、砂付面処理にいたるまで、アスファルト関連下地の改修に力を発揮します。

プライマーを塗布することなく、新規アスファルト防水層の直接施工が可能です*。



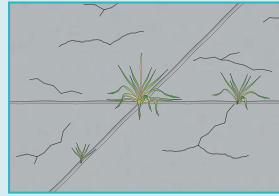
荷姿	適用下地
クールベース : 8kg缶 クールベースパウダー : 16kg袋	露出アスファルト防水

下地の種別・状態	塗布量(目安)
砂付ルーフィング下地	1.4~2.0kg/m ²
水溜り部補修など	最大 30mm厚まで
不陸調整	1回の最大塗布 5mmまで

※オールコートを施工する場合は、OTプライマー A 0.2kg/m²を塗布します。

湿式下地処理材

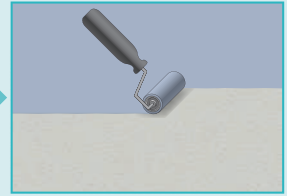
既存保護コンクリート
工程イメージ



既存保護コンクリート



ポリマーセメント「リグレー」塗布



プライマー塗布

既存保護コンクリート下地向け かぶせ改修



リグレー・ネオ (SBR系ポリマーセメントモルタル)

モルタル・コンクリート下地への接着性に優れたポリマーセメントモルタルです。成分中に樹脂被膜が形成され水分の早期蒸発を抑えるため、ドライアウトを起こしにくく亀裂抑制効果を発揮します。リグレー・ネオ上への防水施工は、各防水仕様のプライマーを使用ください。



荷姿	適用下地
リグレー・ネオ：18kg/缶 リグレー・ネオパウダー (厚塗り用/薄塗り用)：各20kg/袋	コンクリート

塗布厚	配合		施工面積
	リグレー・ネオ*	パウダー	
2mm厚以上の調整	4kg	厚塗り用 20kg	約 2.4㎡ (5mm厚)
2mm厚未満の調整	8kg	薄塗り用 18kg	約 14.5㎡ (1mm厚)

※本製品には水を添加しないでください。

リグレーエポ (水性エポキシ系下地調整材)

耐溶剤性・接着性に優れたポリマーセメントモルタルです。硬化が速く、低温時においても翌日には溶剤系材料の施工が可能です。リグレーエポ上への防水施工は、各防水仕様のプライマーを使用ください。



荷姿	適用下地
主剤：4kg/缶、硬化剤：4kg/缶、パウダー：20kg/袋	コンクリート

塗布厚	配合				施工面積
	主剤	硬化剤	パウダー	珪砂(6~7号)	
2mm厚以上の調整	4kg	4kg	20kg	4kg	約 3.2㎡ (5mm厚)
2mm厚未満の調整	4kg	4kg	20kg	—	約 16㎡ (1mm厚)



リグレー・ネオ



リグレーエポ



アスグランド

既存防水層撤去下地向け

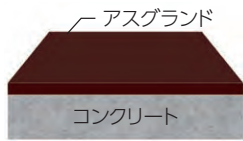
撤去改修



アスグランド〈アスファルト系防水専用仮防水材〉

既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる速硬化タイプの仮防水材です。施工後は短時間で仮防水機能を発現し、硬化後は降雨による流出の心配もありません。アスグランド上には、プライマーなしで新規アスファルト防水の施工が可能*です。

ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を取得しています。



荷姿	適用下地
アスグランド：9kg/缶 グランドパウダー：12kg/袋	防水層撤去後の コンクリート下地等

下地の種別・状態	塗布量(目安)
アスファルト防水撤去面	しごき塗り 0.4kg/㎡ 本塗り 1.0kg/㎡
塩ビシート防水撤去面	
ゴムシート防水撤去面	

※オールコートを実施する場合は、水性プライマーL 0.2kg/㎡、またはOTプライマーA 0.2kg/㎡を塗布します。

既存シート・塗膜防水下地向け

かぶせ改修

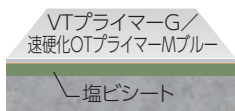


既存：塩ビシート防水

VTプライマーG〈アクリルウレタン系二液硬化型プライマー〉

速硬化OTプライマーMブルー〈一液硬化型仲介プライマー〉

VTプライマーG塗布硬化後に速硬化OTプライマーMブルーを塗り重ねます。



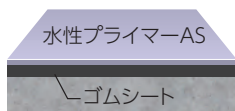
荷姿	適用下地
VTプライマーG 主剤：2kg/缶、硬化剤：4kg/缶 速硬化OTプライマーMブルー 8kg/缶	塩ビシート防水

塗布量(目安)
VTプライマーG：0.1kg/㎡ 速硬化OTプライマーMブルー：0.1kg/㎡

既存：加硫ゴムシート防水

水性プライマーAS〈ゴムアス水性プライマー〉

水性タイプのアスファルト系プライマーです。

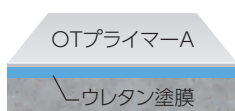


荷姿	適用下地
17kg/缶	加硫ゴムシート防水

塗布量(目安)
0.1kg/㎡

既存：ウレタン塗膜防水

OTプライマーA〈ウレタン系一液硬化型プライマー〉



荷姿	適用下地
16kg/缶	ウレタン塗膜防水

塗布量(目安)
0.15kg/㎡

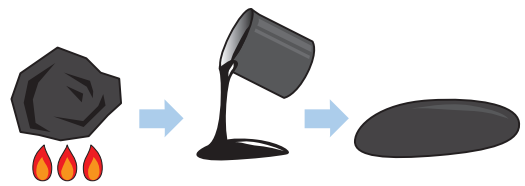
アスファルト防水の特長

材料×工法技術で発展を続けるアスファルト防水 「アスファルト」の性質を増強するルーフィング積層技術

アスファルト防水熱工法は、「アスファルト」素材元来の優れた水密性を積層によって保持・増強する技術を基本に発展してきました。建材としての性能を高める機能追求を繰り返し、世紀を超えて育まれてきた工法です。

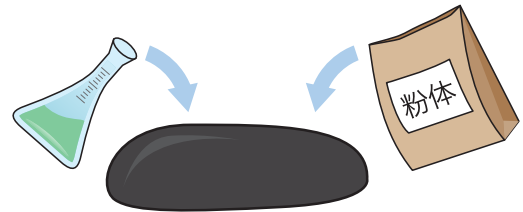
原料となるアスファルト

原油を工場で精製して作られる軟固体状物質で、常温では固体、加熱し高温になると液状になり、常温でまた固体に戻る性質を持っています。この独特の性質がアスファルト防水を生みだしました。



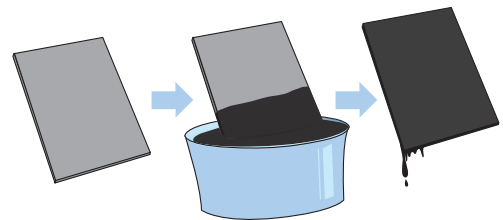
アスファルトコンパウンド

防水工事を目的に、諸材料を添加混合して品質改良されたアスファルト。耐候性・接着性・感温性・弾力性などが向上しています。熱熔融で液状となりルーフィングの接着剤、防水層内の空隙・水みちを塞ぐ充填材としての役割を担います。



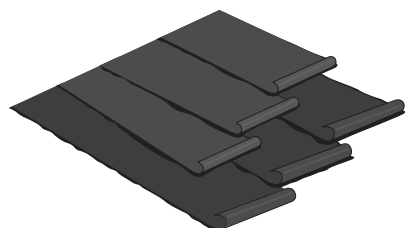
ルーフィング

基材となる紙や合成繊維をアスファルトに浸けて、ロール状に巻き取ったシート。防水層の中核を成し、厚さ確保・耐衝撃・耐破断などの役割を担います。



アスファルト防水層

アスファルト防水は、この(液状)アスファルトコンパウンドと(シート状)ルーフィングの組合せで構成されています。しかもルーフィングの貼付けは1層だけではなく、2層以上貼り重ねることが基本となっています。



アスファルト防水の特長

素材としての「アスファルト」の性質

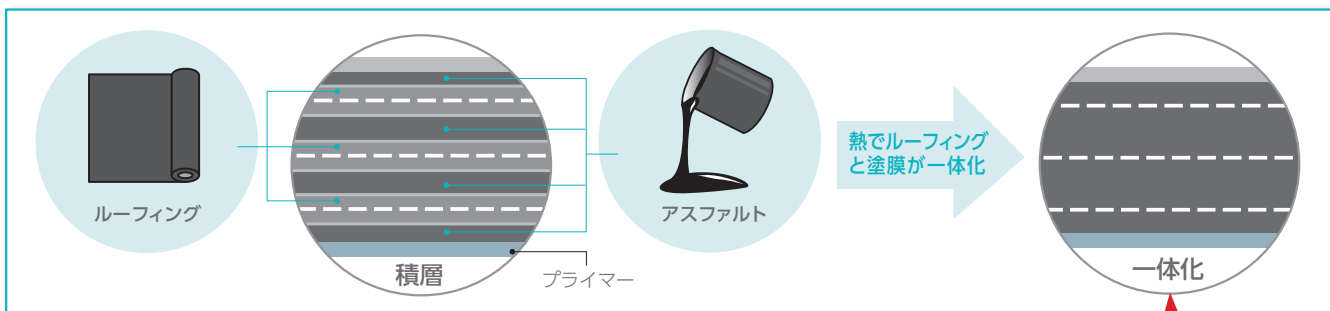
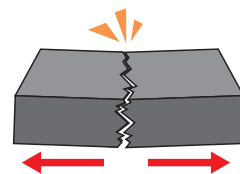
【長所】

- ・高い水密性
- ・何回でも加熱で溶融し、冷えれば固まる
- ・抜群に硬化が速い
- ・長期間の耐久性



【短所】

- ・経年によって、硬く脆くなっていく
- 動きによって破断が生じる



アスファルト防水の基本

アスファルトの塗膜単体では経年と挙動に弱いため、「アスファルト+ルーフィング」を複数積層して、必要な強度を得る。

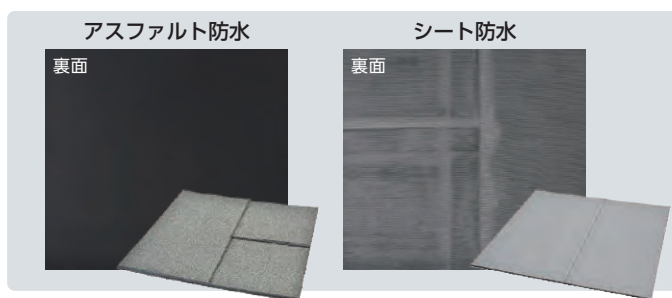
補強の入った厚みのある防水層が隙間なく造膜する



アスファルトによる耐久性に優れたメンブレン防水を形成

防水層を裏側から見ると……

右はシート系防水材の弱点となりやすい3枚重ね部分を透明アクリル板上に施工し、裏面から見た画像です。シート防水は厚み分の空隙(水みち)が生じていますが、アスファルト防水は空隙部分が溶融アスファルトで充填されていることが分かります。立上り際や出入隅角など、空隙が生じやすい部位で、大きな効果が生まれます。



	代表的な工法	長所	短所
定形材 (シート系)	塩ビシート防水 ゴムシート防水	<ul style="list-style-type: none"> ・工場生産で均質な厚み 	<ul style="list-style-type: none"> ・同士の貼り重ね部の接合力 ・接合部の3枚重ね部分や、出入隅角等に空隙が生じやすい
不定形材 (液状系)	ウレタン塗膜防水 FRP塗膜防水	<ul style="list-style-type: none"> ・防水材同士の接合部がなく連続した皮膜を形成。 ・狭い空間も隙間なく充填される 	<ul style="list-style-type: none"> ・下地不陸の影響を受けやすい ・厚みが不均一になりやすい



アスファルト防水はシート系、液状系、それぞれの長所を併せ持つ工法です。

アスファルト防水の特長

～ 耐用年数 (最新の研究とその成果) ～

数十年に渡って採取した1,300件以上の 経年防水層サンプルを分析し、導き出された耐用年数

- 本仕様書に表示する「耐用年数」は、一般的条件の下での施工により形成される防水層自身の寿命としての目安です。
- 「耐用年数」の設定に使用した資料は、実際の現場から採取した、およそ1,300件に及ぶ経年防水層の分析試験を行い、その累積結果を統計処理したものです。
- その中からサンプル数の多い経年数約50年までのデータを抽出し、各回帰線を求めました。
- 経年防水層の分析手法は、総プロットの3次診断とほぼ同じ方法で行い、評価・診断については、総プロットを考え方を基礎として、さらに改良を加えた分析結果を元に「耐用年数」を具体的な数値として設定しています。

※総プロット: 昭和55年度から5年間にわたり実施された建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の耐久性向上技術の開発」の略称。

防水層の耐用年数

● 針入度と熱劣化(促進試験)

- ① 経年防水層の分析結果からアスファルトの針入度を評価項目として防水層の「劣化度区分」と「判断基準」を(表-1)と(表-2)に示します。

針入度とは…アスファルトのかたさを示す指標で、アスファルトが軟らかければ針入度は大きな値を示し、劣化によってかたくなると針入度の値は小さくなります。

- ② 耐用年数と劣化度との関係: 劣化度1と劣化度2の境界域1.5を耐用年数とします。
- ③ 平均劣化度の算出: 経年数別に各試料の劣化度を判定し、その総和を試料数で除した値をその経年数の平均劣化度とします。
- ④ 「平均耐用年数」の設定: 経年数に対する平均劣化度の変化をグラフにプロットし(▲)、全プロットの平均を表わします。回帰直線(A)と劣化度1.5との交点を「平均耐用年数」として設定します。
- ⑤ 「耐用年数の幅」の設定: 耐用年数は防水仕様のグレード等により年数に幅を生じます。ここでは、その標準的な幅について設定します。グラフ1及びグラフ2で直線(A)より左に位置するプロット(■)を回帰直線(B)で、右に位置するプロット(◆)を回帰直線(C)で表わし、それぞれの劣化度1.5との交点で示される範囲を耐用年数の幅とします。

【表-1】

評価事項	劣化度区分			
	3	2	1	0
アスファルトの針入度	全層 ≤ 5	5 < 最良の1層 < 10	1層以上 > 10	全層 ≥ 10

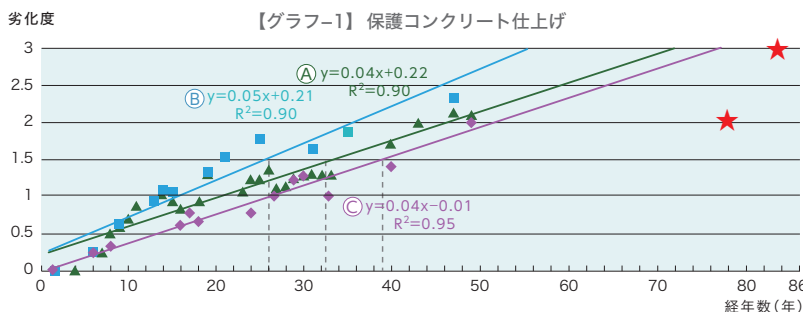
【表-2】

劣化度	判定基準	漏水時の処置
3	余命なし(耐用限界超過)	即時全面改修
2	余命なし(耐用限界にある)	応急処置後全面改修
1	やや余命あり	部分補修で短期延命
0	十分余命あり	部分補修で中期延命

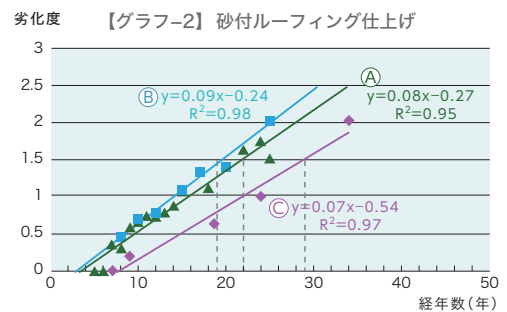
耐用年数 = 劣化度 1.5 に達する経年数

【表-3】

防水層	平均耐用年数	耐用年数の幅	グラフ
保護コンクリート仕上げ	32年	26年～38年	1
砂付ルーフィング仕上げ	22年	19年～29年	2



★について…経年数78年および84年の防水層データ。このデータからは、50年までの回帰線より良い傾向が見える。(サンプル数が少ないため、回帰線A、B、Cには反映していません)



- 本カタログで表示する「耐用年数」は、一般的条件の下での施工により形成される防水層自身の寿命としての目安です。
 - 「耐用年数」の設定に使用した資料は、実際の現場から採取した、およそ1,300件に及ぶ経年防水層の分析試験を行い、その累積結果を統計処理したものです。その中からサンプル数の多い経年数約50年までのデータを抽出し、各回帰線を求めました。
 - 経年防水層の分析手法は、総プロットの3次診断とほぼ同じ方法で行い、評価・診断については、総プロットを考え方を基礎として、さらに改良を加えた分析結果を元に「耐用年数」を具体的な数値として設定しています。
- ※総プロット: 昭和55年度から5年間にわたり実施された建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の耐久性向上技術」の略称。

地味な作業から導き出されたアスファルトの高耐久化

アスファルト防水の歴史は長く、日本国内でも100年以上にわたり建築防水の軸として使われていることから、実際の現場で数十年を経た防水層の採取が可能で、改修や建物調査の機会にこのような経年防水層を採取・分析する地道な研究を、長きにわたり続けています。(写真:築70年を経た建築物屋上-都内某庁舎-での防水層採取・分析作業)



保護層撤去



防水層切取り



アスファルト採取



劣化判定(針入度測定)

建物全体の計画に合わせた防水更新計画を組む

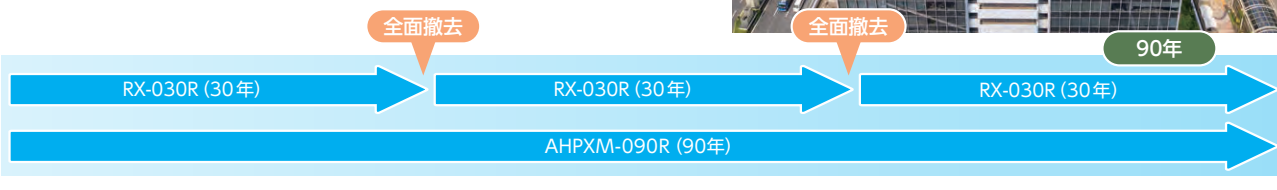
仕様毎に耐用年数が明示されているアスファルト防水だからこそ、長期的な視点で『その建物にとって』の最良を選択していただくことが可能です。ここではその一例をご紹介します。

複合ビルの場合

- 屋上は、設備が密集していて、メンテナンスが困難

- ・高耐久仕様：新築時AHPXM-090R(90年)
- ・汎用仕様：新築時PX-030R(30年)
2回目以降PX-030R

※()は耐用年数

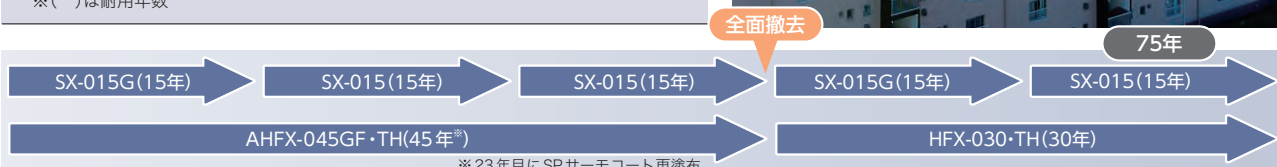


集合住宅の場合

- 長期修繕計画に基づく、定期改修を計画
- タイル点検も法定点検で実施
- 漏水事故発生時には、迅速な修繕が必要

- ・高耐久仕様：新築時AHFX-045GF・TH(45年)
2回目以降HFX-030・TH(30年)
- ・汎用仕様：新築時SX-015G(15年)
2回目以降SX-015、015G(15年)

※()は耐用年数



※23年目にSPサーモコート再塗布

SX-015は既存断熱材上に配置されるため、耐用年数5年短縮

アスファルト防水の特長

建物密集地での防水工事に活躍するコンビ

材料と工具、この両者を組合せて使用することが、煙・臭いの問題を解決に導きます。密集地での防水工事において、頼りになるコンビです

加熱型改質アス塗膜防水材
(プライムタイト)
低煙・低臭アスファルト
(アスタイトM)



低煙・低臭溶融釜
(ACS、クリンケトル)



●低臭・低煙

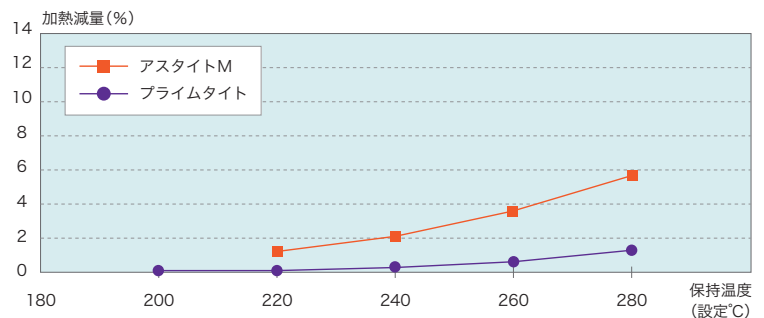
プライムタイト、アスタイトMは共に溶融時の臭い・煙の発生を大幅に軽減した材料です。さらに電気式溶融釜「ACS」、自動温度制御釜「クリンケトル」と組合せることで、施工現場での低臭・低煙化は大きく前進します。

●安全管理(溶融釜)

ACSは火を使わない電気式ですので、火災の心配がありません。クリンケトルは燃料供給タンクを釜本体と一体化しており、作業中に燃料ホースにつまづく危険を払拭しました。

溶融時の発煙・臭気

アスファルトの煙にはオイルミストが多く含まれています。オイルミストの発生量は加熱減量で測定できます。溶融時の加熱減量をグラフで比較すると、右記のような結果になりました。施工温度上限において、アスタイトM、プライムタイトは、低い範囲に収まっていることがわかります。



温度管理と発煙量

プライムタイトを施工に適した温度で溶融、アスタイトMは適温と過加熱で溶融し、それぞれの発煙量を比較しました。特に過加熱をした場合に発煙量が増加する(アスタイトM)ことが見てとれます。防水材の性能を十分に発揮させるには、溶融温度を適切に管理することが大切です。

1
プライムタイト
適温 240°C



2
アスタイトM
適温 260°C



3
アスタイトM
過加熱 300°C



発煙量の
比較動画(20秒)
はこちらから



溶融釜 (電気溶融タイプ)

電気式溶融釜

ACS (アスファルトコンテナシステム)/ミニACS

ACSは200V交流電源を使用する電気式溶融釜で、次の効果を生み出します。

- ①施工現場での裸火使用がなくなる。
- ②温度管理が自動で行える。

裸火を使用せず、温度管理が自動となったことで、常時必要だった釜専任者が不要となり、大幅な省力化を実現しました。

※ミニACSはエレベータで荷揚げ・荷降ろしができるコンパクトサイズです。(現場にて事前寸法確認が必要)

※ACSの規格等については163ページをご覧ください。



ACS

ミニACS

ACS (アスファルト コンテナ システム) は 200V 交流電源を使用する電気釜。密閉式コンテナ内で溶融することで、煙や臭いがほとんど外部へもれません。溶融温度を自動管理できるため、釜専任者を常時配置する必要もなくなりました。



電源(200V)を活用した電気式



デジタル表示による温度管理

溶融釜 (温度制御機能付きバーナータイプ)

燃料タンク一体式自動温度制御機能付き溶融釜 クリンケトル 300L

1. 温度制御機能により、260°C超でバーナーが自動消火。過加熱による煙・臭いの発生を抑え、火災事故などを未然防止します。
2. 燃料タンクを本体と一体化し、安全性を向上させました。



自動温度管理機能付きバーナー BOX バーナー EA II

1. 釜のサイズに関係なく、炎を大～小まで容易に調節可能。
2. 自動着火し、温度センサーにより自動温度制御が可能。
3. バーナーに燃料吸引ポンプが内蔵されているため、安全性が向上。



炎吹出口



温度制御盤



※溶融釜の規格については163・164ページをご覧ください。

各工法紹介

BANKS工法

— Builtup Asphaltroofing Non Kettle System —

溶融釜を使用しないアスファルト防水

ノンケトル冷熱併用工法

BANKS工法は、ルーフィング表面を炙ることでアスファルトの溶け溜まり(=バンク)を現出させつつ、上層ルーフィングを流し貼ります。釜を使わないため煙・臭いも少なく、工具の荷揚げ降しが簡単にすむなど、多くのメリットがある工法です。



1. 溶融釜を用いずに、熱工法と同等の水密性を得られます。
2. 煙・臭いがほとんど発生しません。
3. 釜番不要、施工者1名で済む、省力化工法です。

チェックポイント

各工法紹介

作業人数が削減できる省力化工法

溶融釜を用いる従来の熱工法では、釜番=1名、施工者=2名(押し手、流し手1名ずつ)が施工に必須でした。BANKS工法では釜番=0名、施工者=1名となり、最小人員で施工が可能です。省力化に大いに貢献する工法です。

熱工法

釜番：1名



合計3名

施工者：2名



BANKS工法

釜番不要、施工者：1名



合計1名

使用する材料量が削減できる

BANKS工法は(財)日本建築センターの建設技術審査証明を取得しています。これは、公共建築標準仕様書のアスファルト防水熱工法と同等以上の性能を有することを証明するものです。

BANKS工法は同等性能を持つ標準仕様に比べて使用する材料が大幅に少なくて済みますので、荷揚げや材料置き場の確保など工事現場の制約に左右されにくく、よりスピーディーに工事を進行できます。



BANKS (JSX-020)

D-1仕様



技術審査証明取得:
11ページをご覧ください。

「BANKS工法」と改質アスファルトシート防水「トーチ工法」との違い

BANKS工法と同じような施工をする工法に、改質アスファルトシート防水(トーチ工法)があります。国土交通省の仕様で改質アスファルト系シート防水と分類されるトーチ工法は、シートの裏面をバーナーの炎であぶり、溶けたアスファルトを単なる接着剤として利用する工法です。防水層全体の水密性を向上させるために十分な量のアスファルトを溶かしルーフィング間に充填し積層防水層を形成するという従来の熱工法やBANKS工法とは、理論的に相違があります。

溶け出しアスファルトの違い

BANKS工法



改質アスファルトシート防水・トーチ工法



動画でその違いを
ご確認ください。
(約25秒)

「強力バンクルーフ」の表面には溶融性の高いアスファルトがコーティングされており、トーチ工法用ルーフィングと比べて溶け出しアスファルトの量が多く、バンク(アスファルト溜まり)を容易に形成できるため、水密性の高い防水層を形成できます。

BANKS工法用灯油バーナー

エアークOMPRESSORから灯油タンクにエアを送り、その圧力を利用して灯油とエアを同時にバーナーノズルに送ります。ノズルから灯油が霧状に噴出され、気温の低い冬季でも強い火力が安定的に発生します。燃料に灯油を使用することで、一般的なLPガスバーナーと比べて燃料調達を容易にし、燃料費のコストダウンを実現しました。(COMPRESSORは別途ご購入ください)

入手が容易で、
費用も割安な灯油式



立上用灯油バーナー

各工法紹介

ストライプ工法

冷熱併用工法

ストライプ状粘着層のルーフィングの開発・発売から30年余。本品を中核に据えた冷熱併用工法は、今やアスファルト防水のスタンダードと言えるほどになりました。使用する防水工事用アスファルトの物性改良と工具の進化で、低煙・低臭化は日々進歩を遂げています。



1. ストライプ状粘着層により、安定したフクレ防止機能を発揮。
2. 改質アス粘着層による軟接着が下地挙動に追従し、防水層への負担を軽減。
3. 省層化により、省力化とCO₂発生量削減を実現。

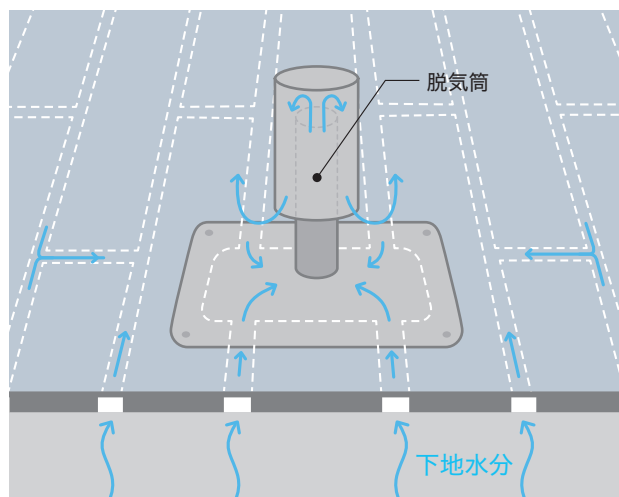
技術審査証明取得:11ページをご覧ください。

通気システム：部分接着と脱気筒による、通気効果

下地となるコンクリートには必ず水分が含まれています。乾燥と共に、これら水分がコンクリート表面近辺に集まり、これが太陽熱によって温められ気化して水蒸気になると体積が大幅に増え、膨張して逃げ場を求めます。その圧力が防水層と下地との接着力を上回るとフクレ現象を招きます。コンクリート内の残存水分を無くしてから防水工事を行えばよいわけですが、これには長期の乾燥時間を要するため、現実的ではありません。

そこで、最下層のルーフィングを部分接着し、未接着部分を水蒸気が拡散・移行することでフクレを目立ちにくくする手法が取られてきました。官公庁仕様では、穴あきルーフィングなどが部分接着用として採用されています。

ただし、部分接着工法はフクレを目立ちにくくする効果はありますが、水蒸気は依然として防水層下に閉じ込められているわけで、これらを外部へ放出する方法が登場しました。立上りあるいは平面に脱気筒を立て、移行してきた水蒸気がそこから外部へ逃げる仕組みです。現在露出防水では、この通気システムの採用が一般的となっています。



【下地水分：通気～排出イメージ】

エコフィット工法

冷工法

粘着層付ルーフィングで構成された、防水工事用溶融アスファルトを使用しない工法です。大型火器、大型工具を用いることなく施工が可能です。充実した副資材を用意していますので、施工部位や施工状況に適応したものを選択し、施工できます。



1. 全層改質アスファルトルーフィングを採用した積層工法です。
2. 粘着層による下地追従性に優れています。
3. 漏水の危険個所である出入隅や配管回りなどの複雑部位を納めるための副資材が充実しています。

エコフィットを支える脇役たち

防水のポイントとなるルーフィングのラップ(重ね) や、出入隅角、配管廻りなどの複雑部位を納めるのに欠かせないのが副資材です。エコフィット工法では、熱溶融施工する改質アスファルト系の「ガムホット」、変成シリコン系の「GCライン」、延伸性のある「エンシンシート」などを用意しています。これらの脇役たちがエコフィットの確かな防水機能を支えています。

ガムホット



ガムホットサーバー



GCライン



エンシンシート



各工法紹介

アスポット工法

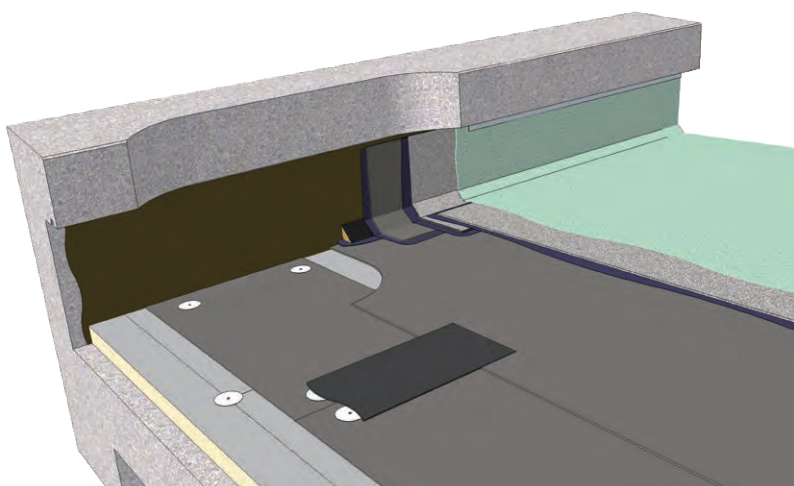
機械的固定併用熱工法

アスポット工法は、熱アスファルト防水と平面部1層目を機械的固定にて設置、平面部2層目および立上りを熱工法で施工する工法です。

アスファルトの特性の一つである積層を用いることで、機械的固定工法の不安な点、特に端部の水密性について解消した工法です。

チェックポイント

各工法紹介



アスレイヤ水性工法

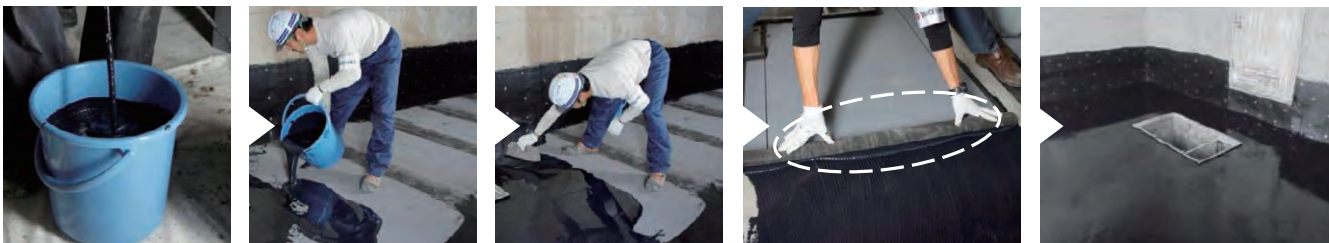
改質アス常温複合工法

アスレイヤ水性工法は、水性タイプの塗膜防水材を用いた常温複合工法です。

水性主体の材料なので、屋内での使用に最適です。

反応タイプの硬化剤を用いたことで、通常の水性塗膜材に比べ速く硬化し、工期を短縮します。

▶ アスレイヤ水性工法工程イメージ



柔らかいシートは納まりよく、表面が白色なので塗膜材(黒)の端部ハミ出し確認が容易です。

■ 状況によって選べる3つの硬化剤

反応硬化を利用することで通常の水性塗膜材より工程時間を短縮。現場環境や温度状況に応じて、3種類用意された硬化剤の中から、最適なものを選択します。

硬化剤	速硬化			標準			夏用		
温度	5°C	23°C	35°C	5°C	23°C	35°C	5°C	23°C	35°C
可使時間	40分	20分	5分	180分	35分	15分	—	120分	40分
硬化時間*	12時間	5時間	5時間	24時間	6時間	5時間	—	18時間	5.5時

※2kg/m²を施工した場合。

DIPS構法

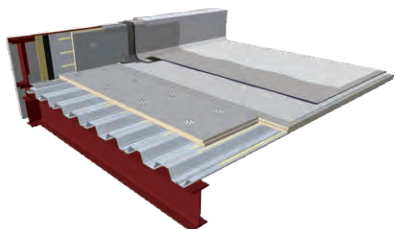
耐火認定ルーフデッキ下地防水構法

屋根30分耐火認定を取得した金属ルーフデッキ上に、直接断熱材と防水層を施工する、下地+断熱防水の構法です。断熱性能をしっかりと確保しつつ、屋根を軽くできる、工期が短縮できる、などのメリットがあります。



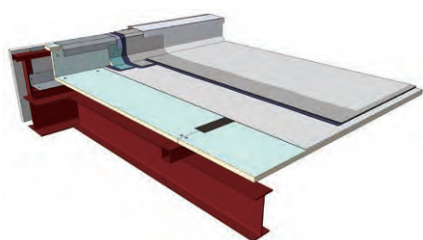
1. 耐風圧性確保のため、薄いデッキプレート上への固定力を十分考慮した専用ビスや接着剤。
2. 結露発生原因となる熱橋を防止する充実した副資材。
3. ルーフデッキ下地に適した形状の専用ドレン(DIPSドレン・HTドレン)を用意。
4. 既存「ルーフデッキ+塩ビシート防水」向けの改修専用工法(R-DIPS)も用意。

HTシステム



溝型デッキ下地向けの構法として、断熱性能を十分発揮できるよう熱欠損を最小限に抑える様々な工夫を凝らしています。

YPシステム

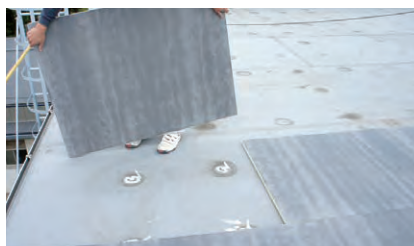
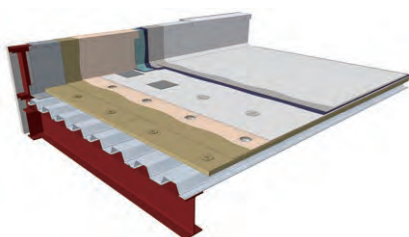


下地と断熱を兼用する屋根30分耐火認定を取得したYPパネルを用いた構法です。屋根の大幅な薄層・軽量化が可能です。



YPパネル

R-DIPS



既存ルーフデッキ+塩ビシート防水を改修するオリジナル工法です。独自の部材と手法を用いて、店舗などで営業を続けながらの改修も可能にしました。

詳細はDIPS構法各カタログ(HTシステム、IRシステム、YPシステム、R-DIPS)を参照ください。

各工法紹介

シングル

勾配屋根用防水システム

「シングル」は、ガラス繊維基材にアスファルトを含浸し、表面を彩色焼成砂や天然スレート砂で仕上げた屋根材です。その葺き上がりはいわゆる「一文字葺き」と呼ばれ規則正しい端正な縦目地の意匠として屋根を演出します。



1. 柔軟性があり、曲面や複雑形状の屋根にもしっかり対応。
2. 下葺材には粘着層付改質アスファルトルーフィングを採用し、安心の防水性。
3. 国土交通大臣による防火(飛び火)認定を取得しています。

■ロフティー



ロフティーの特長

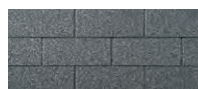
- 天然大粒スレート碎石の意匠
天然の大粒スレート砂を用いた高級シングル。
経年するほどに天然スレート砂の風合いが生きる屋根材です。
- 高耐久
シングルと比べ約40%厚く、耐用年数25年を実現した高耐久品。
(非断熱仕様の場合)

※受注生産品

本体形状 915mm (厚さ: 約4mm)



305mm



LA-1 ロイヤルブラックII



LA-4 メッドブラウンII*



LA-5 アーハングレー*

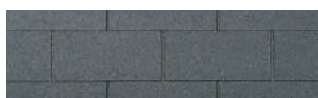
■ シングル



シングルカラーバリエーション

光触媒シリーズ

光触媒効果のある焼成彩色砂を配合して仕上げたシリーズ。防汚性に優れています。



SC-501 シルキーグレー*



SC-502 カシスブラウン*



SC-505 ハイブリッドホワイト*



高反射 SC-701 グランホワイト*

一般焼成彩色砂シリーズ



SA-8 アンティークグリーンII



SA-12 パイングローブII



SA-310 パイニーブラウンII



SA-330 クラシックレッド



SA-402 ディープブルー*



SA-200 ブラックスワンII



SA-320 ブライトグレー



SA-401 リッチブラウン*



SG-601 クロスグレー*

本体形状 915mm (厚さ: 約 2.8mm)

305mm



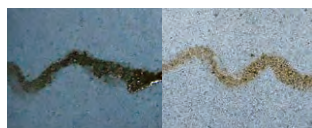
※受注生産品

- 光触媒シリーズは価格が割高となります。
- 高反射タイプ(SC-701)はさらに割増となります。
- 各色は印刷のため、現物との差異があります。

防汚

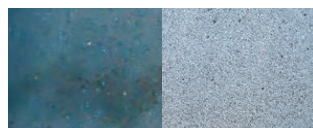
光触媒シリーズは、光触媒効果のある焼成彩色砂を配合して仕上げています。光触媒とは光があたると触媒作用(化学反応の速度を変えること)を発揮するもので、その代表的な機能としてセルフクリーニング(汚れ除去)効果があります。

試験開始日



一般砂付ルーフィング

7日経過



一般砂付ルーフィング SC-701

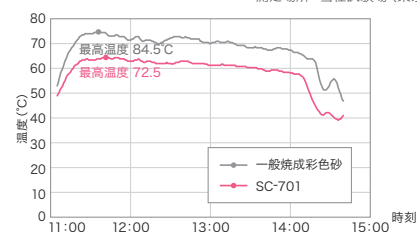
遮熱

SC-701(グランホワイト)の表面砂は太陽光を反射する白色仕上げ。屋根の温度上昇を抑制し、防水シートの耐久性向上に寄与します。

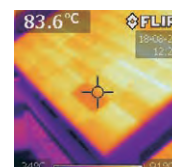
防水層の温度推移比較

測定日: 2019年8月9日

測定場所: 当社試験場(東京都内) 最高気温: 35.6°C



サーモグラフィ画像



詳細は別冊カタログ(シングル 勾配屋根用防水システム)を参照ください。

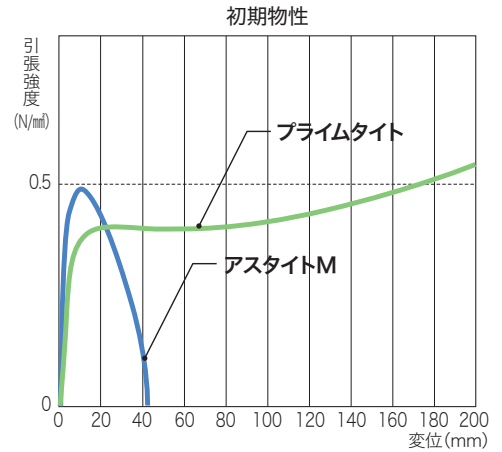
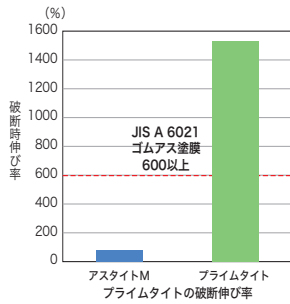
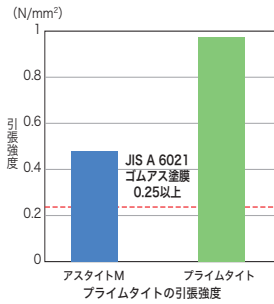
技術資料(工法)

プライムアス工法

プライムタイトの塗膜性能

■引張試験

試験条件: JIS A 6021(建築用塗膜防水材料)に準拠
 試験体形状: ダンベル2号(幅 10mm、厚み 2mm)
 試験速度: 500mm/分 試験温度: 20°C



プライムタイトは、JIS K2207-3種アスファルトのアスタイトMをはるかに凌駕する引張性能を有しています。

プライムタイトの耐候性能

■促進老化試験

試験方法: 促進老化試験機(キセノンウェザーメーター)
 試験条件: 51-9C法(ASTMに準拠)
 「51分間Dry(試験体温度 60°C)-9分間Wet」
 下地に対してプライムタイト、アスタイトMを2mm厚で塗工し表面状態を評価

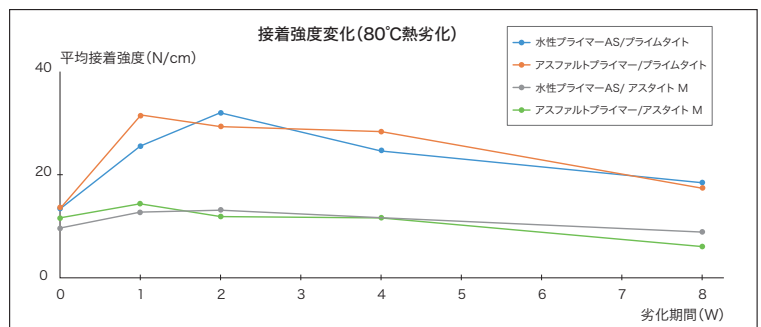
劣化期間	部位	プライムタイト	アスタイトM
2000時間	全体		
	拡大		

プライムタイトはアスタイトMのような亀裂が発生しておらず、耐候性に優れていることが確認できました。

下地とプライムタイトの接着性能

■接着試験

試験方法: 180度ピール試験
 劣化方法: 80°C熱劣化 1~8週間
 各種プライマーとプライムタイト、アスタイトMで比較



プライムタイトは各種プライマーとの組み合わせで、アスタイトM以上の接着強度を維持できることが分かります。

プライマス工法のずれ・垂れ性能

■ ずれ・垂れ試験

試験方法: JASS 8T-501-2014

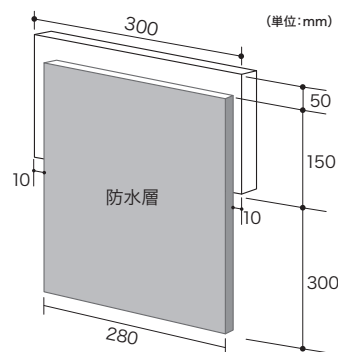
「メンブレン防水層の性能評価試験表」ずれ・垂れ試験に準拠


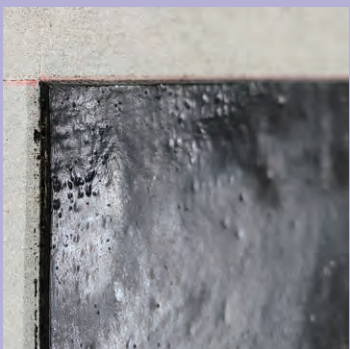
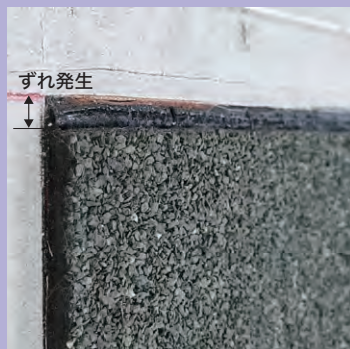
60°C中に 168 時間静置し防水層のずれを評価

試験体形状: B型(右図参照)

劣化条件: 初期、80°C-16週

区分	試験結果
ずれ・垂れ 1	3体のうち1体でも1mm以上のずれまたは垂れを乗じた場合
ずれ・垂れ 2	3体のうち1体でも1mm未満のずれまたは垂れを乗じた場合
ずれ・垂れ 3	3体とも異常がなかった場合



仕様	プライマス工法		従来熱工法(参考)
	FRAT仕上げ 砂付仕上げ	保護仕上げ 塗膜仕上げ	砂付仕上げ
	HPV-035S/HFV-045(G,GF)/ HFV-030(G,GF)/ HSV-025(G,GF)/RHFV-015	HPV-060/HPV-035(T) HFV-030(T,GT,GFT)/ HSV-025(T,GT,GFT)/HIV-025/ RHFV-015T	SV-015ほか (貼付け材: アスタイトM)
評価区分			
初期	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 1
80°C-16週	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 1

各種立上り仕様において、初期、80°C劣化後ともに、ずれ・垂れ性能は区分3となり、良好な結果を示しました。
※従来熱工法(貼付け材: アスタイトM)は区分1となり、押え金物設置が基本となります。

プライムタイトは耐候性、接着性、ずれ・垂れ性能において優れているため、立上り端末部押え金物を用いない納まりが可能です。

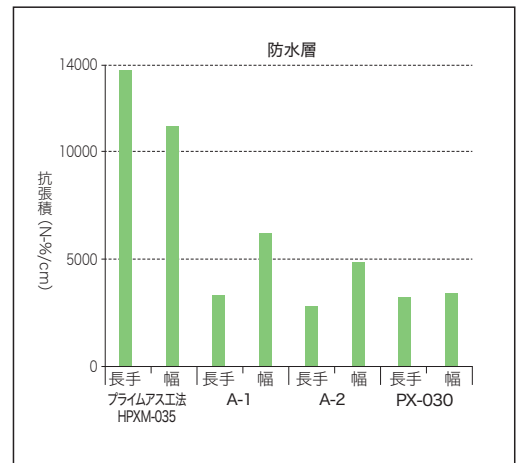
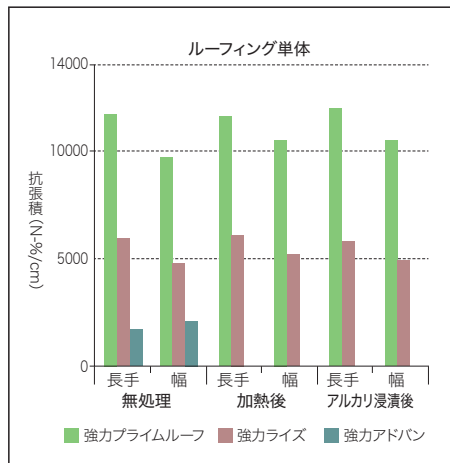
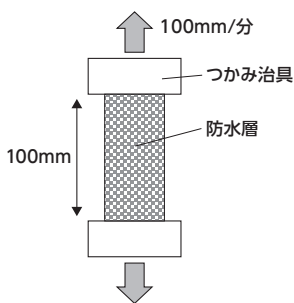
技術資料(工法)

プライムアス工法

ルーフィングと防水層の機械的強度

■引張試験

試験条件：JIS A 6013(改質アスファルトルーフィング)に準拠
 試験体形状：長さ 200mm、幅 50mm
 試験速度：100mm/分 試験温度：20°C



プライムアス工法は公共建築工事標準仕様の A-1,A-2 および東西アス 2 層仕様の PX-030 と比較しても同等以上の機械的強度を有しています。

下地の挙動に対する防水層の性能

■疲労試験 (JASS8 T-501-2014「メンブレン防水層の性能評価試験表」繰り返し疲労試験に準拠)

サイクル条件：1ステップ(=1ムーブ3分×500回)×9ステップ

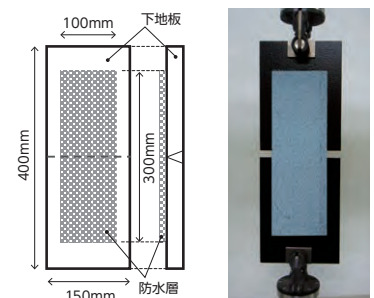
試験工程：下工程表に沿って実施

評価方法：試験終了後、亀裂幅を5.0mmに拡大した状態で、防水層に破断*発生の有無を確認する。

*破断とは、表から裏に貫通する穴が発生した場合を指します。

●試験工程

ステップ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
温度(°C)	20	60	-10	20	60	-10	20	60	-10
ムーブ(mm)	0.5 ↔ 1.0		1.0 ↔ 2.0			2.5 ↔ 5.0			



●評価区分

区分	試験結果
疲労1	工程1で1体でも破断
疲労2	工程2で1体でも破断
疲労3	工程3で1体でも破断
疲労4	工程3で3体とも破断しない

●試験結果

仕様	破断の有無	評価結果
プライムアス工法 HPXM-035	無し	4
公共建築工事 標準仕様	A-1 最下層アスファルトルーフィングの破断 上塗りアスファルトの亀裂	4
	A-2 最下層アスファルトルーフィングの破断 上塗りアスファルトの亀裂	4

プライムアス工法は高伸度のルーフィングとアスファルトを組み合わせることで下地の動きに追従し、防水層破断防止効果を発揮しています。

レイヤオール工法

オールコートの耐久性

■ダンベル引張試験(JIS A 6021に準拠)

ダンベル状の試験体を引張試験機に取り付け、速度500mm/分で試験片が破断するまで引張ります。

最大荷重および破断時の変位置、破断時の標線間距離から、引張強さ、各伸び率を求め、80℃養生処理実施後、60℃アルカリ温水処理後、それぞれ初期値との差を比較しました。

※値は初期比%



80℃養生	平面部用				立上り用			
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	89	95	100	100	100	107	108
標線間の伸び保持率(%)	100	101	106	110	100	115	114	120

60℃アルカリ温水	平面部用				立上り用			
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	103	131	100	100	114	120	104
標線間の伸び保持率(%)	100	119	146	110	100	117	125	131

オールコートは各劣化処理においても、初期比約90%以上の耐久性を維持しています。

オールコートの耐候性

■耐候性試験

砂付ルーフィングをオールコート、および工事用3種アスファルトで貼り付けた試験体を、促進老化試験機(キセノンウェザーメーター)に入れ、ラップはみ出し部の塗膜上の劣化後の外観を観察。

劣化条件

キセノンウェザーメーター(スガ試験機)、
BP温度=63℃、
120分の中100分ランプ照射、20分水噴霧。
※右は168時間後の状態

	オールコート(平面部用)	防水工事用3種アスファルト
保護塗料塗布		
保護塗料無し		

オールコートは防水工事用3種アスファルトと比較して、良好な結果を示しました。

技術資料(工法)

レイヤオール工法

レイヤオール工法のずれ・垂れ性能

■ ずれ・垂れ試験

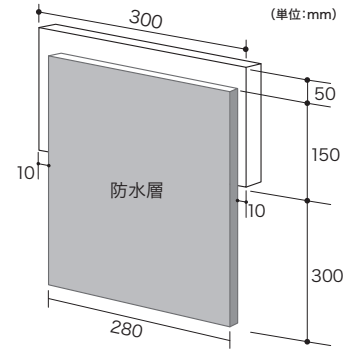
試験方法: JASS 8T-501-2014

「メンブレン防水層の性能評価試験表」ずれ・垂れ試験に準拠

60°C中に 168 時間静置し防水層のずれを評価

試験体形状: B型(右図参照)

劣化条件: 初期、80°C-16週



区分	試験結果
ずれ・垂れ 1	3体のうち1体でも 1mm 以上のずれまたは垂れを乗じた場合
ずれ・垂れ 2	3体のうち1体でも 1mm 未満のずれまたは垂れを乗じた場合
ずれ・垂れ 3	3体とも異常がなかった場合

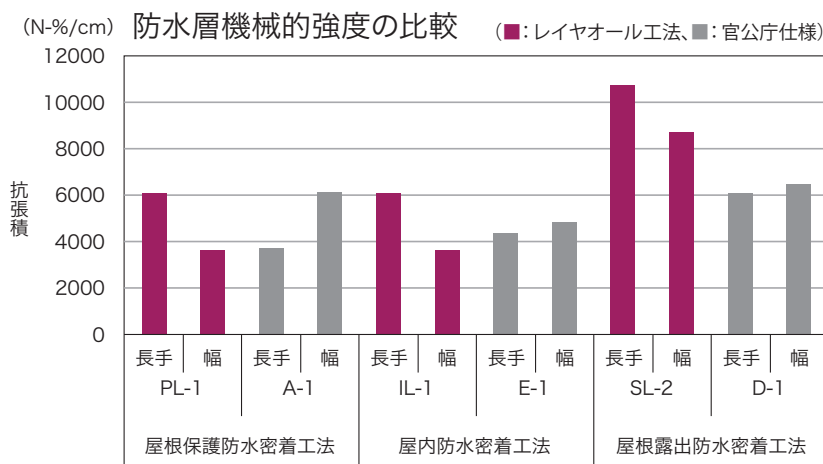
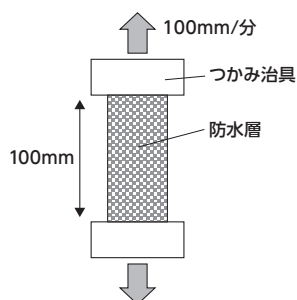
仕様	レイヤオール工法		従来熱工法(参考)
	保護仕上げ 屋内仕様	露出塗膜仕上げ	砂付仕上げ
	PLV-T,H/PLV-2B,1B ILV-H,2B,1B	SLV-T,1BT FLV-T,1BT	SV-015ほか (貼付け材: アスタイトM)
評価区分			
	初期	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 3
80°C-16週	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 3	ずれ・垂れ 1

各種立上り仕様において、初期、80°C劣化後ともに、ずれ・垂れ性能は区分3となり、良好な結果を示しました。
※従来熱工法(貼付け材: アスタイトM)は区分1となり、押え金物設置が基本となります。

防水層の機械的強度

■引張試験(JIS A 6013に準拠)

試験体を引張試験機に取り付け、速度 100mm/分 で試験片が破断するまで引張ります。
最大荷重および破断時の変位量を求め、抗張積を計算します。



レイヤオール工法はシートと塗膜材を併用することで、公共建築工事標準仕様と同等以上の抗張積を確保しています。

下地の挙動に対する防水層の性能

■疲労試験(JASS8 T-501-2014「メンブレン防水層の性能評価試験表」繰り返し疲労試験に準拠)

サイクル条件：1ステップ(=1ムーブ 3分×500回)×9ステップ

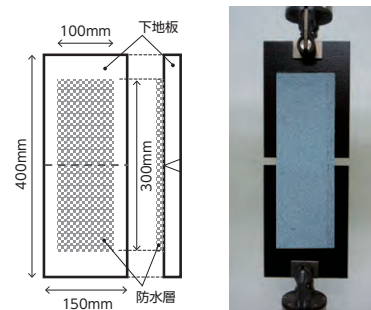
試験工程：下工程表に沿って実施

評価方法：試験終了後、亀裂幅を 5.0mm に拡大した状態で、防水層に破断*発生の有無を確認する。

*破断とは、表から裏に貫通する穴が発生した場合を指します。

●試験工程

ステップ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
温度(°C)	20	60	-10	20	60	-10	20	60	-10
ムーブ(mm)	0.5 ↔ 1.0		1.0 ↔ 2.0			2.5 ↔ 5.0			



●評価区分

区分	試験結果
疲労1	工程1で1体でも破断
疲労2	工程2で1体でも破断
疲労3	工程3で1体でも破断
疲労4	工程3で3体とも破断しない

●試験結果

仕様	破断の有無	評価結果
屋根保護防水密着工法 PL-1/PLV-T,H 屋内防水密着工法 IL-1/ILV-H	無し	4 (工程3で3体とも破断しない)
屋根露出防水密着工法 SL-2/SLV-T	無し	4 (工程3で3体とも破断しない)

レイヤオール工法の防水層は、厳しい動きを示す下地の挙動に対して十分な耐久性を有していることが確認できました。

技術資料(工法)

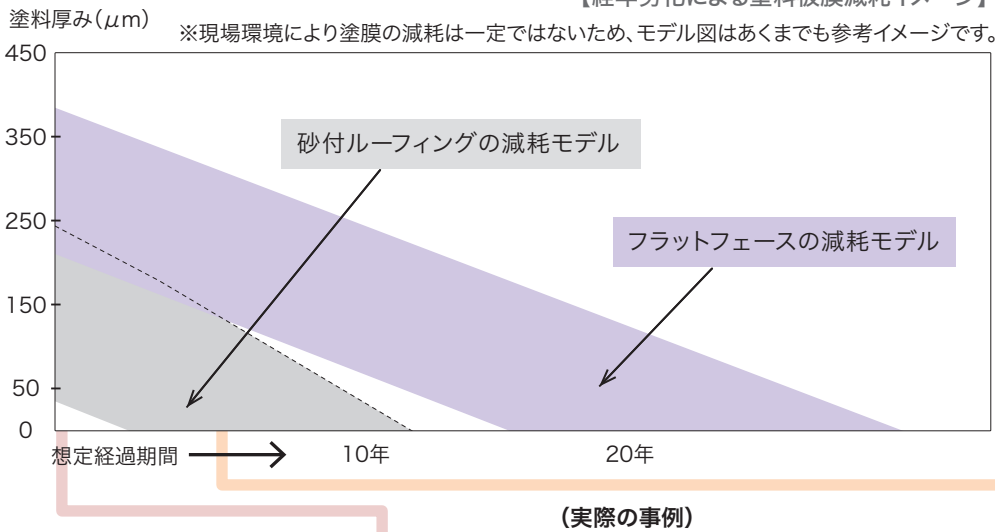
FRAT仕上げ

保護塗料効果保持性能

■高反射塗料の減耗率予測

下は高反射塗料を強力フラットフェースの特殊繊維面材上に塗布(SPファインカラー：0.6kg/m²)、従来の砂付ルーフィングに塗布(同0.4kg/m²)した場合の経年による塗料被膜減耗をグラフ化したもの。経年により塗料被膜は減耗していくが、特殊繊維面材は従来の砂付面に比べ減耗が穏やかであり、より長期間、日射反射効果が期待できる。

【経年劣化による塗料被膜減耗イメージ】

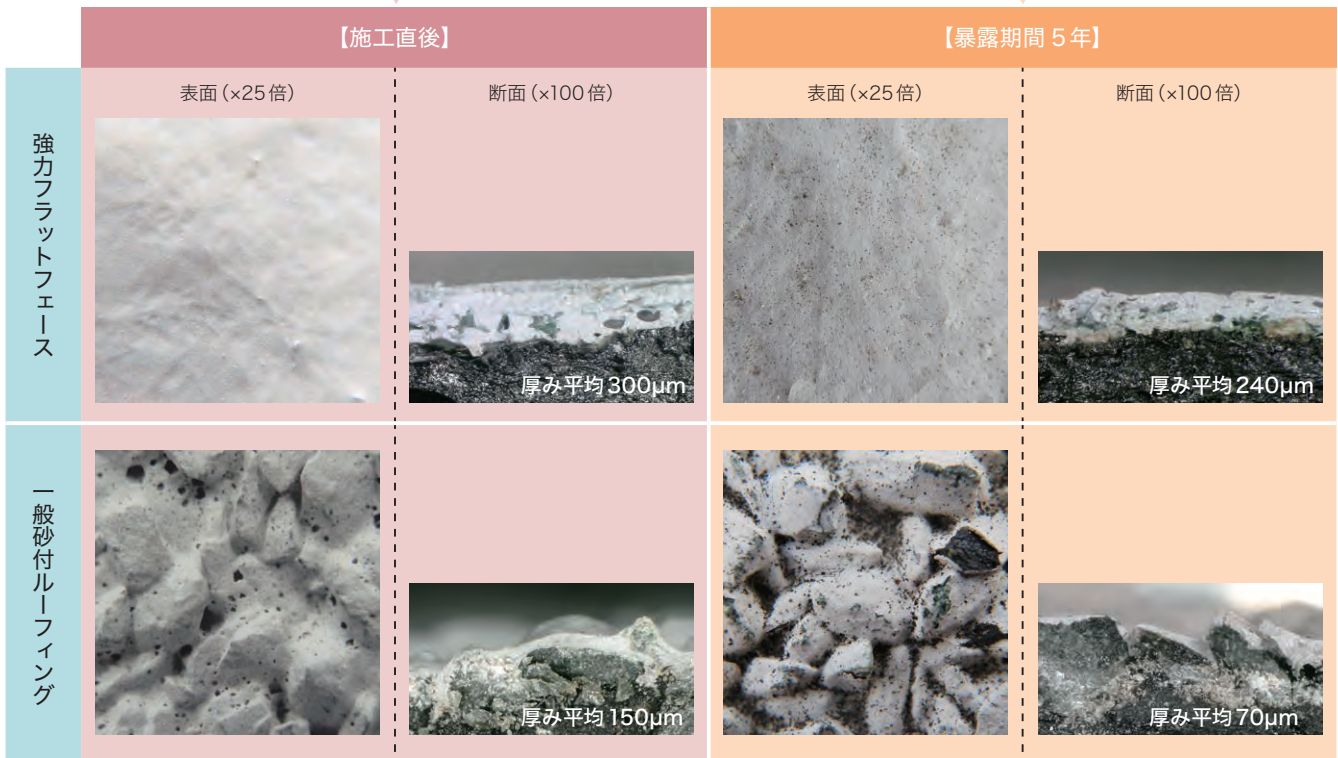


塗料減耗率の算出

試験サンプルにて定点の厚み測定を測定し、促進老化試験(キセノン)にて時間毎の塗膜厚みを測定していき、減耗率を算出する。実暴露想定での減耗量から、各仕上げにおける塗料減耗モデル図を作成。(1mm. = 1000 μm)

チェックポイント
技術資料(工法)

(実際の事例)



(屋外暴露試験：各試験体に保護塗料を所定量塗布し屋外に設置。一定期間経過後、表面の観察ならびに切断による断面観察を行った。)

砂付仕上げと比べ、FRAT仕上げによる塗料減耗の傾きは緩やかであり、遮熱効果を長期間維持することが期待できます。

アスポット工法

耐風圧性能

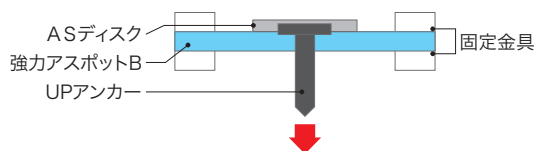
引張り試験

■試験方法

強力アスポットBに、ASディスクとUPアンカーを打込み、万能引張試験機でシーートの引張り破断強度を測定した。また、20℃の飽和アルカリ水中に1ヵ月浸漬した後の強度も測定した。

●試験工程

部 位	初 期	飽和アルカリ浸漬後
引張り破断強度 N/1カ所	2,724	2,695
現 象	シート破断	シート破断



〈風圧力の算定基準〉

建築基準法施行令(第82条の4)告示(平成12年建告第1454号、1458号)

①耐風圧性能を計算するにあたり、仮想モデルを設定する。

モデル設定条件

- 建物の高さ (H) : 30m
- 建物の短辺方向の長さ (a) : 50m
- 屋上勾配 : 1/50
- 基準風速 : 38m/秒
- 地表面粗度区分 : III
- その他条件 : 都市計画区域内

②屋根にかかる風圧力は、以下の計算式により求められる。

$$W=q \times C_f$$

- W: 風圧力(N/m²)
- q: 平均速度圧(N/m²)
- C_f: ピーク風力係数

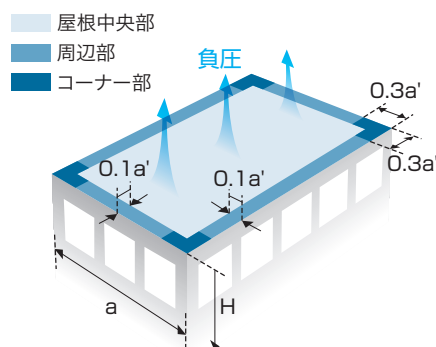
※平均速度圧は次式による。

$$q=0.6 \times E_r \times V_o^2$$

- E_r : 平均風速の高さ方向の分布を表す係数
- V_o: 基準風速
(V_oは全国の市町村単位で細かく分類し、その土地で吹く風の基準として30m～46mの8段階に区分されている。)

●耐風圧性

部 位	1箇所当り固定強度(N)	m ² 当り箇所	m ² 当り固定強度(N/m ²)	風圧力(N/m ²)	安全率(%)
屋根中央部	2,695	2.2	5,929	-2,123	279
周辺部	2,695	3.3	8,893	-2,717	327
コーナー部	2,695	4.4	11,858	-3,651	324



H: 建築物の高さと、軒の高さとの平均
a': 平面の短辺長さ(a)とHの2倍の数値のうち、いずれか小さい数値(ただし30mを超える場合は30とする)

③風圧力の計算結果

部 位	屋根中央部	周辺部	コーナー部
風圧力(N/m ²)	-2,123	-2,717	-3,651

各部位において200%以上の安全率が確保されており、十分な耐風圧性能を保持していると言えます。

材料紹介

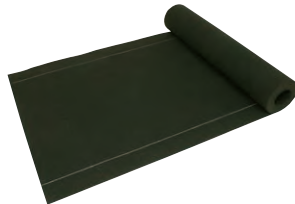
強力ギル



高剛性ストレッチルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.4mm

強力アドバン



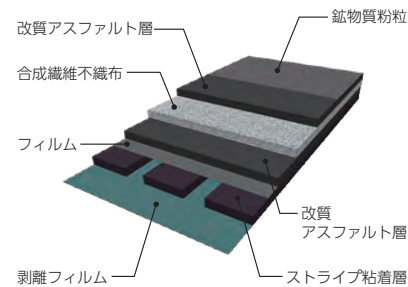
破断抵抗性・寸法安定性などの性能を高めた
ストレッチルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.7mm

強力ストライプZ



改質 粘着 絶縁



絶縁・通気工法用のストライプ状粘着層付ルーフィング。

*強力ストライプZ (黒)：規格等はすべて強力ストライプZに同じで、表面のみ黒色。

1m×16m
厚さ：1.4mm (厚みには粘着層含まず)

強力ライズ/ライズF

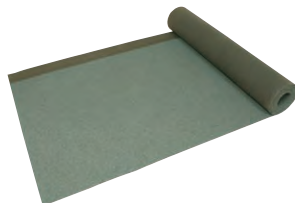


改質

ハイグレードクラスの改質アスファルトルーフィング。ライズの表面は珪物質粉粒仕上げ、ライズFは表層がフィルム仕上げ。

1m×16m
厚さ：強力ライズ 1.7mm、ライズF 1.8mm

強力ハイキャップ

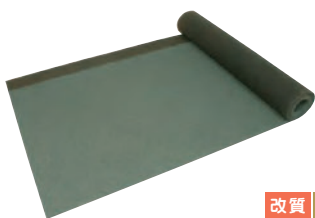


砂付

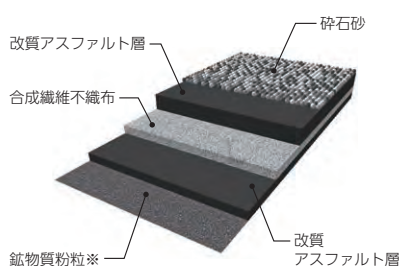
砂付ストレッチルーフィング。

1m×8m
厚さ：2.9mm

強力ガムフェース/EX/V/EX-V



改質 砂付

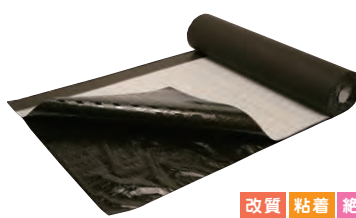


※ガムフェースVとEX-Vは易溶性フィルム

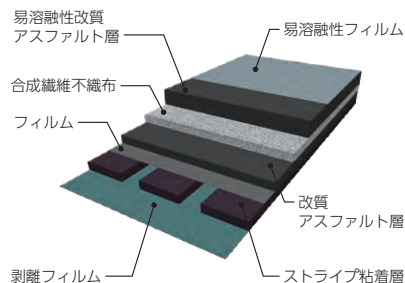
ストライプ工法、BANKS工法共用の砂付改質アスファルトルーフィング。ガムフェースEXは厚手タイプ。ガムフェースVとEX-Vは、裏面が特殊易溶性フィルムのBANKS工法立上り用。

強力ガムフェース 1m×8m 厚さ：3.2mm
強力ガムフェースEX 1m×8m 厚さ：3.4mm
強力ガムフェースV 1m×8m 厚さ：3.4mm
強力ガムフェースEX-V 1m×8m 厚さ：4.0mm

強力バンクルーフ



改質 粘着 絶縁



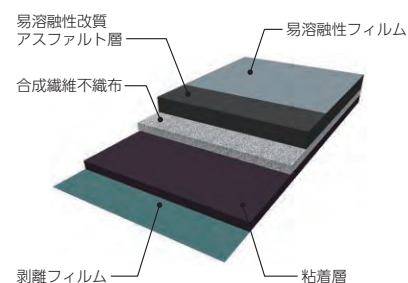
表面に特殊処理フィルムをラミネートした、BANKS工法用ストライプ状粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×12m
厚さ：2.3mm (厚みには粘着層含まず)

強力バンクルーフV



改質 粘着

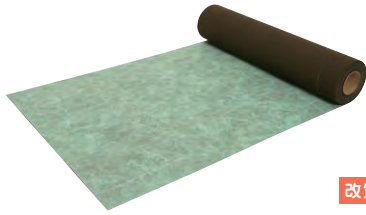


BANKS工法用の全面粘着層付改質アスファルトルーフィング。

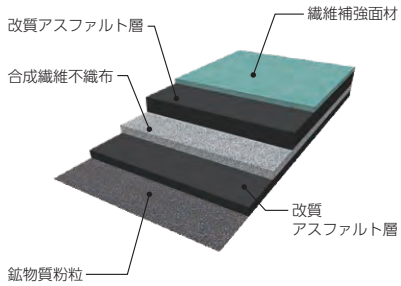
1m×12m
厚さ：2.4mm

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

強カフラットフェース



改質



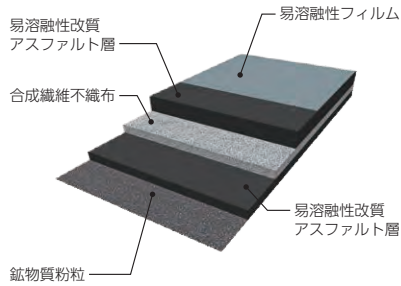
表面が繊維補強面材仕上げの非砂付タイプ改質アスファルトルーフィング。

1m×8m
厚さ：2.3mm

強カバンクベスト/Ⅱ



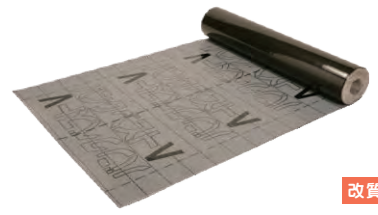
改質



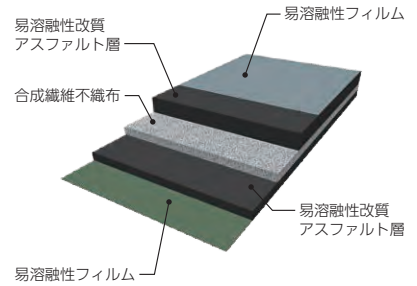
表層に溶融性の高い改質アスファルト層をコーティングした、BANKS工法用改質アスファルトルーフィング。

強カバンクベスト 1m×16m 厚さ：2.0mm
強カバンクベストⅡ 1m×12m 厚さ：2.5mm

強カバンクベストV



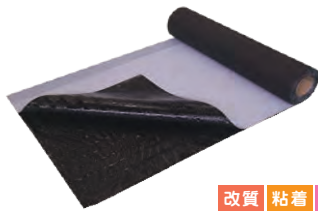
改質



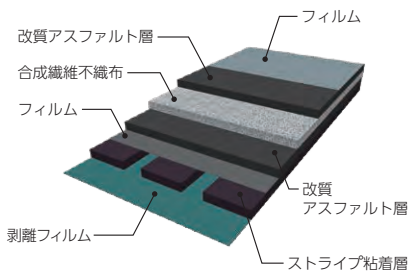
BANKS工法用の立上り用改質アスファルトルーフィング。裏面をあぶって貼り付ける。

1m×8m
厚さ：2.5mm

強カアンダーFS



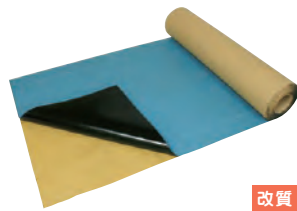
改質 粘着 絶縁



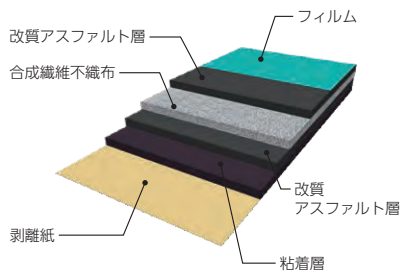
レイヤール工法、エコフィット工法共用の、ストライプ状粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.0mm(厚みには粘着層含まず)

強カアンダーF



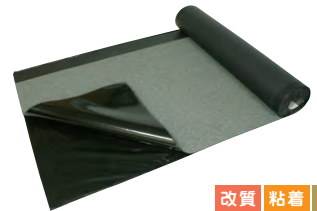
改質 粘着



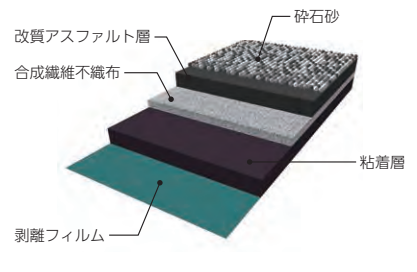
レイヤール工法、エコフィット工法共用の、粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.5mm

新強カエコフィットC



改質 粘着 砂付

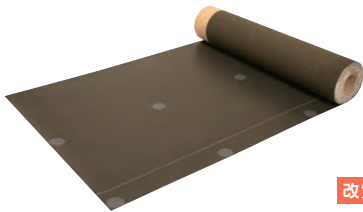


裏面に粘着層タイプの砂付改質アスファルトルーフィング。

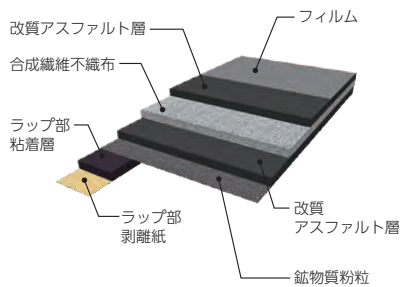
1m×8m
厚さ：2.9mm

材料紹介

強力アスポットB



改質



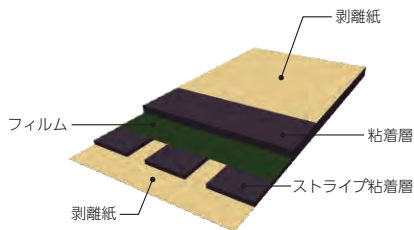
機械的固定工法用改質アスファルトルーフィング。裏面はラップ部分にのみ粘着層が設けられている。

1m×12m
厚さ：2.4mm

ダンパーシート



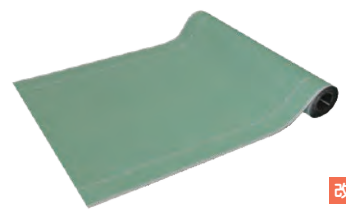
粘着



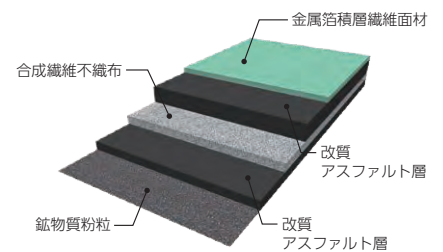
両面に粘着層を設けた、露出断熱防水用の防湿シート。

1m×32m
厚さ：0.8mm(厚みには粘着層含む)

強力フラットA



改質

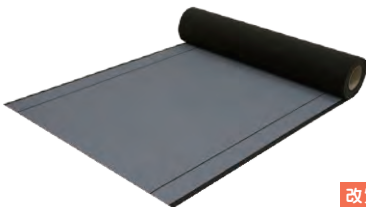


表層を金属箔積層繊維面材で仕上げた非砂付タイプ改質アスファルトルーフィング。レイヤオール工法に使用する。製品は逆巻きとなっており、緑色面を表側にして施工する。

1m×8m
厚さ：1.8mm

材料紹介
材料紹介

レイヤベスト

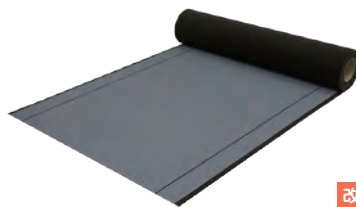


改質

薄く柔軟性に優れた改質アスファルトシート。裏面は不織布。レイヤオール工法専用。

1m×20m
(カット品：200mm×20m)
厚さ：1.0mm

レイヤソフト

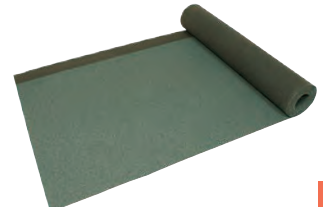


改質

薄く柔軟性に優れた改質アスファルトシート。アスレイヤ水性工法専用。

1m×20m
(カット品：200mm×20m)
厚さ：1.0mm

レイヤキャップ



改質

表面を砕石砂で仕上げた露出防水用改質アスファルトシート。

1m×8m
厚さ：3.0mm

ガムクールベースE

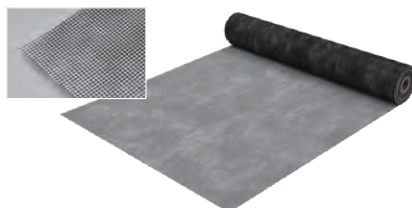


粘着

両面粘着タイプの中貼りシート。

1m×12m
厚さ：1.5mm

マットFCⅡ



表面のメッシュを埋める要領で塗膜材を塗布する立上り用不織布シート。裏面は不織布仕上げ。

1,050mm×50m
(カット品：200mm×50m)

Pシート



立上りをモルタル仕上げにする際などに使用する不織布シート。

1,020mm×20m

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

絶縁クロス1000



ポリプロピレンのフラットヤーンクロスを使用した絶縁材。

1m×100m
70g/㎡

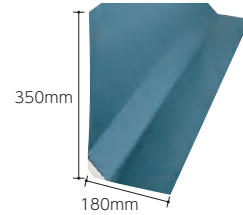
FV-50



立上り部の1層目に用いる粘着層付改質アスファルトルーフィング。

0.5m×16m
厚さ：1.5mm

Vベース1000



予めコーナーキャントが組み込まれた、立上り用粘着層付防水材。

有効長さ 900mm/1枚
12枚/箱

エンシシート



役物やドレン廻りなどの複雑部位を、切り込みを入れずに施工できる延伸性に優れたシート。

0.45m×8m
厚さ：1.5mm

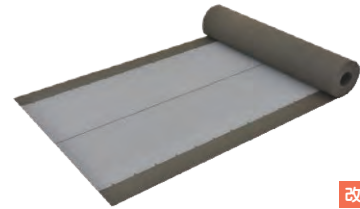
フリースベスト



露出断熱防水用の防湿シート。通気効果のため、裏面に砕石砂を散布状に付着させている。

1m×8m
厚さ：2.3mm

強力プライムルーフ



改質

引張・引き裂き性能に優れた改質アスファルトルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.7mm

テトロメッシュ2号



柔軟で馴染のよい合成繊維メッシュ。

1m×33m
厚さ：0.6mm

ガムトップ25/30

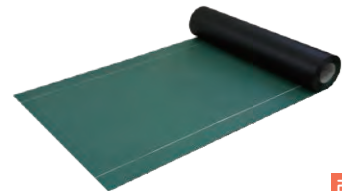


改質

改質アスファルトルーフィング。

ガムトップ25 1m×8m 厚さ：2.5mm
ガムトップ30 1m×8m 厚さ：3.0mm

ルートガードEX

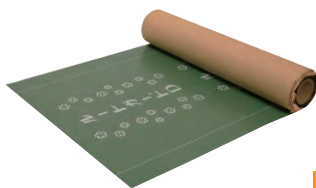


改質

表面が耐根フィルム仕上げの改質アスファルトルーフィング。防水と耐根の両機能を併せ持つ。

1m×16m
厚さ：1.5mm

ルートガードD



粘着

施工の完了した防水層上に貼付ける、粘着層付耐根シート。

1m×16m
厚さ：1.0mm

ルートガードテープ



耐根仕様で使用する粘着層付増貼りテープ。ルートガード・断熱材には100mm幅、ルートガードEXには200mm幅を用いる。

ルートガードテープ 100mm×50m
ルートガードテープ200 200mm×50m
厚さ：各0.2mm

アスタイトM



防水工専用アスファルト。(JIS K2207-3種)

25kg/袋

材料紹介

クリンタイトJ



煙とにおいの発生量を抑えた防水工専用改質アスファルト。溶融釜にそのまま投入可能な特殊フィルム包装。(JIS K2207-3種)

10kg/袋

プライムタイト



加熱型高性能改質アスファルト塗膜材。溶融釜にそのまま投入可能な特殊フィルム包装。

10kg/袋

オールコート



常温反応型改質アスファルト塗膜材(平面部用)。

20kgセット
(共通A剤：5kg/缶 B剤：15kg/缶)

オールコート立上り用



常温反応型改質アスファルト塗膜材(立上り部用)。

20kgセット
(共通A剤：5kg/缶 立上り用B剤：15kg/缶)

アスレイヤ減粘剤/アスレイヤ硬化促進剤



オールコート用の減粘剤と硬化促進剤。

アスレイヤ減粘剤：6kg/缶
アスレイヤ硬化促進剤：6kg/缶

プライマーBP



オールコート向けの金属部用ウレタン系プライマー。

0.45kg/缶
※有機則該当品

OT洗浄剤



レイヤオール工法用弱溶剤系の洗浄剤。
*減粘剤としての添加は不可。

15kg/缶

レイヤコート水性



水性タイプの改質アスファルト塗膜材。水系用硬化剤とセットで使用。立上りはビル増粘剤を加えた3液配合で使用する。

17kg/缶

水系用硬化剤



レイヤコート水性用硬化剤。標準・速硬化・夏用の3タイプがある。

各0.3kg/缶×4缶/箱

ビル増粘剤



レイヤコート水性用立上り用添加剤。

5kg/缶

プライマーCR



レイヤコート水性向けの金属部用溶剤系プライマー。

3kg/缶

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

ギルフォームS/W



完全ノンフロンタイプの硬質ウレタンフォーム断熱材。SとWの2サイズがある。
(熱伝導率：0.023W/m・K)

ギルフォームS：605mm×910mm
ギルフォームW：1,200mm×900mm(受注生産品)
厚さ：25,30,35,40,50,60,70,75mm
(Sの70,75mmは受注生産)

RBボード



保護コンクリート仕上げに最適な、完全ノンフロンタイプ押出法ポリスチレンフォーム断熱材。
(熱伝導率：0.028W/m・K)

910mm×910mm
厚さ：25,30,35,40,50,60,75mm

スタイロフォームRB-GK-II



保護コンクリート仕上げに最適な、完全ノンフロンタイプ押出法ポリスチレンフォーム断熱材。
(熱伝導率：0.028W/m・K)

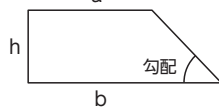
910mm×910mm
厚さ：25,30,35,40,50,60,75mm

テーパーフォーム



側溝部やドレン廻りの断熱材面取り作業簡易化を目的とした、ギルフォームのプレカット部材。S、L、URの3種類あり。

(受注生産品)



品名	勾配	厚さ：h(mm)	寸法(mm)			梱包数/箱
			a	b	長さ	
テーパーフォームS	45°	25	50	75	910	24枚
		30		80		
		35		85		
		40		90		
		50		100		
テーパーフォームL	45°	25	150	175	910	22枚
		30		180		20枚
		35		185		16枚
		40		190		14枚
		50		200		12枚
テーパーフォームUR	40°	50	50	110	910	24枚
		60		122		20枚

クールボンド



ギルフォーム貼付用水性接着剤。

16kg/缶

セメントMS



ギルフォーム貼付用変成シリコン系接着剤。

1.3kgカートリッジ
12本/箱(ノズル2個入)

RBセメント



RBボード、スタイロフォームRB-GK-II貼付用アスファルト系接着剤。

20kg/缶

水性プライマー-L



オールコートや各種金属下地との接着が良好な、アクリル系水性プライマー。
F☆☆☆☆取得。

18kg/缶

*下地種類により、塗布時にハジキが見られる場合は乾燥後塗り重ねる。

水性プライマー-AS



アスファルト系水性プライマー。

17kg/缶

アスファルトプライマー



アスファルト系溶剤プライマー。

15.5kg/缶

材料紹介

アスファルトプライマーSS



速乾性のアスファルト系溶剤プライマー。

16kg/缶

水性プライマーC



アスレイヤ水性用のアクリル系水性プライマー。

18kg/缶

水性プライマーMS



セメントMS施工時に使用するアクリル系水性プライマー。

18kg/缶

OTプライマーA



ウレタン系プライマー。

16kg/缶

速硬化OTプライマーMブルー



塗布部分が識別しやすいよう青色に着色された速乾性の仲介プライマー。

8kg/缶

VTプライマーG



塗布部分を識別しやすいように灰色に着色されたアクリルウレタン系2液硬化型プライマー。既存が塩ビシートの場合、一層目に使用。

6kgセット
(主剤：2kg/缶 硬化剤：4kg/缶)

リベース



既存アスファルト防水層を活性化する下地処理材。

20kg/缶

クールベース/クールベースパウダー



水性ゴムアスファルト系下地調整材。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース：8kg/缶
クールベースパウダー：16kg/袋

アスグランド/グランドパウダー



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド：9kg/缶
グランドパウダー：12kg/袋

リグレー・ネオ/リグレー・ネオパウダー



下地調整用SBR系ポリマーセメントモルタル。リグレー・ネオとパウダーを混練して使用。

リグレー・ネオ 18kg/缶
リグレー・ネオパウダー 厚塗り用：20kg/袋
薄塗り用：20kg/袋

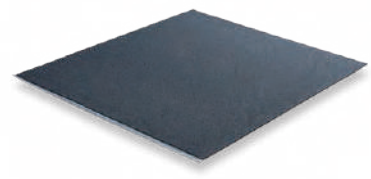
リグレーエポ



荒れたコンクリート等の下やタイル、金属材など各種下地材への接着性に優れた水性エポキシ系の下地調整材。

28kg/セット
(主剤：4kg、硬化剤：4kg、パウダー：20kg/袋)
*シルバー塗料の上には使用できません。

バリボードPS



アスファルトに無機質充填材を配合し板状に成型したパネル材。下地水分を拡散しやすいように裏面は砂粒仕上げになっている。

1m×0.9m/枚
厚さ：4mm (5.5kg/枚)
*砂付面を下にして使用。表層フィルムは貼付後撤去。

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

強力ガムシール



防水層の貼仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ 20本/箱
9kg/缶、20kg/缶

GCライン



防水層の貼仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しないので注意。

330ccカートリッジ
850ccジャンボカート 各10本/箱

ガムホット



専用工具のガムホットサーバーで熱溶解して施工する改質アスファルト系シーリング材。施工後は常温ですぐ硬化する。

265g/本
20本/箱

RBキャント 1500



発泡ポリエチレン製緩衝材。裏が粘着面となっており、立上り際の下地になじむよう切込み入り。

1,500mm×150mm
厚さ：20mm 34本/箱

ギルキャント



硬質ウレタンフォームにガラスマットを貼り合わせたコーナー面取り材。

長さ=910mm
50本/箱

FGボードE



立上り乾式保護ボード工法に用いる中空押出成型セメント板。

303mm×1,494mm
厚さ：15mm

ASパッチ



コーナーやASディスク固定後の増貼り等に使用する片面粘着テープ。

200mm×16m

バリテープH/C



バリテープH バリテープC

増貼り用片面粘着テープ。バリテープHはBANKS工法、バリテープCはバリボード目地貼りなどに使用。

バリテープH：100mm×10m
バリテープC：100mm×20m

メルトテープR



砂面処理用。砂付ルーフィング表面に仮置き後、表層をバーナーで炙る溶融タイプのテープ。

150mm×25m

ASディスク



機械的固定工法用ディスク。UPアンカーなどを用いて固定。

直径：60mm 穴径：7mm
100枚/箱

UPアンカー35/50/60/75



樹脂プラグとステンレス製ビスのセット。

アンカー長さ：35,50,60,75mm
100本セット/箱

アスキング



アスファルト臭軽減のため溶融釜に投入する、液状のマスキング剤。

1kg/缶

材料紹介

SPサーモコート/SPスーパーサーモコート



アクリル樹脂を主成分とする水溶液と骨材で構成された、高耐久・高反射厚膜水性保護塗料。

各 18kg/缶
(SPサーモ 3色、SPスーパーサーモ 1色)
*特注色はSPプロテクションコート(非高反射型)にて対応可。

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材専用高反射水性塗料。

18kg/缶 4色

SPミッドカラー



明度を下げることで照り返しによる眩しさを抑えつつ、優れた遮熱効果を発揮するアスファルト系防水材専用高反射水性塗料。

18kg/缶 4色

SPクリーンカラー



土、砂、花粉、珪藻類等の自然環境に起因した堆積物の影響から防水層表面を保護する効果を持つ、骨材入り高反射保護塗料。

18kg/缶 3色

SPマルチカラー-31kgセット



アスファルト系防水材用保護塗料。日塗工見本色指定による特殊色に対応。
*高反射タイプではありません。

31kgセット 3色 (下塗り用は共通1色)
(下塗り用:18kg/缶、上塗り用:13kg/缶)
*特注色の納期は問合わせください。

SPコートone



アスファルト系防水用溶剤系高反射保護塗料。
塗布量:0.3~0.5kg/m²。乾燥時間目安:2時間(5℃)
近赤外線領域(780~2500nm)日射反射率:60.4%(自社測定値)
*オールコート上への塗布にあたってはご相談ください。

18kg/缶 1色
*200m²以上の場合、納期がかかる場合があります。

SPシルバー



アスファルト系防水用溶剤系保護塗料。低温時でも施工が可能。塗布量:0.3kg/m²。

15.5kg/缶 1色

SPベース



骨材入水性保護塗料。市販の砂骨ローラーにて塗布する。

8kg/缶

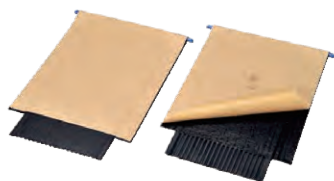
SPトナー



SPシリーズ保護塗料の工程管理用着色材。

1kg(600ml)/缶(計量カップ付)

ベーパー



合成ゴム製の立上り部用通気材。
10mに1ヶ所程度を目安に設置。

幅:240mm
高さ:350、500、700、1000mm
各サイズ 5枚/箱

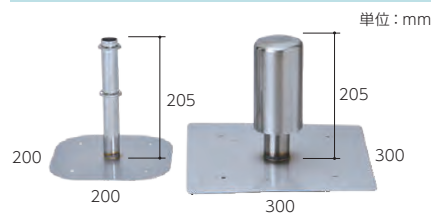
ステンレスベーパーN/G



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。70~80m²に1ヶ所の割合で設置。積雪寒冷地対応品。Gタイプは逆流防止付。

各1個/箱(Gタイプ:受注生産品)

ステンレスベーパーW/GW

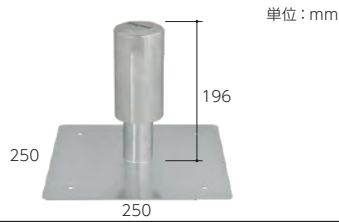


断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。70~80m²に1ヶ所の割合で設置。積雪寒冷地対応品。GWタイプは逆流防止付。

各1個/箱(GWタイプ:受注生産品)

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。
 ※保護塗料ならびに仕上げ材の各色は印刷のため、現物との差異があります。

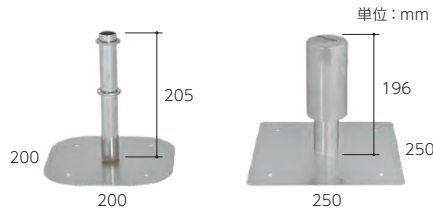
ステンレスパースⅡ



全体の形状を小型・軽量化した平面部用ステンレス製通気材。70～80㎡に1カ所の割合で設置。

1個/箱

ステンレスパースⅡ



全体の形状を小型・軽量化した断熱工法平面部用ステンレス製通気材。70～80㎡に1カ所の割合で設置。

1個/箱

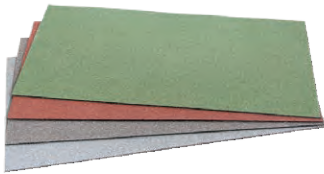
ステンlestai362



ステンレスパースⅡ・Ⅱ設置時に用いる、ステンレス製防水層端部締結バンド。

長さ:362mm
20本/袋 (簡易工具同梱)

バリキャップ/バリキャップP



表面を彩色砂や自然色砂で仕上げたアスファルト成型板。(バリキャップ自体に粘着層はついていません) [バリキャップP]は裏面保護フィルム*。

0.5m×1.0m 厚さ:6mm (5.1kg/枚)
色:自然色・ライトグレー・新緑・赤茶
*保護フィルムは剥がしてから施工

ガムロンタイル



歩行用磁器タイル保護仕上げパネル。裏面粘着層付。
*150㎡を超える場合の納期についてはお問合せください。

300mm×300mm (目地部含む)
厚さ:8mm (1.2kg/枚)
色:4色 18枚/箱 (受注生産品)

エイブロックBF/BJ



合成樹脂ネットで補強したセメント系成型パネル。パネル目地部分で折り曲げ、下地の不陸等になじませて設置ができる。BJは連結タイプ。

600mm×600mm 厚さ:25mm
20kg/枚 (受注生産品)

縁石ブロック



エイブロック用縁見切材。

120mm×600mm
厚さ:60mm

連結用プラグビス(BJ用)



エイブロックBJ連結用ビス。

プラグ+ビス50セット/袋 色:グレー

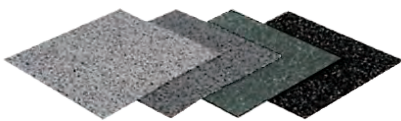
エイマット



エイブロック敷設用のクッション材。

1m×1m 厚さ:7mm
35枚/袋

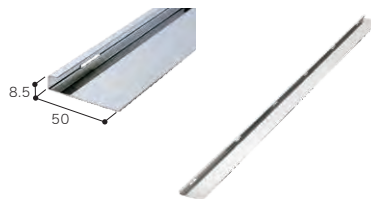
ステップスクエア500H



天然の砂粒を成型した粘着層付き防水層保護板。
*美観維持のため、クリアタイプのステップバインダーH(0.4kgセット)を約5年ごと塗布推奨(0.2kg/m²)

500mm×500mm 厚さ:7.5mm
3kg/枚 (12kg/m²)
色:4色 6枚/箱

ステップエッジ



ステップスクエア500H、ガムロンタイルの端部保護を兼ねたステンレス製見切材。VTテープ50を用いて固定する。側面に水抜用の穴6カ所あり。

50mm×1,000mm
10本/箱

VTテープ50



ステップエッジ固定に使用する両面テープ。

50mm×15m巻
3巻/箱

材料紹介

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

RBタイル



ポリスチレン系断熱材とモルタルを同時成型した複合タイル。

450mm×450mm
層厚：65mm(断熱材厚さ：50mm) 8kg/枚
(受注生産品)

ウインドバー(低層用)/ウインドブロック(中層用)



RBタイル用縁見切り材。

ウインドバー 60mm×30mm×2,730mm
ウインドブロック 63mm×170mm×600mm

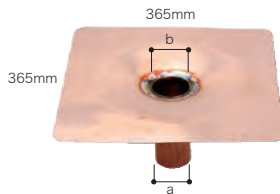
サンドイッチ金具



RBタイル相互連結用金具。

上下金具+ビス1個/セット

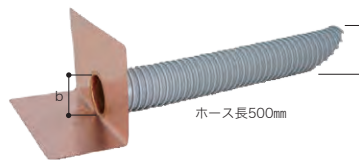
リードレンCたて



改修工用たて型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

9サイズあり(標準品は5サイズ)
*詳細については「リードレンC」のカタログをご参照ください。

リードレンC横



改修工用横型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

7サイズあり(標準品は3サイズ)
*詳細については「リードレンC」のカタログをご参照ください。

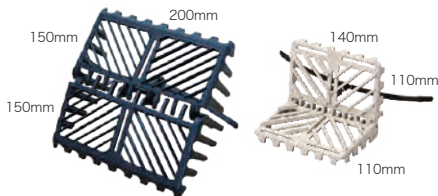
ドレンキャップ190/たてAS



アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。
ステンレス製板バネ(滑止めゴム被覆処理)をドレン内部に差し込んで設置。

ドレンキャップ190 色:黒 1個/箱
ドレンキャップたてAS 色:黒、ライトグレー 5個/箱

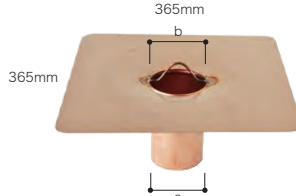
ドレンキャップ横引用C200/AS



角度調節ができるアルミダイキャスト製ドレンキャップ。固定用ステンレス製板バネ付。(滑止めゴム被覆処理)

ドレンキャップ横引用C200 色:黒 1個/箱
ドレンキャップ横引用AS 色:ライトグレー 1個/箱

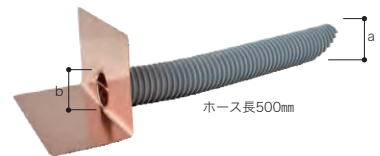
リードレンZたて



「リードレンCたて」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、連結式銅製ドレン。

1個/箱(規格については下表参照)
*「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンZ横



「リードレンC横」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、強風対策型銅製ドレン。

1個/箱(規格については下表参照)
*「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

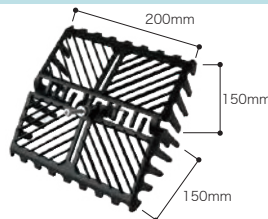
リードレンキャップZたて



リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定する。アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱
*「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

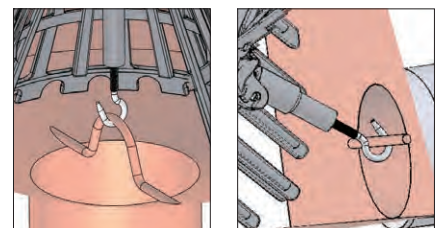
リードレンキャップZ横



リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。中央のJフックで連結固定する。納まりに合わせてキャップの角度調節が可能。アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱
*「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

連結部分拡大イメージ



リードレンキャップZたての軸芯部と連結

リードレンキャップZ横の軸芯部と連結

ドレンキャップ横引用DX



約5kgの自重による耐風性を備えた、据置型ドレンキャップ。ベース部：鋳鉄製、上部：ステンレス製パンチングメタル（側面メッシュ）。

幅：300mm×奥行：180mm×高さ：200mm
重量：5kg
1個/箱

トルネードドレンたて80/90



キャップをつけた状態

改修用排水量改善たて型二重ドレン。排水口の羽根形状で排水量を増加する。新築時の直径100mm縦引きドレンと同等の排水力。

各1個/箱
(キャップ、専用ナット、専用シリコーンゴム付)

ステンレスバンドF



貫通管など、パイプ廻りの防水層端部固定用バンド。パイプの寸法に合わせて切断して使用するフリーサイズ品。

フープ 5m
クリップ 10個/袋

フラッシュエッジ70A/110A



防水層を挟み込むサンドイッチ方式で端末からの雨水浸入を防ぐアルミ水切り。

長さ：各2,000mm

フラッシュトップ60



防水層端末押えアングルと水切金物を組合わせた二重方式の雨仕舞材。

長さ：2,000mm

モルタルハンガー



モルタル塗布時のラス網引掛フックを備えた、防水層端末固定用ステンレス製アングル。

長さ：2,000mm
10本/束

リードレンCたて：13サイズ/リードレンZたて：(表内の下線表示)5サイズ

*詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

呼称	35*	45*	50*	<u>60</u>	<u>65</u>	<u>75</u>	<u>80</u>	95	120*	130*	140*	150*	160*
外径(a)/mm	35	45	50	58	64	74	80	95	119	129	139	149	159
内径(b)/mm	33	43	48	56	62	72	78	92	117	127	137	147	157
許容最大屋根面積(m ²)*	22	44	60	90	118	176	218	339	645	804	984	1190	1410

リードレンC横：7サイズ/リードレンZ横：(表内の下線表示)3サイズ

呼称	40*	50*	<u>60</u>	<u>75</u>	<u>90</u>	115*	140*
ホース 外径(a)/mm	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)/mm	30	36	49	60	73	99	124
配管勾配ごとの 許容最大屋根面積(m ²)*	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

*SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

【注意】

「リードレンC横/Z横」のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性が高まります。

- リードレンCの受注生産品(*)は納期約2週間。
- リードレンZの標準品以外のサイズは特注品として承ります。(納期約3週間)
- リードレンC横/Z横は、左表サイズの他に35・100タイプを特注品として作成できます。(納期約3週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケージDX」のご利用が便利です。

*各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

工具紹介

ACS(アスファルトコンテナシステム)/ミニACS



ACS

■ACS(1600 シリーズ)

寸法(mm)	幅：1,250×長さ：1,800×高さ：1,130
総重量	530kg
内釜容量	480L(25kg×15袋)
必要電源	200V・75A(動力:3相3線式)、備付コード:25m+延長コード15m(最大85mまで延長可)
電熱ヒーター	24kw 69.4A

■ミニACS

寸法(mm)	幅：750×長さ：1,380×高さ：1,210
総重量	330kg
内釜容量	216L(25kg×5.6袋)
必要電源	200V・60A(動力:3相3線式)、備付コード:20m+延長コード15m(最大80mまで延長可)
電熱ヒーター	17kw 50A



ミニACS



エレベーター内に搬入可

交流電源を使用する電気式溶融釜。溶融温度を自動管理、レバーを引くだけで簡単に吐出する、などの便利な機能を持つ。

ミニACSは一般用のエレベーター内に搬入可能。(現場にて事前寸法確認が必要)

クリンケトル300L/130L



クリンケトル300L

■クリンケトル 300L

寸法(mm)	幅：850×長さ：2,000×高さ：1,175(煙突なし)、1,890(煙突あり)
総重量	230kg
内釜容量	300L(25kg×9袋)
燃料タンク容量	30L

■クリンケトル 130L

寸法(mm)	幅：580×長さ：1,700×高さ：1,030(煙突なし)、1,920(煙突あり)
総重量	160kg
内釜容量	130L(25kg×4袋)
燃料タンク容量	30L

燃料タンク一体式自動温度制御機能付き溶融釜。

設定温度を超えるとバーナーが自動消火、下がると自動点火することで一定温度を維持する。

燃料タンクを本体と一体化することで安全性が向上。



クリンケトル130L

工具紹介

BOXバーナーEA II



寸法 (mm)	幅: 390×奥行: 520×高さ: 385~685 (調整可)
重量	19kg
灯油使用量	6L/時 (最少) ~12.4L/時 (最大)
その他	オイルホース接続部: カプラ式、またはネジ式 (1/4)



背面炎吹出口



温度制御盤

釜のサイズに関係なく炎を大~小まで容易に調節。温度センサーにより自動着火・消火する自動温度制御式。バーナーに燃料吸引ポンプが内蔵されているため、安全性が向上。

灯油バーナー/立上り用灯油バーナー

コンプレッサー



立上り用

LPガスバーナーと比べて燃料調達を容易にし、燃料費コストダウンを実現した灯油式のバーナー。コンプレッサー (左側) と立上り用は別売。

バーナー本体、灯油・エア (ツイン) ホース、エア抜き用具、灯油バーナー収納ケース、取扱説明書

タチバーナー



LPガスボンベに直接接続して使用できるハンディタイプバーナー。ワンタッチ着脱式ホース付。

バーナー本体
ホース (3m)

釜番君



熔融釜にセット: 設定温度になるとプザー。
全自動式バーナーにセット: 設定温度で自動的にオン・オフ。
電磁弁付きバーナーにセット: 自動的にバーナー停止 (燃料カット)。

電源: AC100V
本体・温度計・温度計取付金具・取扱説明書

ミニ釜君



少量の熔融アスファルトを使用する場合に便利な、小型アスファルト熔融釜。外釜にはセラミック系断熱材を使用し、熔融効率と保温性に優れる。

- ・外釜 高さ: 390mm 直径: 390mm
- ・中釜 (蓋付) 高さ: 390mm 直径: 270mm
- ・ガスバーナー 長さ: 370mm
- ・ホース: 4m

オイルタンク40



床置き圧送タイプの燃料タンク。一般の落差式タンクに比べ、安全・確実に燃料を供給できる。

高さ: 375mm 直径: 420mm
オイルホース 長さ: 4m 電源: AC 100V

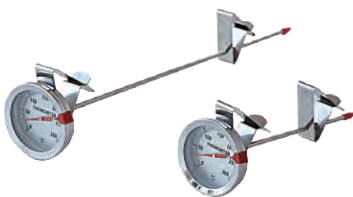
ガムホットサーバー



ガムホット熔融、保温用の専用ポット。100V電源により作動する。

タンク一式・三脚セット
※受注生産品

アッタメーターAS18L/AS半缶



アスファルト運搬用一斗缶、または半缶に取り付け可能な専用温度計

本体: 各 1 個
固定用クリップ: 各 2 個

工具紹介

バンクスローラー平場用/平場用Ⅱ



BANKS工法専用ルーフ押し器。平場用Ⅱは、部品交換せずに1,000mm幅と900mm幅を調整可能。

バンクスローラー立上り用



BANKS工法立上り専用ルーフ押し器。

ルーフ押し器H



立ったままでルーフィングを施工できる、熱工法用押し器。

幅：1,150mm
長さ：1,375mm
重量：8kg

ルーフ押し器C



転圧を掛けながら、剥離紙・フィルムをロールに巻き取る粘着層付ルーフィング専用工具。巻き取られた剥離材は、ロールを外し処分する。

幅：1,275mm
重量：8.5kg

プレッサーローラーT400



軽量、かつ体重をかけやすいように本体中間に持ち手が付いた転圧ローラー。ローラー表面はシリコンゴム被覆。

ローラー幅：400mm、全長：1,070mm
重量：4.7kg
*交換用ローラー別売あり。

転圧ローラー 230L (大型)/230M(中型)

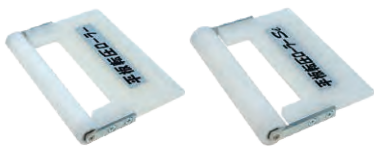


(単位：mm)

平面部用の転圧ローラー。防水層が傷つかないようにローラー表面をゴム被覆してある。

転圧ローラー 230L(大型) 重量：10kg
転圧ローラー 230M(中型) 重量：4kg
ローラー幅：各230mm

平板転圧ローラー/平板転圧ローラーSi



転圧施工用の樹脂製小型ローラー。平板転圧ローラーSiは、ローラー部がシリコンチューブ製。

ローラー幅：145mm
直径：約20mm Si 約27mm
各1個

ステッチャー



防水シートの出入隅部、3枚重ね部等の転圧用ローラー。

5本/箱

ルーフィングカッターDXⅢ



粘着層の剥離紙のみをカットできる特殊形状のカッター。先端のベロ(舌)状金属製ガイドにより剥離紙が破けにくくなっている。

長さ：165mm 1本
*市販の替え刃(NTカッター)使用可。

エレメントガン



接着剤、シーリング材電動塗布機。GCライン等の標準カートリッジ、ジャンボカートに適合。

専用ボックス入り(各種接着剤、シール材に対応したホルダー3種を同梱)

ドレンゲージDX



改修用2重ドレンのサイズ決定に便利な、既存ドレン内径測定器。リードレンCおよびZのたて、横に対応した専用目盛付。

折畳み収納時長さ：210mm
*落下防止用リールキーホルダー付
1個/箱

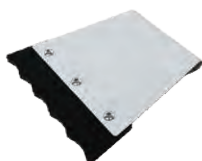
ゴムクシレーキC



オールコート平面部塗布用レーキ。
最大塗布量：1.4kg/m²

幅：300mm 1個
※交換用ゴム(5枚入)別売あり。
*柄は市販品を別途ご用意ください。

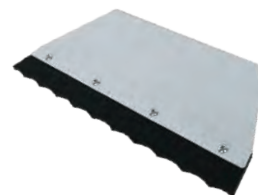
ゴムクシバケC-S



オールコート塗布用刷毛。
最大塗布量：1.3kg/m²

幅：150mm
1個
*交換用ゴム(5枚入)別売あり。

ゴムクシバケC-L



オールコート塗布用刷毛。
最大塗布量：1.3kg/m²

幅：300mm
1個
*交換用ゴム(5枚入)別売あり。

プライムレーキ



(写真は裏面)

プライムタイト平面部塗布用レーキ。

幅：450mm
1個
*柄は市販品を別途ご用意ください。

プライムバケ



プライムタイト塗布用ゴム刷毛。

幅：300mm
1個
*交換用ゴム(5枚入り)別売あり。

コーナーブレード



プライムアス工法に用いる入隅部施工用工具。
立作業へも対応できるよう、市販品の柄に取付けが可能。

長さ：140mm
1個

ベタつき防止カバー



安全靴等にかぶせて履くシリコン製靴カバー。

1足/袋

材料一覧

種類	品名	規格	備考
ルーフィング・シート類	強力ストライプZ	1m×16m 厚さ：1.4mm(厚みには粘着層含まず)	通気絶縁用粘着層付改質アスファルトルーフィング
	強力ストライプZ(黒)	1m×16m 厚さ：1.4mm(厚みには粘着層含まず)	通気絶縁用粘着層付改質アスファルトルーフィング
	強力ギル	1m×16m 厚さ：1.4mm	中貼り用ストレッチルーフィング
	強力アドバン	1m×16m 厚さ：1.7mm	中貼り用ストレッチルーフィング
	強力ライズ	1m×16m 厚さ：1.7mm	中貼り用改質アスファルトルーフィング
	強力ライズF	1m×16m 厚さ：1.8mm	中貼り用フィルム仕上げ改質アスファルトルーフィング
	強力ガムフェース	1m×8m 厚さ：3.2mm	改質アスファルト砂付ルーフィング
	強力ガムフェースEX	1m×8m 厚さ：3.4mm	改質アスファルト砂付ルーフィング
	強力ガムフェースEX-V	1m×8m 厚さ：4.0mm	改質アスファルト砂付ルーフィング(BANKS工法立上り用)
	強力ガムフェースV	1m×8m 厚さ：3.4mm	改質アスファルト砂付ルーフィング(BANKS工法立上り用)
	強力ハイキャップ	1m×8m 厚さ：2.9mm	砂付ルーフィング
	強力フラットフェース	1m×8m 厚さ：2.3mm	繊維補強面材仕上げ改質アスファルトルーフィング
	強力バンクルーフ	1m×12m 厚さ：2.3mm(厚みには粘着層含まず)	BANKS工法用通気絶縁用改質アスファルトルーフィング
	強力バンクルーフV	1m×12m 厚さ：2.4mm	BANKS工法用改質アスファルトルーフィング
	強力バンクベスト	1m×16m 厚さ：2.0mm	BANKS工法用改質アスファルトルーフィング
	強力バンクベストII	1m×12m 厚さ：2.5mm	BANKS工法用改質アスファルトルーフィング
	強力バンクベストV	1m×8m 厚さ：2.5mm	BANKS工法用立上り改質アスファルトルーフィング
	強力アンダーFS	1m×16m 厚さ：1.0mm(厚みには粘着層含まず)	通気絶縁用粘着層付改質アスファルトルーフィング
	強力アンダーF	1m×16m 厚さ：1.5mm	粘着層付改質アスファルトルーフィング
	新強力エコフィットC	1m×8m 厚さ：2.9mm	冷工法用粘着層付改質アスファルト砂付ルーフィング
	強力アスポートB	1m×12m 厚さ：2.4mm	機械的固定工法用改質アスファルトルーフィング
	ダンパーシート	1m×32m 厚さ：0.8mm(厚みには粘着層含む)	部分接着型防湿シート
	フリースベスト	1m×8m 厚さ：2.3mm	防湿用ルーフィング
	フリースポット	1m×8m 厚さ：2.5mm	あなあきルーフィング
	ガムトップ25	1m×8m 厚さ：2.5mm	改質アスファルトルーフィング
	ガムトップ30	1m×8m 厚さ：3.0mm	改質アスファルトルーフィング
	Vベース1000	有効長さ 900mm/1枚 12枚/箱	コーナーキャント付立上り用防水材
	エンシンシート	0.45m×8m 厚さ：1.5mm	コーナー、ドレン廻り用粘着層付延伸性シート
	ガムクールベースE	1m×12m 厚さ：1.5mm	両面粘着型シート
	FV-50	0.5m×16m 厚さ：1.5mm	立上り用改質アスファルトルーフィング
	強力プライムルーフ	1m×16m 厚さ：1.7mm	改質アスファルトルーフィング
	レイヤソフト	1m×20m 厚さ：1.0mm(カット品：200mm×20m)	改質アスファルトシート
	レイヤベスト	1m×20m 厚さ：1.0mm(カット品：200mm×20m)	改質アスファルトシート
レイヤキャップ	1m×8m 厚さ：3.0mm	砂付改質アスファルトシート	
強力フラットA	1m×8m 厚さ：1.8mm	金属箔積層繊維面材仕上げ改質アスファルトルーフィング	
マットFCII	1,050mm×50m(カット品：200mm×50m)	立上り用不織布シート	
絶縁クロス1000	1m×100m 厚さ：0.15mm	ポリプロピレン絶縁用シート	
テトロメッシュ2号	1m×33m 厚さ：0.6mm	アスファルト含浸網状シート	
Pシート	1,020mm×20m	立上りモルタル仕上げ用不織布シート	
ルートガードEX	1m×16m 厚さ：1.5mm	耐根フィルム仕上げ改質アスファルトルーフィング	
ルートガードD	1m×16m 厚さ：1.0mm	粘着層付耐根シート	
防水工事用アスファルト塗膜防水材	アスタイトM	25kg/袋	防水工事用アスファルト (JIS K2207-3種)
	クリンタイトJ	10kg/袋	防水工事用改質アスファルト (JIS K2207-3種)
	プライムタイト	10kg/袋	防水工事用改質アスファルト塗膜材
	オールコート	20kgセット(共通A剤：5kg/缶 B剤：15kg/缶)	常温反応型改質アスファルト塗膜材(平面部用)
	オールコート立上り用	20kgセット(共通A剤：5kg/缶 立上り用B剤：15kg/缶)	常温反応型改質アスファルト塗膜材(立上り部用)

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。
 ※アスファルトルーフィング・シート類につきましては、納品時に一定の割合で
 1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

種類	品名	規格	備考	
	レイヤコート水性	17kg/缶	水性改質アスファルト塗膜材	
	水系用硬化剤(標準・速硬化・夏用)	各0.3kg/缶×4缶/箱	レイヤコート水性用硬化剤	
	ビル増粘剤	5kg/缶	レイヤコート水性 立上り用添加剤	
	アスレイヤ減粘剤	6kg/缶	オールコート用減粘剤	
	アスレイヤ硬化促進剤	6kg/缶	オールコート用硬化促進剤	
副資材	RBキャント 1500	1,500mm×150mm 厚さ:20mm 34本/箱	押えコンクリート仕上げ用防水層保護コーナー部材	
	ギルキャント	長さ=910mm 50本/箱	入隅部用コーナー部材	
	強力ガムシール	330cc紙カートリッジ 20本/箱 9kg/缶 20kg/缶	改質アスファルト系シーリング材	
	GCライン	330cc紙カートリッジ/850ccジャンボカート 各10本/箱	変成シリコン系シーリング材	
	ガムホット	265g/本 20本/箱	ホットメルトタイプシール材	
	バリテープC	100mm×20m	増貼り片面粘着テープ	
	バリテープH	100mm×10m	増貼り片面粘着テープ	
	メルトテープR	150mm×25m	砂面処理シール材	
	ASパッチ	200mm×16m	改質アスファルト系増貼り片面粘着テープ	
	ルートガードテープ	100mm×50m、200mm×50m	耐根用増貼りテープ	
	OT洗浄剤	15kg/缶	弱溶剤系洗浄剤(レイヤオール工法)	
	アスキング	1kg/缶	防水工用アスファルト専用マスキング剤	
	ASディスク	直径:60mm 100枚/箱	機械的固定工法用亜鉛メッキ鋼板製ディスク	
	UPアンカー35/50/60/75	アンカー長さ:35,50,60,75mm 100本セット/箱	機械的固定工法用アンカー	
	FGボードE	303mm×1,494mm 厚さ:15mm	中空押出成型セメント板	
	下地処理材・接着剤	水性プライマーAS	17kg/缶	ゴムアス水性プライマー
		水性プライマーC	18kg/缶	アスレイヤ水性用プライマー
		水性プライマーMS	18kg/缶	アクリル系水性プライマー
アスファルトプライマー		15.5kg/缶	溶剤系アスファルトプライマー	
アスファルトプライマーSS		16kg/缶	速乾タイプ溶剤系アスファルトプライマー	
水性プライマーL		18kg/缶	アクリル系水性プライマー	
OTプライマーA		16kg/缶	ウレタン系プライマー	
速硬化OTプライマーMブルー		8kg/缶	速乾性伸介プライマー	
プライマーCR		3kg/缶	金属部用溶剤系プライマー(アスレイヤ水性用)	
VTプライマーG		6kgセット(主剤:2kg/缶 硬化剤:4kg/缶)	アクリルウレタン系プライマー	
プライマーBP		0.45kg/缶	金属部用ウレタン系プライマー(オールコート用)	
リベース		20kg/缶	アスファルト系下地活性材	
クールベース		混和液:8kg/缶 パウダー:16kg/袋	水性ゴムアスファルト系下地調整材	
リグレー・ネオ		18kg/缶	ポリマーセメントモルタル用SBR系水性混和液	
リグレー・ネオパウダー		厚塗り用/薄塗り用 各20kg/袋	ポリマーセメントモルタル用 粗粉体/細粉体	
リグレーエポ		28kgセット (主剤:4kg/缶 硬化剤:4kg/缶 パウダー:20kg/袋)	速硬型水性エポキシ樹脂モルタル	
アスグランド		アスグランド:9kg/缶 グランドパウダー:12kg/袋	アスファルト系防水用仮防水材	
バリボードPS		1m×0.9m 厚さ:4mm	乾式下地処理用アスファルト成型板	
クールボンド		16kg/缶	ギルフォーム貼付用水性接着剤	
セメントMS		1.3kgカートリッジ:12本/箱(ノズル2個入り)	ギルフォーム貼付用変成シリコン系接着剤	
RBセメント		20kg/缶	RBボードおよびスタイロフォームRB-GK-II用接着剤	
ACボンド		18kg/缶	水性アクリル系接着剤	
脱気筒		ベーパーパス	高さ:350・500・700・1,000mm 各5枚/箱	ふくれ防止用通気材 立上り部用
	ステンレスベーパーパス	1個/箱	ふくれ防止用通気材平面部用(積雪寒冷地対応)	
	ステンレスベーパーパスW	1個/箱	同上 断熱工法用	

材料一覧

※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

種類	品名	規格	備考
脱気筒	ステンレスペーパーNⅡ	1個/箱	ふくれ防止用通気材平面部用
	ステンレスペーパーWⅡ	1個/箱	同上 断熱工法用
	ステンレスタイ362	長さ：362mm 20本/袋(簡易工具同梱)	ステンレス製防水層端部締結バンド
断熱材	ギルフォームS	605mm×910mm 厚さ：25,30,35,40,50,60,70,75mm	耐熱型硬質ウレタン系フォーム(70mm、75mmは受注生産品)
	ギルフォームW	900mm×1,200mm 厚さ：25,30,35,40,50,60,70,75mm	耐熱型硬質ウレタン系フォーム(受注生産品)
	テーパーフォーム	長さ：910mm	面取り済み断熱材
	RBボード	910mm×910mm 厚さ：25,30,35,40,50,60,75mm	押出法ポリスチレンフォーム
	スタイロフォームRB-GK-Ⅱ	910mm×910mm 厚さ：25,30,35,40,50,60,75mm	押出法ポリスチレンフォーム
保護塗料	SPファインカラー	18kg/缶 4色	高反射水性アクリル保護塗料
	SPミッドカラー	18kg/缶 4色	高反射・低強度型水性アクリル保護塗料
	SPクリーンカラー	18kg/缶 3色	高反射・高強度型水性アクリル保護塗料
	SPマルチカラー 31kgセット	31kgセット(下塗り用：18kg/缶 上塗り用：13kg/缶 3色)	水性アクリル保護塗料
	SPサーモコート/SPスーパーサーモコート	各18kg/缶(SPサーモ 3色、SPスーパーサーモ 1色)	水性遮熱・防火塗材
	SPプロテクションコート	18kg/缶 特注色対応専用	防火 水性アクリル系保護塗料
	SPベース	8kg/缶	アクリル系水性保護塗料
	SPトナー	1kg(600ml) /缶(計量カップ付)	保護塗料工程管理用着色剤
	SPシルバー	15.5kg/缶 1色	溶剤系シルバー保護塗料
	SPコートone	18kg/缶 1色	弱溶剤系高反射保護塗料
仕上げ材	バリキャップ/バリキャップP	0.5m×1.0m 厚さ：6mm 5.1kg/枚 色：自然色・ライトグレー・新緑・赤茶	バリキャップは砂付成型板タイプ軽歩行用屋上仕上材 バリキャップPは裏面フィルム仕上げ
	ガムロンタイル	300mm×300mm 厚さ：8mm(1.2kg/枚) 18枚/箱(受注生産品)	粘着層付歩行用磁器タイル保護仕上げパネル
	ステップスクエア500H	500mm×500mm 厚さ：7.5mm(3kg/枚) 6枚/箱	天然砂粒成型板タイプ軽歩行用化粧仕上材
	ステップエッジ	50mm×1,000mm 10本/箱	ステンレス製見切材
	VTテープ50	50mm×15m 3巻/箱	ステップエッジ固定用両面テープ
	RBタイル	450mm×450mm 層厚：65mm(断熱材厚さ：50mm) 8kg/枚	断熱複合タイル
	ウィンドバー(低層用)	60mm×30mm×2,730mm	RBタイル用端部見切材
	ウィンドブロック(中層用)	63mm×170mm×600mm	RBタイル用端部見切材
	サンドイッチ金具	上下金具+ビス1個/セット	RBタイル相互連結用金具
	エイブロックBF/BJ	600mm×600mm 厚さ：25mm 20kg/枚(受注生産品)	合成樹脂ネット補強セメント系成型パネル
	縁石ブロック	120mm×600mm 厚さ：60mm	エイブロック用端部見切材
	連結用プラグビス(BJ用)	プラグ+ビス50セット/袋 色：グレー	エイブロックBJ連結用ビス
	エイマット	1m×1m 厚さ：7mm 35枚/袋	エイブロック敷設用クッション材
	水切り金物	ライナーコーピングs	長さ：4,000mm
ライナーキープs		長さ：3,000mm	アルミ製押出成型笠木
フラッシュトップ60		長さ：2,000mm	アルミ製立上り部防水雨仕舞材
フラッシュエッジ70A/110A		長さ：2,000mm	アルミ製軒先部防水雨仕舞材
フラッシュライン		長さ：2,000mm	アルミ製立上り部防水雨仕舞材
モルタルハンガー		長さ：2,000mm 10本/束	ラス網引掛用フック付ステンレス製アングル
改修用ドレン	リードレンCたて	1個/箱	改修用たて型銅製ドレン(専用アンカー付属)
	リードレンC横	1個/箱	改修用横引銅製ドレン(専用アンカー付属)
	トルネードドレンたて80/90	筒外径：80、88mm 1個/箱	改修用排水量改善タテ型ドレン (キャップ、専用ナット、シリコーンゴム付)
	ドレンキャップ190	1個/箱	たて型用キャップ(大) 色：黒
	ドレンキャップたてAS	5個/箱	たて型用キャップ(小) 色：黒、ライトグレー

材料・工具一覧

種類	品名	規格	備考
改修用ドレン	ドレンキャップ横引用C200	1個/箱	横引用キャップ 色：黒
	ドレンキャップ横引用AS	1個/箱	横引用キャップ 色：ライトグレー
	ドレンキャップ横引用DX	1個/箱	自重据置型キャップ
	リードレンZたて	1個/箱	改修用たて型銅製ドレン(引掛用丸棒付)
	リードレンZ横	1個/箱	改修用横引銅製ドレン(引掛用丸棒付)
	リードレンキャップZたて	1個/箱	フック付たて型用キャップ 色：黒
	リードレンキャップZ横	1個/箱	フック付横引用キャップ 色：黒
工具	ACS (アスファルトコンテナシステム)	—	電気式アスファルト溶融釜
	ミニACS	—	電気式アスファルト溶融釜
	クリンケトル300L/130L	—	低煙低臭溶融釜
	バンクスローラー平場用/平場用Ⅱ	—	BANKS工法用ルーフ押し器
	バンクスローラー立上り用	—	BANKS工法用立上り部ルーフ押し器
	灯油バーナー	バーナー、灯油タンク 各1個/セット	BANKS工法用バーナー
	立上り用灯油バーナー	バーナーのみ	BANKS工法用バーナー
	タチバーナー	バーナー本体、ホース (3m)	LPガスボンベ対応小型バーナー
	釜番君	—	アスファルト溶融用ブザー警報器
	ミニ釜君	外釜 高さ：390mm 直径：390mm	小型軽量溶融釜
	オイルタンク40	高さ：375mm、直径：420mm	床置き圧送式燃料タンク
	ガムホットサーバー	—	ガムホット溶融・保温用ポット
	アットメーターAS18L/AS半缶	本体：各1個、固定用クリップ：各2個	一斗缶・半缶専用温度計
	ルーフ押し器H	幅：1,150mm 8kg	熱工法用ルーフィング押し器
	ルーフ押し器C	幅：1,275mm 8.5kg	冷工法用ルーフィング押し器
	プレッサーローラーT400	ローラー幅：400mm	ルーフィング転圧用ローラー
	転圧ローラー 230L(大型)	ローラー幅：230mm 直径：120mm 重量：10kg	冷工法ルーフィング転圧用ローラー
	転圧ローラー 230M(中型)	ローラー幅：230mm 直径：65mm 重量：4kg	冷工法ルーフィング転圧用ローラー
	平板転圧ローラー 平板転圧ローラーSi	ローラー幅：145mm 各1個	樹脂製小型ローラー
	ステッチャー	5本/箱	出入隅部等転圧用ローラー
	ルーフィングカッターDXⅢ	長さ：165mm 1本	粘着層付シート剥離紙カット用
	エレメントガン	ホルダー (3種)	電動式コーキングガン
	プライムレーキ	1個	プライムタイト塗布用レーキ
	プライムバケ	1個	プライムタイト塗布用刷毛
	ゴムクシバケC-S/C-L	1個/箱	塗膜材塗布用刷毛
	ゴムクシレーキC	ローラー幅：300mm 1個	オールコート平面部塗布用レーキ
	コーナーブレード	1個/箱	プライムアス工法用入隅部施工具
	ベタつき防止カバー	1足/袋	シリコン製靴カバー
ドレンゲージDX	1個/箱	既存ドレン内径採寸ケージ	

各種断熱材 厚さ別梱包数 (単位：枚)

厚さ(mm)		25	30	35	40	50	60	70	75
RBボード		20	15	15	10	10	8	—	—
スタイロフォームRB-GK-II									
ギルフォーム	S	16	14	12	10	8	7	6	5
	W	10	8	7	6	5	4	3	3

使用上の注意と定期的なメンテナンス

防水層が長期にわたり防水性能や意匠性を発揮するためには、定期的な点検とメンテナンスを実施することが必要不可欠です。

使用上の注意

FRAT、砂付露出 仕上げ

- ・通常時における防水層上の歩行及び使用は厳禁です。
- ・維持補修の目的で防水層上を歩行する際には、防水層を損傷する可能性の低い履物(ゴム底の靴などの柔らかい履物)を使用してください。
- ・防水層の表面が雨や雪でぬれていたり、落葉・苔・砂・埃などが堆積していると防水層上は滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- ・防水層上に溶剤・油・薬品類をこぼさないよう、注意してください。万が一、こぼれてしまった際には専門工事店にご相談ください。
- ・防水層に傷をつけたり、防水層上でものを落としたり、引きずったりすることは避けてください。
- ・雪下ろしには、金属製のスコップなどの防水層を損傷させやすい道具を使用しないでください。
- ・防水層の上に、重量物や振動物を載せないでください。やむを得ない場合には、バリキャップや防振ゴム等、防水層の養生となるもので防水層本体を保護してください。
- ・たばこの火の投げ捨てや防水層の上で火気の使用は厳禁です。
- ・防水層上に直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。

保護コンクリート、アスコン舗装 仕上げ

- ・火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- ・植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。

ステップスクエア 仕上げ

- ・ステップスクエア上での運動はお控えください。歩行の際には、柔らかいゴム底靴などの履き物をご利用ください。
- ・表面が雨や雪でぬれている場合、歩行時の転倒にご注意ください。
- ・火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- ・植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- ・断熱工法の場合は、原則として歩行利用はできません。

バリキャップ 仕上げ

- ・バリキャップ上での運動はお控えください。歩行の際には、柔らかいゴム底靴などの履き物をご利用ください。
- ・表面が雨や雪でぬれている場合、歩行時の転倒にご注意ください。
- ・バリキャップのふくれなどで利用上支障が生じている際には、専門業者にご相談ください。
- ・火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- ・植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- ・断熱工法の場合は、原則として歩行利用はできません。

エイブロック 仕上げ

- ・エイブロック上での運動はお控えください。
- ・表面が雨や雪でぬれていると滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- ・表面が白くなることがありますが、強度には影響ありません。
- ・火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- ・植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- ・コンクリート製品ですので地域や気象条件により凍害や白華現象を生じる場合がありますのでご了承ください。また、凍害や白華現象の発生抑制のためできる限り排水を良くし、水たまりを作らないようにしてください。

ガムロンタイル 仕上げ

- ・下地不陸が表面に影響する場合があります。(特にアスファルト防水砂付下地の場合は、ラップ段差が目立つことがあるため事前に相談ください。)
- ・下地不陸により、防水層からガムロンタイルに部分的な浮きが生じる場合があります。ご了承ください。
- ・局所的に横方向の力を加えると目地が広がる場合があります。
- ・鉄製のテーブルや椅子を使用するとタイルが損傷したり、表面が傷つくことがあります。
- ・ガムロンタイルの目地はモルタル等をつめない設計です。ゴミや埃がまった時は、掃除機、デッキブラシ等で適宜清掃してください。

露出仕上げにおいては

- 露出仕上げにおいては下記のような現象が見られる事がありますが、防水性能に支障はありません。
- ・ルーフィングのジョイント部からはみ出したアスファルトに生ずるひび割れ
- ・下地の含有水分による防水層のふくれや、砂付ルーフィングの砂粒の隙間に入り込んだ湿気による表層のふくれ
- ・雨水が滞留しやすい箇所に粉塵、泥、花粉、黄砂等が堆積し、乾燥収縮する事で生ずる表層クラック
- ・砂付ルーフィングに付着している余剰砂の脱落
- ・砂に含有される鉄分による錆

※保護塗料は経年によりひび割れや減耗を生じます。これらの現象は防水性能に支障を及ぼすものではありませんが、保護塗料は定期的な塗り替えをご推奨します。

※端末シールは経年によりひび割れや減耗を生じます。納まりが適切であれば、これらの現象は防水性能に直ちに支障を及ぼすものではありませんが、端末シールは定期的な打ち替えをご推奨します。

定期的なメンテナンスのお願い

FRAT、砂付露出 仕上げ

- ・防水層の表面状況の点検・・・1年に1回
防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなふくれの発生の有無、設備基礎廻りの劣化状況
- ・防水廻りの金物の点検・・・1年に1回
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ・ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃・・・1年に2回
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況
- ・保護塗料の塗り替え・・・塗料により塗り替え時期が異なるのでご相談ください。

バリキャップ 仕上げ

- ・バリキャップ表面状況の点検・・・1年に1回
バリキャップのふくれ・砂落ちの発生状況の点検
- ・立上り防水層の表面状況の点検・・・1年に1回
防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなふくれの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- ・防水廻りの金物の点検・・・1年に1回
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ・ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃・・・1年に2回
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

保護コンクリート 仕上げ

- ・植物の発生状況の点検、清掃・・・1年に1回
伸縮目地部・ドレン廻りの植物の発生状況、伸縮目地部・ドレン廻りに堆積している土砂の除去
- ・防水廻りの金物の点検・・・1年に1回
水切金物・笠木の設置状況
- ・ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃・・・1年に2回
ゴミの清掃

エイブロック、ガムロンタイル 仕上げ

- ・エイブロック表面状況の点検・・・1年に2回
エイブロックの割れの発生状況の点検
- ・立上り防水層の表面状況の点検・・・1年に1回
防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなふくれの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- ・防水廻りの金物の点検・・・1年に1回
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ・ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃・・・1年に2回
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

ステップスクエア 仕上げ

- ・クリアトップの塗り替え・・・5年に1回程度
ステップバインダーH:アジャストU=2:1で希釈。塗布量:0.3kg/m²
- ・ステップスクエア表面状況の点検・・・1年に1回
ステップスクエアの割れの発生状況の点検
- ・立上り防水層の表面状況の点検・・・1年に1回
防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなふくれの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- ・防水廻りの金物の点検・・・1年に1回
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ・ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃・・・1年に2回
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

防水層の点検・補修および仕上げ塗装の塗り替えは専門技術が必要です。弊社または専門工事に依頼してください。(有償)

東西アスファルト事業協同組合員 146社176事業所

(都道府県別・アイウエオ順) 2024年 2月現在

※最新版の名簿については、東西アスホームページをご参照ください(<https://www.tozai-as.or.jp/>)

北海道

(株)アクアグレース 011(855)2621
エスアイ工業(株) 0162(33)6407
(株)総合防水工事 011(771)8834
東興アイテック(株) 0138(49)8571
(株)濱建 011(261)5676
ビルドプロテック(株) 011(884)2885
北海化学防水(株) 0154(36)3458
北開技研工業(株) 011(851)6711
(株)札幌三星 011(618)3255
(有)山建産業 0155(49)1111

東北

青森 (株)青建防水工業 017(788)4343
秋田 (有)環清工業 0183(72)0038
(株)東和 018(864)4561
岩手 (株)アックス 019(662)5354
山形 山建工業(株) 023(633)3003
イトウ防水工業(株) 0238(23)8321
宮城 高山工業(株) 仙台営業所 022(294)5371
東興アイテック(株)東北営業所 022(287)3410
東江防水(株) 022(285)1191
(有)東北ケミカル工業 022(229)2887
中村瀝青工業(株) 仙台営業所 022(249)7021
三星産業(株) 東北支店 022(262)5201
嶺電工業(株) 022(375)8976
福島 田村建材(株) 0246(26)3121
福島防水(株) 024(963)1230

関東

東京 (株)我妻工業 03(3894)6262
井上瀝青工業(株) 03(3447)3241
クニ化学防水(株) 03(3362)9321
クリステル工業(株) 03(3372)2451
桑原建材(株) 03(6411)0073
(株)小島工務店 東京支店 03(3936)1020
新パーレックス工営(株) 03(6807)1993
(株)信佑 03(5691)8121
(株)鈴木乃防水耐火板 03(3781)2343
高田工業(株) 03(3620)6991
高山工業(株) 03(3265)5631
藤和防水工業(株) 03(5305)3618
(株)長崎ケミカル 03(3732)6076
中村瀝青工業(株) 03(3892)0131
中村瀝青工業(株) 八王子営業所 042(662)7621
(株)西尾産業 東京支店 03(3820)2403
日本ガンツ工業(株) 03(3263)3366
日本産業(株) 03(5547)6611
日本防水工業(株) 03(3998)8721

三星産業(株) 03(3912)1262
八州工業(株) 042(343)0311

神奈川 (株)ケンショー工業 045(954)1670
(株)清谷商店 横浜営業所 045(861)8886
中村瀝青工業(株) 横浜支店 045(500)6601
(株)西尾産業 横浜本社 045(531)2403
ハタノ工業(株) 045(820)2332

北開技研工業(株) 関東支店 045(500)9355
三星産業(株) 横浜営業所 045(548)9861
埼玉 (株)ケーエス 048(242)3746
高山工業(株) 北関東営業所 048(799)0720
松坂屋建材(株) 048(524)0111

(株)A.BMミツガシ 048(971)6666
千葉 大裕工業(株) 043(258)0074
高山工業(株) 千葉営業所 043(421)5451
(株)日東 043(266)6831
柏新建材工業(株) 04(7155)0113
藤防水工業(株) 047(365)2151
上松工業(株) 043(271)8150
(有)生和工業 04(7145)5697

栃木 アオキ工業(株) 028(689)0511
(株)熊倉 0289(65)1500

群馬 阿部産業(株) 027(251)3115
上毛産業(株) 027(364)4545

茨城 日本ガンツ工業(株) 北関東営業所 0270(32)1149
植田防水工業(株) 029(227)4181
柳澤工業(株) 029(862)4711
(株)山忠 029(221)9151

中部

新潟 阿部工業(株) 025(274)7621
(株)大川防水工業 0258(34)7889
北川瀝青工業(株)新潟支店 025(283)8911
シマツ防水(株) 025(524)4161

長野 (株)五十鈴 0265(78)4331
坂田工業(株) 026(286)3751

静岡 (株)アイコービルサービス 054(273)9121
岡田工業(株) 054(247)3126
協同建材(株) 053(454)5461
国際建資(株) 054(247)7761
(株)清谷商店 055(921)9610
(株)西尾産業 静岡支店 054(258)2403
(株)西尾産業 浜松支店 053(422)2403
(株)西尾産業 富士支店 0545(63)2403
松本工業(株) 0545(52)3030

山梨 (株)土屋工業 055(251)4062

東海

愛知 (株)アイコービルサービス 名古屋支店 052(982)9964

(株)エコン 052(896)2088
 岡田建材(株) 052(571)7461
 オギノセメン(株) 052(737)3581
 木曾建材工業(株) 052(715)3391
 建材化工(株) 052(931)0765
 国際建資(株)名古屋支店 052(779)7551
 (株)ゼンシン工業 0586(64)8563
 (株)ダイケン 052(693)0100
 中央瀝青工業(株) 052(762)1188
 (株)忠京 052(604)6255
 (株)中部レキセイ 0568(81)2120
 帝国商事(株) 0561(85)2111
 (株)東海工事 0532(62)7614
 富士建材工業(株) 052(808)3050
 名建商行(株) 052(524)0315
 (株)サブライ 0561(55)7037
岐阜 中日本防水(株) 058(229)5548
 (株)名神 058(271)7459
三重 (株)アートテックエンジニア 059(222)0533
 太田建材(株) 0593(45)0531
 (株)日建エンジニアリングサービス 059(227)3268

北陸

石川 北川瀝青工業(株) 076(241)1131
福井 北川瀝青工業(株)福井支店 0776(54)2266
富山 北川瀝青工業(株)富山支店 076(441)3261
 (株)小島工務店 0766(21)2463

近畿

大阪 (株)アサダ屋 072(650)0025
 旭技建(株) 072(650)6020
 神原工事(株) 06(6909)1433
 (株)コーシン 06(6387)9115
 (株)シンエー 06(6192)3331
 高山工業(株)大阪支店 06(6386)9312
 (株)トーフ技研工業 06(4867)3362
 西川工業(株) 06(6697)0111
 (有)ハンワ 072(281)8810
 (株)ホソタニ 072(727)4416
 (株)マトバ 06(6392)2252
 三星産業(株)大阪支店 06(6443)9721
 山崎工業(株) 06(6392)9471
京都 京都瀝青工業(株) 075(623)1320
 (株)興亜 075(672)0161
 三共建材(株) 075(748)8203
 三光工業(株) 075(622)3132
 (株)日商建材 075(314)2652
滋賀 (株)メイコウ 077(545)5512
兵庫 関西瀝青工業(株) 079(266)7878

北川瀝青工業(株)神戸支店 078(681)8191
 大成工材(株) 079(432)6811
 (株)ヤマモト建工 0798(39)0211
和歌山 大芝建材(株) 0735(72)1111
 (株)ナルセ 073(424)5234
奈良 (有)飛鳥工業 0744(25)0722

中国

広島 アオケン(株) 082(292)3200
 (株)はまはら 0848(23)2760
 (株)森本組 082(233)0354
岡山 青盛建材(株) 086(241)1672
 大和防水(株) 086(252)2642
鳥取 アオケン(株)鳥取営業所 0857(27)5969
島根 アオケン(株)山陰支店 0852(21)9551
山口 アオケン(株)下関支店 0832(32)3325
 (株)新防水工業 083(927)6565
 (株)はまはら 防府営業所 0835(22)3611

四国

香川 (株)ジェイプラウド 087(888)3555
 (株)日新建工 0877(24)3535
 フルイチ(株) 087(868)2617
徳島 伊東工業(株) 088(698)2083
 (株)ナカバリコート 0884(74)7690
高知 岸防水工業(有) 088(832)7731
 フルイチ(株)高知営業所 088(845)0624
愛媛 イケダ産業(株) 089(925)5590
 岩田建材(株) 089(975)6700

九州・沖縄

福岡 アオケン(株) 092(411)6511
 (有)小松工業 092(584)5733
 津上産業(株) 093(621)2161
 東洋建工(株) 092(567)0711
 ニッセイ技研(株) 092(812)2626
 (株)フソウ 092(531)8459
大分 (株)アルファテック 0977(66)8039
 (有)サンシール工業 0975(58)5411
 新星産業(株) 0977(26)0410
佐賀 山口産業(株) 0952(52)3829
長崎 (株)シンエイ 095(846)0775
熊本 誠産業(株) 096(345)6131
宮崎 双葉工業(株) 0985(24)2917
 (株)宮防 0985(53)1008
鹿児島 (株)南防 099(252)0432
 (株)山崎商会 099(257)2535
沖縄 (株)ヤマシン 098(879)7654



東西アスファルト事業協同組合

<https://www.tozai-as.or.jp>

田島ルーフィング株式会社

<https://tajima.jp>

東京支店	〒101-8579	千代田区外神田4-14-1	TEL 03-6837-8888
大阪支店	〒550-0003	大阪市西区京町堀1-10-5	TEL 06-6443-0431
札幌営業所	〒060-0042	札幌市中央区大通西6-2-6	TEL 011-221-4014
仙台営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央1-6-35	TEL 022-261-3628
北関東営業所	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-49-8	TEL 048-641-5590
千葉営業所	〒260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1	TEL 043-244-3711
横浜営業所	〒231-0012	横浜市中区相生町6-113	TEL 045-651-5245
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町1-12-20	TEL 042-503-9111
金沢営業所	〒920-0025	金沢市駅西本町1-14-29	TEL 076-233-1030
名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄1-9-16	TEL 052-220-0933
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通6-1-17	TEL 078-330-6866
広島営業所	〒730-0029	広島市中区三川町2-10	TEL 082-545-7866
福岡営業所	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-35	TEL 092-724-8111

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。